

昭和34年 (1959)

1. 赤井節夫：岡山県南部の森林病害について。森林防疫ニュース 8(4) 58-61. [台湾キリの線虫病の発生面積 100㎡.]
2. 阿久津喜作・伊藤佳信・新井 茂：ネコブセンチュウの季節的消長と各種作物根内におけるセンチュウの発育について。応動昆大会講要 昭34: 18. [講要]
3. 青柳寅雄：苗代病害とその防除法。農及園 34(2) 365-368. [線虫心枯病：本田での病苗よりの伝染距離、種籾消毒。]
4. 青柳寅雄：こんにゃくの線虫。今月の農薬 3巻3: 93-95. [防除：輪作、薬剤 (D-D、EDB)。]
5. 新船幸重郎：線虫防除の優良事例。今月の農薬 3巻5: 81-84. [埼玉県のニンジン、ゴボウ、トマト、カボチャの増収例。]
6. 浅井三男：ダイズシストセンチュウによる大豆、小豆、菜豆の被害。北農 26巻8: 4-6. [被害は大豆が最も大、小豆が次、菜豆はきわめて少。]
7. 浅川正彦：最近における雑穀研究の動向。農業技術 14(8) 363-366. [大豆萎黄病線虫耐虫性品種の育種を含む。]
8. 家入 章：大根、白菜、甘藍の病害防除について。研農復刊 11(9) 712-715. [線虫による被害を含む。]
9. 遠藤和衛・森 芳夫：北海道における甜菜の病害虫とその防除対策。植物防疫 13(12) 523-528. [キタネコブセンチュウ：平均減収率10%、4億2000万円の損害。D-D、EDBで防除。]
10. 藤井健雄：蔬菜生産の安定問題。農及園 34(1) 169-172. [昭和13~19年の千葉大学農場の収量を解析。線虫との関連にふれる。]
11. 藤谷正信：千葉県における土壌線虫発生と被害の概要。植物防疫 13(3) 126. [郡別の線虫発見地区数。ネコブセンチュウの寄主作物。]
12. 深谷昌次：ヨーロッパにおける植物防疫研究機関の実情。関東病虫研報 6: 1-2. [講要。線虫研究の状況は日本の現状と同様。]
13. 深谷昌次：ヨーロッパ農学の中心 ワーゲニンゲン。植物防疫 13(8) 373-374. [農科大学の組織、ゴールドンネマ研究プロジェクトを紹介。]
14. 深沢永光：葉線虫の被害と防除。今月の農薬 3巻9: 84-87. [イチゴ、菊の被害と防除。]
15. 深沢永光・高木信一：ベールマン法およびその変法についての吟味。応動昆大会講要 昭34: 16. [講要]
16. 福田秀夫：Ethylene dibromide の nematode control pattern. 応動昆大会講要 昭34: 18. [講要]
17. 源馬琢磨・渋谷紀起：山形県田川地方における水稻の根の皮層に寄生する線虫について。山形農林学会報 14: 11-14. [形態 (線虫未同定)、寄生部位、稲への影響、山形県内の分布。]
18. 五味美知男：稲線虫心枯病防除に関する研究 第3報 浸透剤添加による薬剤処理の効果。日植病報 24(1) 9. [講要。単用で効果のない薬剤も浸透剤添加で有効化。]
19. 後藤和夫：農業技術の変貌と植物病理研究 (2)。農業技術 14(9) 390-393. [土壌病害虫防除改善試験、畑作物線虫抵抗性品種育種。]
20. 後藤重喜：早期陸稲の病害虫とその対策。農薬 6巻1: 42-45. [ネグサレセンチュウの被害が大。サツマイモネコブセンチュウ、オカボシストセンチュウも寄生。]
21. 後藤重喜・川越 仁：サツマイモのネグサレセンチュウに関する研究 (1) 本セン

- チュウと長崎産ネグサレセンチュウの比較, 九病虫研会報 5: 74. [講要。Pratylenchus coffeaeの可能性もあるとする。]
- 2 2. 後藤重喜・川越 仁: サツマイモのネグサレセンチュウに関する研究(2) 各種作物における寄生増殖と病斑型, 九病虫研会報 5: 75. [講要。病斑の表われ方と線虫の増殖は直接の関係なし。]
- 2 3. 後藤重喜・川越 仁: サツマイモのネグサレセンチュウに関する研究(III) 暖地畑作の代表的作付と線虫勢力, 応動昆大会講要 昭34: 17-18. [講要]
- 2 4. 後藤重喜・川越 仁・長友ミチ: 土壤線虫の薬剤防除について, 宮崎農試14回試験研究発表会要録: 23-25. [謄写。D-D、EDB、DBCP。増収効果、実施上の問題点、経済性。]
- 2 5. 長谷川吉正(平賀練吉): ピメンタ・ド・レノイの病害について, パン・アマゾニア 7: [未見。ブラジルのコショウの病害。線虫を含む。]
- 2 6. 橋詰英雄: 土壤線虫: 長野県における被害と対策, 都道府県展望 9: 23-27. [被害の現状、防除効果、対策の問題点。]
- 2 7. 早河広美・関谷一郎・呉羽好三・山岸義男: 浸透殺虫剤によるダイズシストセンチュウの防除, 応動昆大会講要 昭34: 18-19. [講要]
- 2 8. 林 武・滝嶋康夫: 作物の忌地性に関する研究[第1報] 連作、残根並に水耕液の生育阻害作用, 農及園 34(6) 971-972. [線虫等のため一部の試験を途中で放棄。]
- 2 9. 平野和弥・河村貞之助: Rhabditis属線虫における表皮剝離現象と死態について, 日植病報 24(1) 46. [講要。殺線虫剤処理以外の死亡時にもみられた。]
- 3 0. 広瀬健吉・伊藤喜隆: リンゴ園におけるネコブセンチュウの分布について, 応動昆大会講要 昭34: 17. [講要]
- 3 1. 堀 正侃: 植物防疫の畑作への展開, 植物防疫 13(1) 1-5. [畑作振興と土壤線虫対策について論ずる。]
- 3 2. 堀 呈治・川島嘉内: コンニャクのセンチュウに対する各種薬剤の効果について, 北日本病虫研報 10: 153-154. [D-D、EDBが優れ、ペーパムは劣った。]
- 3 3. 市原伊助・高橋芳雄: 落花生の連作とネマトーダの被害について(続報), 関東病虫研報 6: 55. [連作試験における線虫の寄生度。]
- 3 4. 一戸 稔: 線虫実験法, In: 昆虫実験法(深谷昌次・石井象二郎・山崎輝男編), 日本植物防疫協会、東京、p. 491-520. [採集と分離法、保存法、飼育法、分類の基礎と形態観察法、類別法、薬剤試験法、定量法(密度推定法)。]
- 3 5. 一戸 稔: Studies on the soybean cyst nematode, *Heterodera glycines* and its injury to soybean plants in Japan. Pl. Dis. Reprt., suppl. 260, 239-248. [研究史、分布、形態、生活史、寄主、被害様相、抵抗性、防除について概説。]
- 3 6. 一戸 稔: アメリカにおける線虫研究の現状, 植物防疫 13(3) 119-125. [研究機関、線虫相、調査法、殺線虫剤の使用状況等を紹介。]
- 3 7. 一戸 稔: 欧米の線虫事情: 研究と防除, 植物防疫 13(12) 535-538. [アメリカ、イギリス、オランダ、ドイツについて紹介。]
- 3 8. 飯島 鼎: 畑作振興と土壤線虫対策, 植物防疫 13(3) 93-96. [対策事業の背景、大要を述べる。]
- 3 9. 飯島 鼎: 土壤線虫の被害とその防ぎ方, 八洲化学工業株式会社、49 pp. [防除等の解説。]
- 4 0. 飯島 鼎: 土壤消毒実施上の問題点, 新農薬 48: 1-5. [施用法、薬害等。]
- 4 1. 飯島 鼎: 土壤線虫対策と農業経営の改善, 農薬通信 41: 1-5. [未見]
- 4 2. 飯島 鼎: 畑作経営改善の原動力としての土壤線虫対策, 都道府県展望 9: 7-12.

[わが国の畑作と畑作振興の気運、土壤線虫の被害と土壤消毒の考え方、土壤消毒の方法と効果、土壤線虫対策推進上の問題点、土壤線虫対策五ヵ年計画、土壤線虫対策の今後の構想。]

43. 飯島 鼎：今年の土壤線虫対策。今月の農薬 3巻3: 9-12。[土地の診断、パイロット防除、消毒機の整備。]
44. 飯島 鼎：土壤消毒の機具。今月の農薬 3巻3: 27-29。[手動・動力式機械。]
45. 飯島 鼎：畑作の革新技術：土壤線虫の防除対策。農耕と園芸 14巻6: 33-35。[連作障害、被害、土壤消毒の効果と経済性。]
46. 飯島 鼎・遠藤和衛・室賀弥三郎・藤谷正信・田中新吉・本田永徳・後藤重喜：[座談会] 土壤病害虫による被害の実体と今後の防除対策を語る。農薬 6巻1: 4-32。[線虫を含む病害虫の被害と防除の現状。]
47. 今関六也：農用林と線虫害。林業技術 211: 11-13。[線虫問題出現の背景を論ず。]
48. 今関六也：線虫病雑感：分析と総合の必要性について。植物防疫 13(6) 267-269。[内外の研究を紹介し、堆肥・線虫・捕食菌の関係を論ずる。]
49. 稲賀 恒：土壤消毒機の種類と使い方。植物防疫 13(8) 349-352。[手動、大型・小型トラクタ用機種の説明と使用上の注意。]
50. 井上 寿：ダイズシストセンチュウに関する調査 第7報 犁底盤形成土壤におけるシストの分布について。北日本病虫研報 10: 110。[大豆の根及びシストの分布は表土中が大部分。]
51. 井上 寿：ダイズシストセンチュウに関する調査 第8報 休閒跡地における大豆の被害とシストについて。北日本病虫研報 10: 111-112。[4年休閒で生産面の問題ないが、線虫の根絶に至らず。]
52. 井上 寿・春木 保：ダイズシストセンチュウに関する調査 第9報 耕鋤深度ならびに厩肥の施用がシスト数におよぼす影響。北日本病虫研報 10: 112-113。[上記2処理は大豆の生育を良好にするが、線虫密度も上昇。]
53. 井上 寿・春木 保：ダイズシストセンチュウに関する調査 第10報 連作がシスト数におよぼす影響。北日本病虫研報 10: 113-114。[輪作。5年間の非寄主作物栽培でも駆除不完全。]
54. 井上 寿・春木 保・小山睦寛：ダイズシストセンチュウに関する調査 第6報 土壤中におけるシストの垂直分布について。北日本病虫研報 10: 109-110。[10~15cmの間に多い。40cm以深からは検出されず。]
55. 井上 巖：Chordodes 属ハリガネムシ成虫の体制。動雑 68(4) 151-156。[C. japonensis の内部形態。]
56. 井上 巖：Distribution of acid alkaline phosphatases in the hairworm, Chordeodes japonensis. Annot. Zool. Japon. 32(4) 209-213。[酸性・アルカリフォスファターゼは雌成虫では卵巣・中腸、雄成虫では中腸、幼虫では真皮に多。]
57. 井上義孝・駒田 旦：ダイコン萎黄病の防除について。日植病報 24(1) 23。[講要。D-D、EDB剤他。]
58. 石橋信義・気賀沢和男・国井喜章：ネコブセンチュウの生理生態的研究 I。卵と卵のう内卵の孵化差異。応動昆大会講要 昭34: 16。[講要]
59. 石橋信義・気賀沢和男・国井喜章・土橋貞夫：線虫の産卵能力の季節的推移について。関東病虫研報 6: 52。[産卵数・孵化率の10~12月にかけての変化。]
60. 石橋律雄：埼玉県における土壤線虫防除について。関東病虫研報 6: 58。[D-DよりEDBが優れる。蔬菜の種類と注入時と被害。]
61. 石井 孝：EDBによるネマトーダ防除について。農薬研究 6巻2: 66-68。[千葉

- 県の花弁栽培地帯。D-Dと比較。]
62. 石倉秀次：線虫の新しい研究。今月の農薬 3巻3: 20-22. [生態、防除。]
63. 伊藤泰次：落花生の土壤線虫防除について。農業技術研究 13巻6: 32-33. [EDB、DBCP剤。]
64. 伊藤泰次：土壤線虫についての私の体験。植物防疫 13(3) 131. [落花生の線虫発見の経緯及びネマゴンによる防除試験成績。]
65. 伊藤佳信：蔬菜に寄生する線虫の防ぎ方。農耕と園芸 14巻6: 38-40. [ネコブ、ネグサレセンチュウの主に薬剤防除。]
66. 伊藤佳信・永沢 実・阿久津喜作・新井 茂：ネコブセンチュウの季節的消長とその防除法。東京農試特報 15: 42-46. [謄写。9種作物における線虫発生消長。D-D、EDB、DBCP剤による防除。]
67. 伊藤佳信・永沢 実・阿久津喜作・新井 茂：ネコブセンチュウの季節的消長と各種作物における線虫の発育について。関東病虫研報 6: 60. [6月から翌年5月の消長。9種作物中での線虫の発育。]
68. 伊藤喜隆：長野県のネコブセンチュウについて。長野農試特報 42巻9: 27-36. [キタネコブセンチュウ、アレナリアネコブセンチュウ、ジャワネコブセンチュウ、*Meloidogyne* sp. (リング) を記録。形態、生態、防除法を解説。]
69. 伊藤喜隆：りんごの線虫対策(1)。園芸信州 12巻8: 42. [未見]
70. 伊藤喜隆：りんごの線虫対策(2)。園芸信州 12巻9: 42. [未見]
71. 伊藤喜隆・広瀬健吉：蔬菜畑におけるネコブセンチュウの土質別棲息密度および天地返しによる線虫垂直分布の変化。関東病虫研報 6: 57. [作物の根の分布と線虫の分布が関連。]
72. 伊藤喜隆・尾沢 賢：リンゴ樹におけるネコブセンチュウの垂直・水平分布について。応動昆虫大会講要 昭34: 17. [講要]
73. 弥富喜三・西沢 務：*Tagetes* 属植物の殺線虫作用。応動昆虫大会講要 昭34: 18. [講要]
74. 鎗木豪夫：畑作営農の機械化の構想。農及園 34(1) 135-138. [ネマトーダ防除用の薬剤注入機が製作されている。]
75. 鐘ヶ江英夫：宮崎県における病害虫防除の問題点。農薬 6巻4: 46-51. [甘藷、陸稲の線虫を含む。]
76. 勝元久衛・川瀬英爾：ネコブセンチュウに対する殺センチュウ剤の効果について。北陸病虫研報 7: 122-125. [タバコ、ナガイモ、サツマイモ、人参の収量比較及び葉害を試験。]
77. 桂 琦一：線虫と植物病害。植物防疫 13(3) 111-114. [関連病害の分類及び内外の研究、防除事例を紹介。]
78. 桂 琦一：大麦の黄化現象に関する研究(予報)。日植病報 24(1) 10. [講要。根に*Pratylenchus*, *Meloidogyne* を発見。前者の接種試験において病徴を再現。]
79. 桂 琦一：秋蔬菜のネマトーダとその防除。農業普及(愛知県農業改良課) 5巻9: 19-22, 口絵. [ネコブ、ネグサレセンチュウの被害、防除(薬剤、効果、費用)。]
80. 桂 琦一：根瘤線虫に誘発される大根黒腐病の防除試験におけるドーロンの効果。農薬 6巻3: 73-74. [他にベーバム、DBCP剤等を扱う。]
81. 桂 琦一：野菜に病気を起こす土壤線虫。農耕と園芸 14巻6: 36-37. [複合病害の解説と薬剤防除法。]
82. 桂 琦一・河野又四・高橋啓允：*Digitalis*の枯死現象について(予報)。関西病虫研報 2: 53. [サツマイモネコブセンチュウ及び菌類の総合的な侵害の結果と推測。]



83. 桂 琦・高橋啓允：根瘤線虫に誘発せられる大根黒腐病の防除試験 第3報 昭和33年度試験結果について。関西病虫研報 2: 50. [講要。ドローン13.5ℓ/10 a, ネマゴン乳剤40の15ℓが適当。後者の37.5ℓでは葉害。]
84. 河村貞之助：落葉果樹のネマトーダとその対策。果実日本 14巻12: 20-22. [土中分布、VC-13、DBCP、テロン、EDB剤の効果。]
85. 河村貞之助：殺線虫剤の種類と使い方。今月の農薬 3巻2: 78-84. [クロルピクリン、メチルプロマイド、D-D、EDB剤。]
86. 河村貞之助：いちごの赤芽。今月の農薬 3巻7: 58-61. [イチゴメセンチュウの生態、防除。]
87. 河村貞之助・野村健一：バラの病害虫と防ぎ方。植物防疫 13(4) 143-148, 口絵写真。[含キタネコブセンチュウ防除。]
88. 川崎倫一・田口俊郎・井上 駿：メチルプロマイドくん蒸が馬鈴薯塊根に及ぼす影響 II。応動昆大会講要 昭34: 7. [講要]
89. 川島嘉内：福島県に発生している主な植物寄生線虫。農友(福島県農友会) 494: 15-17. [未見]
90. 川島嘉内：葉用になじんネコブセンチュウに対するネマゴンの効果について。北日本病虫研報 10: 153. [効果あり。赤枯病も減少。]
91. 気賀沢和男・石橋信義・土橋貞夫・国井喜章：線虫の加害と寄主の生育。関東病虫研報 6: 56. [トマトのネコブセンチュウをEDBで防除。休閑より有機質肥料施用が効果あり。]
92. 気賀沢和男・国井喜章・石橋信義：ネコブセンチュウの生理生態学的研究 III。緩衝液に対する反応。応動昆大会講要 昭34: 17. [講要]
93. 菊池哲朗・市原伊助・円城寺定男：数種の殺線虫剤による蔬菜線虫防除試験。関東病虫研報 6: 59. [キュウリ、ホウレンソウ等のネコブセンチュウをD-D、EDB、クロルピクリン等で防除。]
94. 小宮書之助：富士吉田周辺における大豆萎黄病実地調査。明大農研報 9: 1-3. [広く分布。]
95. 小宮書之助：大豆萎黄病と施肥との関係(予報)。明大農研報 9: 5-8. [堆肥、カリが被害防止に有効。]
96. 近藤鶴彦：畑作物とネコブセンチュウ。愛農(全国愛農会) 6巻5: 28-30. [未見]
97. 近藤鶴彦：殺線虫剤の使い方。農研(三重農業研究会) 4巻8: 17-20. [未見]
98. 近藤鶴彦：土壤線虫の被害の現状と問題点：全国的に見た概略について。都道府県展望 9: 13-17. [ネコブセンチュウ、シストセンチュウ、ネグサレセンチュウ・ミカンネセンチュウの分布・被害対策。]
99. 高野光之丞：人參畑の土壤消毒。今月の農薬 3巻7: 20-23. [EDBの効果。]
100. 古山 清：線虫の培養。植物防疫 13(3) 110. [Diplogaster sp., Aphelenchus sp., Rhabditis sp., Aphelenchoides besseyi, Rhabditoides sp.]
101. 口村重治：シクラメンの切花栽培。農及園 34(8) 1246-1250. [播種土壌のネマトーダは致命的。]
102. 国井喜章：殺線虫剤とその施用について。植物防疫 13(3) 115-118. [一覧表として物理性、施用法、対照病害虫、葉害等を示す。]
103. 国井喜章：最近の殺線虫剤研究の流れ。農薬 6巻6: 37-41. [海外の研究を紹介。]
104. 国井喜章：線虫の感受性による薬剤の効力判定。寄生虫誌 8(3) 100. [講要]
105. 国井喜章：土壤線虫について。都道府県展望 9: 2-6. [研究史、研究上の問題、被害の地域性、防除の展望。]

106. 国井喜章：殺線虫剤の施用方法。今月の農薬 3巻3: 12-15. [点注、条注、薬害等の解説。]
107. 国井喜章・石橋信義・気賀沢和男：ネコブセンチュウの生理生態学的研究 II。卵のうの食塩水処理。応動昆大会講要 昭34: 16-17. [講要]
108. 国井喜章・気賀沢和男・石橋信義：ネコブセンチュウの研究：生理生態学への準備。応動昆 3(1) 61-62. [講要]
109. 国井喜章・気賀沢和男・石橋信義：Rhabditoides sp.の酸素消費量。19回寄生虫学会東日本支部大会講要：[未見。講要。]
110. 栗田匡一：暖地甜菜（てんさい）の移植栽培。農及園 34(6) 933-938. [輪作による線虫防除。線虫の寄生により収量、耐病性、耐旱性低下。]
111. 桑名寿一・石井五郎・塩川晴寿：桑のネコブセンチュウについて（1）。蚕糸研究 31巻6: 43-60. [形態、生態（温度と分離線虫数、孵化幼虫数、垂直分布、水平分布）、被害。]
112. Loof, P. A. A. : Ueber das Vorkommen von Endotokia matricida bei Tylenchida. Nematologica 4(3) 238-240. [卵が母体中で孵化し、そのため雌成虫が死亡する現象をAphelenchoides fragariae, Pratylenchus coffeae発見。後者は日本のジャガイモからの検出個体。]
113. 牧 良忠・山口福男：兵庫県における近郊園芸地帯の線虫害と防除上の問題点。農薬 6巻3: 34-40. [ネコブ、ネグサレ、イチゴメ、ハガレセンチュウ。]
114. 牧 良忠・山口福男：蔬菜類に対する殺線虫剤の効果について。兵庫農試研報 7: 54. [キュウリ、トマト、ダイコン、ハクサイ、ホウレンソウ、ニンジンにD-D、EDB、DBCP剤。]
115. 松本利雄・川島嘉内：薬用にんじんセンチュウの移動に関する一考察。北日本病虫研報 10: 116. [傾斜地では流水による移動に注意。]
116. 水戸野武夫・藤村俊彦：生育中のブドウに対する殺線虫剤の処理とその効果。中国農業研究 16: 54-56. [サツマイモネコブセンチュウにDBCP剤を施用。落果減少。]
117. 三浦 脩：殺線虫剤の種類とその施用について。大阪農業 110: 13-18. [使用法、効果。]
118. 三浦 脩：ダイズシストセンチュウ府下に発生す。大阪農業 113: 18-19. [大阪府美木多村上。]
119. 三浦 脩：ネコブセンチュウの発育に及ぼす殺線虫剤 (E.D.B.) の影響。農及園 34(6) 985-986. [線虫の寄生侵入は1週間遅れるが、その後の発育に影響なし。]
120. 宮川経邦：ミカンネセンチュウによるみかんの被害。農薬 6巻2: 口絵及び解説。
121. 宮川経邦：ミカンの根センチュウ。今月の農薬 3巻2: 121-125. [症状、天敵。]
122. 宮川経邦・賀川 実：ミカンネセンチュウ (Tylenchulus semipenetrans) の生態と防除に関する2、3の実験。園芸学会昭34秋研発表旨: 10. [講要]
123. 宮本健太郎：秋作馬鈴薯の栽培法。農及園 34(1) 209-212. [秋作では線虫による腐敗は認めず。]
124. 百瀬行男：林木苗木のネマトーダ。森林防疫ニュース 8(3) 55-56. [長野県北信地方のカラマツ、スギ苗畑の線虫。ピンセンチュウ他。]
125. 森 介計：ミカンノネカイガラムシの防除とEDB乳剤の使い方。農薬 6巻3: 6-10. [効果、施用方法・時期。]
126. 森 信義：ゴールドデンネマトーダの調査法。農薬 6巻2: 54-55. [アメリカで実施されている方法を紹介。]
127. 本橋精一・伊藤佳信・阿部善三郎：トマト萎凋病の発生とネコブセンチュウとの

関係. 日植病報 24(1) 25. [講要]

- 1 2 8. 宗像 桂・原田昭夫・西沢 務: Nematocidal activities of halogenoalkyl-carboxylic acid esters. Agr. Biol. Chem. 23(6) 457-459. [イネシンガレセンチュウに40種のハロゲン化合物のエステルの殺線虫活性を試験。構成成分の酸・アルコールの種類と活性の関係を調べる。]
- 1 2 9. 村上計広: 桑の根りゅう線虫の防除について (予報). 日蚕関西講要 19: 8. [講要]
- 1 3 0. 長沢正雄・山本福太郎・戸塚隆是: 殺線虫剤スクリーニング方法に関する一考察. 日植病報 24(1) 17. [講要]
- 1 3 1. 永沢 実・伊藤佳信・新井 茂: キタネコブセンチュウ・サツマイモネコブセンチュウの寄生様式について. 応動昆大会講要 昭34: 17. [講要]
- 1 3 2. 永田利男: 馬鈴薯品種とその特性概要について: 北海道農業試験場作物部作物第4研究室 (恵庭町松島) で保有する品種. 北農 26 卷7: 1-32. [ネマトーダ抵抗性: Capella, Merkur, Varan.]
- 1 3 3. 内藤豊三郎: 秩父地方の蒟蒻栽培とその改善. 農業技術 14(3) 107-111. [トロロアオイの後作に線虫が発生。休栽、D-Dで防除。]
- 1 3 4. 中島三夫: 便利な線虫実験器具について. 植物防疫 13(10) 467. [ガラス毛细管を計数、すくい取りに利用。]
- 1 3 5. 仲宇佐達也・加藤 治・山崎正枝: 陸稲の連作害に関する研究 第3報 連作害の原因について. 日作紀 27(4) 438-440. [土壌消毒の効果。線虫記述なし。]
- 1 3 6. 中山 保・斉藤武衛: 「かんぴょう」の栽培法. 農及園 34(2) 348-352. [ネマトーダの多い所では7~8割減収。]
- 1 3 7. 西沢 務: 植物ガンの形成機構. 蛋白・核酸・酵素 4卷 (増刊号): 82-95. [線虫、ウイルス、昆虫等によって生じる植物異常組織に関する総説。]
- 1 3 8. 西沢 務: 殺線虫剤の拡散型. 関西病虫研報 2: 50-51. [講要. D-D、EDBは直径30~40cmの球形。DBCPは効果範囲やや大。]
- 1 3 9. 西沢 務・高楠武正: 土壌線虫の分離方法に関する研究 (I) Baermann 法の検討. 応動昆大会講要 昭34: 16. [講要]
- 1 4 0. 野中福次: 稲小核菌病と稲線虫心枯病との関係、並びに線虫被害稲の呼吸酵素活性について. 日植病報 24(1) 8. [講要]
- 1 4 1. 野中福次: 稲小核菌病と稲線虫心枯病との関係並びに線虫被害稲の呼吸、酵素活性について. 九大農学誌 17(1) 1-7. [核菌病著しく減少。稲の各種酵素活性が高い。]
- 1 4 2. 小尾充雄・小菅喜久弥: コンニャクネコブセンチュウの防除について. 関東病虫研報 6: 65. [D-D、EDBによる土壌消毒と増収効果。]
- 1 4 3. 織田真吾: イネシンガレセンチュウに対するパラチオン散布適期の判定. 北陸病虫研報 7: 118. [7月20~30日が最適。]
- 1 4 4. 及川嘉一・本庄一雄: 田畑輪換栽培に関する研究. 岩手大農学報 4(2) 182-191. [線虫記述なし。大豆は輪換畑でも連作障害発生。]
- 1 4 5. 岡 英人: たばこの育種50年の歩み. 葉たばこ研究 20: 16-27. [線虫抵抗性を含む。]
- 1 4 6. 岡野秋盛・田中 勇: EDBの葉害および効果範囲について. 九州農業研究 21: 151-152. [タバコに対する葉害は非常に少ない。殺虫効果と病害発生 (タバコ腰折病他) との間に関係。]
- 1 4 7. 岡野秋盛・田中 勇: EDBの葉害および効果範囲について. 日植病報 24(1) 65. [講要]

148. 大橋雄司：立枯病抵抗性に関する研究 第2報 根の傷と発病との関係。育雑 9(1) 59-60。〔講要〕
149. 大橋雄司・村井高伯：立枯病抵抗性に関する研究 第II報 根の傷と立枯病の発生について。秦野たばこ試報 44: 51-65。〔ネコブセンチュウ接種との関係も調査。〕
150. 大泉久一・他：東北大豆の生産安定条件の研究。雑穀奨励会、東京。〔未見。ダイズシストセンチュウ対策を含む。〕
151. 小沢 博・戸部敬哉：臭化メチル液状土壌くん蒸剤「サンミック」の殺線虫試験。日植病報 24(1) 50。〔講要。EBDと同様の効果。〕
152. 三枝敏郎：線虫による作物の被害。植物防疫 13(3) 105-109, 口絵写真。〔病徴の説明。線虫寄生度と作物減収度をグラフで示す。〕
153. 三枝敏郎：ダイズ品種間におけるネコブ線虫寄生度の差異。農及園 34(5) 835-836。〔供試49品種中3品種(小金黄1号、Laredo、十勝長葉)が免疫性。〕
154. 三枝敏郎：線虫による畑作物の病徴とその防除(1)作物の病徴とくにネコブ線虫について。農及園 34(12) 1847-1850。〔線虫の種類と病徴の一覧表、ネコブセンチュウの種類とゴール形状の違いを図示。〕
155. 三枝敏郎・松本安生：兵庫県産 *Stylet nematode* の一種について。植物防疫 13(10) 451-452。〔*Tylenchorhynchus martini* 近似種の形態を記載。〕
156. 三枝敏郎・松本安生：スイセンのクキセンチュウの寄生性と分類に関する1、2の知見。応動昆大会講要 昭34: 18。〔講要〕
157. 斎藤康夫・岡本 弘：小麦萎縮病 Virus に対する薬剤による土壌処理の影響並びに直接不活性化について。日植病報 24(1) 56。〔講要。D-D、EDBは発病抑制。〕
158. 佐藤 清：本県におけるネマトーダの種類と分布及びその防除法〔1〕。農業技術研究 13巻9: 35-37。〔静岡県。ネコブ・シストセンチュウの寄主作物、被害。〕
159. 佐藤 清：本県におけるネマトーダの種類と分布及びその防除法〔2〕。農業技術研究 13巻10: 37-39。〔ネグサレセンチュウの被害。土壌線虫の分布と被害、防除法、土壌消毒機。〕
160. 関谷一郎・早河広美・呉羽好三・柳 武・山岸義男：ダイズシストセンチュウの被害防除について。長野農試研究集報 2: 157-171。〔窒素質肥料、堆肥、石灰窒素、殺線虫剤施用の効果。〕
161. 重永知明：ネコブセンチュウとその防除 I。ネコブセンチュウの生態と土壌燻蒸剤の性質について。研農復刊 11(2) 465-471。〔D-D、EDB、クロルピクリンの性質、土壌条件との関連。〕
162. 重永知明：ネコブセンチュウとその防除 II。燻蒸剤を使った土壌消毒法の実際、および土壌消毒の経済効果。研農復刊 11(3) 459-465。〔D-D、EDB、ベーパーム、クロルピクリン、臭化メチル。〕
163. 重永知明：ビートの病害虫について。研農復刊 11(8) 699-703。〔根瘤線虫、殺線虫剤20ℓ/10 a処理。〕
164. 篠原捨喜：静岡県三保における温室の栽培と経営。農及園 34(1) 288-292。〔線虫を含む土壌伝染性病害虫の問題が大きい。〕
165. 白浜賢一：東京都における線虫の防除事例。植物防疫 13(3) 127-130。〔昭和7・8年から当時までの蔬菜の線虫害及び防除法、D-Dによる防除事例。〕
166. 白浜賢一：東京都における病害虫防除の問題点。農業 6巻1: 54-56。〔センチュウ防除がかなり実際に行われるようになってきた。〕
167. 白浜賢一：東京都下の線虫防除の実際。農業技術研究 13巻6: 30-31。〔D-D、EDBの使用例。〕

168. 白浜賢一：夏そ菜の露地定植前の土壤消毒。農薬 6巻2: 35-38. [クロルピクリン、EDB、D-D、臭化メチル、DBCP、ペーパムの施用法。]
169. 白浜賢一：土壤線虫：東京都における被害と問題点。都道府県展望 9: 18-22. [被害の歴史・分布・防除した場合の増収、防除上の問題点（経費並びに行政上の問題、技術上の問題）。]
170. 白浜賢一：秋ゴボウの播種前の土壤消毒。今月の農薬 3巻10: 59-63. [ネコブ、ネグサレセンチュウのD-D、EDB、クロルピクリン施用を含む。]
171. 白浜賢一：甘藷作あとの土壤消毒。今月の農薬 3巻11: 25-28. [線虫防除方法。]
172. 末永 一：九州における土壤害虫対策の問題。農薬 6巻1: 34-37. [主に線虫。]
173. 杉本達美：福井県におけるサツマイモネコブセンチュウの被害実態について。北陸病虫研報 7: 119-121. [現地調査、アンケート回答のとりまとめ。]
174. 杉本達美：殺線虫剤の土性と薬害の関係について。北陸病虫研報 7: 126-128. [EDB、土性、土壤水分、処理時間との関係。]
175. 砂田喜与志：大豆シストセンチュウに対する耐虫性育種の現状。日育日作北談報 1: 21. [未見]
176. 高橋 信・畠山俊朗：大豆「ゲデンシラス1号」について。東北農業研究 1: 73-75. [線虫抵抗性および品種育成上の問題点を指摘。]
177. 高野誠義・川田惣平・広原宗次：ネコブセンチュウに対する新殺線虫剤の持続性について。関東病虫研報 6: 61. [ネコブセンチュウのD-D、EDB、DBCP剤による防除。]
178. 田村市太郎：水稻の有害動物とその防除対策 [1]。農及園 34(4) 655-658. [稻心枯線虫病：苗の初期生育、病徴。]
179. 田村市太郎・気賀沢和男：スイトウセンチュウの生態に関する研究 第3報 苗代様式によるイネの害徴及び棲息密度の変動。日生態誌 9(1) 1-4. [保温折衷苗代育苗のイネに発病少ない。寄生を受けても発病しない場合がある。]
180. 田村市太郎・気賀沢和男：スイトウセンチュウの生態に関する研究 第4報 栽培環境によるイネの害徴及び籾内棲息密度の変動。日生態誌 9(2) 65-68. [湿土状態より湛水状態で発病多。]
181. 田村市太郎・気賀沢和男：スイトウセンチュウの生態に関する研究 第5報 罹病イネの生育並びに収量解析試験。日生態誌 9(3) 120-121. [罹病した株は発芽勢、草丈低下。20%（抵抗性品種）から60%（罹病性品種）の減収を予想。]
182. 田中一郎・桜井 清：北海道におけるビートの病害虫。農薬 6巻4: 9-14. [キタネコブセンチュウを含む。被害額4億2千万円と推定。]
183. 田中伊之助：ロダゲン錯酸エステル類（REE-200、REM-200、REB-200）による稻心枯線虫罹病籾浸漬消毒試験。九州農業研究 21: 152-153. [REE-200 (20%), 6000倍24時間浸漬が効果あり。]
184. 田中伊之助：ロダゲン錯酸エステル類による稻心枯線虫罹病籾浸漬消毒試験。日植病報 24(1) 65. [講要]
185. 田中 勇：ネマヒューム20による線虫病の駆除。葉たばこ研究 18: 86-87. [効果使用方法。]
186. 田中 勇・岡野秋盛：ネコブセンチュウと併発するタバコ腰折病、立枯病防除について。日植病報 24(1) 67. [講要]
187. 田中 勇・岡野秋盛：センチュウとほかの病害との関係。1. 昭和39年度腰折病防除試験成績。葉たばこ研究 18: 70-73. [D-D、EDB、クロルピクリン施用によって腰折病発病減少。]

188. 田中 勇・岡野秋盛：ネコブセンチュウと併発するタバコ腰折病或は枯病防除の  
について。九州農業研究 21: 160-161. [D-D、EDB、クロルピクリン、ルベロン  
水和剤の効果の比較。]
189. 戸部敬哉・新井貞夫：サンヒュームの土壤くん蒸における線虫最低致死量と土壤  
中のガスの消長。農及園 34(10) 1583-1584. [メチルプロマイド。7.5kg/10a で90% 以  
上死亡。]
190. 津軽承捷：本県の土壤線虫：昨年の発生分布と被害。青森農業 10巻3: 29-30.  
[ネコブセンチュウの検出作物・同面積、ダイズシストセンチュウの分布。]
191. 津軽承捷：果樹のセンチュウ。農薬 6巻2: 口絵および解説。[キタネコブセン  
チュウによるリンゴの被害。]
192. 筒井喜代治：土壤センチュウ類。農薬 6巻1: 口絵 (2 Pls.) および解説。[サ  
ツマイモネコブセンチュウ (ニンジン、ゴボウ)、キタネコブセンチュウ (トマト)、  
ダイズシストセンチュウ (ダイズ)、ネグサレセンチュウ (ジャガイモ)。]
193. 上田浩二：北海道における土壤線虫のパイロット防除をみて。植物防疫 13(8)  
357-359. [ダイズシストセンチュウにD-D、EDB。線虫密度と収量。]
194. 渡辺誠三：蔬菜栽培と営農 [1]。農及園 34(1) 94-96. [D-Dの使用。]
195. 渡辺誠三：蔬菜栽培と営農 [1 2]。農及園 34(12) 1913-1916. [線虫は火山灰  
地帯や砂地に多い。D-Dで防除。前作の作物に言及。]
196. 山田隆保・桂 琦一：麦根から発見される線虫 Pratylenchus sp. について (予  
報)。応動昆大会講要 昭34: 18. [講要]
197. 山口福男：ネグサレセンチュウの一種 (Pratylenchus sp.) によるニンジンの被  
害。植物防疫 13(6) 257-259. [秋作に多い。病徴、寄主作物、D-D、EDB、DB  
CPによる防除とその効果。]
198. 山口福男：センチュウ類。農薬 6巻3: 口絵および解説。[ネグサレセンチュウ  
によるニンジンの被害。サツマイモネコブセンチュウによるイチジクの被害。]
199. 山崎肯哉：蔬菜産地の生産力低下と改善の実例。農及園 34(1) 225-228. [総説  
。線虫のD-D、EDBによる防除に言及。]
200. 横尾多美男：暖地における土壤線虫防除の問題点 (上)。農芸西日本 8: 54-56.  
[未見]
201. 横尾多美男：暖地における土壤線虫防除の問題点 (下)。農芸西日本 9: 48-49.  
[未見]
202. 横尾多美男：主要な農作物や果樹蔬菜類に寄生する線虫群。佐賀大農彙 8: 73-  
85. [文献をもとに作物の種類別に検出線虫をまとめる。]
203. 横尾多美男・阿部恭洋：サツマイモネコブセンチュウの生活史。佐賀大農彙 9:  
107-121. [接種後日数と線虫の体長・体幅。寄主を違えた場合の線虫の発育。]
204. 横尾多美男・阿部恭洋・大坪和洋：サツマイモネコブセンチュウの生態に関する  
2、3の知見。九病虫研会報 5: 74. [講要]
205. 横尾多美男・阿部恭洋・大坪和洋：サツマイモネコブセンチュウの生態に関する  
2、3の知見。佐賀大農彙 8: 1-9. [接種数とゴール指数の関係、三要素施肥と罹病、  
温湯処理による致死温度。]
206. 米林倭三：ネマトーダによるキリの被害。森林防疫ニュース 8(3) 45. [千葉県。  
線虫未同定 (ネコブセンチュウ?)。]
207. 吉田正義：土壤害虫に対する農薬の室内試験法：殺虫効果の判定と残効性。農薬  
6巻2: 39-42. [Nemafume 20 (EDB) の残効性を含む。ハリガネムシ (コメツキムシ幼  
虫) を対象。]

208. 湯原 巖・浅井三男：寄主作物の差異によるダイズシストセンチュウの増殖と被害。北日本病虫研報 10: 114-116. [大豆、小豆で増殖、被害が大。品種間差あり。]
209. Anon. (編集部)：殺線虫剤の最近の動向。農薬研究 5巻3: 76-80. [線虫防除事業計画とメーカーの動き。]
210. Anon.：殺センチュウ剤試験結果摘録(昭和36年度植防依頼試験成績総合考察より)。北陸病虫研報 7: 125. [ネマヒューム、ネマセット、ネマゴン、ネマール、ソイル、VC-13、MN-400、REE-200。]
211. Anon. (明大農学部)：大豆萎黄病と施肥との関係試験。明大農富士吉田農場特報 1: 6-7. [堆肥施用によって線虫害軽減。]
212. Anon. (明大農学部)：大豆萎黄病抵抗性の品種間差異に関する試験。明大農富士吉田農場特報 1: 7-11. [11品種の比較。]
213. Anon. (農林省植物防疫課)：土壤線虫対策実施要綱。農林省振興局、2 + 45 pp. [謄写。線虫検診事業の実施要綱。主旨及び目的、実施方針、畑作病害虫対策推進体制(県、検診員、防除員、市町村畑作病害虫対策協議会)、検診(計画の立案、実施)、防除指針、計画、指定地区等)、附函(被害程度基準図、線虫の形態)、附録(作物の抵抗性品種、土壤線虫の植物の寄生性、主たる殺線虫剤の種類。)]
214. Anon. (名古屋営林局)：ネマトーダによる苗木の被害。森林防疫ニュース 8(3) 44-45. [サツマイモネコブセンチュウをヒノキまき付苗で発見。]
215. Anon：土壤線虫の被害と対策。長野県・長野県土壤線虫対策協議会、8 pp., 1 map. [土壤線虫の解説及び薬剤防除法、発生面積。]
216. Anon：線虫談話会の設立。応動昆 3(4) 293. [昭和34年11月10、11日。]

### 昭和35年 (1960)

1. 新船幸重郎：埼玉県における土壤線虫の防除。土壤改良 9巻3: 20-26. [線虫の分布、防除実施状況、防除方法、防除器具の普及状況、防除効果。]
2. 浅田三津男：植物成分の殺線虫力について。応動昆大会講要 昭35: 20. [講要]
3. 朝比奈英三：「ガラス化」法及び予備凍結法による線虫の超低温での生存。動雑 69 (1/2) 49. [講要。キクハガレセンチュウの液体酸素中(-183°C)及び予備凍結段階での生存率。]
4. 家入 章：土壤線虫の生態と防除(その1)。農研復刊 12(4) 104-107. [土壤線虫の解説。]
5. 家入 章：土壤線虫の生態と防除(其の2)。農研復刊 12(9) 261-266. [ネコブ、ネグサレ、シストセンチュウの生態。熊本県24市町村5087haの検診結果(昭和34年)。]
6. 円城寺定男：土壤線虫の経済的な防ぎ方。農耕と園芸 15巻5: 34-35. [薬剤防除効果。]
7. 深野 弘・横山佐太正：稲線虫心枯病株の高位節からの異常分岐について。福岡農試研究時報 16: 33-36. [No. 60-8 を参照。]
8. 深野 弘・横山佐太正：稲線虫心枯病株の高位節からの異常分岐について。九病虫研会報 6: 75-76. [窒素過多の場合に見られる。心枯線虫は誘因の一。]
9. 深沢永光：苺芽線虫の被害とその防除法。農業技術研究 14巻6: 19-20. [症状、病原線虫、伝播、防除法。]
10. 深沢永光：土中の害敵を防ごう。農業技術研究 14巻8: グラビア(4 Pls.)。[土壤病害、線虫。]

- 1 1. 深沢永光：線虫の被害。農業技術研究 14巻9： カラーグラビア (1 Pl.) および解説。〔ビート、チャ、イチゴ、ダイズの線虫害。〕
- 1 2. 深沢永光・小林義明：静岡県における根部外寄生線虫。応動昆大会講要 昭35:17. [講要]
- 1 3. 後藤 昭・大島康臣：ネグサレセンチュウに関する研究：日本産数種の形態的群別と長崎県産馬鈴しょ寄生種の發育について。応動昆大会講要 昭35: 16-17. [講要]
- 1 4. 後藤寛治・砂田喜与志：ダイズシストセンチュウに対する抵抗性育種。育種 10(4) 267. [講要]
- 1 5. 後藤和夫：稲心枯線虫病について。今月の農薬 4巻10: 36-40. [伝染経路、減収率、防除法 (ホリドール)。]
- 1 6. 後藤清衛・武田 理：砂丘地に於ける桑の「ねこぶ線虫」被害実態について。日蚕東北講要 14: 34-35. [講要]
- 1 7. 行徳直己：ニカメイチュウの天敵について。九病虫研会報 6: 1-3. [ズイムシシヘンチュウの寄生率 0.1%。]
- 1 8. 林 真守：キタネコブセンチュウ及びサツマイモネコブセンチュウのdimension について。応動昆大会講要 昭35: 17-18. [講要]
- 1 9. 平野和弥：蛍光顕微鏡利用に関する考察 [I] ネコブセンチュウ卵の生死の判別をめぐって。日植病報 25(1) 51. [講要]
- 2 0. 広瀬健吉・伊藤喜隆：果樹の線虫と防除。園芸信州 13巻10: 18. [未見]
- 2 1. 広瀬健吉・伊藤喜隆：ネコブセンチュウのリング樹におけるSamplingの位置について。応動昆大会講要 昭35: 18-19. [講要]
- 2 2. 細土豊二・横山昭一：土壌処理剤に関する研究 第3報 D-D、E D Bの特異性について。日植病報 25(1) 58-59. [講要]
- 2 3. 堀 正侃：新しい年への期待。農薬 7巻1: 3-4. [土壌線虫対策について：「土壌線虫の防除によって……その土地における作物の選択の自由を確保し、新しい作付体系を打ち立てることが目的」]
- 2 4. 堀 正侃・石倉秀次・遠藤武雄・国井喜章・白浜賢一・円城寺定男・遠藤和衛・一戸 稔・海野景正：[座談会] 土壌線虫防除はいかになされたか。農薬 7巻1: 6-34. [全国各地の線虫被害の現状および防除の実施状況。]
- 2 5. 市原伊助・高橋芳雄：落花生の連作とネマトーダの被害について 第3報。関東病虫研報 7: 72. [ネコブセンチュウ。連輪作と線虫密度変化。]
- 2 6. 市川久雄：薬用人参の播種及定植時の病害虫防除。今月の農薬 4巻5: 105-108. [ネコブセンチュウの害を含む。]
- 2 7. 一戸 稔：害虫の生態型をめぐる諸問題 7. 線虫における問題。応動昆4回シンポ講演・討論要旨: 19-22. [講要。応動昆大会講要 昭35: 34にも講要。]
- 2 8. 一戸 稔：米国における土壌線虫の問題。農薬 7巻1: 53-57. [研究の概観、線虫の発生状況、線虫薬剤の問題。]
- 2 9. 一戸 稔：線虫の形態と分類の基礎。In: 線虫研究指針。農林省振興局研究部、p. 1-15. [「目または上科の検索表」を含む。]
- 3 0. 一戸 稔：線虫と天敵。植物防疫 14(11) 501-502. [胞子虫、捕食性線虫、捕食性糸状菌、細菌等の解説。]
- 3 1. 一戸 稔：外寄生の線虫とは。農薬 7巻4: 42-45. [代表的な属を解説。]
- 3 2. 一戸 稔：線虫実験用の「シラキウスの時計皿」。植物防疫 14(6)260. [国産化。]
- 3 3. 一戸 稔・武田和子・中園和年：本邦重要植物寄生性線虫の調査。応動昆大会講要 昭35: 19. [講要]



34. 飯島 鼎：ネグサレ線虫。今月の農薬 4巻4: 13-16. [寄主作物、被害、ゴボウのロチレンクス (=ロチレンクルス)。]
35. 飯島 鼎：防除六年の歩み：線虫。今月の農薬 4巻5: 35-38. [D-D、EDB剤の国産化。]
36. 飯島 鼎・一戸 稔・国井喜章・白浜賢一：土壤線虫読本。ネマヒューム普及会、東京、4+88 pp., 8pls. [線虫の分類、生態、防除等についての解説。改訂版No.63-41。]
37. 稲垣春郎・湯原 巖：Pratylenchus sp.とアマ(亜麻)の生育不良について。北日本病虫研報 11: 9. [ネグサレセンチュウの寄主植物とハッカへのD-D剤施用。]
38. 稲垣春郎・湯原 巖：アマの生育不良とPratylenchus sp. 日植病報 25(1) 62. [講要]
39. 稲垣春郎・湯原 巖：ハッカの腐敗地下茎から検出された線虫について。日植病報 25(5) 233. [講要。ピンセンチュウ多。]
40. 井上 寿：キタネコブセンチュウによる作物の被害。北農 27巻11: 10-20. [大豆、小豆、菜豆、豌豆、馬鈴薯、甘菜、亜麻、蕎麦、赤クローバにおける被害。]
41. 井上 寿・谷口善弘：ダイズシストセンチュウに関する調査 第11報 菜豆の収量に及ぼす品種間差異。北日本病虫研報 11: 97. [10品種の4年連作試験。]
42. 井上 巖：Studies on the life-history of Chordodes japonensis, a species of Gordiacea. II. On the manner of entry into the aquatic insect-larvae of Chordodes larvae. Annot. Zool. Japon. 33(2) 132-141. [経皮的ではなく、寄主の摂食により体内侵入。昆虫の種類により異なる型のenvelopeを作る。]
43. 井上 巖：Studeis on the ecology of the larvae of the hairworm, Chordodes japonensis. 東京学芸大研報 11, 物理・化学・生物学・地学・数学: 21-25. [孵化条件、孵化幼虫の乾燥耐性。]
44. 井上忠彦：A.C.C.18133 の殺線虫性について。応動昆大会講要 昭35: 28. [講要。浸透移行性の有機燐剤。]
45. 石橋信義・気賀沢和男：ムギシストセンチュウの寄生試験。関東病虫研報 7: 71. [エンバクではコムギ、オオムギよりも寄生度が低い。]
46. 石橋信義・気賀沢和男・国井喜章：Studies on hatching of the root-knot nematode, Meloidogyne incognita var. acrita Chitwood. I. The relation between hatching and the original egg content of egg mass. 応動昆 4(4) 249-255. [卵囊の蔵卵数が少なくなるにしたがい幼虫の孵化遊出率は高まる傾向。]
47. 石橋信義・気賀沢和男・国井喜章：ネコブセンチュウの孵化に関する研究 その1 孵化能力について。応動昆大会講要 昭35: 19. [講要]
48. 石橋信義・国井喜章・一戸 稔(訳)：土壤燻蒸の理論。農林省振興局植物防疫課 87 pp. [基本原理、数学的研究、害虫に対する基礎毒性、施用条件ならびに環境条件、燻蒸剤の物理化学的性質、土壤とその環境要因、結論、文献。原著未詳 (Goring, C. A. I.(1957) Factors influencing diffusion and nematode control by soil fumigants. The Dow Chemical Company ACD. Inform. Bull No. 110.か。)]
45. 石田一郎：昭和34年産を顧みて：福岡地方局。葉たばこ研究 21: 26-30. [線虫病の被害面積、減収量、被害金額を含む。]
50. 石井五郎・江森 京・樋田幸夫：桑のネコブセンチュウについて(2) 新梢挿木根に見られたネコブセンチュウ。蚕糸研究 33: 48-56. [アレナリアネコブセンチュウ。挿木時期とネコブセンチュウの寄生、異常根瘤の大きさと寄生虫数。]
51. 石井五郎・江森 京・樋田幸夫：桑のネコブセンチュウについて(4) 寄生と各種殺線虫剤の薬害。蚕糸研究 35: 35-41. [越冬形態(卵、幼虫)、寄主目録(アレナリ

- アネコブセンチュウ、キタネコブセンチュウ)、DBCP、D-D、EDB剤施用。第3報はNo. 60-162を参照。]
52. 石倉秀次: アメリカの線虫のぞきあるき。植物防疫 14(10) 449-451。[研究体制と研究の動向。殺線虫剤の研究とその使用他。]
53. 伊藤喜隆・広瀬健吉: 蔬菜畑の天地返しによるネコブセンチュウの攪乱とその後の推移及び作物の被害相。関東病虫研報 7: 65。[ナス、ニンジン、ゴボウ。]
54. 伊藤喜隆・広瀬健吉: Perineal pattern分類による長野県のネコブセンチュウの種類と寄生性。応動昆虫大会講要 昭35: 18。[講要]
55. 伊藤喜隆・広瀬健吉: Perineal pattern分類による長野県のネコブセンチュウの種類と寄生性。長野園芸報 2: 45-50, 2 pls。[サツマイモネコブ、ジャワネコブ、アレナリアネコブ、キタネコブ、*M. sp.* (リンゴネコブ) を記録。種類別に寄主および寄生程度の表。植物防疫 14(12) 550, 1960 に抄録。]
56. 糸賀繁人・馬場口勝男・堀切正俊: 鹿児島県における甜菜害虫の種類について(予報)。九病虫研会報 6: 35-36。[サツマイモネコブセンチュウの被害大。]
57. 弥富喜三: 殺線虫剤。有機化学合成協会誌 18(8) 543-549。[殺線虫剤の物理化学的性質をまとめる。]
58. 弥富喜三: 柑橘のネマトーダと防除。果実日本 15巻1: 59-61。[ミカンネセンチュウ、ミカンネモグリセンチュウの解説。]
59. 弥富喜三: ネマトーダとその防ぎ方(農民叢書 第109号)。農業技術協会、東京、69 pp。[防除法を主とした普及書。]
60. 和泉清久: 土壌線虫剤の効果と地温。今月の農薬 4巻4: 55-57。[D-D、EDB剤の施用効果。]
61. 和泉清久・竹沢秀夫・近岡一郎: 殺線虫剤の効果と地温との関係について。関東病虫研報 7: 78。[D-D剤は低温でも効果、EDB剤の効果は劣る。]
62. 鏡木豪夫: 機械化が進む畑作営農: 農業機械の現状と問題点を衝く。畑地かんがい 34: 6-10。[ネマトーダ防除用の機械実用化の域。]
63. 梯 剛: ネマヒューム30(EDB)の土壌拡散について。農業生産技術 6: 29-32。[拡散量・濃度の経時的変化、温度との関係。]
64. 苅谷正次郎: サツマイモネコブセンチュウに対するD-D及びEDBの持続効果。応動昆虫大会講要 昭35: 28。[講要]
65. 苅谷正次郎: 殺線虫剤の有効年限。今月の農薬 4巻7: 98-102。[施用効果の持続期間。]
66. 加藤 治: 早期畑苗代育苗に於ける土壌消毒の効果。農及園 35(1) 59-60。[線虫記述なし。ベーバム、クロルピクリン、D-D剤を施用。]
67. 加藤 治: 室内育苗器による畑苗育苗における土壌消毒の効果。農及園 35(5) 863-864。[水稻苗。クロルピクリン、ベーバム、D-D剤を施用。線虫記述なし。]
68. 勝元久衛・川瀬英爾: ネコブセンチュウに対する殺線虫剤の効果について(第2報)。北陸病虫研報 8: 120-122。[ホウレンソウ、ニンジンにD-D、EDB、DBCP剤。]
69. 桂 琦一: 土壌伝染性病害の発生に対する線虫と病原体との関係。日植病報 25(2) 116-117。[土壌伝染病に関するシンポジウム講要。菌類、ウイルス病と線虫の関係を概説。]
70. 川越 仁・後藤重喜: サツマイモのネグサレセンチュウに関する研究(4)大豆の被害様相と被害査定。九州農業研究 22: 113-114。[ミナミネグサレセンチュウ密度と寄生度・生育・収量の間密接な関係。茎重及び莢重ともに3~4割の減少。]

71. 川越 仁・後藤重喜：サツマイモのネグサレセンチュウに関する研究（4）大豆の被害様相と被害査定，日植病報 25(1) 69. [講要]
72. 川越 仁・後藤重喜：サツマイモのネグサレセンチュウに関する研究（5）陸稲の被害様相と被害査定，九州農業研究 22: 114-115. [最大4割前後の減収。]
73. 河村貞之助：線虫寄生作物の被害徴候，In: 線虫研究指針，農林省振興局研究部，p. 37-45. [線虫の種類別の症状、特徴、見分け方。]
74. 河村貞之助：線虫病害混合被害の研究法，In: 線虫研究指針，農林省振興局研究部 p. 103-106. [病気の種類及び接種試験法。]
75. 河村貞之助・平野和弥・渋谷正夫：大和芋におけるネコブセンチュウ病の病理学的解剖所見並びに生育と被害について，日植病報 25(1) 22. [講要]
76. 河村貞之助・弥富喜三：薬剤試験法，In: 線虫研究指針，農林省振興局研究部，p. 89-102. [室内及び圃場試験法，in vitroでの線虫培養法。]
77. 河村貞之助・米山伸吾：水和剤・乳剤・液剤・粉剤形態 Nematicide の土壤中透過の様相について，千葉大園学報 7: 15-26. [EDB、DBCP、ベーパーム等。]
78. 河村貞之助・米山伸吾：殺線虫力および殺菌力を有する細菌群について，千葉大園学報 8: 13-23. [鶏糞・米糠・川砂・火山灰土・堆肥中から分離した細菌・糸状菌の線虫に対する影響。]
79. 河村貞之助・米山伸吾：土壤透過によるVapam の変化について，特に殺線虫力、殺菌力を通じて，日植病報 25(1) 45-46. [講要]
80. 川島嘉内：ダイズシストセンチュウに対する殺線虫剤の効果並びに他の害虫の被害におよぼす影響，北日本病虫研報 11: 144-145. [D-D、EDB、DBCP剤が有効。]
81. 川島嘉内・遠藤 正：ネマゴンの加用化成肥料によるネコブセンチュウの防除効果，北日本病虫研報 11: 146-148. [キュウリ、トマトで効果。]
82. 川島嘉内・徳永友三・堀 呈二：コンニャクにおけるネコブセンチュウの被害と腐敗病発生との関係について，北日本病虫研報 11: 10-11. [線虫寄生程度が高いほど発病多。接種時期、防除時期と発病の関係を試験。D-D、EDB、DBCP剤の効果を含む。]
83. 川島嘉内・矢口宣夫：殺線虫剤の畦間処理によるネコブセンチュウの防除効果について，北日本病虫研報 11: 146. [DBCP、EDBをニンジン、ダイコンの生育中に処理。葉害を認めず。]
84. 気賀沢和男・石橋信義・国井喜章：ネコブセンチュウの孵化に関する研究 第2報 孵化の変動について，応動昆大会講要 昭35: 19. [講要]
85. 岸 国平：土壤の殺菌剤、殺虫剤の使い方，農業技術研究 14巻7: 6-8. [殺線虫剤を含む。]
86. 小林 尚：水田の天敵：とくにニカメイチュウおよびウンカ類の天敵，植物防疫 14(11) 497-500. [ズイムシシヘンチュウ、ウンカシヘンチュウの寄生率を安松(1958)、今村(1932)から引用。]
87. 小宮書之助・工藤 馨：大豆萎黄病防除に関する研究 1. D-Dによる薬剤防除試験，明治大農研報 10: 22-24. [50%の増収。]
88. 小森 昇：稻線虫心枯病保虫剤のFolidor 処理による一考察，日植病報 25(1) 9. [講要。寄生能力低下。完全防除は困難。]
89. 小森 昇・高野誠義：稻線虫心枯病に関する試験 第3報 ホリドール乳剤による防除効果，関東病虫研報 7: 64. [出穂期の散布効果顕著。ディブテレックスの効果は劣る。]
90. 高野光之丞・石川元一：ネコブセンチュウに対する殺線虫剤の効果について，関東

- 病虫研報 7: 69. [ヤマトイモに対するD-D処理効果2年間持続。]
91. 高野光之丞・石川元一:ゴボウのセンチュウ防除について. 関東病虫研報 7: 73.  
[ゴボウの「ヤケ」圃場からRotylenchulusを多数発見。D-D、EDB、DBCP剤は「ヤケ」に効果なし。]
92. 小菅喜久弥:コンニャクいも内におけるネコブセンチュウの越冬について. 関東病虫研報 7: 66. [各虫態で越冬。植付期(5月)までにいも内で一世代経過。]
93. 小菅喜久弥:コンニャクいも内のネコブセンチュウに対する温湯消毒の効果. 関東病虫研報 7: 68. [50°C15分以上の処理が効果あり。]
94. 熊沢隆義:畑輪作と虫害. 農業改良 9: 48-52. [線虫防除による5作物の増収率を含む。線虫4種を解説。]
95. 国井喜章:土壌線虫の諸問題. 北陸病虫研報 8: 1-2. [研究史、土壌線虫の種類と分布、防除等。]
96. 国井喜章:殺線虫剤注入後の鎮圧. 今月の農薬 4巻4: 27-30. [水封、鎮圧、ガス抜き。]
97. 国井喜章:秋の土壌線虫の対策. 今月の農薬 4巻11: 89-92. [低温時の殺線虫剤の施用方法等。]
98. 国井喜章・気賀沢和男・石橋信義:卵のうに対する根部拡散物質の孵化作用について. 応動昆大会講要 昭35: 19-20. [講要]
99. 国井喜章・気賀沢和男・石橋信義:線虫の採集・分離. In: 線虫研究指針. 農林省振興局研究部, p. 47-57. [材料の採集と保存、土壌からの線虫の分離、植物組織中よりの線虫の分離等。]
100. 国井喜章他: 共立トレーラ形土壌消毒機と手動土壌消毒機の効力比較試験. 共立農機報告 34: 1-3. [未見]
101. 蔵納久男: 柑橘のネマトーダとカイガラムシ. 農業技術研究 14巻10: 18-19.  
[ミカンネセンチュウを含む。]
102. 蔵納久男: 柑橘根線虫に関する研究. 静岡柑橘試報 昭34: 54-56. [密度調査法、県内分布。]
103. 蔵納久男: 煮沸法による柑橘根線虫の雌成虫の分離について. 応動昆大会講要 昭35: 18. [講要]
104. 吳羽好三・山岸義男・関谷一郎: ダイズシストセンチュウに対する殺線虫剤の効果. 応動昆大会講要 昭35: 28. [講要]
105. 黒崎正美: 畑作営農の実際 [4月]. 農及園 35(4) 735-738. [「輪作の合理性を考えた作付」の中で線虫に言及。]
106. 黒崎正美: 畑作営農の実際 [12月]. 農及園 35(12) 2007-2011. [ネコブセンチュウ、シストセンチュウの寄主作物、抵抗性品種(カンショ、大豆)、薬剤以外による防除法を紹介。]
107. Loof, P. A. A.: Taxonomic studies on the genus Pratylenchus (Nematoda). T. Plziekt. 66: 29-90. [長崎産のバレイショから検出され、P. pratensisとされていた線虫(No. 56-87を参照)を、P. coffeaeとする。]
108. 前田速雄: トマトにおけるサツマイモネコブセンチュウ抵抗性の遺伝について. 東京農試特報 16: 32-37. [謄写。N.R.V.、Anahu、栗原の交配試験結果の解析。]
109. 前原 宏: 南九州におけるネコブセンチュウについて. 九病虫研会報 6: 105-106. [講要。ジャワ、アレナリア、サツマイモ、キタネコブセンチュウの分布、寄主作物。]
110. 牧 良忠・山下優勝: 兵庫県における都市近郊果樹イチジクの土壌線虫に関する

- 防除試験成績 第1報 サツマイモネコブセンチュウに対する薬剤処理の初年目効果。兵庫農試、1+9 pp., 1 pl. [寄生程度、被害、DBCP剤処理(驚異的増収。)]
111. 牧 良忠・山下優勝: イチジクの根瘤線虫の発生被害と防除効果。農及園 35(10) 1625-1628. [寄生程度、被害、防除(DBCP剤)及びその効果。]
112. 増田道雄・土橋貞夫・国井喜章: 線虫分離方法の検討。関東病虫研報 7: 77. [砂壌土の線虫をベルマン法とふるい分け法で比較。]
113. 増田安彦: 静岡県における病害虫防除の問題点。農薬 7巻2: 48-50. [土壌線虫対策を含む。「パイロット防除の結果、線虫防除に対する関心が非常に高まり...」]
114. 増田安弘: 蔬菜の生理に及ぼすネマトダの影響 [第1報] 土壌環境とネマトダの寄生との関係について。農及園 35(9) 1505-1506. [寄生と土壌湿度、土壌深度との関係。]
115. 増田安弘: 土壌環境とネマトダの寄生との関係について。園芸学会昭35春研究要旨: 28. [講要]
116. 松野忠男・吉沢中夫・関谷一郎・呉羽好三: 山牛蒡に対する殺線虫剤の効果について。関東病虫研報 7: 74. [ネコブセンチュウ。D-D、DBCP剤効果あり。]
117. 三田保正: 豆類主産地の形勢と栽培技術の変遷(上)。北海道農業研究 17: 26-52. [明治40年以降地力減耗と病害虫(萎黄病他)の被害著しくなる。]
118. 三浦 脩: ネコブセンチュウの発生と白菜の播種期との関係。農及園 35(2) 395-396. [「播種期を遅延することにより被害を軽減し得る」]
119. 三浦 脩・喜田和男: 大阪府下に発生する甘藷ネグサレセンチュウ病について。大阪農試創立40周年記念報: 216-220. [*Aphelenchus avenae*。形態、生態(寄生性、生活史)、防除(D-D、EDB、DBCP剤、ベーパーム)。植物防疫15(6)272-273, 1961に抄録。]
120. 宮本雄一: 植物ウイルス病の土壌伝播。植物防疫 14(3) 103-107. [総説。線虫伝播にふれる。]
121. 宮本雄一: 植物ウイルス病の土壌伝播に関する諸問題。農及園 35(6) 943-948. [線虫伝播の研究の現状を含む。]
122. 森川 修: サツマイモネコブセンチュウの走化性。応動昆虫大会講要 昭35: 20. [講要]
123. 森津孫四郎・浜崎詔三郎: 福岡県若松市の線虫に関する調査。山口大農学報 11: 145-150, pl. 8-11. [ネコブセンチュウと寄主植物。福岡県若松市畑地土壌総合調査報告書。]
124. 本橋精一・阿久津喜作・河合省三・永沢 実・堀江典昭・新井 茂: 東京都における土壌線虫の検診結果。東京農試特報 16: 72-78. [謄写。ネコブ、ネグサレ、シストセンチュウの検出状況。]
125. 本橋精一・永沢 実・阿久津喜作・河合省三・新井 茂: 共立土壌消毒機に関する試験。共立農機報 34: 4-6. [未見]
126. 村上計広: 桑のネコブセンチュウの防除について。日蚕関西講要 22: 29. [講要]
127. 村上計広: 桑のネコブセンチュウの防除について(II)。日蚕関西講要 22: 29. [講要]
128. 永沢 実・阿久津喜作・河合省三・新井 茂・本橋精一: 動力土壌消毒機による線虫の防除。東京農試特報 16: 79-83. [謄写。D-D、EDBで薬量の出方に差。]
129. 永沢 実・阿久津喜作・河合省三・新井 茂・本橋精一: 動力土壌消毒機による線虫の防除。関東病虫研報 7: 75. [D-DがEDBよりも薬量の出方が少ない。]
130. 中島三夫: 根瘤線虫による暖地甜菜の一つの病徴と線虫の生態。農及園 35(8)

- 1329-1330. [被害と生活史。]
131. 中國和年・一戸 稔・武田和子：Rotylenchulus 属線虫によるゴボウの被害。応動昆大会講要 昭35: 17. [講要]
132. 新聞一郎・佐藤 隆・大沼 彪・板垣喜之助：大豆ネマトーダに関する研究：抵抗性品種及び薬剤防除について。東北農業研究 2: 101-102. [D-D、石灰窒素、ホリドール剤等による防除。大豆品種の収量試験。]
133. 西原夏樹：クローバーの病気とその見分け方：千葉県における調査から。農業技術 15(10) 446-450. [被害大の病気の一としてキタネコブ、サツマイモネコブセンチュウをあげる。]
134. 西沢 務：赤外線吸収スペクトルによる線虫同定の試み。応動昆大会講要 昭35: 18. [講要]
135. 西沢 務：線虫の顕微技術。In: 線虫研究指針。農林省振興局研究部、p.59-71. [プレパレート作製法、植物組織中の線虫の染色法、検鏡法。]
136. 野中福次：線虫心枯病罹病稲に対するジベレリン処理の影響。日植病報 25(5) 225. [講要。異常分蘗発生。]
137. 能勢和夫：新しい農薬の性質と使い方 [3]。農及園 36(6) 951-954. [殺線虫剤 (D-D、EDB、DBCP、ベーパーム) の物理性、対象害虫を含む。]
138. 落合盛吉・栗原 毅・大野勝滋：Meloidogyne sp. の初期発生。応動昆大会講要 昭35: 19. [講要]
139. 織田真吾：イネシンガレセンチュウの稲体における増殖様相判定について。北陸病虫研報 8: 118-120. [生育段階の違う稲に接種。草丈、茎数、籾内虫数を調査。]
140. 岡 英人：ヒックスの特性とその耕作法。葉たばこ研究 23: 5-12. [線虫病に中程度の抵抗性。]
141. 岡田正順：菊の栽培 [4]。農及園 35(4) 747-750. [ハガレセンチュウの伝播、防除 (ホリドール、マラソン、D-D、EDB) を含む。]
142. 岡田正順：菊の栽培 [8]。農及園 35(8) 1373-1376. [ハガレセンチュウによる病徴、防除を含む。]
143. 岡田富信：線虫の被害とその防除法。農及園 35(9) 1475-1478. [オカボシトセンチュウの被害、寄主植物、抵抗性品種、土壤水分・施肥と線虫寄生の関係。]
144. 岡田富信：水田中でネマトーダは死滅するか。農及園 35(11) 1824. [ネコブ、ネグサレ、シストセンチュウ。]
145. 岡田富信：土壤線虫防除後の施肥量の減らしかた。農及園 35(12) 1983. [線虫の作物生理に対する影響、殺線虫剤の施用効果にも言及。]
146. 大和田健治：昭和34年産を顧みて：水戸地方局。葉たばこ研究 21: 15-19. [線虫病の被害面積を含む。]
147. 小沢 博・戸部敬哉・陶山尚山：メチルプロマイドによる土壤燻蒸試験 (第4報) : 6. 土壤中のガスの消長について。7. 線虫に対する最低有効致死量の検定。神奈川農試園芸分場研報 8: 65-70. [薬剤の注入点からの距離とガス濃度、土壤中のガスの消長。処理5時間後において土壤中濃度が0.12%以上で線虫に効果。]
148. 三枝敏郎：線虫による畑作物の病徴とその防除。II. 線虫の防除法、とくにネコブ線虫について。農及園 35(2) 371-374. [輪作、抵抗性品種、種苗の温湯処理、薬剤施用。]
149. 三枝敏郎：線虫による被害の見分け方と防除。農業技術研究 14巻9: 33-37. [ネコブ、シスト、ネグサレセンチュウの被害の特徴。]
150. 三枝敏郎・松原芳久・松本安生：わが国輸入植物検疫における発見有害線虫につ

- いて、植物防疫 14(7) 309-312. [昭和33年1月から昭和34年12月の発見線虫。]
151. 三枝敏郎・松本安生：本邦未記録線虫 *Rotylenchulus reniformis* とその分布について。日植病報 25(1) 41. [講要。長崎、奈良、静岡、長野、千葉の各県から。]
152. 桜井 清・湯原 巖・稲垣春郎・浅井三男・井上 寿：ダイズシストセンチュウに対する殺線虫剤の防除効果。北日本病虫研報 11: 6-8. [D-D、EDB剤は有効。]
153. 桜井 清・湯原 巖・稲垣春郎・浅井三男：リンゴのネコブセンチュウに対する殺線虫剤の防除効果。北日本病虫研報 11: 148-149. [生態調査とD-D、EDB、DBC P剤施用試験。]
154. 鯨島徳造：大豆の主なる害虫とその防除。農及園 35(5) 807-810. [九州の害虫。ネグサレセンチュウの重要性を強調。]
155. 佐藤昭美・大森秀雄：昭和34年度岩手県における土壌線虫の検診結果。北日本病虫研報 11: 5-6. [キタネコブ、ダイズシスト、ネグサレ、ピン、ラセンセンチュウを検出。]
156. 佐藤末男：土壌検定と線虫防除の手引き。富士平工業株式会社、東京、138 pp. [線虫関係 p. 112-136。]
157. 重永知明：春蔬菜の病害虫防除のネライ：特に果菜類について。研農復刊 12(3) 75-81. [ネコブセンチュウ：3~4年イネ科作物を作る。苗床、本圃のクロロピクリン、ペーパムによる消毒。]
158. 重永知明・家入 章：人蔘ネコブセンチュウに対するVC-13およびネマセット剤の効果について。九病虫研会報 6: 43-45. [後者は播種直前処理で薬害。]
159. 島内満男：北海道における畑輪作の実態とその改善。農業改良 9: 83-93. [豆類のネマトーダを含む。]
160. 下川三男・牛山欽司：ネグサレセンチュウ (*Pratylenchus* sp.) の一種によるイチゴの黒色根腐について。神奈川農試園芸分場研報 8: 54-59. [線虫が侵入加害し、被害部に病原菌が二次的に感染。薬剤防除を含む。]
161. 下村休三郎・大内義久：種子島における主要害虫の種類と発生期について。九病虫研会報 6: 36-39. [甜菜にサツマイモネコブセンチュウ。]
162. 塩川隋寿・石井五郎・桑名寿一：桑のネコブセンチュウについて (3) 桑園における薬剤防除。蚕糸研究 34: 23-35. [DBC P剤施用。]
163. 白浜賢一：質疑応答。植物防疫 14(1) 32. [殺線虫剤による低温時の土壌消毒。]
164. 白浜賢一：今月の病害虫防除メモ (2月)。植物防疫 14(2) 83-85. [ネコブセンチュウ対策としてD-D、EDB、メチルプロマイドによる果菜類ハウス内の土壌消毒を含む。]
165. 白浜賢一：今月の病害虫防除メモ (3月)。植物防疫 14(3) 131-136. [春蔬菜、甘藍、茶、コンニャク、薬用人蔘の線虫防除を含む。]
166. 白浜賢一：今月の病害虫防除メモ (4月)。植物防疫 14(4) 169-176. [粃の温湯冷水浸法による稲線虫心枯病予防を含む。]
167. 白浜賢一：今月の病害虫防除メモ (5月)。植物防疫 14(5) 221-230. [ダイズシストセンチュウ防除を含む。]
168. 白浜賢一：今月の病害虫防除メモ (6月)。植物防疫 14(6) 269-276. [夏菊のハセンチュウ防除 (ホリドール、サッセン散布) を含む。]
169. 白浜賢一：今月の病害虫防除メモ (7月)。植物防疫 14(7) 315-321. [コカブ、白菜、大根のネコブセンチュウ防除を含む。]
170. 白浜賢一：今月の病害虫防除メモ (8月)。植物防疫 14(8) 363-369. [大根、白菜、甘藍、果菜類の苗床のネコブセンチュウ；秋菊のハセンチュウ防除を含む。]

171. 白浜賢一：今月の病害虫防除メモ（9月）。植物防疫 14(9) 409-413. [イネシンガレセンチュウ、ゴボウ・早熟エンドウのネコブセンチュウ、菊のハガレセンチュウ防除を含む。]
172. 白浜賢一：今月の病害虫防除メモ（10月）。植物防疫 14(10) 455-457. [ニンジン・ゴボウのネコブセンチュウ、イチゴのメセンチュウ防除を含む。]
173. 白浜賢一：今月の病害虫防除メモ（11月）。植物防疫 14(11) 506-508. [甘藷跡地のネコブ、ネグサレセンチュウ、桑のネコブセンチュウ対策を含む。]
174. 白浜賢一：今月の病害虫防除メモ（12月）。植物防疫 14(12) 551-553. [果菜類ハウス内の土壤消毒（ネコブセンチュウ対策）を含む。]
175. 杉 穎夫・後藤和夫・甲田知則・井上 平：最近におけるてん菜試験研究の展望：昭和34年度てん菜試験成績から I. 北海道・東北・東山編。農業技術 15(7) 297-301. [DBCP、D-D剤のいずれも葉害なし。防除時期は間引き時がよい。]
176. 杉 穎夫・後藤和夫・川田則雄・井上 平：最近におけるてん菜試験研究の展望：昭和34年度てん菜試験成績から II. 西南暖地編。農業技術 15(8) 337-343. [ネコブセンチュウにふれる。DBCP剤以外は葉害ほとんどなし。]
177. 鈴木当治・深沢永光：イチゴメセンチュウ（芽線虫）の産地被害、花芽加害、種類、伝播について。園芸学会昭35春期大会要旨：[講要。未見。]
178. 田部 真：土壤病害防除に関する研究 I. 栽培植物の種類が、土壤センチュウ類、細菌類及び菌類の周年消長に及ぼす影響について（予報）。北陸病虫研報 8: 98-100. [三者の相互関係は不明。]
179. 高木信一・近藤鶴彦：線虫の生態調査法。In: 線虫研究指針。農林省振興局研究部、p. 73-88. [圃場サンプリング法、計数法、被害の表示法、寄主調査法、線虫の飼育法、抵抗性検定法。]
180. 高野十吾：こんにやく腐敗病と線虫。今月の農薬 4巻5: 59-62. [症状、防除法、線虫との関係。]
181. 高野誠義・川田惣平・谷 芳明：コンニャクのネコブセンチュウと腐敗病との相互関係について。関東病虫研報 7: 67. [両者に密接な相互関係を推測。]
182. 高野誠義・織田一夫：殺線虫剤の各種作物に対する葉害試験 I. 小麦の低温処理（中間報告）。応動昆大会講要 昭35: 28. [講要]
183. 竹腰昭夫：線虫と林業用苗木の育成。農薬たより（東亜農薬）7巻: 5-6. [愛知県林家林木苗圃のマツ、ヒノキ、スギのネグサレセンチュウ被害甚の例の紹介。]
184. 竹樋忠雄：暖地におけるセロリー栽培。農及園 35(5) 833-837. [EDB剤によるネコブセンチュウ防除を含む。]
185. 田村 茂：暖地における子持甘藍の作りかた。農及園 35(7) 1147-1151. [「線虫のいる土地は予めネマヒューム等で消毒しておく」]
186. 田中一郎・桜井 清他14名：線虫類の分布並びに防除に関する討論会要旨。北日本病虫研報 11: 11-15. [東北・北海道における発生実態、防除、土壤病害との関係について討議。]
187. 田中 勇：移植後の土壤線虫の防除。葉たばこ研究 23: 94. [施肥、DBCP剤の葉害にふれる。]
188. 田中 勇：ネコブセンチュウの宿主による試験管培養について。応動昆大会講要 昭35: 19. [講要]
189. 田原虎次他：土壤薬剤注入機に関する基礎的研究：薬剤の土中移動に関する試験。共立農機報 36: 1-19. [未見]
190. 友永 富・杉本達美：球根類のネダニに対する殺線虫剤ネマゴンの応用。北陸病



- 虫研報 8: 116-118. [ラッキョに薬害。]
191. 塚田益夫・宮入芳明・吳羽好三：ニンジンのネコブセンチュウに対する殺線虫剤の施用法について。関東病虫研報 7: 70. [播溝処理より全面処理がよい。EDB 20 ℓ/10 a、DBCP (乳剤) 10 ℓ、D-D 20 ℓ 処理の順に高い効果。]
192. 上田浩二：昭和35年度の土壤線虫対策。農薬 7巻3: 6-10. [農林省の事業の解説。]
193. 梅田兼弘・山口国男・小川正和：土壤中のDBCP剤の微量定量法について。応動昆大会講要 昭35: 20. [講要]
194. 魚谷和彦：人尿に見出された尾久杆線虫の研究 (1) 培養条件の検討。寄生虫誌 9(3) 322-327. [*Rhabditis* sp. : 水と少量の薬用酵母を加えた培養法が好適。]
195. 魚谷和彦：人尿に見出された尾久杆線虫の研究 (2) 生物学的性状について。寄生虫誌 9(3) 328-335. [温度と発育、生存 (醤油、食塩水、酢、塩酸、胃液、尿)。]
196. 魚谷和彦：人尿に見出された尾久杆線虫の研究 (3) 実験動物に対する感染実験。寄生虫誌 9(3) 336-338. [マウスに経口的に摂食させると消化器、体腔から検出。体腔に注射すると消化器から検出。イヌには感染せず。]
197. 魚谷和彦：人尿に見出された尾久杆線虫の研究 (4) 各種薬剤により殺虫試験。寄生虫誌 9(3) 339-343. [駆虫剤に対する反応。]
198. 鷺尾貞夫・中川原 孝・豊川菊祐・小山内 清・赤平麓郎：青森県における土壤線虫の発生実態と今後の問題点。北日本病虫研報 11: 3-5. [ダイズシスト、キタネグサレ、キタネコブセンチュウ。]
199. 渡辺文吉郎：畑輪作と病害。農業改良 9: 44-48. [線虫を含む。]
200. 渡辺誠三：蔬菜栽培と営農。農及園 35(10) 1687-1690. [ピーマンの線虫防除にふれる。]
201. 渡辺敏夫：畑輪作と地力。農業改良 9: 53-62. [土壤肥科学から見た畑輪作。陸稲、ダイズ、ゴボウの連作障害の原因は線虫とする。]
202. 渡辺敏夫・安尾正元：陸稲の連作障害に関する研究 (1)。農業技術 15(3) 111-113. [症状、対策試験、原因究明試験結果を各地の試験場成績から引用。]
203. 渡辺敏夫・安尾正元：陸稲の連作障害に関する研究 (2)。農業技術 15(4) 154-158. [*Fusarium* 菌、シストセンチュウの接種試験結果。後者を主要因子とする。]
204. 山田隆保：麦根に寄生する線虫 *Pratylenchus* sp. に就て I. 喰入と温度の関係。応動昆大会講要 昭35: 20. [講要]
205. 山田隆保・西村良夫：ネグサレセンチュウ *Pratylenchus* sp. の室内接種法について。高峰研年報 12: 279-281. [接種方法の検討。5°Cでも寄主侵入、15°Cでは産卵。]
206. 山口福男：草苺に寄生する *Nothotylenchus acris* Thorne の兵庫県における発生。応動昆大会講要 昭35: 17. [講要]
207. 山口福男：草苺の線虫に関する研究 第1報 兵庫県における線虫の種類と被害状況について。中国農業研究 18: 58-61. [*Aphelenchoides fragariae*, *Nothotylenchus acris*. 植物防疫 15(6) 271, 1961に抄録。]
208. 山口福男：兵庫県に分布する土壤線虫の種類。応動昆中国支報 2: 2. [講要。19種を記録。]
209. 山口福男・牧 良忠：ネグサレセンチュウ (*Pratylenchus* sp.) に関する研究 第2報 ニンジンのネグサレセンチュウについて。兵庫農試研報 8: 1-4. [*P. penetrans* に似る。]
210. 山沢新吾：土壤消毒機の合理的な使い方：効果的なネマトーダの防ぎ方。農耕と園芸 15巻5: 23-25. [機械、施用法の説明。]

211. 大和茂八：「いちご」の育苗法. 農及園 35(7) 1136-1140. [芽線虫による病徴、防除（ホリドール）、抵抗性品種を含む。]
212. 山内己酉・藤井新太郎：暖地における甜菜の病害に関する研究 第1報 病害の種類. 日植病報 25(1) 12. [講要. 岡山県. キタ、サツマイモネコブセンチュウ。]
213. 谷中清八・滝田泰章・熊沢隆義：殺線虫剤の作用機構について（予報）. 関東病虫研報 7: 76. [ネコブセンチュウにD-D、EDB、DBCP剤処理。5日後にガス抜き。ムギに葉害なし。]
214. 安田 伸：蔬菜栽培と土壌線虫防除について. 植物防疫 14(3) 129. [千葉権山武郡土気町における土壌線虫パイロット防除の状況。]
215. 安村作郎：根コブ線虫の寄生に対する桑根組織の反応（I）巨大細胞の形成について. 日蚕関西講要 22: 27. [講要]
216. 安尾正元：陸稲の連作障害の防ぎ方. 今月の農薬 4巻6: 35-39. [シストセンチュウの被害、防除（D-D、クロロピクリン剤施用、輪作）。]
217. 横川 定・森下 薫・横川宗雄：人体寄生虫学提要 改定第7版. 杏林書院、東京、2+10+466 pp. [「人体に検出される自活性又は植物寄生性線虫類」 p. 154-155. Diplogaster lirata, Diploscapter coronata, Rhabditis pellicio, R. hominis, R. niellyi, R. donbass, R. schachtliella, R. gracilis, R. foecalis, R. usuii, Rhabditella acei, Turbatrix aceti, Heterodera marioni (ネコブセンチュウ), Anguillulina putrefaciens (ナミクキセンチュウ)。]
218. 横尾多美男：Meloidogyne incognita acritaの第2期幼虫の尾部のくびれについて. 佐賀大農彙 10: 121-123. [種内変異を検討。]
219. 横尾多美男：線虫の分類と主要種属の解説. In: 線虫研究指針. 農林省振興局研究部、p. 17-35. [植物寄生性線虫の特徴。主要属の解説。種名リスト。]
220. 横尾多美男・阿部恭洋：サツマイモネコブセンチュウの生活史. 九病虫研会報 6: 106. [講要]
221. 横尾多美男・行徳 昊：On the dumping off of the seedlings of the sugar beet caused by the root-knot nematode, Meloidogyne incognita acrita. 佐賀大農彙 11: 65-74. [線虫接種数とテンサイの生育の関係をポットで試験。]
222. 横尾多美男・松延浩気・太田洋子：On the variations of dimensions within soil nematodes II. Dimensions of the suspected plant parasitic nematode, Aphelenchus avenae, and the bud or leaf nematode, Aphelenchoides fragariae. 佐賀大農彙 10: 125-136. [ニセネグサレセンチュウ・イチゴセンチュウの形態計測値の種内変異を検討。]
223. 湯原 巖・稲垣春郎：数種線虫の冬期における検出. 北農 27巻11: 8-9. [ダイズシストセンチュウ、キタネコブセンチュウ、ピンセンチュウ。]
224. 湯原 巖・稲垣春郎：ダイズシストセンチュウに対するダイズ品種の抵抗性. 北日本病虫研報 11: 93-95. [Kingwa弱、Ilsoy 強、PI84751, PI90763極強。]
225. 湯原 巖・稲垣春郎：北海道において発見された2、3の土壌線虫. 応動昆大会講要 昭35: 17. [講要]
226. 湯原 巖・山田英一：キクハガレセンチュウの高温並びに低温に対する抵抗性. 北日本病虫研報 11: 95-96. [裸虫は乾葉内虫より弱い。]
227. Anon. (明治大学)：大豆萎黄病に対する抵抗性品種間差異に関する試験. 明大農富士吉田農場特報 2: 4-8. [13品種の比較。]
228. Anon. (農林省振興局研究部編)：線虫研究指針. 農林省振興局研究部、東京、1+2+110 pp. [No. 60-29, 73, 74, 76, 99, 135, 179, 219を参照。]

229. Anon. (東京都建設局公園緑地部) : 合衆国首都ワシントンの桜. 東京都、東京、1+88 pp., 2 Pls., 1 map. [寄贈50周年記念誌. 第1回送付苗(明治42年、1909年)かCobb等の言により焼却処分にされた経緯につき当時の公文書、新聞記事等を引用 p.37-50. 翌年の第2回送付苗準備の項にもネマトーダの記事 p. 50-58.]
230. Anon. (大阪府林務課) : 苗畑に「根ぐされ線虫」の被害発生. 森林防疫ニュース 9(6) 139. [ぶどう畑跡地のスギ.]

昭和36年 (1961)

1. 青柳寅雄 : コンニャクの種薯と土壤消毒. 今月の農業 5巻5: 84-87. [EDB、DBCP剤によるネコブセンチュウ防除.]
2. 知久武彦・今村昭二 : ヤマゴボウ黒痣病について(第2報). 日植病報 26(2) 58. [講要. 線虫が原因でない.]
3. 千代西尾伊彦・中原 守・奥山善雄 : ネコブセンチュウの駆除効果及び施肥量がダイコンの収量構成因子に及ぼす影響について. 中国農業研究 19: 53-55. [EDB処理の効果大. 植物防疫 15(10) 463-464, 1961に抄録.]
4. 土橋貞夫・国井喜章 : 殺線虫剤の実験室内における2、3の検定法. 関東病虫研報 8 : 72. [D-DとRhabditoides sp.を供試.]
5. 家入 章 : 土壤線虫検診について. 研農復刊 13(1/2) 391-394. [植物・土壤検診、線虫分離法の説明.]
6. 遠藤昭二・川島嘉内・堀 呈治 : 福島県におけるオカボシストセンチュウ (*Heterodera* sp.) の分布について. 北日本病虫研報 12: 9-10. [郡山以南の4郡に分布. 連作障害が見られる.]
7. 藤本啓一・横山昭一・松本清蔵 : 殺線虫剤に関する研究 第2報 環境温度、土壤の種類がD-D、EDBの殺線虫力に及ぼす影響について. 応動昆大会講要 昭36: 21. [講要]
8. 藤本義則 : 線虫防除へ胎動する開拓地高光をたずねて : 土壤調査より. 土壤改良 10巻6: 23-26. [愛媛県. 線虫被害と防除実施状況.]
9. 藤村俊彦 : 果樹に対する殺線虫剤の使い方 : ブドウ. 植物防疫 15(3) 109. [サツマイモネコブセンチュウによる被害. DBCP剤の使用法、効果、使用上の注意.]
10. 藤村俊彦 : 粘質土壤における殺線虫剤の使い方. 農業 8巻4: 24-27. [D-D、EDB剤.]
11. 藤沢博信 : 殺線虫剤とその使用上の問題点 5. 動力土壤消毒機の利用について (1) 液剤用動力消毒機による殺線虫剤施用上の問題点. 応動昆5回シンポジウム記録 : 48-51. [講要. D-D、EDB剤を用い、土壤消毒機の機種(前向爪、後向爪)、整地の有無、土性の違いによる効果の差を検討.]
12. 藤沢博信・中沢嘉富・勝野和人・呉羽好三・関谷一郎・早河広美・鈴木照磨・村井敏信 : 動力土壤消毒機による線虫防除は耕運前がよい. 長野農試時報 44巻11: 9-13. [D-D、EDB剤によるネコブセンチュウ防除.]
13. 深沢永光・中田正彦・小林義明 : 水稻に寄生する *Radopholus* 属線虫について. 応動昆大会講要 昭36: 17. [講要]
14. 福井重郎 : 関東東山における大豆作の現状と将来 : わが国における大豆作の現状と将来 2. 農業技術 16(2) 68-71. [害虫の項でダイズ線虫の重要性にふれる.]
15. 福本日陽 : ヒラナス×ナス雑種4倍体F2における形質の分離. 育雑 11(3) 233-

234. [講要。根線虫抵抗性をもつ。]
16. 福永一夫・海野景正・熊野義夫等：[座談会] アメリカの農薬とその研究事情，農薬 8巻2: 62-71. [殺線虫剤にふれる。殺線虫剤の最後のねらいは地上部散布。]
17. 五味美知男：稲出穂期のシガラセンチュウの防除，今月の農薬 5巻10: 9-12. [ホリドール剤散布。]
18. 後藤 昭：殺線虫剤とその施用上の問題点 4. ネグサレセンチュウ防除の事例，応動昆5回シンボ記録: 46-48. [講要。D-D、EDB、DBCP剤の効果の比較。]
19. 後藤 昭：ネグサレセンチュウの防除法，農業技術 16(7) 316-320. [薬剤 (D-D、EDB、テロン、ドーロン、クロルピクリン)、耕種的防除法 (早掘り、抵抗性品種利用、輪作)。]
20. 後藤 昭：ネグサレセンチュウに関する調査成績，昭和35年度主要植物寄生性土壌線虫に関する研究成績概要 (日本植物防疫協会) : 53-64. [譯写。日本産種類の形態及び寄生性。]
21. 後藤 昭・大島康臣：九州の線虫相より (1)，九病虫研会報 7: 80-81. [*Pratylenchus coffeae* (九州一円)、*P. vulnus* (熊本)、*P. zaeae* (陸稻) を記録。]
22. 後藤重喜：甜菜に寄生する線虫の生態と防除上の問題点，九州農業研究 23: 97-99. [ネコブ、ネグサレセンチュウの寄主、発生消長、輪作・薬剤 (D-D、EDB、DBCP剤) による防除。]
23. 後藤重喜・川越 仁・岩橋哲彦：胡瓜の生育中におけるネコブ線虫の薬剤防除について，九州農業研究 23: 223-224. [DBCP剤の生育中処理は効果あり。]
24. 後藤重喜・長友ミチ：サツマイモのネグサレセンチュウに関する研究 VIII 落花生の栽培と線虫密度の低下，応動昆大会講要 昭36: 19. [講要]
25. 浜口 頴：パイロット防除の体験：三重県におけるダイコンの線虫防除，植物防疫 15(3) 129-130. [実施状況及び農家の反応。]
26. 長谷川邦一・小野琢志・上原久八郎：輸出農産物と病害虫，植物防疫 15(11) 503-506. [ボタン、グラジオラスのネコブセンチュウにふれる。]
27. 橋本平一：福岡県下の林業苗畑における植物寄生性線虫類について，森林防疫ニュース 10(4) 76-79. [スギ・ヒノキからサツマイモネコブ、ネグサレ、イシユク、ユミハリ、ハセンチュウ等を検出。]
28. 橋本 保・津軽承捷：テンサイ立枯病の発生と線虫との関係，北日本病虫研報 12: 14-16. [キタネコブセンチュウ、クルミネグサレセンチュウと *Pellicularia* 菌の混合接種は、後者単独より発病多。]
29. 引地直至：福島県北部におけるモモ・リンゴの土壌線虫による被害の実態調査，北日本病虫研報 12: 106-107. [モモから *Meloidogyne arenaria*, *M. incognita acrita*, *Pratylenchus vulnus* を検出。]
30. 引地直至：モモ樹に寄生せるネコブセンチュウの調査結果について，北日本病虫研報 12: 107-110. [アレナリアネコブセンチュウによる細根の被害を、線虫の水平・垂直分布の面から調査。]
31. 引地直至：落葉果樹に寄生する線虫とその防除，落葉果樹 15巻9: 24-27. [桃、リンゴ、梨、桜桃からの検出線虫と被害。]
32. 引地直至：落葉果樹に寄生する線虫とその防除，落葉果樹 15巻10: 16-19. [DBCP剤による防除。]
33. 平野和弥：ネコブセンチュウ卵の土壌からの採卵法に関する研究 第1報 アンチホルミン溶液による卵のうの崩壊能力について，日植病報 26(5) 241. [講要]
34. 広瀬健吉・伊藤喜隆：果樹に対する殺線虫剤の使い方：リンゴ，植物防疫 15(3)

- 106-107. [ネコブセンチュウによる被害、防除薬剤及びその使用法。]
35. 堀 呈治・川島嘉内：Radopholus sp.の分布と寄生性について。北日本病虫研報 12: 10. [線虫密度は湿田、半湿田、乾田の順に多。ヒユ、スゲ、コナギは好適寄主。]
36. 星野三男・谷中清八・滝田泰章・尾田啓一：陸稲シストセンチュウの防除について。関東病虫研報 8: 74. [D-D、EDB施用で線虫密度は低下、収量は増加せず。]
37. 市原伊助：輪作による落花生のキタネコブセンチュウ生息密度の変化と被害について。関東病虫研報 8: 73. [陸稲、甘藷の組合わせ。]
38. 一戸 稔：Studies on the soybean cyst nematode, Heterodera glycines. 北海道農試報 50: 1-80, 7 pls. [分布、研究史、形態、分類、発育、寄生性、被害解析、輪作、抵抗性品種、防除（耕種的、薬剤等）、植物防疫 16, 170, 1962に抄録。]
39. 一戸 稔：殺線虫剤とその施用上の問題点 1. 問題の概要、応動昆5回シンポジウム記録: 39-41. [講要。殺線虫剤の種類、土壌条件・施用法と効果、効果の持続期間等。]
40. 一戸 稔：線虫の種類による殺線虫剤の使い分け。植物防疫 15(3) 100-102. [D-D、EDB、DBCP剤の効果の特性、対象線虫等を解説。]
41. 一戸 稔：わが国に確認されている植物寄生性線虫。農業技術 16(7) 320. [属名のリスト。]
42. 一戸 稔：畑作農業の発展とネマトダの諸問題。農業技術 16(10) 454-457. [線虫学とその生い立ち、線虫の種類と問題点、被害の診断、わが国の線虫被害の実態。]
43. 一戸 稔：畑作農業の発展とネマトダの諸問題（2）。農業技術 16(11) 509-512. [被害の実態（続き）、線虫と他の病害とのコンプレックス、防除の問題点。]
44. 一戸 稔：ネグサレセンチュウ (Pratylenchus) の種類、生態およびその防除。In: 線虫とその防除（其の2）。シェル石油株式会社農薬部、東京、p. 51-65, 2 pls. [研究史、形態、分類、我国の種類、生態（含被害、病徴）、防除（耕種的、化学的）。]
45. 一戸 稔：植物寄生性線虫日本文献目録。日本植物防疫協会、東京、64 pp. [啓写。1960年以前の文献。収録数 786。配列は著者のアルファベット順。]
46. 一戸 稔：Bibliography of Phytonematology. 日本植物防疫協会、東京、9+198 pp. [1960年以前の日本及び外国の植物寄生性線虫関係の論文3186を収録した文献目録。配列は主に線虫の学名のアルファベット順。]
47. 一戸 稔：水稻の線虫。今月の農薬 5巻4: 76-78. [イネネモグリセンチュウの解説。]
48. 一戸 稔：種類の多くなったネグサレセンチュウ。今月の農薬 5巻11: 86-89. [新たに発見された種類の解説。]
49. 一戸 稔・国井喜章・白浜賢一・石倉秀次：土壌線虫対談。今月の農薬 5巻1: 49-62. [研究、防除技術の現状。]
50. 一戸 稔・中園和年：北海道から発見されたPratylenchoides 属線虫について。応動昆大会講要 昭36: 18. [講要]
51. 飯島 鼎：土壌線虫防除上の諸問題。In: 線虫とその防除（其の2）。シェル石油株式会社農薬部、東京、p. 1-7. [殺線虫剤の価格、畑地検診の早急な実施、耕種的防除法と土壌消毒法との関連、土壌消毒技術の改善、土壌消毒と耕種技術の改善、果樹等の土壌線虫の被害と防除、その他。]
52. 今井正信：土壌消毒機の種類と使用上の問題点。植物防疫 15(3) 122-126, 1 pl. [種類、構造、性能、作業精度ならびに能率、耐久性。]
53. 今井正信・武長 孝・平田孝三・藤木徹夫：共立土壌消毒機の作業性能並びに機構に関する試験。共立農機報 41: [未見]
54. 稻賀 恒：殺線虫剤とその施用上の問題点 5. 動力土壌消毒機の利用について

- (3) 米国の土壤消毒機をみる。応動昆5回シンポジウム記録: 52-54。[講要及び討論要旨。トラクター牽引型の紹介。]
55. 稲垣春郎・湯原 巖: アマに対する *Rhizoctonia* と *Pratylenchus* の混合感染。北日本病虫研報 12: 12-13。[混合接種により立枯、リゾクトニア病罹病ともに増加。]
56. 井上 寿: ダイズシストセンチュウに関する調査 第12報 野生の寄主植物について。北日本病虫研報 12: 99-100。[ヤブマメを追加。]
57. 井上 寿: ダイズシストセンチュウに関する調査 第13報 窒素肥料の用量と作物の生育および線虫の発生との関係。北日本病虫研報 12: 100-102。[施肥多い程シスト数多。]
58. 井上 寿: クローバーのシストセンチュウについて (予報)。北日本病虫研報 12: 105-106。[帯広市の赤クローバーで発見。白クローバー、ハコベ、ギシギシでも確認。]
59. 井上忠彦・金森正剛: 数種殺虫剤の土壤施用がイチゴのメセンチュウに及ぼす影響。応動昆大会講要 昭36: 21。[講要]
60. 井上義孝・筒井喜代治: 伊勢湾台風による長期潮流水地帯跡の病害虫発生様相について。関西病虫研報 3: 1-5。[20~40日海水冠水下の畑地でもネコブセンチュウ生存。]
61. 井上 徹・伊藤春男: 春季の土壤燻蒸処理における1、2の考察。北日本病虫研報 12: 162。[D-D、EDB剤ともにガス抜き期間は2週間でよい。]
62. 石橋信義・気賀沢和男・国井喜章: ネコブセンチュウの産卵について III. 雌成虫と卵のう。応動昆大会講要 昭36: 20。[講要]
63. 石橋信義・国井喜章・千代西尾伊彦: ネコブセンチュウの産卵について II. *in vitro* 産卵の傾向とそれを支配する二、三の条件。応動昆大会講要 昭36: 20。[講要]
64. 石川正示: ダイズシスト線虫抵抗性品種の育成。育種 11(3) 231-232。[講要]
65. 石倉秀次: 植物防疫事業の指向点。植物防疫 15(1) 1-4。[線虫検診事業、パイロット防除の進捗状況を含む。「殺線虫剤による防除は昭和34年には5,000ha と増加し、殺線虫剤の価格も使用量の増加と供給の増加によって当初の予想よりも早く低下」]
66. 石倉秀次: 植物防疫の問題点。植物防疫 15(11) 479-482。[種苗検疫の中に線虫を含む。]
67. 石沢修一: 農薬の施用と土壤微生物。土と微生物 2: 9-13。[EDB剤施用によって放線菌抑制、細菌、糸状菌は増加。]
68. 伊藤富士雄: 殺線虫剤の動向。植物防疫 15(3) 127。[D-D、EDB、DBCP、カーバム剤、臭化メチル、クロルピクリンの国内での供給態勢及び数量。]
69. 伊藤勝男: ダイズに対するネコブ線虫の寄生性についての一検索。応動昆大会講要 昭36: 19-20。[講要]
70. 伊藤喜隆: 果樹のネコブセンチュウの生態と防除。農及園 36(8) 1309-1312。[線虫の種類、生態と被害症状、防除 (D-D、EDB、DBCP、クロルピクリン剤)。]
71. 伊藤喜隆: 果樹の線虫と防除 (主としてネコブセンチュウについて)。In: 線虫とその防除 (其の2)。シエル石油株式会社農薬部、東京、p. 93-111。[線虫相、生態 (発生経過、垂直分布、移動・伝播、寄主選択性、症状と被害、発生地の要因)、防除 (抵抗性台木の利用、植付前の検診、薬剤防除) 等。]
72. 伊藤喜隆: 主要植物寄生性土壤線虫に関する研究。昭和35年度主要植物寄生性土壤線虫に関する研究成績概要 (日本植物防疫協会): 32-45。[謄写。リンゴ及び蔬菜のネコブセンチュウの生態と防除法。]
73. 伊藤喜隆: DBCP剤の特性と使い方。今月の農薬 5巻4: 36-40。[効果、薬害、使用法。]
74. 伊藤喜隆: 線虫防除は天地返しか薬剤か。今月の農薬 5巻9: 12-15。[殺線虫剤施

- 用前の天地返しは薬剤の防除効果を低下させる。]
75. 伊藤喜隆, 広瀬健吉: ネコブセンチュウの越冬形態について, 関東病虫研報 8:66. [リンゴの根(ゴール)では卵、幼虫、成虫。土中では卵、幼虫。]
76. 伊藤喜隆, 広瀬健吉: リンゴ園におけるネコブセンチュウの分布について, 応動昆大会講要 昭36: 19. [講要]
77. 岩本哲夫: パイロット防除の体験: ダイズシストセンチュウの防除に思う, 植物防疫 15(3) 128-129. [北海道十勝地方における実施状況及び反省。]
78. 弥富喜三: 殺線虫剤の概況, 植物防疫 15(3) 97-99. [ハロゲン化炭化水素、有機燐剤、その他の殺線虫剤を解説。]
79. 弥富喜三: 土壤消毒剤の新施用法, 今月の農薬 5巻4: 60-64. [標準薬量、二重処理法、薬害とDBCP、錠剤と粒剤、薬剤の混合。]
80. 弥富喜三・西沢 務: 主要植物寄生性土壤線虫に関する研究, 昭和35年度主要植物寄生性土壤線虫に関する研究成績概要(日本植物防疫協会): 5-16. [謄写。ベルマン法による線虫分離条件、防除法の検討。]
81. 和泉清久: 殺線虫剤の効果に影響する土壤の諸因子, 植物防疫 15(3) 116-118. [土壤の空隙量、最大容水量、土性、有機物含量、鎮圧、圧封、地温とD-D、EDB、DBCP剤の効果。]
82. 和泉清久: 土壤線虫防除の諸問題, 農及園 36(11) 1795-1798. [殺線虫剤施用の経済性、DBCP剤処理不成功例の解析、地温と効果、線虫の種類と防除効果。]
83. 和泉清久・近岡一郎: 殺線虫剤の土壤中における減少過程と土壤の理学的性質について, 応動昆大会講要 昭36: 22. [講要]
84. 鍋木外岐雄: 総括, 昭和35年度主要植物寄生性土壤線虫に関する研究成績概要(日本植物防疫協会): 53-64. [謄写]
85. 金沢 純・越中俊夫・佐藤六郎: 殺線虫剤EDBのガスクロマトグラフィー, 農薬生産技術 5: 15-18. [抽出および分析方法。]
86. 金沢 純・佐藤六郎: イオン交換クロマトグラフィーによるDBCP中の塩素と臭素の分離定量, 農薬生産技術 4: 42-43. [試薬、装置、方法。]
87. 金子 武: 茶の線虫とその対策, 今月の農薬 5巻11: 82-86. [サヤワ、ネグサレセンチュウの被害と防除法。]
88. 勝元久衛・川瀬英爾: 殺線虫剤の効果について 第3報 ネマゴン粒剤の施用量と施用深度, 北陸病虫研報 9: 94-95. [ニンジンのネコブセンチュウに対し20%粒剤を3.3 m<sup>2</sup>当たり60 gを深さ24cmへ施用が効果的。]
89. 桂 瑠一: 土壤線虫と病原体との関連による病害の病理学的治病的的研究, 昭和35年度主要植物寄生性土壤線虫に関する研究成績概要(日本植物防疫協会): 17-24. [謄写。殺線虫剤施用し、病害を軽減又は増加させた事例。ネコブセンチュウに誘発される大根黒腐病。殺線虫剤の殺菌力。水稻の根ぐされ現象。]
90. 河合一郎: 西瓜の新病害青枯病について, 農及園 36(6) 1011-1014. [ネコブセンチュウ寄生との関係を含む。]
91. 川俣 稔・築島安宏・佐藤虎雄: 畑作物の連、輪作に関する研究 第1報 主要畑作物の一・二毛連作が生育、収量並びに二・三の土壤理化学性に及ぼす影響について, In: 畑作物の連、輪作に関する研究, 農林省振興局研究部・鹿児島県農業試験場, p. 1-30. [陸稲、甘藷、落花生、粟、大豆、蕎麦、小麦、ルーピン、菜種を扱う。陸稲の試験考察の中で線虫に言及。]
92. 河村貞之助: 殺線虫剤と土壤微生物, 植物防疫 15(3) 119-121. [殺線虫剤の土壤病原菌・害虫への影響、線虫の天敵(捕食菌・細菌)を解説。]

93. 河村貞之助：植物寄生性線虫に関する研究 (III) . 昭和35年度主要植物寄生性土壤線虫に関する研究成績概要 (日本植物防疫協会) : 1-46 [謄写。モモのネコブセンチュウのサンプリング、線虫の生死判別法、殺線虫剤の土壤中での拡散、薬剤の室内及びポット試験法。]
94. 河村貞之助：草花の病害虫防除と農薬の選び方、農薬 8巻1: 63-67. [葉枯線虫にはホリドール、メタシストックス、サッセンを散布。]
95. 河村貞之助・平野和弥：ツクネイモとキタネコブセンチュウとの生活干涉、日植病報 26(1) 7-15. [線虫の侵入、感染、根瘤形成、越冬。]
96. 瓦井 豊・加藤 昭：栃木県の平坦地におけるトマトの抑制栽培、農及園 36(5) 841-846. [ネコブセンチュウ対策「茄科作物を3年間位作ったことのない畑を選ぶ」]
97. 川崎倫一：植物防疫所における調査研究、植物防疫 15(1) 510-512. [ネコブセンチュウの温湯防除とグラシオラス球根への応用を含む。]
98. 川島嘉内：土壤条件と線虫寄生との関係 1. 土壤の種類とネコブセンチュウの寄生について、北日本病虫研報 12: 95. [寄生・生息多いのは砂壤土、腐植に富む植土。]
99. 川島嘉内：土壤条件と線虫寄生との関係 2. 土壤粒子の大きさとネコブセンチュウの寄生について、北日本病虫研報 12: 95-96. [砂の粒子40~82メッシュで寄生、ゴール顕著。]
100. 川島嘉内・堀 呈治：コンニャクにおけるネコブセンチュウの被害と腐敗病発生との関係、北日本病虫研報 12: 13-14. [D-D、EDB剤処理による線虫密度低下により腐敗病発生著しく減少。]
101. 川島嘉内・堀 呈治：Radopholus sp.の寄生数とEh6との関係について (予報)、応動昆大会講要 昭36: 18. [講要]
102. 気賀沢和男・石橋信義・国井喜章：殺線虫剤の注入点からの効果範囲、北陸病虫研報 9: 92-94. [深さ15、20cmの注入点から10cm以内でサツマイモネコブセンチュウの寄生指数顕著に減少。]
103. 気賀沢和男・国井喜章：ネコブセンチュウの密度分布、応動昆大会講要 昭36: 20. [講要]
104. 木村 宏・高倉重義：キタネコブセンチュウの防除に関する研究 第2報 テンサイの前後作の種類とキタネコブセンチュウの密度、北日本病虫研報 12: 102-103. [春小麦で減少。ハッカ、豆類、クローバー、バレイショ、タバコで増加。]
105. 小林和男・室賀隼三郎・大槻 昭・呉羽好三：DBCP剤による桑のネコブセンチュウ防除、関東病虫研報 8: 68. [80%乳剤1000倍液 600ℓ/a処理により桑葉で2倍の増収。]
106. 小宮書之助・工藤 馨：小豆萎黄病防除に関する研究 (予報)、明大農研報 12: 27-29. [D-D剤施用、輪作。]
107. 小宮書之助・工藤 馨：大豆萎黄病防除に関する研究 (1) 大豆萎黄病抵抗性の品種間差異、明大農研報 12: 31-36. [ゲデンシラス、岩手ヤギ1号、ウゴグイズ、陽月1号、岩手2号は抵抗性強。]
108. 小宮書之助・工藤 馨：大豆萎黄病防除に関する研究 (2) D-Dによる薬剤防除試験、明大農研報 12: 37-41. [薬剤施用により50~30%増収。]
109. 小宮書之助・中沢文男：富士吉田周辺地区における小豆萎黄病実態調査 (2)、明大農研報 12: 47-50. [調査した全地区で発生。]
110. 近藤源吉：畑作における作付改善方法、農及園 36(5) 47-50. [連輪作と収量。陸稲、粟、トウモロコシ、甘藷、エンドウ他。落花生の線虫害を含む。]
111. 近藤鶴彦：植物寄生性土壤線虫に関する研究成績概要、昭和35年度主要植物寄生



- 性土壤線虫に関する研究成績概要 (日本植物防疫協会) : 53-64. [謄写。ネコブセンチュウの類別。]
- 1 1 2. 高野光之丞 : 果樹に対する殺線虫剤の使い方 : 苗木. 植物防疫 15(3) 111. [ネコブセンチュウ (イチジク、モモ、リンゴ、ブドウ)、ミカンネセンチュウ。]
- 1 1 3. 高野光之丞・石川元一 : ネコブセンチュウに対する殺線虫剤の効果について(2). 関東病虫研報 8: 67. [ヤマトイモのD-D剤36ℓ/10 a 処理効果は2年間のみ。]
- 1 1 4. 古山 清・中村広明 : 線虫の培養. 応動昆 5(1) 76-77. [講要。自由生活、植物寄生性線虫の培養方法。]
- 1 1 5. 工藤三郎 : 岩手県におけるネコブセンチュウおよびダイズシストセンチュウの発生について. 北日本病虫研報 12: 7. [75,000haの80%にキタネコブセンチュウを確認。ダイズシストセンチュウは全県下に分布。]
- 1 1 6. 国井喜章 : 土壤線虫の生態と防除. 北日本病虫研報 12: 1-3. [講要。土壤線虫と農業、わが国の主要な土壤線虫、土壤線虫の生態・防除。]
- 1 1 7. 国井喜章 : 殺線虫剤とその施用上の問題点 2. ネコブセンチュウを中心とした薬剤防除. 応動昆5回シンポ記録 : 41-43. [講要。問題点、今後の研究方向を指摘。]
- 1 1 8. 国井喜章 : ネコブセンチュウ. In: 線虫とその防除 (其の2), シェル石油株式会社農薬部、東京、p.33-49. [研究史、分類、同定法、生活史、生理 (産卵、孵化)、加害、分布、防除 (薬剤、耕種的手段)。]
- 1 1 9. 国井喜章 : 今年の農薬 : 殺線虫剤. 今月の農薬, 5巻2: 35-37. [D-D、EDB、DBCP、メチルプロマイドの使用方法。]
- 1 2 0. 国井喜章 : 夏期における殺線虫剤使用上の注意. 今月の農薬 5巻8: 102-105. [D-D、EDB、DBCP剤使用上の注意。]
- 1 2 1. 国井喜章 : 殺線虫剤拡散条件. 今月の農薬 5巻10: 101-104. [地温、耕起との関係。]
- 1 2 2. 国井喜章・石橋信義・気賀沢和男 : ネコブセンチュウの産卵について I. in vitro 産卵. 応動昆大会講要 昭36: 20. [講要]
- 1 2 3. 蔵納久男 : 柑橘根線虫の標本抽出について. 関西病虫研報 3: 69. [講要。温州みかんの場合 10gずつ10ヵ所から根を採取。]
- 1 2 4. 蔵納久男 : 柑橘線虫に対する殺線虫剤の効果. 静岡柑橘試報 昭35: 49-50. [DBCP剤施用の効果。]
- 1 2 5. 蔵納久男 : 柑橘線虫の苗木寄生に関する調査. 静岡柑橘試報 昭35: 50-51. [土壌、樹令と植物寄生線虫数の関係。]
- 1 2 6. 呉羽好三 : 検診によって発生の確認された数種植物寄生性線虫について. 応動昆大会講要 昭36: 17. [講要]
- 1 2 7. 呉羽好三 : 殺線虫剤とその施用上の問題点 5. 動力土壤消毒機の利用について (2) 殺線虫剤施用時の畑状態と防除効果. 応動昆5回シンポ記録 : 51-52. [講要。D-D、EDB剤の効果と耕起、土性との関係等。]
- 1 2 8. 呉羽好三・早河広美・関谷一郎 : ダイズシストセンチュウの被害防除について. 長野農試時報 44巻5: 20-26. [未見]
- 1 2 9. 黒崎正美 : 畑作営農の改善 [3], 農及園 36(3) 597-600. [大豆の線虫対策 (堆肥多用、抵抗性利用等) を含む。]
- 1 3 0. 黒崎正美 : 畑作営農の改善 [1 2], 農及園 36(12) 2011-2014. [著者の回顧録。線虫問題を含む。]
- 1 3 1. 桑名寿一 : 特用作物などに対する殺線虫剤の使い方 : クワ. 植物防疫 15(3) 112-113. [寄生線虫、ネコブセンチュウによる被害及び殺線虫剤の使用法、効果。]

132. 牧 良忠・山下優勝：果樹に対する殺線虫剤の使い方：イチジク、植物防疫 15 (3) 110. [ネコブセンチュウに対するDPCP剤の防除効果。]
133. 松田礼治郎・斉藤 広：DBCP剤で土壤線虫防除処理を行なった桑葉の蚕に対する葉害。日蚕東北講要 15: 24-25. [講要。未見。]
134. 松本清蔵・藤本啓一・横山昭一：殺線虫剤に関する研究 第1報 DD構成成分の物理化学的性質と殺線虫力について。応動昆大会講要 昭36: 21. [講要]
135. 南 芳雄・大塚幹夫：殺線虫剤によるキュウリの増収効果に関する試験。九州農業研究 23: 220-221. [D-D剤約20ℓ/10aはEDB剤30ℓ施用より増収効果大。]
136. 三浦 脩：最近我が国で明らかとなった植物寄生性線虫について。大阪農業 126: 1-6. [14属の線虫の解説。]
137. 宮川経邦：果樹に対する殺線虫剤の使い方。農及園 36(12) 1955-1958. [リング、ミカン、ブドウ、イチジクの線虫被害。D-D、DBCP剤の施用法とその効果。]
138. 宮本雄一：木酢液の土壤消毒剤としての効果。農及園 36(10) 1637-1640. [線虫関係はNo. 55-45を引用。]
139. 森元幹雄：タバコ立枯病とクロールピクリン防除の効果について。葉たばこ研究 27: 82-89. [線虫との関係にふれる。]
140. 森田 儔：花卉病害の問題点と防除法：静岡県を中心として。農業技術 16(2) 558-562. [キクの葉枯線虫防除（パラチオン散布）を含む。]
141. 森田 儔：土壤消毒のいろいろ。農業技術研究 15巻10: グラビア(3 pls.). [焼土機、手動式土壤消毒機の種類および使用法。]
142. 本橋精一：[質疑応答] 答。植物防疫 15(3) 115. [早春における殺線虫剤の使用法。]
143. 本橋精一・永沢 実・河合省三：低温時における殺線虫剤の使い方。農薬 8巻1: 50-54. [D-D、EDB、DBCP剤施用上の注意。]
144. 室賀弥三郎：桑のネコブ線虫の防除法。今月の農薬 5巻9: 91-94. [症状、DBCP剤の施用法。]
145. 永井芳雄・中園 昭：窒素質肥料の硝酸化成進行速度並びに土壤消毒剤DDの硝酸化成に及ぼす影響について。九州農業研究 23: 241-242. [塩安、硫安、尿素の類に硝酸化成速度が遅い。]
146. 永沢 実：[質疑応答] 答。植物防疫 15(10) 438. [線虫の伝播について。]
147. 永沢 実・阿久津喜作：ネコブセンチュウの雑草越冬について。応動昆大会講要 昭36: 19. [講要]
148. 永沢 実・阿久津喜作：ネコブセンチュウの雑草越冬について。東京農試特報 17: 70-73. [謄写。寄主植物の検索。線虫の越冬ステージ。]
149. 永沢 実・河合省三：ネグサレセンチュウ (*Pratylenchus penetrans* group) の垂直分布について。応動昆大会講要 昭36: 19. [講要]
150. 永沢 実・河合省三・本橋精一：低温時に殺線虫剤で処理した場合のガス抜きの深さと葉害。応動昆大会講要 昭36: 21-22. [講要]
151. 永沢 実・河合省三・本橋精一：殺線虫剤の低温時の処理。植物防疫 15(2) 64-68. [D-D、EDB、DBCP剤の効果と葉害。]
152. 永沢 実・河合省三・本橋精一：低温時における殺線虫剤の使用法。東京農試特報 17: 62-65. [謄写。D-D、EDB、DBCP剤施用上の注意。]
153. 永沢 実・河合省三・本橋精一：低温時に殺線虫剤で処理した場合のガス抜き の深さと葉害。東京農試特報 17: 66-70. [謄写。D-D、EDB、DBCP剤。]
154. 中川春夫・大沼 彪：ダイズシストセンチュウに対する殺線虫剤の効果。北日本

- 病虫研報 12: 16-17. [D-D、EDB、DBCP剤の防除効果は1年間。]
155. 中村広明: 植物の組織培養とその応用, 日仏生物学会誌 18/19: 565-576. [未見。線虫学への応用を含む。植物防疫 15(2) 554, 1961に抄録。]
156. 中村克己・山貫重夫・秋山安義: 殺線虫剤によるニンジンのキタネコブセンチュウ防除効果およびその経済効果について, 北日本病虫研報 12: 160-162. [D-D、EDB剤20~40g/10aの低温時処理(7.3~11.8°C)約40日後播種は薬害なく防除効果。]
157. 中村克己・山貫重夫・秋山安義: 人参寄生「キタネコブセンチュウ」における防除効果及び経済効果, 北農 28巻12: 8-12. [D-D、EDB、DBCP剤。]
158. 中園和年・一戸 稔: チャとシバから分離された *Hemicriciconemoides* spp. 応動昆大会講要 昭36: 17. [講要]
159. 中園和年・一戸 稔: *Hemicriciconemoides kanayaensis* n.sp. associated with tea root in Japan (Nematoda; Criciconematidae). 応動昆 5(4) 273-276. [チャからカナヤサヤワセンチュウを新種として記載。模式産地は静岡県金谷町。]
160. 中田正彦: 特用作物などに対する殺線虫剤の使い方: 花卉, 植物防疫 15(3) 114-115. [キク(ハガレセンチュウ、ネコブセンチュウ)、スイセン・アイリス(クキセンチュウ)、シャクヤク、シクラメン、グラジオラス(以上ネコブセンチュウ)対策。]
161. 中田正彦: 春季土壌消毒の期間, 今月の農薬 5巻4: 106-109. [D-D、EDB、DBCP剤の施用方法。]
162. 中田正彦・深沢永光・小林義明: 水稻に寄生する *Radopholus* 属の線虫について, 植物防疫 15(9) 395-396. [形態と被害。現在は *Hirschmanniella oryzae*, *H. imamuri* とされている線虫。]
163. 仲宇佐達也: 陸稲連作害の原因と対策, 東京農試特報 17: 153-159. [謄写。連作によるシスト数、収量の変化。]
164. 仲宇佐達也・山崎正枝: 陸稲の連作害に関する研究(第4報) 陸稲の作付年数と休作年数が害の発現におよぼす影響, 日作紀 29(4) 436-437. [講要]
165. 中里晴夫・下方満治・松原芳久: 山口県下における園芸植物のネコブセンチュウに関する調査(第1報), 山口県宇部農芸高校調査報告: 14 pp. [謄写]
166. 成田武四: 北海道における牧草・飼料作物の主要病害と問題点(2), 農業技術 16(11) 520-523. [マメ科牧草の線虫にふれる。]
167. 成田武四・馬場徹代・山田英一: ダイコン萎黄病と線虫との関係, 北日本病虫研報 12: 10-12. [D-D、EDB剤処理と接種試験。ネグサレセンチュウ関与の可能性。]
168. 奈須田和彦: 土壌伝染性細菌のpaper diskによる薬剤検定方法, 北陸病虫研報 9: 59-64. [本法の線虫への応用は無理。]
169. 西山市三・藤瀬一馬・寺村 貞・宮崎 司: 甘藷とその近縁植物に関する研究 II. 甘藷野生種 K 1 2 3 の生理生態的特性, 育雑 11(4) 261-268. [ネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウ抵抗性。]
170. 西沢 務: 線虫生命の一保存法, 応動昆大会講要 昭36: 17. [講要]
171. 及川弘志・佐々木栄信・工藤三郎: 麦間作のゴボウネコブセンチュウに対する D-D の防除効果, 北日本病虫研報 12: 157-158. [20g/10a 処理で経済的効果を認めただが、大麦に薬害。]
172. 岡 英人: タバコに於ける野生種の育種的利用, 育種学最近の進歩 2: 20-31. [*Nicotiana sylvestris* × *N. tomentosiformis* による線虫抵抗性品種育種を含む。]
173. 岡田正頼: キクの連作土壌の生育障害とその防除について, 園芸学会昭36春研発表旨: 43. [講要]
174. 岡田正行・山田 亀: 土壌線虫防除薬剤がアンモニア生成並びに硝酸化成に及ぼ

- す影響。農及園 36(10) 1657-1658. [D-D、DBCP、MB剤(サンヒューム)施用により土壌酸度が高くなり、硝酸態窒素が増加。メチルプロマイド処理と堆肥との関係にも言及。]
175. 岡野秋盛・本田暢苗・林 松雄: 殺線虫剤(Chlorpicrin, D-D, EDB)による土壌処理がアンモニア化成作用および硝酸化成作用に及ぼす影響。九州農業研究 23: 221-223. [硝酸化成作用の抑制は前二薬剤が著しく、EDBは比較的少。]
176. 大森秀雄・佐藤昭美: ニンジンのネコブセンチュウに対する殺線虫剤の春季低温時の消毒効果について。北日本病虫研報 12: 158-159. [地温4°C前後のD-D、EDB剤施用試験。処理4週間で十分な防除効果。葉害なし。]
177. 大島俊市・小野邦明・赤沢淑紀: 線虫捕食菌に関する研究(予報)。日植病報 26(5) 229. [講要]
178. 樽木忠夫: シクラメンの営利栽培。農及園 36(3) 542-546. [用土の線虫防除にふれる。]
179. 三枝敏郎: わが国がその侵入を警戒している病害虫 3. 線虫。植物防疫 15(11) 493-494. [ジャガイモシストセンチュウ、ミカンネモグリセンチュウ、*Ditylenchus angustus* を解説。]
180. 三枝敏郎: 各種土壌線虫の検出方法。農及園 36(1) 109-110. [土壌・植物体からの線虫分離方法を解説。]
181. 三枝敏郎・松本安生: ネコブ線虫の温湯防除とグラジオラス球茎への応用。植防研報 1: 30-35. [トマトにおける44-50°Cでの防除効果。グラジオラスの浸漬温度・時間・生育への影響を試験。植物防疫 16(11) 485, 1962 に抄録。]
182. 三枝敏郎・松本安生: A list of host plants of root nematodes, *Meloidogyne incognita* var. *acrita* and *hapla*. 植防研報 1: 84-88. [サツマイモネコブセンチュウ、キタネコブセンチュウの寄主のリスト。]
183. 三枝敏郎・松本安生: The survey of the plant parasitic nematodes, distributed in the fields of the export plant and seed potato. I. Classification of the main plant parasitic nematodes separated from sampling soil. 植防研報 1: 89-94. [輸出植物と種ジャガイモ栽培地における線虫調査。15属の線虫の検出記録。]
184. 桜井 清: 殺線虫剤とその施用上の問題点 3. ダイズシストセンチュウ防除の現状。応動昆5回シンポジウム記録: 43-45. [講要。季節的発生消長。シスト内の卵、幼虫に対する殺線虫効果(D-D、EDB、DBCP剤)、殺線虫剤の種類と薬量、使用時期、処理翌年の防除効果、防除の考え方。討論。]
185. 桜井 清: ダイズシストセンチュウの生態と防除。In: 線虫とその防除(其の2)。シェル石油株式会社農薬部、東京、p.67-84. [分布と研究史、寄主植物ならびに被害状況、形態、生態(生活史、土壌中での垂直分布、孵化、発育)、防除法(輪作、施肥、捕獲作物の栽培、抵抗性品種、殺線虫剤施用)。]
186. 桜井 清・湯原 巖・稲垣春郎・堤 正明: 北海道の牧草地から発見された土壌線虫。北日本病虫研報 12: 103-104. [ネグサレ、ネコブ、シストセンチュウ等を検出。]
187. 佐藤昭美・大森秀雄: ダイズシストセンチュウに関する研究(I)圃場における発生消長について。北日本病虫研報 12: 98-99. [連作・ヒエとの輪作圃場の比較。]
188. 佐藤隼夫・伊藤猛夫: 無脊椎動物採集・飼育・実験法。北隆館、東京、5+16+446 pp. [線虫類 p. 195-204. 同分類表 p. 370.]
189. 沢地信康: サトイモの連作害に関する研究。園芸学会昭36春研究要旨: 19. [講要]
190. 関 道生: 果樹に対する殺線虫剤の使い方: ミカン。植物防疫 15(3) 107-108.

- [ミカンネセンチュウの土壤中分布、防除薬剤 (DBCP、EDB剤) と施用方法。]
191. 関谷一郎: 大豆シスト線虫の経済的な防ぎ方, 今月の農薬 5巻6: 41-44. [施肥改善、抵抗性品種利用、殺線虫剤施用。]
192. 関谷一郎: 桑の土壤線虫防除, 今月の農薬 5巻12: 100-103. [DBCP剤の施用方法と効果。]
193. 関谷昭二郎: 鹿児島県の土壤線虫, サンケイ農薬たより 16: 9-12. [ネコブ、ネグサレ、シストセンチュウの検診結果、被害。]
194. 千田長二・清原悦郎: 東北の北東部における麦間作大豆の問題点と改善策, 農及園 36(4) 654-658. [「シストセンチュウ発生畑などではNの基肥が効果的な場合のあることを忘れてはならない」]
195. 柴田富男・西本弘次: 苗畑における土壤線虫防除, 森林防疫ニュース10(4) 72-76. [スギにD-D、クロルピクリンを施用。]
196. 渋谷正健・高良鉄夫: Note on the root-knot nematode in the Ryukyu Islands. 鹿児島大・琉球大琉球諸島共同調査報告 1: 67-69. [*Meloidogyne incognita acrita*の寄主植物44種を記録。]
197. 重永知明: 殺線虫剤使用上の問題点, 研農復刊 13(1/2) 407-410. [燻蒸剤の効果的・経済的使い方、効果持続期間等の解説。]
198. 重永知明: ダイズシストセンチュウに関する2、3の調査, 九州農業研究 23: 219-220. [熊本県内における分布、夏大豆における発生消長 (7月に多)。]
199. 下川三男・牛山欽司: ネグサレセンチュウの一種 *Pratylenchus* sp. によるイチゴの黒色根腐について (第2報), 神奈川農試園芸分場研報 9: 75-78. [ネグサレセンチュウと *Pythium* 菌の協合の可能性。線虫の計測値。]
200. 白浜賢一: そ菜に対する殺線虫剤の使い方, 植物防疫 15(3) 103-105. [D-D、EDB、DBCP剤の使用法、葉害、副次的効果等を解説。]
201. 白浜賢一: 線虫防除の経済性, In: 線虫とその防除 (其の2), シェル石油株式会社農薬部、東京, p. 9-32. [殺線虫剤施用による増収に関するデータを各地の試験場成績から引用。作物: キュウリ、トマト、大根、ミツバ、ホウレンソウ、甜菜、イチジク、大豆、陸稲。]
202. 白浜賢一: ソ菜畑に対するDBCP剤の使い方, 今月の農薬 5巻6: 58-61. [葉害、施用時期等の注意。]
203. 末沢一男: 暖地のビート栽培, 農及園36(8) 1277-1280. [「暖地の場合は線虫のため発芽しないし、発芽しても根は肥大しない」]
204. 杉 頼夫: 特用作物の育種, 育雑 11(2) 151-154. [甜菜のネコブセンチュウ抵抗性にふれる。]
205. 杉本達美: 土壤線虫の加温遊出法について, 北陸病虫研報 9: 90-92. [冬季に線虫 (サツマイモネコブセンチュウ幼虫) 游出をよくするためには、土壤をビニル袋かシャーレに入れ20°Cで10日加温。]
206. 砂田喜与志: ダイズシストセンチュウに対する抵抗性について, 日育日作北談報 2: 6. [未見]
207. 諏訪内正名: 物理化学的にみた殺線虫剤の効き方, 植物防疫 15(9) 391-394. [気化、拡散、ガス体の虫への作用、土壤中での薬剤の拡散、土壤水分の薬剤の拡散性への影響、土壤中での効き方。]
208. 鈴木一平: イチゴ苗の退化現象, 今月の農薬 5巻11: 102-104. [ネグサレセンチュウ害にふれる。]
209. 鈴木親丞・栗林茂治・樋口鉄美: 除草剤および殺線虫剤の蚕におよぼす影響, 日

蚕臨時講演会講要：19. [講要]

210. 鈴木達彦：土壤肥料と農薬。土肥誌 32(4) 163-172. [土壤の物理・化学・生物的性質に対する農薬の影響に関する総説。殺線虫剤もとりあげる。]
211. 田川憲夫・吳羽好三：ダイズシストセンチュウに対するEDBの効果。関東病虫研報 8: 75. [増収効果はあるが、線虫防除効果は期待出来ず。]
212. 田口啓作：異種馬鈴薯の育種利用。育種学最近の進歩 2: 32-43. [*Solanum famatinae*, *S. andigenum*, *S. vernei*利用による線虫抵抗性育種を含む。]
213. 高野十吾：秋の土壤消毒。今月の農薬 5巻11: 16-19. [D-D、EDB、DBCP、クロルピクリン、カーバム剤の施用に関する注意。]
214. 高野誠義・川田惣平・針谷信義：コンニャクのネコブセンチュウと腐敗病との相互関係について。関東病虫研報 8: 70. [両者に密接な関係。]
215. 高野誠義・織田一夫：殺線虫剤の小麦に対する葉害試験について (I)。関東病虫研報 8: 71. [地温10°C前後の処理：D-D、DBCP剤で15日、クロルピクリンで20日、DBCP剤で25日後にガス抜き、播種すれば葉害なし。]
216. 武田和子・一戸 稔：*Meloidodera* 属線虫の発生。応動昆大会講要 昭36: 17-18. [講要]
217. 竹上静夫・島村和夫・赤松誠一・笹井一男：暖地盛夏における畑作甜菜の発芽対策 [2]。農及園 36(7) 1130-1132. [「線虫の発生地帯は、適当な防除なしには正常な栽培は不可能であろう」]
218. 竹腰昭夫：林業苗木を加害する線虫について。森林防疫ニュース 10(4) 69-72. [スギ、ヒノキのネグサレセンチュウの症状。]
219. 竹腰昭夫：林業用苗木に加害する線虫種類についての考察。農薬たより (東亜農薬) 8巻5: 1-5. [愛知県。スギ、マツ、ヒノキ苗圃のネコブ、ネグサレ、外部寄生線虫。]
220. 竹内重之：落花生の品種と増収栽培法。農及園 36(3) 519-523. [キタネコブセンチュウ対策としての輪作にふれる。]
221. 田村市太郎：作物病害虫診断メモ II. 虫害診断メモ。植物防疫 15(11) 522-525. [日本における線虫の既知種のリスト、線虫及びそれらによる病徴の見分け方。]
222. 田村市太郎・桜井 清・国井喜章・工藤三郎・川島嘉内・中川春夫・岡崎幸吉・大森秀雄・小山 佐藤昭美・山田英一・浜田 稲垣春郎：線虫類の分布ならびに防除に関する討論会要旨。北日本病虫研報 12: 18-20. [同誌12巻に発表された論文を中心に、北海道、東北の線虫の分布、防除、病害との関係について論ずる。]
223. 田中 勇：ネコブセンチュウの形態におよぼす試験管継代培養の影響。応動昆大会講要 昭36: 18. [講要]
224. 田中 勇：特用作物などに対する殺線虫剤の使い方：タバコ。植物防疫 15 (3) 113-114. [クロルピクリン、D-D、EDB剤の使用方法及びそれらの硝酸化成作用に及ぼす影響。]
225. 田中 勇：線虫の有無についての調査方法。葉たばこ研究 27: 102-103. [指標植物、ベルマン法使用。]
226. 田中 勇・福留信明：タバコに対するDBCPの葉害。植物防疫 15(4)155-158. [タバコは本剤にきわめて弱い。]
227. 田中 勇・岡野秋盛：植物病原菌の発育におよぼす殺線虫剤の影響。九州農業研究 23: 193-194. [クロルピクリン、D-D、EDB剤とタバコ腰折病菌、疫病菌、黒根病菌、炭疽病菌。]
228. 田中修吾：共立土中注液機について：果樹、茶などの土壤病害虫防除用。植物防

- 疫 15(9) 399-401. [用途、特徴、構造、作業能率、使用方法等。]
229. 田坂耕一郎：夏蒔きホウレンソウの栽培法。農及園 36(8) 1329-1333. [D-D、EDB、DBCP剤によるネコブセンチュウ防除を含む。]
230. 田瀬幸男・山本隆司・石山哲爾：有機水銀化合物の殺線虫性について。日植病報 26(5) 219. [講要]
231. 田原虎次他：土壤薬剤注入機に関する基礎的研究 II。共立農機報 43: 1-8. [未見]
232. 寺下隆喜代：関西の林業苗畑における線虫病について。森林防疫ニュース 10(4) 68-69. [タイワンギリ、ヒノキ、スギ、フサアカシアで検出。]
233. 津軽承捷：主要植物寄生土壤線虫に関する研究。昭和35年度主要植物寄生性土壤線虫に関する研究成績概要（日本植物防疫協会）：29-31. [謄写。青森県産線虫および寄主リスト。ネコブセンチュウの生態、防除法。]
234. 内海千年：小豆島のヒックス耕作を省みて。葉たばこ研究 26: 61-65. [線虫害を含む。]
235. 渡辺忻悦・諸留 操・淡路鉄一郎：秋田県における土壤線虫の発生分布と防除について。北日本病虫研報 12: 7-8. [ネコブ、ネグサレ、ダイズシストセンチュウ県下全域に分布。D-D、EDB剤処理：ネコブには有効、ダイズシスト密度は収穫期に無処理の3-4倍に増加。]
236. 渡辺龍雄：胡椒の病害。熱帯農業 4(4) 183-186. [根腐病、ネマトーダ他。]
237. 山田英一・湯原 巖・稲垣春郎：北海道における土壤線虫の分布。北日本病虫研報 12: 5-6. [線虫の種類、作物の被害、検出数と土性。]
238. 山田 忍：土壤学的立場から見た大豆シスト線虫の被害と防除対策 [1]。農及園 36(3) 469-474. [土性と線虫分布、土壤侵蝕と線虫移動、土性と被害、垂直分布（特に犁底盤との関係）、防除対策。]
239. 山田 忍：土壤学的立場から見た大豆シスト線虫の被害と防除対策 [2]。農及園 36(4) 633-636. [豆科牧草根の犁底盤貫通状況、線虫寄生状況と牧草収量・飼料価値。]
240. 山田 忍：土壤学的立場から見た大豆シスト線虫の被害と防除対策 [3]。農及園 36(5) 797-800. [DBCP剤の線虫防除効果、豆科牧草跡地における大豆の生育。]
241. 山口福男：草莓の線虫に関する研究 第2報 *Nothotylenchus acris* Thorne の防除について。中国農業研究 23: 49-52. [ダイプテレックス乳剤以外は実用性なし。]
242. 山口福男：イチゴを加害する線虫 *Nothotylenchus acris* Thorne の防除について。応動昆虫大会講要 昭36: 20-21. [講要]
243. 山口福男：ニンジンのネグサレセンチュウ (*Pratylenchus* sp.) とその防除について。関西病虫研報 3: 70. [講要。D-D剤は効果あり。EDB、DBCP剤は効果が劣る。]
244. 山本鉄司：関東地方における大豆増収栽培法と問題点。農業技術 16(9) 395-399. [「シスト線虫の被害防止は品種と輪作が中心となろう」]
245. 山下優勝：水田の土壤消毒と米麦作との関係（第1報）。中国農業研究 23: 33-35. [ペーバム、D-D剤はEDB剤処理区より生育収量が優れた。]
246. 山下幸彦・栗原徳二：DBCP剤によるビートのネコブセンチュウ防除について。九州農業研究 23: 100-102. [20kg/10 a 以上施用は葉害が出る。立毛中処理は効果不十分。]
247. 山崎肯哉：蔬菜の連作障害の原因と対策。農及園 36(3) 573-574. [原因の一つとしてネマトーダをあげ、対策（薬剤処理）を略述。]

248. 柳 武 他：長野県に於ける牧草生育障害の実態 第二報。長野県農地經濟部畜産課、32 pp., 6 pls. [土壤線虫 p.30-31: ネコブセンチュウ (キタ、アレナリア)、シストセンチュウ (クローバー)、ネグサレセンチュウ。]
249. 谷中清八・滝田泰章・星野三男・熊沢隆義：殺線虫剤の作用機構 (第1報)。関東病虫研報 8: 69. [ネコブセンチュウはD-D剤30ℓ/10 a 処理区は6日後、50ℓ/10 aでは3日後に殆ど生息を認めず。ネグサレセンチュウは30ℓ区は確實でなく、50ℓ/10 aで6日後に殆ど生息を認めず。]
250. 安尾 俊：キューバの稲作病害。植物防疫 15(8) 367-369. [「3月末中部マタンサス州のカルデナス付近の水田に線虫心枯病が発生していた」]
251. 横尾多美男：たばこ線虫病に関する調査研究。鹿児島たばこ試参考資料、80 pp. [日本及び海外のタバコ寄生の線虫の解説、防除法。]
252. 横尾多美男：主要植物寄生性土壤線虫に関する研究。昭和35年度主要植物寄生性土壤線虫に関する研究成績概要 (日本植物防疫協会) : 25-28. [謄写。イチゴ、ミカン、ビート、タバコ、ヒノキの線虫の同定、生態、防除等。]
253. 横尾多美男：ミカンネセンチュウの生態と防除。In: 線虫とその防除 (其の2) . シェル石油株式会社農業部、東京、p. 85-91. [柑橘寄生線虫のリスト。ミカンネセンチュウの寄主植物、形態、生活史、被害状況、防除法 (D-D、EDB、DBCP)。]
254. 横尾多美男・古賀 孝：ミカンネセンチュウの地中での分布状況及び殺線虫剤の効果に関する知見。九病虫研会報 7: 81-83. [深さ30cmまでに多。120 cmでも検出。DBCP、EDB乳剤の土壤灌注によって1~4月間線虫密度低下。]
255. 横尾多美男・古賀 孝・大丸多熊：ニンジンのネコブセンチュウの薬剤防除試験。佐賀大農彙 12: 157-160. [D-D、EDB、DBCP剤。]
256. 横尾多美男・太田洋子：On the variations of dimensions within soil nematodes. III. Dimensions of the *Brevibucca japonica* n. sp. found in the decayed fruit of pear in Japan with descriptions of this new species. 佐賀大農彙 12: 149-156. [Rhabditida目の新種を記載。模式産地は仙台。属の変更が必要か?。]
257. 吉村清一郎：九州におけるてん菜害虫とその発生生態。九州農業研究 23:93-96. [サツマイモネコブセンチュウ (要防除)、ネグサレセンチュウ (注意) を含む。]
258. 湯原 巖：抵抗性ダイズ品種におけるダイズシストセンチュウの發育。応動昆虫大会講要 昭36: 18-19. [講要]
259. 湯原 巖・稲垣春郎：ダイズ品種間におけるダイズシストセンチュウ抵抗性の差異。北日本病虫研報 12: 96-98. [最強：PI90763; 強：東北6号、下田不知、Ilsoy; 中：南部竹館、最弱：新4号。]
260. 湯原 巖・稲垣春郎・浅井三男：北海道で発見された *Heterodera trifolii* . 北日本病虫研報 12: 104-105. [芽室町、月寒の白クローバーから。形態観察を行う。]
261. Anon. (農林省) : 殺線虫剤EDBの技術提携認可。植物防疫 15(1) 45. [久島化学工業株式会社とダウ・ケミカル社。生産量は月間40 t。]
262. Anon. (昭和35年度中国地域農業試験場試験打合会病害部会・虫害部会) : 中国地域蔬菜病虫害防除基準。中国農業研究 19: 77-106. [十字花科蔬菜のネコブセンチュウ類 p. 82、イチゴのセンチュウ類 p. 100-101、ゴボウのネコブ、ネグサレセンチュウ類 p. 105、ヤマイモのネコブセンチュウ類 p. 106。]
263. Anon. (茨城農試) : 線虫に関する試験研究。創立60周年記念業績集: 159. [ダイズシストセンチュウ、コンニャクのネコブセンチュウ防除。]
264. Anon. (北海道病虫害防除史編さん委員会) : 北海道における農作物病虫害防除の歩み。北海道植物防疫協会、札幌、106 pp. [座談会 (出席者：柄内吉彦、桑山



覚、田中一郎、岩垂 悟他12名) p. 5-73. 追記に「線虫のパイロット防除」を取りあ  
げる(遠藤和衛) p. 75-77. 病害虫に関する年表 p. 81-106. ]

昭和37年 (1962)

1. 阿久津喜作：大根栽培がネコブセンチュウの密度に及ぼす影響。応動昆大会講要 昭  
37: 29. [講要]
2. 阿久津喜作・永沢 実：大根栽培がネコブセンチュウの密度に及ぼす影響について。  
東京農試特報 18: 78-84. [謄写。美濃早生、時無大根の春まきでは密度が著減、秋ま  
きでは影響なし。]
3. 青木 朗・森田修二：土壌および植生に及ぼすNematocideの影響。京都府大学報 農  
学 14: 106-109. [ベーパーム、EDB剤施用による土壌電位の変化、アンモニア及び硝  
酸態窒素の消長、殺菌効果。]
4. 知久武彦・今村昭二：ヤマゴボウ黒痣病について。植物防疫 16(7) 283-286. [ネコ  
ブセンチュウの寄生はあるが、主因はFusarium菌。]
5. 近岡一郎・和泉清久：ネコブセンチュウに対する殺線虫剤の殺卵効果と土壌温度との  
関係試験。関東病虫研報 9: 68. [D-D、EDB剤は5、10℃で11日間、15℃では2-  
6日間の燻蒸で効果。DBCP剤の効果は劣る。]
6. 近岡一郎・和泉清久：低温時処理を中心とした殺線虫剤の効果について(第1報)。  
応動昆大会講要 昭37: 30. [講要]
7. 近岡一郎・高橋正男：土壌線虫パイロット防除の実態調査。植物防疫 16(11) 457-  
462. [実施農家で以下の項目を調査。防除時期、圃場の土壌状況、注入機具と注入深、  
薬剤施用前後の耕起と鎮圧、ガス抜作業状況、薬剤使用量と処理方法、処理後の効果  
(収量、品質)、薬害、他の病害虫の増減、農家の意見(価格、処理時期)。]
8. 千代西尾伊彦：ペールマン法による合成洗剤の添加とネコブセンチュウの游出数につ  
いて。応動昆大会講要 昭37: 28. [講要]
9. 江原昭三：線虫類(Nematoda)。In: 動物系統分類学(内田 亨監修) 4。  
袋形動物。中山書店、東京、pp. 90-119, 141-191. [形態、生活史、雌雄性、生理、宿  
主との関係、系統、分類。動物寄生、植物寄生、自活性線虫を扱う。p. 119-141の発生  
の項はNo. 62-177を参照。]
10. 家入 章：サツマイモネコブセンチュウの寄生様相について。九州農業研究 24:  
175-176. [線虫寄生根を土中に埋没し深度別に幼虫分布、ゴール形成数を調査。35cm以  
下に埋没するとゴール形成少。]
11. 藤井新太郎：岡山県におけるてん菜主要病害とその対策。農業技術 17(8)366-368。  
[ネコブセンチュウは早蒔きするほど多発。]
12. 藤井新太郎：岡山県におけるてん菜主要病害とその対策(2)。農業技術 17(9)  
416-418. [ネコブセンチュウ防除：D-D、EDB、DBCP剤などを播種の10-15日  
以前に処理。]
13. 藤村俊彦：作物病害虫の試験研究史 第3節 害虫に関する試験研究史。In: 島根  
県植物防疫史(島根県植物防疫協会編)、島根県植物防疫協会、松江、p. 643-655。  
[くわ線虫の防除：大正6年、大正11年、昭和3-5年、昭和8-11年。]
14. 深野 弘：イネ線虫心枯病の生態および防除に関する研究。福岡農試特報 18: 1-  
108, 3 pls. [研究史、発生の沿革と分布、病名、経済的重要性、病徴および被害、病  
原線虫の寄生・加害、病原線虫の越冬および伝染経路、水稻品種の抵抗性、防除法。]

15. 深野 弘：稲線虫心枯病の防除法。農及園 37(4) 689-692。〔線虫の伝染経路、発生防止策（種子処理）、被害軽減策（パラチオン散布、施肥）。〕
16. 深沢永光：新しい農薬の種類と使い方：殺線虫剤。農業技術研究 16巻7: 30-31。〔DBCP、D-D、EDB剤の使用法。〕
17. 深沢永光・鈴木当治：イチゴの土壤線虫とその防除法。農耕と園芸 17巻14: 55-56。〔被害、防除（薬剤、健全苗の確保）。〕
18. 深沢永光・小林義明・中田正彦：静岡県における植物寄生性線虫の種類とその分布について。静岡農試研報 7: 89-105。〔ネコブ、ネグサレセンチュウが最重要種。ネコブセンチュウ他の解説、作物別の検出線虫と発生地の表等を含む。〕
19. 五味美知男：稲の線虫心枯病とその防除法。農及園 37(12) 1949-1952。〔伝染経路、被害機構、苗代形式と発病、施肥量と発病並に被害、薬剤による種物消毒法、発病後の対策。〕
20. 五味美知男：稲の線虫心枯病の防ぎ方。今月の農薬 6巻5: 59-62。〔生活史、冷水温湯浸法、種物の薬液浸漬。〕
21. 五味美知男・中里筆二：稲線虫心枯病に関する研究 第4報 水銀剤による処理効果。関東病虫研報 9: 73。〔ルベロン乳剤 500倍液24時間浸漬は、冷水温湯浸法と同等。〕
22. 後藤 昭：2、3ネグサレセンチュウのEDB感受性について。応動昆大会講要 昭37: 29。〔講要〕
23. 後藤 昭・大島康臣：九州の線虫相より（2）。九病虫研会報 8: 43-44。〔*Pratylenchus loosi* (チャ)、*P. coffeae* (カンキツ)、*P. zeae* (陸稲、チャ、サトウキビ)、*P. vulnus* (ヒワ)、*Radopholus oryzae* (水稲)、*Tylenchorhynchus* spp. (ダイズ、サトウキビ)。〕
24. 五島善秋：線虫に対する石灰窒素の殺虫効果（基礎試験）。In: 線虫（ネマトーダ）防除と石灰窒素。石灰窒素普及会、東京、pp.9-13。〔ポット試験。0.5-1%の風乾土混合によりネコブセンチュウ生存数皆無となる。〕
25. 橋本平一：福岡県下の林業苗畑における線虫についての2、3の観察。日林誌 44(9) 248-251。〔イシユク、ネグサレ、ネコブ、ユミハリ、ハセンチュウを検出。〕
26. 引地直至：リンゴ・モモの線虫類防除に関する2、3の試験について。北日本病虫研報 13: 180-183。〔モモのネグサレ、ネコブ、ピンセンチュウ、リンゴのネコブセンチュウにDBCP剤施用。濃厚液の土中点注より、希釈液の溝灌注がよい。〕
27. 平野和弥：土壤中のネコブセンチュウ卵の検出法 1. 卵のうの崩壊条件について。千葉大園学報 10: 81-88。〔サツマイモネコブセンチュウ卵嚢にアンチホルミン使用。〕
28. 平野和弥：ネコブセンチュウ卵の土壤中からの採卵法に関する研究 第2報 土壤中卵の検出。日植病報 27(5) 275。〔講要〕
29. 平野喜代人・岡本康博：暖地における甜菜根こぶ線虫病の発病と被害。日植病報 27(5) 65。〔講要〕
30. 広瀬健吉・伊藤喜隆：殺線虫剤の低温時における効果について。関東病虫研報 9: 83。〔D-D、EDB、DBCP剤を用いた土壌処理の室内試験。〕
31. 堀 正侃：農薬展望。植物防疫 16(1) 1-3。〔線虫対策の最大のネック：防除薬剤の価格問題が一般化に影響。〕
32. 保坂義行：殺線虫剤の使用とトマト萎ちょう病発生との関係。関東病虫研報 9:32。〔EDB剤はクロルピクリンにまさる発病株率低減効果。〕
33. 一戸 稔：永年作物における線虫の被害。農業技術 17(10) 471-475。〔線虫の種類、加害生態、被害、果樹の忌地と線虫（DBCP剤施用を含む）。〕
34. 一戸 稔：土壤線虫の話題をひろう。農薬 9巻4: 45-50。〔永年作物の線虫、甜菜

- の線虫被害と紙筒移植法、イネに寄生する *Radopholus oryzae*。]
35. 一戸 稔: 今年の殺線虫剤の新研究, 今月の農薬 6巻1: 87-90. [果樹に対する DBCP 剤の効果等。]
36. 一戸 稔: 新しい線虫 (メロイドデラの分布と被害), 今月の農薬 6巻4: 55-58. [形態、分布。]
37. 一戸 稔: 飼料作物の線虫の害, 今月の農薬 6巻9: 84-97. [検出線虫、被害。]
38. 一戸 稔・中園和年・武田和子: 飼料作物における線虫調査, 応動昆大会講要 昭37: 27. [講要]
39. 飯島 鼎・阿部善三郎・平野寿一・本橋精一: 接木苗によるトマト萎凋病の防除, 日植病報 27(2) 69. [講要。ネコブセンチュウ抵抗性品種にふれる。]
40. 稲垣春郎・湯原 巖・桜井 清: 数種殺線虫剤のダイズシストセンチュウに対する殺虫効果, 北日本病虫研報 13: 178-179. [D-D、EDB 剤はシスト内の卵・卵囊にも効果。]
41. 井上 寿: ダイズシストセンチュウに関する試験および調査, 北海道立農業試験場十勝支場, 229 pp. [謄写。発生の沿革 (十勝地方における発生の沿革、分布)、寄主による形態の差異、土壤中での分布、年間発生消長、被害程度、栽培方法と被害、作付様式と線虫密度、施肥と被害、薬剤防除 (D-D、EDB、BCP、DDT、BHC、アルドリ、デイルドリン、ヘブタクロル、シストゴン、N-224、ペーパム、VC-13、DDVP、PCNB、NNR-13M、ネマクロル)。]
42. 井上 寿: ダイズシストセンチュウに関する調査 第14報 マメ科植物に対する寄生性, 北日本病虫研報 13: 125-126. [フジマメ、ラッカセイ、ソラマメ、ハギ、イタチハギ及びクズ属の供試植物には寄生せず。]
43. 井上 寿・大上秀雄: ダイズシストセンチュウに関する調査 第15報 寄主作物による線虫の形態の差異, 北日本病虫研報 13: 126-127. [ダイズ、アズキに比して、インゲンでは小型のシスト。]
44. 井上 寿・大上秀雄・中村日出夫: ダイズシストセンチュウに関する調査 第16報 幼虫の侵入時期と作物の被害との関係, 北日本病虫研報 13: 127-128. [生育初期に寄生を受けるほど生育・収量に影響大。]
45. 井上 寿: ダイズシストセンチュウに関する調査 第17報 根瘤菌の接種との関係, 北日本病虫研報 13: 128-129. [ダイズ、アズキ、インゲンの黄変度、寄生度、根瘤菌着生程度。収量は無接種時と差なし。]
46. 井上 巖: Studies on the life history of *Chordodes japonensis*, a species of Gordiacea III. The mode of infection. Annot. Zool. Japon. 35(1) 12-19. [本ハリガネムシの感染は経皮的より中間寄主をカマキリか摂食することによりおこる。]
47. 井上 巖: 線形虫類 Nematomorpha (または Gordiacea). In: 動物系統分類学 (内田 亨監修) 4. 袋形動物, 中山書店、東京、p. 192-220. [形態、発生、生態・生殖、生理、分布、類縁関係、分類。]
48. 井上義孝・竹内昭士郎・駒田 旦: ダイコン萎黄病の薬剤防除, 関西病虫研報 4: 60. [講要。D-D、EDB、クロルピクリンも効果あり。]
49. 石橋信義: 線虫の繁殖に関与するもの, 農業技術 17(2) 68-72. [孵化、遊出 (温度、pH、化学的要因、根部拡散物質等)、寄主作物への侵入 (誘引、侵入)、寄主植物の生育 (線虫の生育、性比の分化)、産卵 (ネコブ、シストセンチュウ)、繁殖の自律性。]
50. 石橋信義・杉本達美: 寄主作物の生育と線虫の繁殖能力, 応動昆大会講要 昭37: 28. [講要]

- 5 1. 石川正示・宮原万芳・加藤 明・松本定夫：各種殺線虫剤のダイズシストセンチュウに対する防除効果について。東北農業研究 4: 84-87. [D-D、EDB、DBCP.]
- 5 2. 石川元一：オカボのネグサレセンチュウ。今月の農薬 6巻5: 63-65. [症状、防除(D-D、EDB、DBCP剤).]
- 5 3. 石川元一・高野光之丞・村山正雄：苗木の線虫防除。関東病虫研報 9: 78. [オウトウ苗木にDBCP剤。51日目の線虫游出数は減少、苗木の生育は無処理と同じ。]
- 5 4. 伊藤喜隆：リンゴの土壤線虫の実害とその防除。農薬 9巻5: 58-63. [ネコブセンチュウの被害が最も大。他にMeloidodera、ピンセンチュウ、ワセンチュウ。]
- 5 5. 伊藤喜隆：リンゴの根こぶ線虫の被害と対策。果実日本 17巻1: 38-40, 80. [被害の状況、発生地における諸因子、対策(D-D、EDB、DBCP剤).]
- 5 6. 伊藤喜隆：りんごとぶどうの線虫とその防除。今月の農薬 6巻4: 90-93. [主にネコブセンチュウの生態、DBCP剤による防除。]
- 5 7. 伊藤喜隆・広瀬健吉：ごぼうの黒変症状(ヤケ)とその防除について。関東病虫研報 9: 74. [殺線虫剤処理の効果はなく、病菌が原因と推測。]
- 5 8. 岩崎藤助：蜜柑の忌地現象の原因と対策。果実日本 17巻1: 41-43. [線虫被害対策を含む。]
- 5 9. 弥富喜三：殺線虫剤の作用機構。植物防疫 16(10) 421-422. [D-D、EDB、DBCP、クロルピクリン、臭化メチル剤の物理化学性、環境要因の防除効果に及ぼす影響、殺線虫機構。]
- 6 0. 弥富喜三：柑橘に寄生する線虫とその防除。和歌山の果樹 13巻9: 33-37. [ミカンネセンチュウの形態、生態、被害症状、寄主植物、薬剤防除。]
- 6 1. 和泉清久：土壤線虫の低温時処理について。農薬 9巻1: 45-50. [処理の問題点、蒸気圧、卵に対する効果、燻蒸日数、葉害、被覆。]
- 6 2. 和泉清久：D-Dの秋処理について(新農薬相談室)。農薬 9巻3: 72-73. [地温と効果の関係を解説。]
- 6 3. 和泉清久：土壤の種類と殺線虫剤の効果。今月の農薬 6巻4: 26-29. [粘土質、砂土等における施用上の注意。]
- 6 4. 和泉清久：殺線虫剤の秋季施用の注意。今月の農薬 6巻11: 47-50. [D-D、EDB、DBCP剤について。]
- 6 5. 和泉清久・近岡一郎：低温時処理を中心とした殺線虫剤の効果について(第2報)。応動昆虫大会講要 昭37: 30. [講要]
- 6 6. 梶浦 実・一戸 稔・大野正夫・渋川潤一他：果樹園の土地生産力増強報告抄録(3)：農林水産業における生産力増強の可能性。農及園 37(10) 1582-1586. [日本農学会大会シンポジウムの抄録。イチジク、リンゴ、ミカン、ナシ、ブドウ、モモの線虫に関する話題を含む。]
- 6 7. 柿崎泰彦・小野 昭・千葉陸雄：桑のネコブセンチュウについて(I)寄生の実態について。日蚕東北講要 16: 48. [講要]
- 6 8. 金沢 純・佐藤六郎：メチルプロマイドとクロルピクリンのガスクロマトグラフィ。農薬生産技術 6: 43-44. [カラム充填剤と装置、操作条件等。]
- 6 9. 金子 武：土壤線虫と茶樹の関係。茶 15巻12: 16-17. [線虫相、防除の解説。]
- 7 0. 金子 武：茶の苗木と線虫とその防除。今月の農薬 6巻4: 16-20. [ネグサレ、ネコブ、サヤワセンチュウの被害、防除。]
- 7 1. 柏木正名：甜菜紙筒移植法によるキタネコブ線虫の被害回避効果。ビート生産技術研究会報告: 38 pp. [効果あり。]
- 7 2. 桂 琦一：大根黒腐病の発生地土壌から得られるネコブセンチュウの保菌に関する

- 知見. 関西病虫研報 4: 47-49. [病原菌 *Xanthomonas campestris* を経口的に保菌。]
73. 川田惣平・坪 存: 殺線虫剤による土壌処理の肥効的効果(予報). 関東病虫研報 9: 82. [トコロアオイに EDB 剤 (32 ℓ/10 a) 施用. 薬剤処理区では施肥量の多い区がネコブセンチュウ寄生指数小. 無施肥区では逆の傾向。]
74. 河合一郎: 苺の病害とその防除. 農及園 37(1) 49-52. [芽線虫、葉枯線虫、根腐線虫の病徴、防除法を含む。]
75. 河村貞之助: 菊の線虫性葉枯病の防除法. 農及園 37(3) 576-577. [線虫の生活史、苗の温湯処理、ホリドール、サッセンの散布。]
76. 河村貞之助: キクの病害虫の防ぎ方. 植物防疫 16(9) 390. [葉枯線虫(ホリドール、サッセン散布)、立枯れ症状(フザリウム菌とネグサレセンチュウの混合感染の可能性)を含む。]
77. 河村貞之助: 種イモ(ヤマトイモ)のネコブセンチュウ消毒法. 今月の農薬 6巻6: 16-19. [サッセン浸漬による防除。]
78. 河村貞之助・平野和弥・渋谷正夫・中島三夫: ロダン酢酸エステル類の応用に関する研究: 特にやまいもの根瘤線虫に対する防除効果について. 応動昆大会講要 昭37: 30-31. [講要]
79. 川島嘉内: 土壌条件と線虫寄生との関係 3. 粘土質土壌におけるネコブセンチュウの寄生について. 北日本病虫研報 13: 119-120. [砂土に近い粒子構成の土壌では寄生多. 垂直分布を含む。]
80. 川島嘉内: *Pratylenchus penetrans* による薬用ニンジンの被害について. 北日本病虫研報 13: 129-130. [忌地の原因は上記線虫. D-D 剤 30 ℓ/10 a は防除効果なし。]
81. 川島嘉内: 水稻の根を加害する *Radopholus oryzae* の生態. 植物防疫 16(2) 57-59. [本邦における発生、福島県における分布、根部侵入と稲作期の消長、水田の乾湿と線虫密度、水稻の被害、線虫の雑草に対する寄生性。]
82. 川島嘉内: 水稻に対する土壌線虫の防除法. 農薬 9巻6: 42-44. [DBCP 剤。]
83. 川島嘉内・堀 呈治: *Radopholus oryzae* による稲の幼苗期の被害について. 北日本病虫研報 13: 120-121. [苗の根長、草丈が短く、生育が遅れる。]
84. 川島嘉内・堀 呈治: *Radopholus oryzae* の防除に関する一考察. 北日本病虫研報 13: 174-175. [D-D、EDB 剤は乾田の防除効果は高. 半乾田・湿田では効果なし。]
85. 気賀沢和男・石橋信義: 栽植様式と土壌線虫密度. 応動昆大会講要 昭37: 28-29. [講要]
86. 気賀沢和男・川島嘉内: イネセンチュウの分布調査. 北陸病虫研報 9: 72. [8月下旬から9月下旬に密度増. 標高 300 m 以上の水田には少ない。]
87. 木場三郎: 植物病原の診断法. In: 植物病理実験法(明日山秀文・向 秀夫・鈴木直治編). 日本植物防疫協会、東京、pp. 129-171. [病原線虫の同定 p. 154-155. 形態及び体形表示法の簡単な記述。]
88. 小林源二・馬場 正: D-D の殺虫力について 第1報 イエバエの幼虫及蛹に対する効力. 関西病虫研報 4: 27-29. [殺虫力を認める。]
89. 小林政明: 石灰窒素による大豆シスト線虫防除試験. In: 線虫(ネマトーダ)防除と石灰窒素. 石灰窒素普及会、東京、pp. 30-34. [未見]
90. 小宮書之助・工藤 馨・中沢文男: 畑作物の病害虫防除に関する研究: 大豆萎黄病に関する研究(1). 明大科技研紀要 1: 177-197. [実態調査、薬剤防除(D-D)施用と線虫害。]
91. 近藤鶴彦: 三重県産植物寄生線虫. 三重植物防疫 1(1) 47-59. [謄写. 11属15種を記録。]

92. 近藤鶴彦：ネコブセンチュウの種類と作付体系による被害の変動。農耕と園芸 17 卷14: 57-59. [線虫の種類、寄主植物。]
93. 近藤鶴彦・山本敏夫：伊勢湾台風による長期冠水地帯の植物寄生性線虫について。関西病虫研報 4: 1-5, 70-71. [2カ月の冠水によってもネコブセンチュウは死滅せず。寄生性も不変。ダイズシストセンチュウ他も同様。]
94. 高野光之丞・村上正雄・石川元一：ムギ類に対する殺線虫剤の影響について。関東病虫研報 9: 81. [播種当日及び播種5日目以降のD-D、EDB剤施用で小麦の発芽率低下。]
95. 越中俊夫・金沢 純・佐藤六郎：殺線虫剤EDBの定量法。農業生産技術 6: 54-56. [モノエタノールアミン法、亜鉛法。]
96. 国井喜章：殺線虫剤。植物防疫 16(1) 17-19. [基礎毒性、選択毒性、施用、整地、水封・鎮圧、持続効果、施用時期、製剤形態、薬剤との混用、肥料との混用、将来の問題。]
97. 国井喜章：水田の線虫被害。今月の農薬 6卷6: 79-82. [イネネモグリセンチュウの分布(国内、国外)等。]
98. 国井喜章：高温時における殺線虫剤施用上の注意。今月の農薬 6卷8: 80-82. [D-D、EDB、DBCP剤について。]
99. 国井喜章・石橋信義：ネコブセンチュウの産卵ならびに胚子発生の温度反応。応動昆虫大会講要 昭37: 28. [講要]
100. 蔵納久男：耕種的環境によるミカンネセンチュウの季節的消長調査。静岡柑橋試報 昭37: 74-79. [写真。草生、敷草、裸地の比較。]
101. 呉羽好三・関谷一郎：ネコブセンチュウに対する殺線虫剤施用前の耕起法と防除効果との関係。応動昆虫大会講要 昭37: 29-30. [講要]
102. 呉羽好三・関谷一郎：DBCP剤による桑のネコブセンチュウの防除法。長野農試時報 44卷3: 19-23, 2 pls. [桑園における線虫の垂直分布、処理時期、処理方法、効果。]
103. 呉羽好三・柴本 精：殺線虫剤施用前の畑状態と処理後における鎮圧効果について。関東病虫研報 9: 69. [D-D、EDB剤。無耕起施用が耕起後鎮圧にまさる効果。]
104. 牧 良忠・山口福男：ネグサレセンチュウに関する研究 第3報 殺線虫剤による被害防除効果について。兵庫農試研報 9: 55-57. [ニンジン、ダイコンのキタネグサレセンチュウにD-D、EDB剤。サツマイモにD-D、EDB、DBCP、ドーロン、ベーパー剤施用。植物防疫 16(11) 484, 1962 に抄録。]
105. 松原芳久・下方満治・中里晴夫：山口県下におけるネコブセンチュウの種類とその被害。植物防疫 16(5) 199-202, 1 pl. [ジャワ、サツマイモ、アレナリア、キタネコブセンチュウの4種。寄主植物、被害程度(根瘤指数)、採集地の表。]
106. 松田 栄・綿原孝夫・吉近 学：促成苺の品種と栽培に関する試験。農及園 37(2) 401-402. [線虫を含む。耐虫性に言及。]
107. 松中昭一：ケミカルコントロールの生化学的側面(その2)：農業生化学講座 18. 農業技術 17(11) 530-536. [殺線虫剤の土壤硝化作用への影響にふれる。]
108. 三浦春夫・大沼 彪：殺線虫剤によるダイズシストセンチュウの防除効果。北日本病虫研報 13: 176-178. [D-D、EDB剤30ℓ/10a 施用。処理2年目でも増収。シスト数は処理当年内に無処理との差なくなる。]
109. 三浦 脩：植物寄生性土壤線虫の生態と防除。グリーン研報集 2: 1-5. [講要]
110. 三浦 脩：植物寄生性土壤線虫について：生態と防除。グリーン研報集 2: 5-23. [前記講演のテキスト。付録にゴルフ場の芝生に寄生する線虫のリスト。]

- 1 1 1. 森川 修：サツマイモネコブセンチュウの走化性について。応動昆 6(1) 34-38。  
[好適寄主の根に幼虫が集まる。誘引は根の近くで、その他では無方向性の動き。]
- 1 1 2. 森川 修：サツマイモネコブセンチュウの幼虫の走化性とpHとの関係。関西病虫研報 4: 69。[講要。pH 3.5に特異的な誘引。]
- 1 1 3. 森川 修：殺線虫剤の作用機構に関する研究(第2報)。応動昆大会講要 昭37: 31。[講要]
- 1 1 4. 森田 儔：花卉病害の問題点と防除(2) 静岡県を中心として。農業技術 17(2) 64-67。[水仙のクキセンチュウの温湯処理(50°Cに20~30分)を含む。]
- 1 1 5. 森田 儔：カーネーションの立枯病とその防ぎ方。植物防疫 16(8) 346。[フザリウム菌とピンセンチュウの複合感染の可能性あり。]
- 1 1 6. 森田 儔・大沢高志：カーネーションの立枯性病害(第1報)原因調査と防除。日植病報 27(2) 70。[講要。ピンセンチュウを検出。]
- 1 1 7. 守田美典・望月正己：Radopholus spp. の時期別寄生数について。北陸病虫研報 10: 63-64。[7月17日、9月25日にピーク。]
- 1 1 8. 守田美典・望月正己：ネコブセンチュウの低温時処理効果について。北陸病虫研報 10: 92。[積雪前にD-D、EDB、DBCP剤施用。翌年2作目の甘藷 46-68%増収。]
- 1 1 9. 長岡伊三郎：石灰窒素による大豆のシスト線虫防除試験。In: 線虫(ネマトーダ)防除と石灰窒素。石灰窒素普及会、東京、pp. 25-29。[ポット試験。大豆の発芽障害なく、線虫にも効果。]
- 1 2 0. 永沢 実・堀江典昭：前作物栽培末期の殺線虫剤処理による影響と効果。関東病虫研報 9: 80。[D-D、EDB剤はナスに葉害。DBCP剤はナス、キュウリに葉害なし。]
- 1 2 1. 永沢 実・堀江典昭：前作物栽培末期の殺線虫剤処理による影響と効果。東京農試特報 18: 74-78。[謄写。D-D、EDB、DBCP剤。]
- 1 2 2. 永沢 実・河合一郎・本橋精一：春作物果菜に対する殺線虫剤の処理からガス抜きまでの日数と葉害。東京農試特報 18: 63-74。[謄写。トマト、ナス、キュウリのD-D、EDB、DBCP剤施用結果。]
- 1 2 3. 中島三夫・島田和夫：イネシングレセンチュウ防除に関する研究：特にロダン酢酸誘導体(SASSEN)の効果と葉害について。東京獣医畜産誌 12: 42-50。[線虫・種籾の浸漬効果。哺乳動物・魚類に対する毒性。]
- 1 2 4. 中島三夫・島田和夫・山中国夫・河村貞之助：ロダン酢酸エステル類の基礎的研究。応動昆大会講要 昭37: 30。[講要]
- 1 2 5. 仲宇佐達也・栗原茂次・橋本貞夫：トマト連作害の原因と対策。東京農試特報 18: 203-208。[謄写。萎凋病とネコブセンチュウが原因。土壤消毒及び線虫抵抗性品種 Anahu の台木利用を試験。]
- 1 2 6. 仲宇佐達也・栗原茂次・橋本貞夫：トマト連作害の原因と対策。園芸学会昭37春研究要旨: 27。[講要]
- 1 2 7. 仲宇佐達也・田村光一郎・栗原茂次：ナスの連作害と土壤消毒の効果。農及園 37(2) 399-400。[連作及びD-D剤処理時の収量を比較。]
- 1 2 8. 西沢 務：カーテシアン・ダイバーによる数種植物寄生線虫の呼吸量の測定。応動昆大会講要 昭37: 27-28。[講要]
- 1 2 9. 織田一夫・高野誠義：殺線虫剤の小麦に対する葉害試験(続報)。関東病虫研報 9: 79。[土性、葉害の出なくなる薬剤施用後日数。]
- 1 3 0. 岡部広二：苗畑の土壤線虫について。青森林友 昭37年12: 1-7。[形態、生殖と

發育、被害、薬剤防除等を解説。]

- 1 3 1. 岡部広二：林業苗畑の線虫病の一例。林業技術研究集報。青森営林局、p.30-34。  
[主にネグサレセンチュウ。被害苗の伸長。]
- 1 3 2. 岡田正順：花卉栽培における田畑輪換および土壌消毒の利用。農及園 37(1) 240-244。[菌類、線虫、ネダニを対象。薬剤はクロルピクリン、D-D、EDB。カーネーション、マーガレット、キク、アスター、グラシオラス、シャクヤク、シクラメン、スイセンを扱う。]
- 1 3 3. 岡田利承・森 哲郎：殺線虫剤D-Dの拡散とその防除範囲。応動昆大会講要 昭37: 30。[講要]
- 1 3 4. 岡本 弘：早期水稻の種もみ消毒。植物防疫 16(3) 133。[線虫心枯病対策としての温湯消毒を含む。]
- 1 3 5. 岡野秋盛・本田暢苗・福留信明：殺線虫剤による土壌処理がタバコの生育に及ぼす影響。九州農業研究 24: 179-180。[クロルピクリン、D-D、EDB剤施用。初期生育は抑制されるが、中期以降は生育盛んとなり、増収。]
- 1 3 6. 恩田 清：病害虫の防除 第7節 園芸地帯における病害虫防除の発達 第1項 松江市津田地区における「そ菜」病害虫の防除発達。In: 島根県植物防疫史(島根県植物防疫協会編)。島根県植物防疫協会、松江、p. 490-496。[殺線虫剤の効果を認めたのは昭和27年。]
- 1 3 7. 小野邦明・赤沢淑紀：線虫捕食菌に関する研究 第II報 *Arthrobotrys conoides*, *Dactylella ellipsospora* の生長と培地の組成。日植病報 27(5) 262-263。[講要]
- 1 3 8. 小野邦明・大島俊市：線虫捕食菌に関する研究 第I報 *Arthrobotrys conoides*, *Dactylella ellipsospora* の生長と温度、pHおよび栄養の関係。日植病報 27(2) 89。[講要]
- 1 3 9. 大森秀雄・佐藤昭美：ダイズシストセンチュウに関する研究(2) ダイズシストセンチュウの水平・垂直分布。北日本病虫研報 13: 121-123。[作条に近い所、深さ10-25 cmにシスト多。]
- 1 4 0. 大島康臣・後藤 昭：2、3の九州産 *Tylenchorhynchus* 属線虫(Nematoda: Tylenchida) について。九病虫研会報 8: 44-47。[*T. clyatoni* (福岡県のツツジ)、*T. spp.* (熊本のだいず、沖永良部島のサトウキビ) の形態。]
- 1 4 1. 大島康臣・後藤 昭：日本産 *Tylenchorhynchus claytoni* に関する2、3の知見。応動昆大会講要 昭37: 27。[講要]
- 1 4 2. 太田朋子・松村清二：ビートと *Beta procumbens* との雑種について。育雑 12(3) 196-197。[講要。後者は線虫抵抗性。]
- 1 4 3. 太田勇吉・井上 敏：杉苗に寄生する *Pratylenchus* 属線虫の防除 I. 低地温期の土壌燻蒸処理とビニール被覆の併用の効果。日林東北支誌 14: 92-95。[ネコブ、ネグサレ、シストセンチュウにD-D施用。]
- 1 4 4. 大浦清介：時代別病害虫の被害状況。In: 島根県植物防疫史(島根県植物防疫協会編)。島根県植物防疫協会、松江、p. 1-44。[大正3年(1914) 野津六兵衛が初めて桑の生育不振が線虫の害と確認 p. 39。]
- 1 4 5. 大浦清介：病害虫の防除 第5節 昭和前期時代(昭和元年~20年)。第3項 防除の督励。同上、p. 302-323。[桑園の線虫防除 p. 322-323。]
- 1 4 6. 大浦清介：病害虫の防除 第6節 昭和時代後期(昭和21年以降)。第3項 病害虫の防除奨励。同上、p. 469-490。[昭和35年度土壌線虫検診防除計画 p.482-484。]
- 1 4 7. 大浦清介：病害虫の防除 第7節 園芸地帯における病害虫防除の発達。第5項 土壌線虫防除事業。同上、p. 509-510。[収量調査結果(ニンジン、ハクサイ、カンラ



- ン)及び線虫防除による収益を表として示す。]
148. 尾添正雄: 農薬及び防除器具, 同上, p. 511-592. [殺線虫剤 p.547-548. 土壤消毒機 p.583-584. ]
149. 尾添 茂: 作物病害虫の試験研究史 第1節 概説, 同上, p. 623-628. [土壤線虫は昭和32年から。]
150. 三枝敏郎: ネコブ線虫の防除法, 農及園 37(2) 385-388. [輪作、混作、抵抗性品種の利用、施肥の改善、グラジオラス球根の温湯処理、殺線虫剤施用。]
151. 斉藤 肇・松本定雄: 殺線虫剤(D-D)の使用時期に関する試験, 日蚕関西講要 25: 11-12. [講要]
152. 斉藤 敬・呉羽好三・大槻 昭・小林和男・関谷一郎: 桑のネコブセンチュウ (*Meloidogyne arenaria*) に対するDBCP剤の施用法について, 関東病虫研報 9:77. [濃厚液の手動機注入より希釈液の多量灌注が効果。4月中下旬の発芽前処理が適当。]
153. 斉藤靖雄: 殺線虫剤注入器でクロールピクリンは使えるか, 植物防疫 16(6)265. [土壤消毒器の使用法及び使用後の洗浄、整備を解説。]
154. 酒井久夫・吉村清一郎: Stunt nematodeによる"つつじ"の被害について, 九病虫研会報 8: 50-51. [ナミイシユクセンチュウ (*Tylenchorhynchus claytoni*): 病徴、防除(クロールピクリン、D-D、ネマヒューム、ペーバム)。]
155. 佐久間忠雄: イチゴの採苗時期と育苗法, 農及園 37(9) 1465-1468. [芽線虫防除(ホリドール散布)にふれる。]
156. 桜井 清・湯原 巖・木村 宏・高倉重義・堤 正明・稲垣春郎: 殺線虫剤処理によるテンサイのキタネコブセンチュウの防除, 北日本病虫研報 13: 33-35. [D-D、EDB剤が高い効果。DBCP剤は線虫密度低下程度が少ない。]
157. 桜井 清・湯原 巖・山田英一: ゴボウに発生したネグサレセンチュウとその防除, 北日本病虫研報 13: 179-180. [D-D剤60ℓ/10a 施用の効果が優れ、DBCP剤では葉害。]
158. 佐々木篤太・木村 宏・高倉重義・桐山優光: キタネコブセンチュウによるテンサイの被害量, 北日本病虫研報 13: 31-33. [線虫数とテンサイ生育は逆相関。根中糖分、純糖率には線虫寄生の有無による差なし。]
159. 佐藤昭美・大森秀雄: 土壤の種類および低温時処理による殺線虫剤の効果, 北日本病虫研報 13: 175-176. [ニンジンのネコブセンチュウ防除。EDB剤は火山灰土で、D-D剤は砂土で効果小。両剤とも低温期(11、3月)に使用可。]
160. 佐藤正人・猪狩俊夫: 土壤線虫防除剤の使用試験, 造林技術研究集録(前橋造林局) 1961: 80-87. [線虫記述なし。D-D、EDB剤施用により苗の生育増大。]
161. 清家義明: *Helicotylenchus nannus*の抽出率について, 愛媛農試研報 2: 81-83. [ベルマン法、篩別法、Seinhorst法の比較。第2法の後の第3法使用が好成績。]
162. 関川 清: 石灰窒素による人蔘の根瘤線虫防除試験, In: 線虫(ネマトード)防除と石灰窒素, 石灰窒素普及会、東京, p. 13-18. [DBCP剤と同程度か、上回る効果。同剤施用時と収支計算結果を比較。]
163. 関谷一郎・呉羽好三: 殺線虫剤注入前の耕起と効果について, 植物防疫 16(7) 289-294, 1 pl. [D-D、EDB剤とネコブセンチュウ。無耕起又はロータリー耕の後で深さ10~15cmに注入すると高い効果。]
164. 関谷一郎・呉羽好三・早河広美・中沢嘉富・柴本 精: 殺線虫剤注入前の耕起方法とネコブセンチュウ防除効果との関係について, 長野農試研究集報 5: 270-288. [キタネコブセンチュウにD-D、EDB剤施用。]
165. 柴本 精・呉羽好三・田川憲夫: ダイズシストセンチュウの発生消長と大豆連作

- との関係について、応動昆大会講要 昭37: 29. [講要]
166. 波谷正夫・井上頼教：ナスの連作による生育障害とその防除について。園芸学会昭37春研究要旨: 27. [講要。ネコブセンチュウが原因。]
167. 波谷正夫・岡田正順・真家丈夫：キクの連作土壌の生育障害とその防除について（第2報）。園芸学会昭37春研究要旨: 43-44. [講要]
168. 繁浪和夫：作物別病害虫の発生と被害状況。In: 島根県植物防疫史（島根県植物防疫協会編）。島根県植物防疫協会、松江、p. 45-145. [心枯線虫病（昭和24年に同県で発生を確認） p. 58、クワセンチュウ（同大正3年） p. 121.]
169. 繁浪和夫：病害虫の防除 第4節 大正時代 第2項 防除法。同上、p. 192-235. [クワセンチュウ p. 227-228.]
170. 繁浪和夫：病害虫の防除 第5節 昭和時代前期（昭和元年～20年） 第2項 防除法。同上、p. 255-302. [クワセンチュウの防除法を昭和6年9月5日付松陽新聞記事及び昭和10年の島根県病害虫予防指針から引用 p. 298.]
171. 繁浪和夫：病害虫の防除 第5節 昭和時代後期 第2項 防除法。同上、p. 342-368. [線虫心枯病 p. 358-359、土壌線虫 p. 467-468（昭和35年度病害虫防除指針から引用）。]
172. 塩川晴寿・中山喜平・石井五郎・桑名寿一：桑のネコブセンチュウについて（5）桑園におけるネマゴン使用の効果。蚕糸研究 41: 22-32. [無処理との比較で、施用3年目の桑収量は5割増。]
173. 白浜賢一・福井 功：石灰窒素による三寸人参の根癌線虫防除試験。In: 線虫（ネマトーダ）防除と石灰窒素。石灰窒素普及会、東京、p. 18-22. [無処理と比べ収量の差はないが、上物率が増加。]
174. 白浜賢一・松村欣一：石灰窒素による長茄子の根癌線虫防除試験。In: 線虫（ネマトーダ）防除と石灰窒素。石灰窒素普及会、東京、p. 22-23. [線虫寄生率半減、収量4割増。]
175. 白崎暉雄・杉本達美：ナスの生育に及ぼす殺線虫剤の影響。北陸病虫研報 10: 86-88. [D-D、EDB剤は有効。DBCP剤（粒剤、乳剤）は葉害あり。]
176. 杉本達美・白崎暉雄：センチュウの游出法についての2、3の実験。北陸病虫研報 10: 62-63. [土壌改良剤ソイルラックの分離1～8日前土壌添加により、ベルマン法の分離虫数増加。砂の加用も同様の効果。]
177. 只野正志：線虫類：発生。In: 動物系統分類学（内田 亨監修）4。袋形動物。中山書店、東京、p. 119-141. [動物寄生種が主体。スセンチュウ (*Trubatrix aceti*) の卵発生・器官形成、植物寄生性・昆虫寄生性線虫の生活史を含む。]
178. 田尻矩次郎：昭和初期頃の思い出。In: 長崎県農業試験場史。長崎県総合農林センター、諫早、p. 116-121. [岩里間佐一（長崎農試種芸主任）：水稻ネマトーダの被害に先鞭をつける。]
179. 高橋保夫：これからの田畑輪換。農及園 37(9) 1447-1450. [線虫記述なし。歴史、最近の動き、今後の問題点等につき述べる。同誌36・37巻に田畑輪換関連記事が多い。No.61-197も参照。]
180. 高瀬 昇：暖地におけるテンサイ栽培のこつ。農及園 37(8) 1297-1300. [DBCP剤施用を含む。「線虫害があれば、いかに他の栽培管理をしても無駄」]
181. 竹下晴彦・横尾多美男：苗畑における線虫防除試験（予報）。日林九支研論 16: 70-72. [モリシマアカシアのネコブ、ネグサレ、ラセン、オオハリセンチュウにクロルピクリン、D-D、EDB、DBCP剤。]
182. 田中 勇：サツマイモネコブセンチュウ (*Meloidogyne incognita* var. *acrita*

- Chitwood, 1949) の試験管培養に関する研究. 鹿児島たばこ試報 10: 1-42, 17 pls.  
 [研究史、培養法、生活環 (一世代所要日数、産卵数、寄生性、こぶの形成と発達)、  
 継代世代の形態、寄主体侵入 (侵入部位、移動等).]
183. 田中 勇: ネコブセンチュウの生活環におよぼす試験管継代培養の影響. 応動昆  
 大会講要 昭37: 28. [講要]
184. 田中 勇: 寄主植物が存在しない状態におけるネコブセンチュウの寄生性の存続  
 . 九病虫研会報 8: 81. [講要]
185. 田中 勇: 最近タバコで発生したハガレセンチュウについて. 葉たばこ研究 29:  
 44-47. [病徴、寄主植物、病原、生態、防除。]
186. 種市賢蔵: 青森県のりんごに対する線虫問題. 今月の農薬 6巻4: 112-114. [ネ  
 コブセンチュウの被害、薬剤防除。]
187. 田坂耕一郎: ビニールハウス栽培 [5]. 農及園 37(10) 1695-1698. [D-D、  
 EDB、DBCP、メチルプロマイド剤による線虫防除を含む。]
188. 田坂耕一郎: ビニールハウス栽培 [7]. 農及園 37(12) 1993-1996. [キュウリ  
 の線虫防除にふれる。]
189. 手塚 浩・高倉重義: キタネコブセンチュウの防除に関する研究 (第3報) キタ  
 ネコブセンチュウによるアズキの被害解析. 北日本病虫研報 13: 123-124. [線虫密度  
 の高い所では被害著しい。]
190. 津軽承捷: 青森県の土壌線虫. 今月の農薬 6巻4: 98-100. [ネコブ、シスト、ネ  
 グサレセンチュウの被害、薬剤防除。]
191. 津軽承捷: 青森県における線虫の春期防除上の注意. 今月の農薬 6巻4: 117-119.  
 [D-D、EDB、DBCP剤の施用と温度の関係等。]
192. 内田 亨: 袋形動物: 総説. In: 動物系統分類学 (内田 亨編) 4. 袋形動物,  
 中山書店、東京、p. 1-8. [各綱の類縁関係、他の門との関係。]
193. 上住 泰: 奈良県産植物寄生性線虫について. 関西病虫研報 4: 69. [16種30種  
 以上を確認。]
194. 鷺尾貞夫: ネグサレセンチュウに関する調査 第1報 青森県における発生分布  
 について. 北日本病虫研報 13: 130-132. [ネグサレ、ネコブ、ダイズシストセンチュ  
 ウの検出頻度をまとめる。]
195. 鷺尾貞夫: ネグサレセンチュウに関する調査 第2報 *Pratylenchus penetrans*  
 の寄生によるナタネの生育不良について. 北日本病虫研報 13: 132-133. [線虫寄生が  
 影響。]
196. 山田隆保: マッシュルーム菌に寄生する *Ditylenchus myceliophagus* の生態に関  
 する研究 (I) 休眠処理と蘇生. 高峯研年報 14: 138-141. [乾燥又は 5°C 処理で休眠  
 状態になる。]
197. 山極栄司: 田畑輪換と水利用. 農及園 37(1) 11-16. [線虫記述なし. 忌地現象  
 の回避にふれる。]
198. 山口福男: イチゴの芽を加害する *Nothotylenchus acris* Thorne とその防除につ  
 いて. 植物防疫 16(9) 373-377, 1 pl. [加害状況、被害の季節的推移、線虫の寄生数  
 、線虫の増殖、防除 (ディブテレックス散布).]
199. 山本敏夫・近藤鶴彦: サトイモのネグサレセンチュウに関する研究 (第1報).  
 応動昆大会講要 昭37: 29. [講要]
200. 山下幸彦・栗原徳二: DBCP剤によるビートのネコブセンチュウ防除に関する  
 研究 (2) DBCP乳の防除効果. 九州農業研究 24: 177-178. [播種 10-15日後の施  
 用で十分な効果。]

201. 谷中清八・尾田啓一・星野三男・滝田泰章・熊沢隆義：オカボシトセンチュウに関する研究 第2報 薬剤施用による線虫の繁殖および陸稲の生育におよぼす影響。関東病虫研報 9: 71. [EDB剤施用圃場は増収するが、シスト数は収穫期には無処理と同じ。シストの垂直分布調査を含む。]
202. 横川登代司：苗木を加害する線虫類と防除について(予報)。72回日林論: 263-268. [スギ、ヒノキのネコブ、ネグサレセンチュウにD-D、EDB、DBCP剤。]
203. 横木清太郎・渡辺 弘：ビニルハウス利用のグロキシニアの生産。農及園 37 (11) 1807-1813. [Aphelenchoides olesistusによる葉枯線虫病(球根の温湯処理)を含む。]
204. 横尾多美男：日本産ネグサレセンチュウ類の分類並びに生態に関する調査。佐賀大農彙 14: 161-216. [主に文献から引用。分類、形態(計測値)、寄主。]
205. 横尾多美男：嬉野茶園土壌の線虫相に関する調査：茶樹を中心とした土壌線虫類の分布状況。九病虫研会報 8: 47-50. [リングネマ、Pratylenchus loosi、Mononchus、Dorylaiimus(5種)、Cephalobus、Rhabditisの垂直・水平分布。]
206. 吉田 猛：千葉県における植物寄生線虫の種類と分布(1961年までの調査結果)。関東病虫研報 9:75. [検出線虫のリストおよび発生場所、主な寄主植物、検出頻度。]
207. 吉田 猛：イチジクのネコブ線虫防除効果。今月の農薬 6巻6: 57-60. [被害、症状、生態、DBCP剤施用効果。]
208. 吉井孝雄・松崎征美：桃のネコブセンチュウの薬剤による防除について。高知農試研報 3: 86-87. [DBCP剤の施用効果。]
209. 吉井孝雄・松崎征美・石本 茂：殺線虫剤の土壌注入後の水封液封の効果。高知農試研報 3: 88-89. [キュウリのサツマイモネコブセンチュウにD-D、EDB、DBCP剤施用。]
210. 吉沢中夫・塩沢淳一：ダイズシストセンチュウに対する殺線虫剤の施用時期について。関東病虫研報 9: 70. [D-D剤よりDBCP剤が被害を少なくする傾向。春処理は秋処理に若干まさる。]
211. 湯浅利光・大野敏朗・小倉政衛・高浜健三：いちじく畑におけるネコブセンチュウの分布。関東病虫研報 9: 67. [樹幹を中心とし、地表下5-10cm、距離40cmに多い。]
212. 湯浅利光・大野敏朗・小倉政衛・高浜健三：いちじくのネコブセンチュウに対するDBCP剤の防除効果。関東病虫研報 9:76. [2年継続処理すると樹勢の回復顕著。]
213. 湯原 巖・稲垣春郎：牧草地における土壌線虫について。応動昆大会講要 昭37: 27. [講要]
214. 湯原 巖・堤 正明・稲垣春郎：北海道において果樹に寄生する線虫類。北日本病虫研報 13: 133-134. [リンゴ、ブドウ、ナシ、モモ。ネコブ、ネグサレセンチュウが多い。]
215. Anon. : 土壌線虫パイロット防除の概要。北農 29巻8: 23-26. [北海道における実施状況。]
216. Anon. : 線虫(ネマトーダ)防除と石灰窒素。In: 線虫(ネマトーダ)防除と石灰窒素。石灰窒素普及会、東京、p. 3-8. [線虫、石灰窒素の概要。ネコブセンチュウに対する施用法、施用量、時期、注意。]
217. Anon. (千葉大園芸学部付属日本園芸生産研究所)：石灰窒素によるネマトーダの根瘤線虫防除試験。In: 線虫(ネマトーダ)防除と石灰窒素。石灰窒素普及会、東京、p. 23-24. [高い効果を認める。]
218. Anon. (農林省農薬検査所)：農薬の公定検査法(6)EDB剤の分析法。農薬生産技術 6: 40-42. [ボルハード法による手順、原理、注意点。]

219. Anon. (農林省北海道農試病昆虫部虫害2研) : 殺線虫剤によるダイズシストセンチュウの防除. 北農 29巻8: 12-19. [年間発生消長、D-D、EDB、DBCP剤のシスト内の卵・幼虫に対する効果、圃場試験。]
220. (愛知園試) : 石灰窒素施用による「ひのな」の根癌線虫防除試験. In: 線虫(ネマトーダ)防除と石灰窒素, 石灰窒素普及会、東京、p. 34-36. [EDB剤と同程度か、やや勝る効果。10 a/80 kg が適量。]
221. Anon. : 土壤線虫パイロット防除の概要. 北農 28巻8: 23-26. [甜菜のキタネコブセンチュウ、大豆のダイズシストセンチュウのD-D、EDB剤により防除。]
222. Anon. (北海道立農試北見支場病虫課・北海道農試病昆虫部虫害2研) : 甜菜に寄生するキタネコブセンチュウの被害とその防除. 北農 29巻8: 1-12. [寄生状態、根癌着生程度と収量、D-D、EDB、DBCP剤による防除。]
223. Anon. (北海道立農試空知支場病虫課) : 殺線虫剤による人参キタネコブセンチュウ防除. 北農 29巻8: 19-23. [D-D、EDB、DBCP剤施用と経済性。]
224. Anon. (新潟林試) : 試験研究十年の歩み. 新潟県林業試験場、5+132 pp. [「立枯病防除試験」 p.36-38. 「苗畑不良の原因が、土壤線虫による場合がすくなくないことが解ってきました」]

### 昭和38年 (1963)

1. 赤沢倭紀・小野邦明 : Dactylella ellipsospora によるサツマイモ根こぶ線虫の防除について. 日植病報 28(5) 297-298. [講要]
2. 近岡一郎 : DBCP剤の薬害. 植物防疫 17(6) 243. [薬害の出やすい作物(タバコ、ジャガイモ、ピーマン、タマネギ、ネギ、レタス、ゴボウ)、症状、播種時処理と生育期処理、施用方法、処理時期、土壌と薬害。]
3. 近岡一郎 : 土壤線虫の季節的消長と作付様式との関係について. 10回生態学会講要: 14. [講要]
4. 近岡一郎 : 低温時の殺線虫剤の殺卵力. 今月の農業 7巻1: 9-11. [No. 62-5 を参照。]
5. 藤本啓一・岸川実一・横山昭一・松本清蔵 : 殺線虫剤に関する研究 第7報 アクリル酸エステル類およびそのハロゲン附加化合物の殺線虫力. 関東病虫研報 10: 84. [直接的な殺線虫力は強いが、ガス拡散が悪く燻蒸剤としての実用性なし。]
6. 藤本 清・山根伸夫・山口福男 : 兵庫県における植物寄生性線虫の分布について. 中国農業研究 27: 46-48. [16属を検出。土性・作物別の検出率をまとめる。]
7. 藤村俊彦・安部 浩 : D-Dが作物の生育に及ぼす影響(予報). 中国農業研究 25: 23-26. [D-D剤が直接作物の生育を促進。]
8. 深沢永光 : イチゴのメセンチュウ. 植物防疫 17(8) 329. [被害症状、防除法(健全苗の選択、ホリドール、ディブテレックス散布)。]
9. 深沢永光・小林義明・中田正彦 : 水稻根に寄生する Radopholus 属線虫についての2、3の知見. 関西病虫研報 5: 70-72. [講要. R. oryzae の近似種. 静岡県下に広く分布。クロルピクリン、D-D、EDB、DBCP剤処理により稲倒伏。]
10. 福留信明・田中 勇 : 土壤線虫の消長に及ぼす土壌消毒の影響について I. クロルピクリン消毒の影響. 九州農業研究 25: 138-140. [タバコ圃場に薬剤を施用した4月後には無処理区よりネコブセンチュウ増加。]
11. 後藤 昭 : ベルマン法を主とした土壤線虫の調査について. 九州農業研究 25: 141. [ネグサレセンチュウの分離率. ベルマン法・ふるい分け法: 10~40%。ふるい分け法

- : 30%前後。遠沈浮遊法：前記三法の数倍。]
- 1 2. 後藤 昭：ネグサレセンチュウの種類と分布について。今月の農薬 7巻8: 40-43。  
[日本における種類と分布の特徴。]
  - 1 3. 後藤 昭・大島康臣：九州の線虫相より(3)。九病虫研会報 9: 67-68。[9属13種以上の線虫の検出地と寄主を記録。]
  - 1 4. 後藤 昭・大島康臣：日本産ネグサレセンチュウの種類と分布に関する知見。応動昆 7(3) 187-199。[9種 (*Pratylenchus coffeae*, *P. loosi*, *P. neglectus*, *P. vulnus*, *P. penetrans*, *P. zeae*, *P. crenatus*, *P. convallariae*, *P. thornei*) の形態、計測値等。]
  - 1 5. 後藤 昭・大島康臣：ネグサレセンチュウの分布よりみた日本(予報)。応動昆大会講要 昭38: 29。[講要]
  - 1 6. 後藤重喜・岩橋哲彦・川越 仁：南九州におけるネコブセンチュウの種類について。九州農業研究 25: 143-145。[*Meloidogyne incognita*, *M. incognita* var. *acrita*, *M. javanica*, *M. hapla* を検出。寄生性、発育ステージ別の計測値を示す。]
  - 1 7. 後藤重喜・川越 仁・岩橋哲彦：低温時における殺線虫剤の効果について。九州農業研究 25: 142。[ミナミネグサレセンチュウに対しEDB、DBCP、D-D剤の順に高い効果。]
  - 1 8. 萩屋 薫：花卉球根栽培法 [8]。農及園 38(9) 1459-1462。[球根線虫病：ヒヤシンス、チューリップ、スイセン、アイリスの病徴、防除法(圃場のD-D剤処理、球根の温湯処理)。]
  - 1 9. 浜 武人：長野県下の林業苗畑における線虫について。森林防疫ニュース 12(3) 58。[ヒノキ、カラマツ等からの検出線虫数。線虫未同定。]
  - 2 0. 橋本平一：林業苗畑における線虫病の実態についての2、3の知見。福岡林試時報 16: 153-167, 4 pls。[樹種・土性・前作と検出線虫、病徴、垂直分布、発生消長・施肥と発生数の関係。]
  - 2 1. 橋本平一：林業苗畑におけるスタントネマトーダおよびネグサレセンチュウに対する殺線虫剤の効果について。日林誌 45(1) 33-36。[クロルピクリン、D-D、EDB、DBCP剤、木酢液の施用効果。]
  - 2 2. 橋本平一：2、3の線虫による被害苗の徴候について。日林九支講 16: 72-73。  
[モリシマアカシア、スギに対するサツマイモネコブ、ネグサレ、イシユクセンチュウの加害症状。]
  - 2 3. 橋岡良夫：イネ茎線虫病 (*Ufra*) の病徴発現と伝染性。日植病報 28(2)68。[講要]
  - 2 4. 橋岡良夫：The rice nematode, *Ditylenchus angustus* in Thailand. FAO Plant Prot. Bull. 11(5) 97-102。[タイのイネのクキセンチュウによる被害。病徴、雨・灌漑水・植物・種子・土壌による伝播、品種間差、寄主範囲、温度と感染との関係。]
  - 2 5. 橋岡良夫：Rice blast varietal resistance in relation to the local environments with notes on stem nematode and other diseases of rice in Thailand. Final Report to Food and Agricultural Organization of the United Nations. 66 pp。[謄写。タイのイネの病害。クキセンチュウによる被害を含む。]
  - 2 6. 林田 勉・北井三喜雄：蚕に発生した糸片虫病について。日蚕関西講要 27: 7。  
[講要]
  - 2 7. 引地直至：モモの根の伸長とネコブセンチュウ (*M. arenaria*) の侵入によるゴール発現との関係。北日本病虫研報 14: 24。[幼虫の侵入は、伸長活動初期の幼根のみ。]
  - 2 8. 平野和弥：土壌中のネコブセンチュウ卵の検出法 II。遠沈浮遊法による土壌中卵の分離。千葉大園学報 11: 51-57。[1.40の比重液で92.7%の検出率。砂土、砂壤土、

- 壤土、埴土の順に検出率低下。卵囊の検出率は砂土で80%。]
29. 平野和弥: モモの検診についての資料. In: 永年作物の検診に関する資料 (土壤線虫資料 第1号). 日本植物防疫協会、東京、p. 43. [謄写]
30. 広瀬健吉: 果樹園における土壤施肥. 植物防疫 17(4) 141-143. [リンゴ、モモ、ミカンへのDBCP剤施用を含む。]
31. 広瀬健吉・伊藤喜隆・酒井 保・須藤山路: ナガイモの黒変障害の防除. 関東病虫研報 10: 58. [D-Dは効果あり。ただし症状は線虫に無関係。]
32. 堀 裕: そ菜・花卉のれき耕栽培 [11]. 農及園 38(11) 1745-1748. [ホルマリンによるベッド内の消毒を含む。線虫に対しては同剤の50倍液を灌注。]
33. 堀 正侃: 病害虫防除における土壤施肥の意義. 植物防疫 17(4) 125-126. [線虫防除 (殺線虫剤施用) の問題点、今後の見通し等を含む。]
34. 堀 輝樹・西沢 務: 殺線虫剤の室内検定法の吟味. 関西病虫研報 5: 73. [講要。サツマイモネコブセンチュウ、イネシガラセンチュウとD-D、EDB、DBCP剤を供試。イネシガラセンチュウはEDB感受性が低い。]
35. 星野三男・谷中清八・尾田啓一・熊沢隆義: ネグサレセンチュウに対するEDBの効果. 関東病虫研報 10: 78. [ゴボウのキタネグサレセンチュウに32.4 l/10 aで効果。無処理区は発芽30日後位から生育が著しく劣り収量皆無。]
36. 市川伊三郎・樋口泰三: キクに寄生するネグサレセンチュウの防除 (その1). 九病虫研会報 9: 65-67. [D-D、EDB剤の土壤灌注が有効。DBCP80%乳剤3 l/10 aで葉害。苗のサツセン、シストックス浸漬処理もよい。]
37. 一戸 稔: 殺線虫剤施用に関する最近の話題. 植物防疫 17(4) 144-146. [サイネムの効果はDBCPに匹敵するか、DBCP粒剤と肥料の混用、スプリンクラーによる果樹園のDBCP散布、除草剤がベントグラスの線虫に有効、捕食菌による線虫防除はむずかしい。]
38. 一戸 稔: 水田の線虫: イネネモグリセンチュウとその問題. 農業技術 18(8) 356-359. [分類、生態、問題発展の経過、線虫と秋落との関連、ジャワのイネ病害「メタ」と線虫、わが国での線虫による被害。]
39. 一戸 稔・中國和年: 牧草地の線虫調査. 応動昆大会講要 昭38: 28. [講要]
40. 一戸 稔・中國和年・岡本好一: 牧草・飼料作物の線虫. 植物防疫 17(11) 449-452. [千葉県、島根県太田市からの検出線虫のリスト、計測値。クローバー類等のEDB剤施用効果。]
41. 飯島 鼎・一戸 稔・国井喜章・白浜賢一: 土壤線虫読本 改定版. ネマヒューム普及会、東京、124 pp., 8 pls. [線虫全般にわたる概説書。畑作と土壤線虫、植物寄生線虫概論、土壤線虫の防除概論、おもな殺線虫剤の性状と使いかた、殺線虫剤の一般的な使用法と使用上の注意、永年作物の線虫害とその防除法。No.60-36の改訂版。]
42. 飯島 勉・本橋精一: 接木苗によるトマト萎凋病の防除. 農及園 38(8) 1273-1274. [Anahu系接木苗: 萎凋病・夏疫病・ネコブセンチュウに抵抗性。]
43. 今井正信: 目でみる防除器具: 土壤消毒機. 農業 10巻2: 30-31, 2 pls. [液剤用、粒剤用の機種を図示、解説。]
44. 今井正信: 目でみる防除器具: 畑作の病害虫防除機. 農業 10巻2: 40-41, 2 pls. [土壤消毒機4種を図示、解説。]
45. 稲垣春郎・湯原 巖: ハッカ地下茎の腐敗に関与する線虫について. 応動昆大会講要 昭38: 30. [講要]
46. 稲垣春郎・湯原 巖: ハッカ地下茎の腐敗に関与する線虫について. 北日本病虫研報 14: 121-122. [ピンセンチュウが腐敗の一因と推定。]

47. 井上 寿:ダイズシストセンチュウに関する調査 第18報 ダイズの被害解析. 北日本病虫研報 14: 118-119. [大豆の生育、収量を調査。「7月上・中旬の調査によってほぼ収量におよぼす程度が予測できる」]
48. 井上 寿:ダイズシストセンチュウに関する調査 第19報 休閒地におけるシストの消長. 北日本病虫研報 14: 119-120. [蔵卵シストは2年目以降減少。ただし4年目でも小数検出。]
49. 井上 寿:ダイズシストセンチュウに関する調査 第20報 窒素質肥料の追肥と被害との関係. 北日本病虫研報 14: 120-121. [追肥により被害をある程度防止可能。シスト数は増加。]
50. 井上 寿:ダイズシストセンチュウに関する調査 第21報 薬剤の秋季注入による防除効果. 北日本病虫研報 14: 161-162. [EDB剤秋季施用は春季に比して効果が劣る。]
51. 井上 寿:ダイズシストセンチュウに関する調査 第22報 ダイズの生育中における薬剤の注入の効果. 北日本病虫研報 14: 162-163. [5月中下旬に播種した場合、6月30日以降D-D剤施用では被害。EDB剤の6月10~20日の施用が適当。]
52. 井上 寿:ダイズシストセンチュウに関する調査 第23報 殺線虫剤の持続効果. 北日本病虫研報 14: 164-165. [D-D、EDB剤の効果は施用当年のみ。]
53. 石橋信義・気賀沢和男・国井喜章:ネコブセンチュウ (*Meloidogyne incognita* var. *acrita*) の生理的食塩水内産卵. 動雑 72(6) 170-176. [実験条件(溶液の浸透圧、雌成虫の大きさ、卵嚢の着色度、温度)を検討。]
54. 石橋信義・国井喜章:ネコブセンチュウの産卵に関する研究 1. 卵の物質の着色硬化にともなう雌成虫の産卵力減退. 動雑 72(8) 217-223. [「産卵力を低下させるものは、ageにともなう雌成虫の生理的活力の低下のほか卵の硬化それ自身が機械的抑制因子として考えられる」]
55. 石橋信義・国井喜章:ネコブセンチュウの電離放射線感受性. 応動昆大会講要 昭38: 31. [講要]
56. 石亀英徳・及川英雄・佐藤昭美:くわのネコブ線虫防除に関する試験(II) 桑園におけるネコブ線虫の時期別発生消長. 日蚕東北講要 17: 32. [講要]
57. 石亀英徳・田口恒雄・及川英雄・及川 弘:くわのネコブ線虫防除に関する試験(1) 曲取苗の曲込時期における薬剤処理の効果. 岩手蚕試年報 10: 108-111. [謄写。DBCP、EDB剤の効果。ネコブセンチュウ、ピンセンチュウ。]
58. 石黒嘉門:愛知県を中心としたそ菜栽培の諸問題 [11]. 農及園 38(11) 1771-1775. [ナスの促成床土の消毒「気温15°C以下の時はメチルプロマイドを使用する」]
59. 石井五郎・江森 京・樋田幸夫:桑のネコブセンチュウ(6) 桑根寄生の發育経過と越冬前の根瘤状況. 蚕糸研究 47: 67-71. [年間2~3世代。越冬前の卵嚢中の發育ステージは卵嚢が大部分。]
60. 石川元一:オカボのネグサレセンチュウについて. 応動昆大会講要 昭38: 29-30. [講要]
61. 石川元一・犬東正美:チャ樹の線虫について. 関東病虫研報 10: 80. [ネグサレ、ネコブセンチュウの水平・垂直分布:地表下10cm程度に多。生育不良樹は線虫の生息数、被害度ともに多。]
62. 石川元一・高野光之丞:ニンジンのネグサレセンチュウ防除. 関東病虫研報 10: 77. [EDB30%油剤で54ℓ/10a必要。D-D剤の効果は期待できない。]
63. 石倉秀次:農業の進歩と農業生産. 農及園 38(1) 231-234. [土壤線虫パイロット防除地区の殺線虫剤施用による次の作物の増収結果を含む。ニンジン、ゴボウ、ダイコ



- ン、キャベツ、ハクサイ、ホウレンソウ、キウリ、トマト、ダイズ、ジャガイモ、サツマイモ。]
64. 伊藤喜隆：リンゴの検診についての資料(2)、(3)。In: 永年作物の検診に関する資料(土壤線虫資料 第1号)。日本植物防疫協会、東京、p. 4-31。[謄写]
65. 伊藤喜隆：ブドウの検診についての資料。In: 永年作物の検診に関する資料(土壤線虫資料 第1号)。日本植物防疫協会、東京、p. 32-42。[謄写]
66. 伊藤喜隆：果樹加害線虫の検診について。今月の農業 7巻8: 75-78。[植付け前の圃場の検診、立木圃の検診、調査位置の決定、検診結果と防除。]
67. 伊藤喜隆・広瀬健吉・須藤山路：りんご園およびぶどう園の線虫類の分布について。応動昆大会講要 昭38: 28。[講要]
68. 弥富喜三：殺線虫剤のじょうずな使いかた。ネマヒューム普及会、東京、32 pp。[DBCP剤に重点。「あすの農業」誌連載記事(未見)をまとめた。]
69. 垣谷誠一・菅家英治：DBCP剤による桑苗のネコブセンチュウ防除に関する試験第1報 処理方法および薬量について。茨城蚕試報 21: 26-32。[謄写。幅30cm、深さ10cm程度に畦間に散布し、覆土、鎮圧。20%粒剤で20kg/10a必要。]
70. 柿崎泰彦・千葉陸雄・小野 昭：桑のネコブセンチュウについて：寄生の実態について(II)。日蚕東北講要 17: 32-33。[講要]
71. 金子 武：静岡県牧之原茶園の土壤線虫、特に*Hemicriconeoides kanayaensis*(カナヤサヤワセンチュウ)について。茶業技術研究 28: 31-41。[線虫の静岡県内の分布、土壤中垂直分布、季節的消長、天敵(藻菌類)、寄生状況、ネグサレセンチュウにもふれる。]
72. 金子 武：チャの検診についての資料。In: 永年作物の検診に関する資料(土壤線虫資料 第1号)。日本植物防疫協会、東京、p. 53-60。[謄写]
73. 金子 武・一戸 稔：茶に寄生する線虫の種類と2、3の生態的知見。応動昆 7(3) 165-174。[7種(*Helicotylenchus dihystra*, *H. erythrinae*, *Hemicriconeoides kanayaensis*, *Meloidogyne incognita* var. *acrita*, *Paratylenchus curvatus*, *Pratylenchus loosi*, *Tylenchorhynchus nudus*)を記載、図示。土壤中における垂直分布、カナヤサヤワセンチュウの生態等を調査。]
74. 桂 琦一：殺線虫剤の殺菌力に関する2、3の実験。関西病虫研報 5: 11-14。[連結式ガラス管による殺線虫剤の土壤投下と殺菌力に関する試験。EDB、ペーパム、DBCP、トリジパム剤の植物病原菌に対する影響を調査。]
75. 桂 琦一・植村則大：トマト青枯病の発生における病原細菌とネコブセンチュウとの混合感染。京都府大学報 農学 15: 33-36。[病原細菌*Pseudomonas solanacearum*と線虫との混合感染によって発病。]
76. 川田惣平・与義実光：大豆、落花生に対する殺線虫剤の立毛処理に関する試験。関東病虫研報 10: 74。[EDB、DBCP剤の点注(一穴当たり1.8 cc)は優れた効果。葉害なし。]
77. 川越 仁・後藤重喜：ネコブセンチュウとキウリつる割病との関連について。九病虫研会報 9: 14-16。[サツマイモネコブセンチュウと*Fusarium*菌。カンショ、パレイショ、ウリ、ナス、テンサイ、トマト、ダイコン、タバコにも被害。クロルピクリン、EDB剤が効果あり。]
78. 河合一郎：イチゴの病害虫とその防除法。農業 10巻1: 50-54。[イチゴメセンチュウを含む。健全ランナーの育苗、ホリドール、ディブテレックス、ジメトエートの散布。]
79. 河村貞之助・平野和弥：*Pratylenchus* spp. と*Fusarium* spp. との干渉について。

- 日植病報 28(5) 286-287. [講要]
80. 川島嘉内: 薬用ニンジンの *Pratylenchus penetrans* に関する研究: 薬剤に対する抵抗性について. 北日本病虫研報 14: 165-166. [D-D剤の効果はEDB剤に劣る.]
81. 川島嘉内: *Hirschmannia oryzae* に関する研究 (I) 品種間差異について. 北日本病虫研報 14: 111. [供試した17品種の中では線虫寄生数に明瞭な差はなし.]
82. 川島嘉内: *Hirschmannia oryzae* に関する研究 (II) 雑草に対する寄生性について. 北日本病虫研報 14: 112-113. [イヌビエ、アギナシ、ヘラオモダカ、スズメノテッポウ、ハス等の根から検出.]
83. 川島嘉内: *Hirschmannia oryzae* に関する研究 (III) 各種薬剤の持続効果について. 北日本病虫研報 14: 158-159. [EDB、DBC P剤に比べ、D-D剤の効果大。2年間効果持続.]
84. 川島嘉内・藤沼敏子: *Hirschmannia oryzae* による稲の被害について. 応動昆大会講要 昭38: 30. [講要]
85. 気賀沢和男: イネ線虫心枯病の見分け方と防ぎ方. 植物防疫 17(9) 376. [イネカラバエの被害との違い、種籾消毒法 (サッセン、パラチオン、温湯浸漬).]
86. 気賀沢和男・土橋貞夫・国井喜章: 線虫被害と肥培. 関東病虫研報 10: 76. [ナス、キュウリとネコブセンチュウ。収量、ゴール指数は多肥、標準肥区間で大差なし.]
87. 気賀沢和男・国井喜章: *Hirschmannia oryzae* の生態に関する研究 II. 薬剤の線虫、水稻に及ぼす影響. 応動昆大会講要 昭38: 30-31. [講要]
88. 小林源二・馬場 正: D-Dの殺虫力について 第1報 イエバエの幼虫及蛹に対する効力. 関西病虫研報 5: 60. [講要。効果あり.]
89. 小林義明・深沢永光: 低温時における殺線虫剤の防除効果. 関西病虫研報 5: 72-73. [講要。D-D、EDB剤。1-4月の処理でも効果.]
90. 小宮書之助・工藤 馨: 大豆萎黄病防除に関する研究 (3) D-Dによる薬剤防除試験. 明大農研報 15: 1-6. [コンクリート枠試験。約19ℓ/10aを施用。線虫密度低下効果は施用当年のみ。収量は3年目でも増加.]
91. 小森 昇・川田惣平・高野誠義: イネ線虫心枯病の防除に関する研究. 茨城農試研報 5: 1-14. [種子のN-244の5%粉衣10、20日処理、REM-222、REE-200の1000倍12時間浸漬、出穂後穂揃期前のホリドール、ディブテレックス散布が有効。品種抵抗性を検定.]
92. 高野光之丞・村上正雄: ムギ類に対する殺線虫剤の影響について (III). 関東病虫研報 10: 83. [コムギに対するD-D剤の薬害を沖積土で試験.]
93. 高野光之丞・村上正雄・石川元一・一戸 稔・国井喜章: ゴボウのヤケについて. 応動昆大会講要 昭38: 31. [講要]
94. 工藤壯六: 畑作輪作の合理化. 農及園 38(6) 911-916. [大豆5年連作と他作物との輪作時の大豆収量比較を含む.]
95. 国井喜章・気賀沢和男: *Hirschmannia oryzae* の生態に関する研究 I. 水稻根への侵入. 応動昆大会講要 昭38: 30. [講要]
96. 蔵納久男: 柑橘線虫と研究の歩み. 柑橘 15巻7: 36-43. [ミカンネセンチュウ、ネグサレセンチュウの形態、生態、被害。国内の研究を紹介.]
97. 呉羽好三・市川久雄・柴本 精: *Hirschmannia oryzae* に対する薬剤処理時の圃場状態と防除効果. 応動昆大会講要 昭38: 31. [講要]
98. 前田速雄: トマトにおけるサツマイモネコブセンチュウ抵抗性の遺伝について. 園芸学会昭38春研究要旨: 19-20. [講要]
99. 真宮靖晴: 林業における線虫問題. 森林防疫ニュース 12(10) 200-203. [ネグサレ

- 、ネコブ、イシユク、ユミハリセンチュウを解説。防除にふれる。]
100. 増田清志・金子 武：茶園土壤線虫の防除効果について。茶業技術研究 28: 26-30. [挿木床のDBCP、EDB剤処理、改植園の植え付け前のEDB剤処理、幼木・成木園のDBCP剤処理。]
101. 松田 栄・綿原孝夫：広島県におけるイチゴの品種と栽培。農及園 38(7) 1083-1088. [メセンチュウの寄生により奇形果を生ずる。]
102. 三浦春夫：センチュウ防除畑におけるネコブセンチュウの発消長。北日本病虫研報 14: 115. [薬剤施用後6作した(3年後)圃場の線虫密度：防除前以下。]
103. 三浦春夫：低温時におけるネコブセンチュウの防除について。北日本病虫研報 14: 159-160. [D-D、EDB剤。前年12月上旬までに施用、ガス抜きは翌春。]
104. 三浦 脩・吉村修一・喜田和男・津田 稔：殺線虫剤の甘藷の生育に及ぼす影響について。関西病虫研報 5: 1-6. [砂地ではD-DよりEDB剤が有効。窒素多用区は莖まけ傾向。硝酸化成作用抑制にふれる。]
105. 三宅利雄・藤原昭雄・木村義典・中沢啓一：On the growth stimulating action of D-D emulsion. 広島農試研報 16: 1-7. [D-D乳剤は0.09 ppm~0.9ppbで水稻、裸麦、キュウリ、チシャの実生に対し伸長刺激作用を持つ。]
106. 森川 修：殺線虫剤の作用機構に関する研究 第1報 ワモンゴキブリの呼吸作用におよぼす影響。関西病虫研報 5: 73. [講要]
107. 森川 修：殺線虫剤の作用機構に関する研究 III. 応動昆大会講要 昭38: 32. [講要]
108. 守田美典：*Hirschmannia* sp.の苗代期における寄生について。北陸病虫研報 11: 61. [前年の古株の根にも寄生。]
109. 村井敏信・上杉康彦・鈴木照磨：殺線虫剤DBCPの簡易比色定量法。農業生産技術 8: 39-40. [Fujiwara反応を利用した新方法の紹介。]
110. 村上正雄・高野光之丞：ムギ類に対する殺線虫剤の影響について(II)。関東病虫研報 10: 82. [播種直後のコムギに対するD-D、EDB剤の被害を調査。]
111. 村上正雄・高野光之丞・相馬 茂：土壌pHと殺線虫剤に関する研究：殺線虫剤(D-D、EDB)が土壌pHにおよぼす影響(I)。関東病虫研報 10: 85. [D-D処理2週間内は若干酸性側に变化。]
112. 村上雅二・清松清高・加島了相：育苗法の相違が稲線虫心枯れ病の発生に及ぼす影響。九州農業研究 25: 55. [箱育苗では被害株の発生100%。]
113. 永沢 実・堀江典昭：ネコブセンチュウに対するD-D入り液肥の効果。東京農試特報 19: 75-79. [謄写。作物の種類によっては実用性あり。]
114. 永沢 実・堀江典昭：ネコブセンチュウに対するD-D入り液肥の効果。関東病虫研報 10: 75. [三寸ニンジンの播種20日前に施用、10日後にガス抜き。D-D、液肥を別々に施用するより高い効果。]
115. 永沢 実・堀江典昭：ネグサレセンチュウに対する各種殺線虫剤の効果。関東病虫研報 10: 79. [キタネグサレセンチュウにD-D、EDB、DBCP、クロルピクリン、日東NC-Na5を供試。後者2薬剤が高い効果。D-D、EDBはビニル被覆すると効果。]
116. 中國和年：本邦産Rotylenchulus 属線虫の種類と分布。応動昆大会講要 昭38: 29. [講要]
117. 仲宇佐達也・橋本貞夫・栗原茂次：ナスの連作者と抵抗性台木利用の効果。東京農試特報 19: 191-198. [謄写。ネコブセンチュウが原因。殺線虫剤施用、抵抗性ナス(米国大丸、平なす、赤なす)の利用が有効。]

118. 仲宇佐達也・栗原茂次・橋本貞夫：洪稈畑におけるナス連作害対策としてのつぎ木利用の効果。園芸学会昭38春研究要旨：26。〔講要。ネコブセンチュウ対策。〕
119. 仲宇佐達也・山崎正枝：陸稲の連作害に関する研究 第5報 土壌の薬剤処理と客土の害消去効果について。日作紀 31(4) 417。〔講要〕
120. 新留伊彦・永野邦弘・小芦健良：てん菜に寄生するネコブセンチュウの簡易防除法の検討。てん研報 補1: 38-39。〔DBCP乳剤、粒剤の効果が有り。〕
121. 西沢 務：新宮営林署有馬苗畑に発生する樹苗寄生線虫について。関西病虫研報 5: 74-75。〔講要。Pratylenchus coffeae, Tylenchorhynchus claytoni, Helicotylenchus nannus の計測値。No.63-154 も参照。〕
122. 西沢 務：ミカンの検診についての資料。In: 永年作物の検診に関する資料(土壌線虫資料 第1号)。日本植物防疫協会、東京、p. 47-52。〔謄写〕
123. 西沢 務・弥富喜三・古里和夫：Crotalaria属植物による線虫の生物的防除に関する研究(予報)。応動昆大会講要 昭38: 31。〔講要〕
124. 野口純隆・吉野 実：土壌消毒畑における暖地てん菜に対する硝酸態窒素施用の意義について。てん菜研報 補1: 19-21。〔チリ硝石無施用区では初期生育の遅延はあるが、収穫期には大差なし。〕
125. 野崎光夫・浅野清美・井上 徹：大豆シストセンチュウ防除に関する研究。東北農業研究 5: 131-133。〔線虫感受性品種・抵抗性品種の連・輪作(4年間)試験結果。〕
126. 尾田啓一・星野三男・谷中清八・熊沢隆義：オカボシストセンチュウに関する研究 第3報 被害解析。関東病虫研報 10: 71。〔ポット試験。100頭接種でも陸稲の生育、収量は有意な減少。〕
127. 岡田利承・森 哲郎：土壌燻蒸剤の拡散に関する研究 第1報 土壌中におけるD-Dの拡散とダイズシストセンチュウに対する防除範囲。北海道農試彙報 82: 1-7。〔拡散は注入点を中心とした楕円形。防除範囲もほぼ同じ。地表近くの効果は劣る。植物防疫 18(7) 292, 1964に抄録。〕
128. 岡野秋盛・本田暢苗・福留信明：殺線虫剤(Chloropicrin, D-DおよびEDB)による土壌消毒とタバコの生育 第2報 タバコの生育および成分におよぼす影響。鹿児島たばこ試報 11: 25-29。〔初期生育は抑制、中期以降生育旺盛。含窒素化合物含量が高く、全糖、澱粉含量は低い。〕
129. 岡野秋盛・本田暢苗・林 松雄：殺線虫剤(Chloropicrin, D-DおよびEDB)による土壌消毒とタバコの生育 第1報 アンモニアおよび硝酸化成におよぼす影響。鹿児島たばこ試報 11: 20-24。〔「アンモニア化成作用は処理後一時抑制されたが、それ以後は著しいNH<sub>4</sub>-Nの増加集積がみられた」。硝酸化成作用の抑制は顕著。〕
130. 小野邦明・小泉成徳：タバコのはがれセンチュウによる被害と防除について。日植病報 28(5) 298。〔講要〕
131. 小野邦明・大島俊市・赤沢淑紀：根癌線虫病に対する線虫捕食菌処理の効果。日植病報 28(2) 100。〔講要〕
132. 大橋雄司・佐藤昌良：ネコブセンチュウ(Meloidogyne sp.)に対するたばこの抵抗性の品種間差異並びにその検定法について。育雑 13(3) 189。〔講要〕
133. 大野賢一郎・西沢 務：殺線虫剤の葉害について、特に土性ならびに土壌水分と葉害との関係。関西病虫研報 5: 72。〔講要。D-D、EDB、DBCP剤。粘土、有機物の多い畑で葉害顕著。〕
134. 大島康臣・後藤 昭・市川伊三郎・大串竜一：長崎県における線虫分布調査。九病虫研会報 9: 69-70。〔畑作物・果樹からの検出線虫をまとめる。〕
135. 大島康臣・市川伊三郎：雲仙のゴルフ場の線虫について。応動昆大会講要 昭38

: 28. [講要]

136. 尾崎 薫・浅井三男: 畑輪作における前後作組み合わせ様式に関する研究 第2報  
ダイズシストセンチュウと前後作との関係. 北海道農試彙報 81: 11-21. [寄主栽培時  
には線虫密度増加. 非寄主では前作と同程度.]
137. 三枝敏郎・葭原敏夫・松本安生: 輸出球根産地におけるネコブ線虫の種類. 応動  
昆虫大会講要 昭38: 28-29. [講要]
138. 桜井 清: 畑地における土壌施薬: 害虫. 植物防疫 17(4) 137-138. [D-D剤  
の線虫以外の害虫に対する効果を含む.]
139. 桜井 清: リンゴの検診についての資料(1). In: 永年作物の検診に関する資  
料(土壌線虫資料 第1号). 日本植物防疫協会、東京、p. 1-3. [謄写]
140. 関谷昭二郎: 紅茶園の土壌線虫防除試験. 茶業技術研究 28: 22-25. [ネコブ、  
ネグサレセンチュウのDBCP剤による立毛中処理、D-D、クロルピクリン剤による  
挿木床施用. 植物防疫 18(9) 380, 1964に抄録.]
141. Sher, A. A.: Revision of the Hoplolaiminae (Nematoda) III. *Scute-  
llonema* Andrassy, 1958. *Nematologica* 9(3) 421-443. [*S. brachyurus* の内に日本  
のタチボウキ(アスパラガス属園芸植物)からの記録.]
142. 渋谷正夫: そ菜におけるネマトダの被害と防除法. 農及園 38(10) 1552-1556.  
[蔬菜の種類・栽培時期とネコブセンチュウ寄生によるゴール指数の違い. ナスの連作  
試験. 防除(播種・植付時期の移動、薬剤施用、輪作).]
143. 渋谷正夫: そ菜におけるネマトダの被害. 園芸学会昭38春研究要旨: 25. [講要]
144. 下川利之: 庭園木(ドラセナ)苗木にみられる根こぶ線虫について. 森林防疫ニ  
ュース 12(11) 234. [岡山県. 被害状況.]
145. 須藤山路・伊藤喜隆・酒井 保: ゴボウの黒変症状(ヤケ)の防除試験. 関東病  
虫研報 10: 19. [クロルピクリン剤が高い防除効果. D-D、ベーパム剤は劣る.]
146. 鈴木春夫・深沢永光: 高冷地育苗の病気と線虫. 農業技術研究 17巻8: 47-48.  
[メセンチュウを含む.]
147. 鈴木達彦・渡辺 巖: 農薬の土壌施用に伴う土壌肥料の問題点. 植物防疫 17(4)  
155-158. [D-D、EDB、クロルピクリン剤施用による土壌中の有機態窒素の無機化  
、硝化作用の抑制を解説.]
148. 鈴木照磨: 土壌施薬に関する2、3の問題. 植物防疫 17(4) 127-130. [土壌燻  
蒸剤の性質、土壌中での拡散・吸着などを含む.]
149. 高倉重義・手塚 浩: キタネコブセンチュウの防除に関する研究 第5報 網走  
地方における分布. 北日本病虫研報 14: 116-117. [65%以上の圃場に線虫. 15%は防  
除が必要.]
150. 高野誠義・織田一夫: 殺線虫剤に関する薬害試験. 応動昆虫大会講要 昭38: 31-  
32. [講要]
151. 滝田泰章・尾田啓一・谷中清八・星野三男: 殺線虫剤の陸稲生育におよぼす影響  
について. 関東病虫研報 10: 81. [オカボシストセンチュウの生息しない圃場で試験.  
D-D、EDB、クロルピクリン剤処理と無処理の生育差は小さい.]
152. 田中 勇: タバコハガレセンチュウに関する調査. 応動昆虫大会講要 昭38: 30  
[講要]
153. 田爪静夫・岩永 皓: 畑におけるビートの連作について. てん研報 補1: 31-  
32. [EDB施用3年後まで連作可能. 毎年施用では線虫被害は減少、黒斑病が増加.]
154. 寺下隆喜代: 土壌線虫について: 新宮営林署有馬苗畑の例を参考にして. みやま  
126: 100-106. [スギ、ヒノキ、クロマツからの線虫検出状況、防除.]

155. 照屋林宏：主要植物寄生性土壤線虫に関する研究 第1報 胡瓜畑におけるネコブセンチュウの棲息密度と寄生程度について。沖繩農業 2巻1: 61-63. [水平、垂直分布をベルマン法の分離虫数とゴール指数の関係で調査。]
156. 戸崎正弘：茶を侵す線虫に関する研究 (第1報) 寄生性線虫の成木茶園における水平及び垂直分布。関西病虫研報 5: 7-10. [ビン、サヤワ、チャネグサレセンチュウ、自活性線虫の樹幹を中心とした分布。]
157. 津川 力・山田雅輝・白崎将瑛・小山信行：リンゴ園における土壤線虫の被害と防除に関する研究 1. 青森県のリンゴ園における土壤線虫種類と分布について。北日本病虫研報 14: 122-124. [14属を検出。]
158. 鶴島久男：ビニールハウス栽培 [18] (B) 花卉の部。農及園 18(12) 1921-1924. [キクのはガレセンチュウ：ハウスでは少ない。]
159. 堤 正明：ダイズシストセンチュウの分離に関する2、3の実験。北日本病虫研報 14: 117-118. [土壌量25 g、温度25°C内外でベルマン法による接種幼虫の回収率が高い。]
160. 上住 泰：奈良県産植物寄生線虫類について (第2報)。関西病虫研報 5: 74. [講要。27種を記録。17種は種まで同定。]
161. 牛山欽司・大垣智昭：温州ミカンのいや地に関する試験 (第1報) 土壤消毒および土壌処理とミカン苗の生育 (1)。園芸学会昭38春研発表旨: 17. [講要]
162. 鷺尾貞夫：キュウリのネコブセンチュウにおける経済効果。北日本病虫研報 14: 168. [EDB剤によるキタネコブセンチュウ防除。収支計算をまとめる。]
163. 鷺尾貞夫：畑地土壌の病害虫と防除。青森農業 14巻9: 32-35. [D-D、EDB、DBCP剤によるネコブ、ネグサレセンチュウ防除を含む。]
164. 鷺尾貞夫・佐藤 保：ネグサレセンチュウに関する調査 第3報 タマネギにおけるネグサレセンチュウの防除。北日本病虫研報 14: 166-167. [D-D、EDB剤施用で乗害。]
165. 渡辺文吉郎：畑地における土壤施肥：病菌。植物防疫 17(4) 139-140. [「D-D、ネマゴンの使用によってトマト白絹病、レタス菌核病が多く誘発」。「DBCP剤がピシウム菌によく効果がある」]
166. 渡辺敏夫・安尾正元・石井和夫・永井政雄・市来小太郎：陸稲の連作障害に関する研究。農事試研報 5: 1-44. [鉄、マンガン欠乏、毒素、土壤微生物、線虫等について検討。オカボシストセンチュウが主要な原因と結論。]
167. 山田英一：イネネモグリセンチュウ *Hirschmannia oryzae* と北海道における分布。北農 30巻10: 13-17. [形態、被害、防除。]
168. 山田隆保：ヒマラヤ (ジュガール・ヒマール) の線虫 (予報)。応動昆大会講要昭38: 28. [講要]
169. 山口福男：草の線虫 *Nothotylenchus acris* Thorne とその防除について。関西病虫研報 5: 70. [講要。気温低下とともに症状消失。高温時には1芽当たり500頭で症状発現。1世代に20~30日 (適温下)。ディブテレックス、ホリドールが効果あり。]
170. 山本敏夫：サトイモとネグサレセンチュウ。農研 (三重農試) 8巻4: 7-11. [ミナミネグサレセンチュウによる病徴、被害、防除法。]
171. 山本敏夫・近藤鶴彦：サトイモのネグサレセンチュウに関する研究 (第2報)。応動昆大会講要 昭38: 29. [講要]
172. 山下幸彦・栗原徳三：DBCP剤によるビートのネコブセンチュウの防除 (3) DBCP粒剤の防除効果。九州農業研究 25: 136-137. [乳・粒剤による効果の差はない。10-15 kg/10 a で十分。]

173. 横川登代司：苗木を加害する線虫類と防除：ネグサレセンチュウに対する殺線虫剤の効果について。74回日林大会講要：279-281。〔講要。スギのキタネグサレセンチュウにEDB、D-D剤。〕
174. 横浜正彦・新井 茂：そ菜畑におけるクロールピクリンの土壤病害、土壤線虫に対する効果に関する試験。東京農試特報 19: 273-279。〔謄写。キュウリ、シユンギク、サラダナに施用。〕
175. 横浜正彦・新井 茂：そ菜畑におけるクロールピクリンの土壤病害、土壤線虫に対する効果に関する試験。関東病虫研報 10: 27。〔サラダナ、キュウリ。線虫の発生は少なく、傾向は不明瞭。〕
176. 横尾多美男：嬉野茶園土壤の線虫相に関する調査：殺線虫剤を施用した場合の変化と経済効果について。佐賀大農彙 16: 1-30。〔サヤワセンチュウ、チャネグサレセンチュウ、Mononchus, Dorylaimus, Cephalobus の樹幹を中心とした水平、垂直分布。EDB、DBCP剤施用による線虫密度の変化、茶樹の生育状況。〕
177. 横尾多美男：A new ring nematode, Hemicriconemoides ureshinoensis n.sp. found in the soil around the root of tea-plant with some notes on its distribution in the soil. 佐賀大農彙 16: 31-35。〔茶から検出されたサヤワセンチュウの新種の記載。現在はH. kanayaensisのシノニムとされている (Dasgupta, D.R., et al., J. Nematol. 1(2) 126-145, 1969)。〕
178. 横尾多美男：Nematological studies on the yellow patch of the green grass of golf links. I. On the nemic fauna in the green grass soil of the B. S. Golf Links near Tosu-City, Saga Prefecture. 佐賀大農彙 17: 141-156。〔ゴルフ場の芝の線虫の垂直分布、線虫相の構成、検出線虫のリスト。〕
179. 横尾多美男：病害虫研究の展望：線虫。植物防疫 17(1) 9-16。〔外国の研究を主に紹介。線虫の分類、生態、防除。わが国の研究からミカンネセンチュウの土壤中の分布、モリシマアカシア・桑の殺線虫剤施用効果を含む。〕
180. 横尾多美男：林業と線虫について (I)。林業技術 252: 12-15。〔線虫の種類。一般的な解説。特に林業を対象にした内容でない (以下の2報も同様)。〕
181. 横尾多美男：林業と線虫について その2。林業技術 253: 18-22。〔線虫の形態、被害、土壤中における分布。〕
182. 横尾多美男：林業と線虫について その3。林業技術 254: 24-30。〔防除。〕
183. 吉田 猛：各種殺線虫剤による落花生のキタネコブセンチュウの防除効果。関東病虫研報 10: 73。〔EDB剤が殺線虫力でDBCP剤その他にまさる。〕
184. 湯浅利光・高浜健三・大野敏朗・小倉政衛：モモ畑におけるネコブセンチュウの分布。関東病虫研報 10: 72。〔垂直分布。樹幹を中心とした水平分布。〕
185. 湯原 巖・稲垣春郎：ダイズシストセンチュウ抵抗性に関する研究 (II) 根部侵入幼虫の発育と抵抗性。北海道農試彙報 80: 94-120。〔幼虫の侵入数は品種間で大差なし。強度抵抗性品種では成虫に達せずに死亡。最強：PI90763, PI8471。強：Ilsoy, 東北6号、下田不知。弱い抵抗性：南部竹館。〕
186. 湯原 巖・稲垣春郎：牧草の発育、収量におよぼす線虫の影響。応動昆大会講要 昭38: 29。〔講要〕
187. 湯原 巖・堤 正明：マリーゴールドのネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウの生息密度におよぼす影響。北日本病虫研報 14: 113-114。〔キタネコブセンチュウは密度低下せず、キタネグサレセンチュウでは低下。作用は遅効的、強力な持続効果なし。〕
188. Anon. (農林省農薬検査所)：農薬の公定検査法 (7) D-D剤の分析法。農薬生産技術 8: 41-43。〔ガスクロマトグラフィーのカラム、操作条件等。〕

昭和39年 (1964)

1. 安部 浩・藤村俊彦：窒素施用量とD-Dが水稻の生育に及ぼす影響との関係。中国農業研究 30: 8-9。〔線虫の影響のない水田で試験。D-D剤の影響は窒素施用量の増加にともない漸減。〕
2. 合田昌義・酒井清六・野上 寿・松石一樹・米林倭三：松くい虫駆除剤の効果におよぼす希釈液相の影響について。応動昆大会講要 昭39: 6。〔講要。EDB剤も含む。〕
3. 合田昌義・酒井清六・野上 寿・松石一樹・米林倭三：松くい虫駆除剤の研究 第1報  $\gamma$ -BHC、EDB混合剤の松くい虫駆除効果。応動昆 8(4) 263-271。〔マツノマダラカミキリも供試。ダイアジノン+ $\gamma$ -BHC+EDB混合剤、 $\gamma$ -BHC+EDB混合剤が最も効果的。〕
4. 藍野祐久：最近話題となっている二、三の病害虫の防除対策。林業技術 262: 15-17。〔線虫防除を含む。〕
5. 安藤茂信：線虫防除試験：苗畑における線虫の被害と薬剤の効果について。大分林試業報 昭38: 92-100。〔謄写。D-D、EDB、DBCP、クロルピクリン剤をスギ苗に施用。〕
6. 新井邦夫：ニンジン採種の病害虫防除。関東病虫研報 11: 39。〔サンネマ、ネマナックス剤を含む。〕
7. 荒木幹男・田中 勇：植物病原細菌の発育におよぼす殺線虫剤の影響。九病虫研会報 10: 88-89。〔タバコ立枯病菌、タバコ空洞病菌、タバコ野火病菌に対するクロルピクリン、D-D、EDB剤の影響。前記2種薬剤は殺菌力あり。〕
8. 浅井三男・西尾美明：ダイズシストセンチュウ発生圃場における薬剤注入後の発生消長。応動昆大会講要 昭39: 33。〔講要〕
9. 浅井三男・西尾美明・岡田利承：ダイズシストセンチュウの発生消長。北日本病虫研報 15: 138-139。〔土壌中では4月下旬に幼虫出現、5月中旬から増加。増加の山は1月間隔。〕
10. 千葉 修・真宮靖治：苗畑における土壌線虫の被害と防除。最近の林業技術 1: 48 pp。〔線虫の概説及び防除法。〕
11. 千葉 修・真宮靖治・近藤秀明・横川登代司・爲国末幸・中野香苗：林業苗畑における線虫被害調査要領。農林省林業試験場、20 pp。〔謄写。線虫分離法等の解説。〕
12. 近岡一郎：イチゴのネグサレセンチュウについて。応動昆大会講要 昭39: 34。〔講要〕
13. 近岡一郎：最近蔓延しているイチゴのネグサレセンチュウとその防除。今月の農業 8 巻10: 35-37。〔未見〕
14. 近岡一郎・片木尚寿：ダイコンのネグサレセンチュウの季節的消長ならびに防除効果。関東病虫研報 11: 103-104。〔作付様式と季節的消長（ダイズ、オカボ、パレイシヨで増加）。D-D剤の効果が高い。〕
15. 千代西尾伊彦：梨根の状態とネグサレセンチュウの遊出傾向について。応動昆大会講要 昭39: 34。〔講要〕
16. 千代西尾伊彦：畑作物土壌線虫の防除法。農及園 39(7) 1113-1116。〔輪作、肥料・堆厩肥の多用、他圃場からの侵入防止、殺線虫剤（処理時期、使用方法）、殺線虫剤施用後の施肥計画。〕
17. Edward, J. C. · S. L. Misra & G. R. Singh: Longidorus pisi n.sp. (Nematoda, Dorylaimoidea) associated with the rhizosphere of Pisum sativum, from Uttar Pradesh, India. 応動昆 8(4) 310-312。〔インドからナ



ガハリセンチュウの新種を記載。 *L. brevicaudatus* に近似。 ]

18. Edward, J. C. · S. L. Misra & G. R. Singh: A new species of *Paralongidorus* (Nematoda, Dorylaimoidea) from Allahabad, Uttar Pradesh, India. 応動昆 8(4) 313-316. [インドからナガハリセンチュウの新種を記載。 *P. citri* に近似。 ]
19. 家入 章 · 古山 覚: 熊本県における甘藷の線虫被害に関する研究 第1報 線虫被害の関与性について。九病虫研会報 10: 39-41. [検出線虫7種。 *Pratylenchus* sp. *Aphelenchus avenae* の季節的消長。線虫と *Fusarium* 菌との関連では、線虫が影響大。E DB剤による防除は効果的。 ]
20. 江村一雄: イネネモグリセンチュウに対する殺線虫剤処理の影響。北陸病虫研報 12: 77-79. [D-D、DBC P剤施用で稲は増収、E DB剤では減収。水田土壤中の効果範囲は畑地より狭い。 ]
21. 藤本 清 · 山根伸夫: イネネモグリセンチュウの県内分布と発生消長および防除効果について。兵庫農試研報 12: 20-22. [県内のほとんどの水田から周年的に検出。D-D、E DB、クロルピクリン剤施用により、精籾重2-7%増収。 ]
22. 藤村俊彦 · 安部 浩: 島根県における土壌線虫の種類と分布。島根植防 3: 20-26. [未見]
23. 深野 弘 · 横山佐太正 · 吉田桂輔: R E E乳剤による線虫心枯病種初消毒法について。福岡農試研報 2: 42-47. [濃度、時間、温度、展着剤加用と効果、薬害、水銀剤混用の影響。 ]
24. 源馬琢磨 · 渋谷紀起 · 菊池新一: 線虫の水稲根への寄生及びその被害について。山形農林学会報 22: 15-20. [イネネモグリセンチュウの生態、防除。 ]
25. Golden, A. M. & W. Friedman: Some taxonomic studies on the genus *Criconema* (Nematoda: Criconematidae). Proc. helminth. Soc. Wash. 31 (1) 47-59. [*Criconema sulcatum* を新種として記載。日本のヤマシロギク(?) 根辺土壤からの個体も調査。現在は *Neolobocriconema serratum* のシノニムとされている (De Grisse, A., Biol. Jaarb. 35: 80, 1967)。 ]
26. 五味美知男 · 三輪計一 · 市川恒雄: コンニャクの新病害「根ぐされ病」について。関東病虫研報 11: 44. [線虫検出せず。 ]
27. 後藤 昭: ミナミネグサレセンチュウの卵と幼虫の發育。応動昆 8(1) 26-33. [卵期間は30°Cで6-8日、1世代所要日数は25-30°Cで約1月。各發育ステージの計測値を示す。 ]
28. 後藤 昭: 未耕地の植物寄生性線虫 (長崎県における予備調査)。応動昆大会講要 昭39: 31-32. [講要]
29. 後藤 昭 · 大島康臣: ネグサレセンチュウの薬剤防除について。九病虫研会報 10: 41-43. [キタ、ミナミネグサレセンチュウのE DB感受性比較。圃場施用: D-D、E DB剤は有効、DBC P剤の低温時処理はバレイシヨに薬害。 ]
30. 後藤 昭 · 大島康臣: ミナミネグサレセンチュウによるジャガイモ塊茎被害の品種間差異について。九州農業研究 26: 150-152. [早掘りではブンゴ、長崎赤の被害が農林1号より少。遅掘りでは差なし。 ]
31. 後藤重喜: 甘藷根ぐされ線虫病の防除に関する調査研究。宮崎農試研報 5: 1-121, 8 pls. [研究史、分布、生態 (垂直分布、発生消長、寄主体侵入)、各種作物における寄生増殖と病斑型、致死温度と生存期間、伝播経路、越冬、寄主植物、病徴、被害査定、病原菌類との関係、カンシヨ品種の抵抗性、発病度と諸要因 (土壤温度・湿度・酸度、土性、肥料要素、堆厩肥、田畑輪換、深耕、植付時期、再植)、耕種的防除法 (輪

- 作、ラッカセイの効果)、薬剤防除。]
32. 後藤重喜・岩橋哲彦・川越 仁：南九州におけるネコブセンチュウの種類について 宮崎農試研報 3: 1-7. [*Meloidogyne incognita* var. *acrita*, *M. hapla*, *M. javanica*, *M. arenaria* の計測値、寄主植物。]
33. 萩屋 薫：園芸講座：花卉球根栽培 [22]。農及園 39(1) 82-86. [ヒヤシンスのノッチングによる線虫等の球根内の病気の完全な判別。]
34. 原島典雄・中山喜平：桑のネコブセンチュウについて (7) ネマゴン使用桑園4年後の効果。蚕糸研究 49: 88-92. [枝条の發育良く、8-10割の増収。]
35. 針谷信義：コンニャクに対する施肥量とネコブセンチュウの被害について。茨城病虫研報 2/3: 19-22. [謄写]
36. 針谷信義：コンニャクに対する施肥量とネコブセンチュウの被害について 第1報。関東病虫研報 11: 100-101. [EDB剤施用は増収効果はないが、被害は減少。施肥量により被害に差。]
37. 針谷信義：コンニャクに対する施肥量とネコブセンチュウの被害について 第2報。関東病虫研報 11: 101-102. [窒素分の増肥で被害増加。燐酸及びカリ分では減少。]
38. 橋岡良夫：Nematode diseases of rice in the world. *Riso* 13(2) 139-147. [イネシガラ、クキ、イネネモグリ、ネコブ、イネシストセンチュウの被害等。]
39. 引地直至：モモの土壤線虫に関する調査 (1) モモの土壤線虫と土壤条件に関する実態。関東病虫研報 15: 150-152. [ネコブ、ピン、ネグサレセンチュウ多。線虫と忌地の関係は半然とせず。]
40. 引地直至：桃の線虫類とその防除について。東北農業研究 6: 172-174. [検出線虫相及び数。DBCP剤による立毛中処理と効果。]
41. 引地直至：モモの土壤線虫とその防除。落葉果樹 17巻10: 9. [未見]
42. 広原宗次：水稻の心枯線虫に対するDBCP剤の処理効果と発芽に及ぼす影響。茨城病虫研報 2/3: 55-57. [謄写]
43. 外口允孝・田中 勇：タバコにおける線虫病抵抗性検定法。九州農業研究 10: 43-46. [サツマイモネコブセンチュウ。本葉6-7枚時に卵嚢接種が簡単。]
44. 星野三男・谷中清八・尾田啓一・熊沢隆義・気賀沢和男：イネシストセンチュウに対する殺線虫剤の効き方。応動昆大会講要 昭39: 35. [講要]
45. 星野三男・谷中清八・尾田啓一・熊沢隆義・気賀沢和男：イネシストセンチュウに関する研究 (第5報) 薬剤の効き方について。関東病虫研報 11: 110. [D-D剤は地表から30cm、EDB剤では20cmまでの層の游出著減。]
46. 星野三男・谷中清八・尾田啓一・熊沢隆義：イネシストセンチュウに関する研究 (第6報) 輪作の効果について。関東病虫研報 11: 111. [非寄主の1-2年輪作により、密度著減、被害軽減が可能。]
47. 一戸 稔：サツマイモネコブセンチュウの学名。応動昆 8(2) 171-172. [ネコブセンチュウの継代飼育による perineal pattern の変異、寄主植物との関係を紹介。日本産を *Meloidogyne incognita* とする。]
48. 一戸 稔：昭和38年度に試験された害虫防除薬剤：委託試験成績から：殺線虫剤。植物防疫 18(2) 41. [EDB、DBCP、ドジョウピクリン、0795、CDBE、N-582、DM、H-1311、D-D液体肥料。]
49. 一戸 稔：果樹と線虫：線虫特殊調査から。農業技術 19(8) 351-354. [線虫相 (ミカン、カキ、リンゴ、モモ、ナシ、ブドウ)、土壤中の分布、検診法、被害 (ミカン、ブドウ)。]
50. 一戸 稔：果樹の線虫被害とその防除。農薬 11巻2: 42-45. [主にDBCP剤の

【用法。】

- 5 1. 一戸 稔・引地直至：Tetylenchus の一新種の形態的特徴とその意義。応動昆大会講要 昭39: 31. 【講要】
- 5 2. 飯島 勉・本橋精一：トマト萎凋病防除試験。関東病虫研報 11: 35. [ネコブセンチュウを含む。ドジョウピクリン、ベープム、N-582 (ベープムのアンモニウム塩の50%液剤) を施用。]
- 5 3. 稲垣春郎：ハッカの地下茎腐敗と生育不良の原因。日植病報 29(2) 91. 【講要】
- 5 4. 稲垣春郎：圃場におけるハッカの生育と線虫密度。北日本病虫研報 15: 146-147. 【ピンセンチュウ等の線虫が関与。】
- 5 5. 稲垣春郎・湯原 巖：ダイズシストセンチュウ抵抗性品種における幼虫の侵入と根組織の褐変。北日本病虫研報 15: 135. 【褐変は抵抗性弱の品種でも生ずるが、強品種に比べ少。】
- 5 6. 稲垣春郎・湯原 巖：シストからの幼虫遊出と根部侵入に対するダイズ品種の影響。北日本病虫研報 15: 136. [ダイズ播種により遊出数多くなる。品種間の差は少。]
- 5 7. 稻生 稔・菅原 毅：直播栽培稲に対する殺線虫剤処理の影響とその効果について。関東病虫研報 11: 107. [D-D剤の効果がすぐれ、EDB剤は葉害。]
- 5 8. 井上 徹・伊藤春男：乾田直播栽培における殺線虫剤の春季処理の効果(予報)。応動昆大会講要 昭39: 35-36. 【講要】
- 5 9. 井上 徹・伊藤春男：イネネモグリセンチュウに対する殺線虫剤処理の効果 第1報 移植栽培における春処理の効果。北日本病虫研報 15: 194-195. [DBCP剤施用で稲が倒伏。線虫防除効果は不明瞭。]
- 6 0. 犬東正美・石川元一：茶樹の線虫防除。関東病虫研報 11: 115. [DBCP剤処理は点・溝の間隔が短いほど高い効果。]
- 6 1. 石橋信義：放射線照射による線虫の研究。応動昆 8(1) 89. 【講要】
- 6 2. 石橋信義・気賀沢和男・国井喜章：Studies on the egg production of the root-knot nematode, Meloidogyne incognita Chitwood. II. Effects of the growth condition of the host plant on the propagation of the nematode. 応動昆 8(3) 245-250. [サツマイモネコブセンチュウの発育に及ぼすカリの重要性は寄主作物により異なる傾向。窒素欠乏、燐酸欠乏の区では線虫の発育・産卵開始は早まった。一般的に要素欠乏時に繁殖大。]
- 6 3. 石橋信義・国井喜章：ネグサレ加害の馬鈴薯に対する放射線照射。応動昆大会講要 昭39: 34-35. 【講要】
- 6 4. 石亀英徳・及川英雄・佐藤昭美：くわのネコブ線虫防除に関する試験(II) 桑園におけるネコブ線虫の時期別発生消長。岩手蚕試年報 11: 109-113. [深度別の発生消長。]
- 6 5. 石川元一：桃樹のネコブセンチュウについて。関東病虫研報11: 98. [アレナリア、サツマイモネコブセンチュウ。樹幹を中心とした水平、垂直分布、寄生時期、園内の被害樹の分布、樹勢と線虫の関係。]
- 6 6. 石川元一：イネ栽培法とイネネモグリセンチュウ。応動昆大会講要 昭39: 35. 【講要】
- 6 7. 石川元一：イネ栽培法とイネネモグリセンチュウの生態。農業技術 19(5)229-231. [苗代様式、移植栽培・直播栽培、湛水・排水田、田植時期、施肥量、水田耕起と線虫の寄生との関係。]
- 6 8. 石倉秀次：昭和39年度植物防疫事業の概要。植物防疫 18(4) 125-128. [土壌病害虫対策は土壌線虫から土壌病害に指向を転ずる。新たに永年作物の線虫防除を開始。3年計画で7,500ha のパイロット防除を推進、本年度は1,000ha を実施。]

69. 伊藤武夫：数種の農薬による土壤消毒試験（1）．高知林友 448：横組 7-21．[昭和34年度の成績。スギ、ヒノキ、クロマツのEDB剤他の処理と生育状況。]
70. 伊藤武夫：数種の農薬による土壤消毒試験（2）．高知林友 449：横組 6-21．[ヒノキ、スギ、クロマツに臭化メチル剤、ペーパム、セレサン石灰、D-D、EDB剤。]
71. 伊藤武夫：数種の農薬による土壤消毒試験（3）．高知林友 451：横組 13-23．  
[殺線虫剤施用の効果、線虫相。]
72. 伊藤武夫：数種の農薬による土壤消毒試験（4）．高知林友 452：横組 10-20．  
[苗木の発生数、病害虫の発生に及ぼす影響。]
73. 伊藤喜隆：りんごのネコブセンチュウの被害について．応動昆大会講要 昭39:33．  
[講要]
74. 伊藤喜隆・須藤山路・土屋弘道：ゴボウの黒変障害の防除（第2報）．関東病虫研報 11: 48．[D-D剤施用も効果あり。]
75. 弥富喜三：果樹の線虫．果実日本 19巻5: 13-16．[被害、病徴、線虫相、防除（主に殺線虫剤の使用法）。]
76. 弥富喜三・西沢 務：水稻の生育に及ぼす殺線虫剤の副次的影響．応動昆大会講要 昭39: 36．[講要]
77. 垣谷誠一・菅家英治：DBCP剤による桑苗のネコブセンチュウ防除に関する試験 第2報 処理時期、処理深度及び液剤の処理方法について．茨城蚕試報 22: 103-112．  
[7月10-20日頃、深さ16-20cmに灌注。]
78. 柿崎泰彦・千葉陸雄・小野 昭：桑のネコブセンチュウに関する試験 第1報．宮城蚕試要報 3: 40-56．[ネコブセンチュウの寄生実態調査、発育の良否と寄生状況、収穫量、防除（ペーパム、EDB、DBCP乳剤・同粒剤）。]
79. 神谷育男・高瀬尚明：マッシュルーム栽培に関する研究（第4報）ネマトーダの被害について．園芸学会昭39春研究要旨: 31．[講要]
80. 金沢 純・佐藤六郎：ガスクロマトグラフィーによる殺線虫剤D-D中の1, 2-ジクロロプロパン、シスおよびトラン1, 3-ジクロロプロパンの定量．分析化学 13(4) 358-359．[定量分析の改良法の手順。]
81. 神田吟子・新田ゆき・山田 忍：ダイズシストセンチュウ (*Heterodera glycines* Ichinohe) による被害大豆および無被害大豆の種子間の化学組成の差．帯広畜大研報 第1部 4(1) 131-136．[被害大豆は粗蛋白・粗脂肪含量は少なく、粗繊維・粗灰分・ビタミンB1、B2 は多い。無機成分含量、脂肪の化学性等も分析。]
82. 桂 瑤一：十字科野菜の土壤病害と防除法．農及園 39(6) 963-966．[線虫病（ダイコン、カブ、ヒノナ）の防除法（天地返し、灌水、殺線虫剤施用）を含む。]
83. 川田惣平・本田 仁：殺線虫剤（D-D、EDB剤）の生育期処理に関する試験．関東病虫研報 11: 112-113．[大豆にEDB剤使用可能。]
84. 河村貞之助・平野和弥：ジャガイモのいもぐされ線虫病と *Fusarium* spp. との関係．日植病報 29(2) 61．[講要]
85. 川島嘉内：*Hirschmannia oryzae* に関する研究（IV）土壤の還元と被害について．北日本病虫研報 15: 131-132．[線虫接種区のイネの生育状況は無接種区と比べ、還元の強さとともに悪化、7月中旬頃より根腐れ増大。]
86. 川島嘉内：イネシストセンチュウ (*Heterodera oryzae*) による水稻の被害について．北日本病虫研報 15: 133-134．[灌水とともに被害発現、鎮圧箇所（トラクタ車輪跡）では無鎮圧より寄生少なく玄米重は約5倍となる。漏水の甚だしい箇所が被害大。]
87. 川島嘉内：水稻の線虫被害と防除法．農業技術 19(2) 75-78．[イネネモグリセンチュウ：季節的消長、被害、症状、減収、防除（D-D、EDB、DBCP、クロルピ

- クリン)。シストセンチュウ：赤枯病に関与。]
88. 川島嘉内：水田の線虫とその被害，農薬 11巻2：口絵(2 pls.)、解説。[イネネモグリセンチュウ、イネシストセンチュウ。]
89. 川島嘉内・小林幸雄：イネシストセンチュウによる乾田直播栽培の被害について，応動昆大会講要 昭39：34。[講要]
90. 川内一郎・清水精一郎：林業苗畑における土壤線虫被害調査，鹿児島林試報 12：61-68。[謄写。ヒノキ、アカマツ、クロマツ、イヌマキの検出線虫。]
91. 気賀沢和男・土橋貞夫・国井喜章：線虫被害と肥培(II)，関東病虫研報 11：114。[施肥量の違いによるキュウリ、ナスの収量差よりも、殺線虫剤処理の効果が大きい。3-5倍の増収。]
92. 気賀沢和男・中里筆二・国井喜章：*Hirschmannia oryzae* の生態に関する研究 III 根群内密度と圃場内分布密度，応動昆大会講要 昭39：33。[講要]
93. 小林源次・馬場 正：D-Dの殺虫力について 第2報 イエバエの幼虫及び蛹に対する他剤との比較並びに残効力について，関西病虫研報 6：14-18, 98-99。[EDB、DBCP剤と比較。残効16時間以内。]
94. 小林源次・馬場 正：D-Dの殺虫力について 第3報 イエシロアリに対する殺虫力について，関西病虫研報 6：19-21。[効果あり。]
95. 小林義明・深沢永光：殺線虫剤の施用による水稻の線虫 (*Hirschmannia oryzae*) の防除について，関西病虫研報 6：77-78。[講要。D-D、EDB、DBCP、クロロピクリン剤。]
96. 小林義明・深沢永光：水稻に対する殺線虫剤の副次的効果について，応動昆大会講要 昭39：36。[講要]
97. 小宮書之助・工藤 馨：ネコブセンチュウとその寄主植物について，関東病虫研報 11：97。[No. 64-100 を参照。]
98. 小宮書之助・工藤 馨：茶樹のネグサレセンチュウについて(1)，明大農研報 17：13-14。[*P. loosi* と同定。計測値を示す。]
99. 小宮書之助・工藤 馨・八重樫隆志：ネコブセンチュウの寄主植物について(1)，明大農研報 17：9-11。[アレナリア、キタ、サツマイモ、ジャワネコブセンチュウ、*M.* sp. の作物、雑草に対する寄生性。]
100. 小宮書之助・八重樫隆志：大豆萎黄病防除に関する研究(1) EDBによる薬剤防除試験，明大農研報 17：1-3。[D-D剤と同程度か、まさる効果。]
101. 小宮書之助・八重樫隆志：大豆萎黄病防除に関する研究(2) 大豆萎黄病抵抗性の品種間差異，明大農研報 17：5-7。[東北6号、岩手ヤギ1号の生育が良い。]
102. 今野善一郎：線虫抵抗性を異にする大豆品種を栽植した跡地における線虫被害程度の差異に関する研究 第1報 線虫被害程度の逆転現象について，東北農業研究 6：152-154。[強品種栽培跡地の大豆：線虫被害大。弱品種栽培跡地：被害小・生育良好。原因不明。]
103. 高野光之丞・村上正雄・奥村聰一・上村陸生：ゴボウの「ヤケ」の薬剤防除，関東病虫研報 11：122。[ムギネグサレ、ニセフクロセンチュウを多数検出。線虫と糸状菌の関与を推定。]
104. 小阪和彦・中山芳久：マッシュルームを加害する線虫と防除について，応動昆大会講要 昭39：35。[講要]
105. 小菅喜久弥：水銀剤によるシガラセンチュウと馬鹿苗病の同時殺菌消毒の効果，関東病虫研報 11：108。[ソイルシン乳剤1000倍液24時間浸漬の実用性を認める。]
106. 国井喜章：Nematological survey on Malayan crops. 40 pp。[謄写。マレーシ

- アの、主にカカオ・イネの線虫調査結果。薬剤防除試験結果を含む。]
107. 吳羽好三・市川久雄・上郷千春・御子柴 稔・松野忠男・芝田裕二・小林和男：  
イネネモグリセンチュウに対するEDB処理と窒素肥料の施用量について。応動昆大会  
講要 昭39: 35. [講要]
108. 前田速雄：トマトにおけるサツマイモネコブセンチュウ抵抗性品種の育種に関する研究。東京農試研報 3: 1-7, 2 pls. [検定法、遺伝子分析、実用形質と抵抗性因子との関係、抵抗性品種の後作とネコブセンチュウの生息密度。]
109. 真宮靖治：苗木に寄生するネグサレセンチュウ (*Pratylenchus* spp.) について  
(予報)。75回日林大会講要: 368-371. [スギ実生におけるキタネグサレセンチュウの発生消長と被害。]
110. 増田安弘：そ菜の生理に及ぼすネマトーダの影響 [第2報] 茄子跡地のハウレンソウにおける寄生と土壤反応及び有機物との関係。農及園 39(6) 991-992. [ネコブセンチュウ被害と土壤pHの関係をD-D剤処理と無処理で比較。薬剤処理より土壤pHがハウレンソウの生育に強く影響。堆肥施用との関係を含む。]
111. 松村安治・速水和彦：陸稲連作障害に関する研究。東海近畿農試研報 10: 102-139. [土壤肥科学的な原因究明。最終的には土壤線虫が原因と結論。]
112. 三井 康：土壤に添加した炭素源の種類と線虫密度の変動。応動昆大会講要 昭39: 32. [講要]
113. 三浦春夫・東海林久雄：山形県におけるイネネモグリセンチュウの分布について。北日本病虫研報 15: 132-133. [秋落水田・泥炭地による密度の違いは小。水苗代の稲からは多数の線虫を検出、畑苗代の稲からは無検出。]
114. 三浦利男・鷺尾貞夫：ネグサレセンチュウに関する調査 第4報 ナスにおけるムギネグサレセンチュウ (*Pratylenchus neglectus*) の防除。北日本病虫研報 15:142. [D-D剤20g/10a 施用で防除可能。]
115. 森川 修：殺線虫剤のワモンゴキブリに対する毒性ならびに中毒症状の解析。応動昆 8(1) 1-5. [EDBでは麻痺後死亡。DBCP、cis-1, 3-dichloropropeneでは興奮、麻痺、死亡の順に症状が出る。]
116. 森川 修：ワモンゴキブリの背脈管搏動ならびに呼吸に及ぼす殺線虫剤の影響。応動昆 8(2) 136-140. [背脈管搏動はEDBでは徐々に減少。DBCP、cis-1, 3-dichloropropene (D-Dの有効成分) では処理直後は無処理と変わらず、後に不規則となり、停止。呼吸はいずれでも増加。]
117. 森川 修：ワモンゴキブリの解糖作用におよぼす殺線虫剤の影響。応動昆 8(4) 277-285. [炭水化物の消費はEDB処理で少、DBCP、cis-D処理で多。乳酸の量はDBCP、EDB中毒個体で多、cis-Dでは不変。その他、粗脂肪、 $\alpha$ -グリセロリン酸含量、解糖系酵素類の活性を定量。]
118. 森川 修：殺線虫剤によるワモンゴキブリおよび自活性線虫 *Panagrellus redivivus* の三炭糖リン酸脱水素酵素の阻害。応動昆大会講要 昭39: 22. [講要]
119. 本橋精一：クロールピクリンによるビニールハウス内土壤の消毒。農薬 11巻4: 6-9. [注意事項を解説。]
120. 本橋精一・阿部善三郎・飯島 勉・平野寿一・横浜正彦：トマト萎ちよう病防除に関する研究。東京農試研報 3: 27-51, 2 pls. [ネコブセンチュウと発病の関係を含む。]
121. 森田 儔：温室・ビニールハウスの花卉病害と防除 [1]。農及園 39(1) 35-38. [カーネーションの立枯病：*Fusarium*菌とピン、ネコブセンチュウとの複合感染。キクの連作障害：*Fusarium*菌とネグサレセンチュウの複合感染。]

- 1 2 2. 村井文彦：林業における防除機材。林業と薬剤 9: 11-14. [苗畑の土壤消毒機を含む。]
- 1 2 3. 村上正雄・高野光之丞・和田利春・相馬 茂・高瀬一太郎・飯島文夫：そ菜類への殺線虫剤の影響について。関東病虫研報 11: 123-125. [ダイコン、キュウリに対するD-D、EDB剤施用：播種 5-7日以上前。]
- 1 2 4. 村上雅二・清松清高・近藤 信：水稻の箱育苗と線虫心枯病の関係。九州農業研究 26: 75. [普通育苗より発病多。]
- 1 2 5. 永沢 実・阿久津喜作・河合一郎・堀江典昭・新井 茂・伊藤桂信：ネコブセンチュウの生態並びに防除に関する研究。東京農試研報 3: 63-103, 6 pls. [土壤中・植物根中の線虫数の消長、連輪作と線虫数、垂直分布、土壤病害と線虫、防除（トマトの線虫抵抗性品種、D-D、EDB、DBC P、ペーバム剤による線虫防除効果、施用時期、施用方法、薬害他）。]
- 1 2 6. 永沢 実・堀江典昭：DBC P剤のナスに対する薬害。関東病虫研報 11: 43. [植え付け1月以上後に出る。]
- 1 2 7. 中島三夫・広瀬清信・石沢昭雄・石田秀武：殺線虫剤に関する研究、特に0795の理化学的性質と生物学的活性について。応動昆大会講要 昭39: 36. [講要]
- 1 2 8. 中園和年：ニセフクロセンチュウの1種、*Rotylenchulus* sp. 幼虫の成育と温度条件。応動昆大会講要 昭39: 32. [講要]
- 1 2 9. 仲宇佐達也・栗原茂次・橋本貞夫・田村光一郎：果菜類の連作害に関する研究。東京農試研報 13: 9-26, 4 pls. [トマト、ナス、キュウリ、マクワウリ、スイカ、カボチャ。線虫害を含む。]
- 1 3 0. 中里筆二・神保藤蔵・黒沢一男・五味美知男：コンニャクのネグサレセンチュウ防除時期について。関東病虫研報 11: 105. [DBC P剤は生育中及び春処理では薬害、秋処理（80%乳剤7ℓ/10 a）が適する。EDB剤は50ℓ/10 a 必要。連作地帯では殺線虫剤施用により20-60%の増収。]
- 1 3 1. 中里筆二・川島菊市・黒沢次男：イネネモグリセンチュウの発生消長について。関東病虫研報 11: 106. [移植期、穂ばらみ期頃に寄生数最高。]
- 1 3 2. 中里筆二・大塚猛行：群馬県内のリング園の線虫について。関東病虫研報 11: 116. [8属の線虫を検出。ネグサレセンチュウが多。同線虫の園内分布、季節的消長。]
- 1 3 3. 中沢雅典：育苗と促成における果菜類の病害防除。農及園 39(12) 1857-1862. [苗床、本圃の土壤消毒、根瘤線虫病、トマト萎凋病の解説を含む。]
- 1 3 4. 中沢雅典・天野 隆・尾崎典光：*Aphelenchus avenae*の甘藷に対する寄生性と随伴菌（*Fusarium* spp.）との関係。応動昆大会講要 昭39: 32-33. [講要]
- 1 3 5. 成田武四：ハッカの黒くされ病の病原と防除。植物防疫 18(8) 308-312, 1 pl. [病名、症状、病原菌（*Phoma*）、地下茎の腐敗と線虫（ピン、ネグサレ、ネコブセンチュウ）との関係、伝染経路と発生条件、防除法（PCNB剤施用他）。]
- 1 3 6. 新留伊俊：てん菜の連・輪作と土壤病害虫の動向。てん研報 補4: 161-167. [ネコブセンチュウの発生と輪作（スーダングラス、麦、カンショ他）を含む。]
- 1 3 7. 西沢 務：ネコブセンチュウによる根瘤組織における植物成長促進物質の存在。応動昆大会講要 昭39: 33. [講要]
- 1 3 8. 野村静男・横川登代司：殺線虫剤EDBの土壤処理が苗木の生育に及ぼす影響について（予報）。75回日林大会講要: 371-376. [スギのネグサレセンチュウ。]
- 1 3 9. 尾田啓一・星野三男・谷中清八：イネシストセンチュウの陸稲に対する被害。応動昆大会講要 昭39: 34. [講要]
- 1 4 0. 尾田啓一・星野三男・谷中清八・熊沢隆義・滝田泰章：イネシストセンチュウに

- 関する研究 第4報 被害解析の2. 関東病虫研報 11: 109. [ポット試験. 播種25日後の接種区稲の生育遅れ、収量大幅減。]
- 1 4 1. 小口健夫: *Pestalotia*菌による *Aphelenchoides* sp.の培養温度. 北海道林試報 3: 46-50. [スギのコブから分離した線虫と菌. 15°C、25°Cでよく増殖。]
- 1 4 2. 岡田正順: 花の産地形勢とその方向. 農及園 39(1) 263-266. [キクの連作障害 (*Fusarium*菌とネグサレセンチュウの複合感染) にふれる。]
- 1 4 3. 岡田正順: 切花用秋ギクの栽培法. 農及園 39(4) 639-642. [ハガレセンチュウ防除 (ホリドール、メタシストックス、マラソン散布. D-D、EDB剤土壌施用) を含む。]
- 1 4 4. 岡田利承・森 哲郎: 土壌燻蒸剤の拡散に関する研究 第2報 注入深度の違いによるD-Dの拡散とダイズシストセンチュウに対する防除範囲. 北海道農試彙報 83: 24-31. [5, 10, 15 cmに注入. 深い注入ほど広範囲に拡散. 浅い注入ほど地表部の防除効果が高い。]
- 1 4 5. 岡本信義: 茶樹の土壤線虫による被害とその防除. 農及園 39(8) 1255-1260. [線虫相、被害、生態 (垂直分布の季節的变化)、防除 (植付前: D-D、EDB剤. 立毛中: DBCP剤。)]
- 1 4 6. 小野邦明: 線虫捕食菌に関する研究 (III) *Dactylella ellipsospora* によるネコブセンチュウ捕殺効果. 日植病報 29(2) 100. [講要]
- 1 4 7. 大島康臣・後藤 昭・大串竜一・平野露治: 長崎市茂木町の植物寄生性線虫相. 応動昆大会講要 昭39: 32. [講要]
- 1 4 8. 太田勇吉・井上 徹: スギに寄生する *Pratylenchus* 属線虫の防除 (2) 床替前の土壌燻蒸処理. 日林東北支講 16: 31-33. [D-D、EDB、DBC P剤の効果。]
- 1 4 9. 大塚幹雄・内藤 祐・箕島竜久: 昭和39年の病害虫の発生と防除. 植物防疫 18(12) 471-478. [イネ線虫心枯病が中国、四国の一部で発生。]
- 1 5 0. 三枝敏郎: 冬季圃場のネコブ線虫の保温検出: ネコブ線虫の発生予察法. 植物防疫 18(2) 45-48. [25°C数日間保温によりベルマン法の分離幼虫数増加。]
- 1 5 1. 三枝敏郎: 植物検疫上重要なゴールデンネマトーダの類別法. 植物防疫 18(7) 283-284. [近似種3種との識別法。]
- 1 5 2. 三枝敏郎・萩原敏夫: 1ネコブ線虫の形態と寄生性に関する知見. 応動昆大会講要 昭39: 31. [講要]
- 1 5 3. 斉藤 肇・錦織亀吉・松本定雄: 桑園の線虫防除に関する研究: 桑園における薬剤防除 (1). 島根蚕試報 40: 8-14. [謄写. DBC P剤灌注の効果。]
- 1 5 4. 斉藤 肇・錦織亀吉・松本定雄: 桑園の線虫防除に関する研究: 桑園における薬剤防除 (2). 島根蚕試報 40: 15-20. [謄写. D-D剤の冬期処理。]
- 1 5 5. 坂井健吉 他: 火山灰土地帯における甘藷の生産性向上. 農及園 39(1) 461-467. [日本作物学会九州支部例会シンポジウム要旨. ネコブ・ネグサレセンチュウ抵抗性育種問題にふれる. 「抵抗性の改良はやや困難」。]
- 1 5 6. 酒井清六・合田昌義・野上 寿・松石一樹・米林俊三: 松くい虫類動的防除の一試案. 応動昆大会講要 昭39: 6. [講要]
- 1 5 7. 桜井 清: 北海道における主要土壌線虫とその防除. 農薬の進歩 10巻2: 12-18. [ネコブセンチュウ (てん菜、マメ科牧草、リンゴ)、ダイズシストセンチュウ、ピンセンチュウ (はっか)、イネネモグリセンチュウの被害・防除とその問題点。]
- 1 5 8. 桜井 清・湯原 巖・船垣春郎・堤 正明: 線虫による牧草の被害. 北日本病虫研報 15: 147-149. [チモシーにネグサレ、クローバー類にネコブセンチュウの被害. 収量の比較。]



159. 佐藤昭美・及川英雄・石亀英徳：クワ樹原苗圃におけるネコブセンチュウ防除効果について。北日本病虫研報 15: 149-150。〔テムズネコブセンチュウ（多分リングネコブセンチュウの誤り）。DBCP乳剤では成分量 5 g/m<sup>2</sup>以上、粒剤では10 g/m<sup>2</sup>以上でクワの生育旺盛。〕
160. 佐藤昭美・大森秀雄：ダイズシストセンチュウに関する研究（3）越冬状態に関する調査。北日本病虫研報 15: 139-140。〔第1期幼虫が大部分、一部が第2期幼虫。〕
161. 佐藤昭美・大森秀雄：ダイズシストセンチュウに関する研究（4）ダイズ抵抗性品種が線虫の発育および密度におよぼす影響について。北日本病虫研報 15: 140-141。〔侵入幼虫の大部分は第2・第3期幼虫で発育停止、根中で死亡。成虫の雄/雌比が増加。2年連作でシスト数激減。〕
162. 清家義明・井手 篤：イネネモグリセンチュウの薬剤防除について。愛媛農試研報 4: 29-32。〔D-D、EDB、DBCP、ドル粒剤。〕
163. 関谷昭二郎：茶園の線虫防除について。九州農業研究 26: 148-149。〔DBCP剤によるネコブ、ネグサレ、ピンセンチュウ防除。幼木圃で80%乳剤3 ℓ/10 a、粒剤30kgが適当。〕
164. 下川利之：林業用苗圃の土壤線虫に関する研究（予報）。岡山林試報 4: 138-143。〔謄写。被害の実態。検出線虫の種類、Rhizoctonia, Pythium菌との混合感染。〕
165. 下長根 鴻・松田 明・渡辺文吉郎：土壤殺菌剤の圃場適用に関する研究 第3報 薬剤施用による土壤微生物相と土壤抗菌力の変動。日植病報 29(5) 292。〔講要。含EDB剤。〕
166. 須藤山路・伊藤喜隆・高野利康・土屋弘道：ナガイモの黒変障害の防除（第2報）。関東病虫研報 11: 47。〔D-D、EDB、クロルピクリンが効果あり。〕
167. 周藤靖雄・山田栄一：土壤消毒による針葉樹稚苗の立枯病防除試験。日林関西支講 14: 64-65。〔講要。クロマツにD-D、クロルピクリン剤他。〕
168. 菅原 毅・稻生 稔：直播栽培稲に対する殺線虫剤処理の影響とその効果について。日植病報 29(5) 288-289。〔講要〕
169. 砂田喜与志：下田不知系のダイズシストセンチュウ抵抗性因子の導入について。北農 31巻2: 12-14。〔黒莢三本木、下田不知系から因子を導入。〕
170. 砂田喜与志・佐々木絃一：大豆根の栄養成分と根粒着生及びシストセンチュウの被害との関係。日育日作北談報 4: 26。〔未見〕
171. 鈴木春夫・森 喜作：碟耕栽培の病害と防除法。農及園 39(12) 1839-1843。〔過去にキュウリにネコブセンチュウ大発生事例あり。〕
172. 高橋芳雄：生態的特性からみた落花生品種と栽培法〔2〕。農及園 39(5) 774-780。〔連作によるネコブセンチュウ被害（収量、茎葉の窒素・炭水化物含有率、根瘤の着生数等）、防除（土壤消毒、輪作）を含む。〕
173. 高久恒夫・青木 満・杉本 堯：土壤消毒によるコムギ縮萎病防除について。関東病虫研報 11: 28。〔D-D剤の防除効果顕著。〕
174. 高倉重義：キタネコブセンチュウの防除に関する研究 第6報 イネ科植物とクローバー混作が線虫密度におよぼす影響。北日本病虫研報 15: 143-144。〔イネ科の1年間栽培により線虫密度低下。混作時は効果半減。〕
175. 高倉重義・手塚 浩：キタネコブセンチュウの防除に関する研究 第7報 主要作物品種の被害について。北日本病虫研報 15: 144-145。〔D-D剤施用と無施用圃場の収量比較。ハッカ、アマ、アズキ、エンドウ、インゲン、ダイズ、バレイショ。〕
176. 竹下晴彦・横尾多美男：苗圃における線虫防除試験（モリシマアカシアについて）。日林九支論 17: 159-161。〔ネコブ、ネグサレ、ラセン、オオガタハリセンチュウ〕

- うに対するD-D、DBCP、クロルピクリン、有機水銀剤の施用。]
177. 滝田泰章・尾田啓一：殺線虫剤の陸稲生育におよぼす影響。応動昆大会講要 昭39: 36. [講要]
178. 田辺仁志：愛知県下における桑園土壤線虫の分布について。日蚕東海講要 12: 8-9. [講要]
179. 田原篤行・江崎一弘・織田博之・山田俊秋：土壤殺菌剤に関する研究：水銀剤の土壤中における行動。九病虫研会報 10: 92-94. [DBCP・DMA混合剤は土壤及着少ない。]
180. 照屋林宏：パインアップルの生育中に処理せる土壤殺線虫剤の影響について。沖縄農業 3巻1: 27-33. [D-D剤は葉害。EDB、DBCP剤は葉害なし。EDB15 $\mu$ /10 a が適当。]
181. 照屋林宏・外間忠守：沖縄本島の南風原村におけるネコブセンチュウの被害実態とその防除について。沖縄農業 3巻2: 53-60. [寄主植物、検診面積、防除(D-D、DBCP剤)。]
182. 富田一郎：マリーゴールドの殺線虫成分の化学的創造と作用機構。植物防疫 18(9) 345-349. [マリーゴールドから抽出された $\alpha$ -terthienyl, 5-(3-buten-1-ynyl)-2, 2'-bithienylが殺線虫物質。それらの類縁化合物の合成と殺線虫力にも言及。]
183. 友永 富・黒川秀一：イネネモグリセンチュウに関する新知見。北陸病虫研報 12: 74-76. [湿田に多い。土性、ゴマハガレ病、根ぐされとの関係は不明瞭。珪酸カルシウム、堆肥連用により線虫寄生減少。寄生の増加で稲の生育低下。]
184. 戸津侃公：糸瓜のツルワレ病抵抗性とネコブセンチュウとの関係(予報)。育雑 14(3) 207. [講要]
185. 堤 正明：ダイズシストセンチュウふ化に及ぼす栽培土壤浸出液の影響。北日本病虫研報 15: 136-137. [インゲン栽培土の浸出液では孵化が多く、コムギでは少。]
186. 堤 正明：ダイズシストセンチュウふ化に及ぼす植物栽培土壤浸出液の影響。応動昆大会講要 昭39: 33-34. [講要]
187. 都築辰吉：前橋営林局管内における森林病害虫とその防除について。森林防疫ニュース 13(2) 36-38. [土壤線虫およびそのD-D剤による防除を含む。]
188. 植村誠次：オガ屑堆肥の製造と施用効果(わかりやすい林業研究解説シリーズ6)。林業科学技術振興所、東京、51 pp. [土壤病害線虫防除効果 P.33-42. 線虫防除用には鶏糞添加した堆肥が良い。]
189. 上住 泰：Helicotylenchus 属線虫各種の比較。関西病虫研報 6: 78-79. [講要。H. nanus, H. digonicus, H. erythrinae, H. microlobus, H. bamboophilus n.sp. を記載。最後の種(H. erythrinaeに近似)は一戸 稔により記載予定と記されているが、命名規約上は本記事が本種の本記載となる(一户による記載は刊行されていない)。]
190. 和知文雄：苗畑における土壤線虫防除試験。林業技術 269: 29-30. [D-D、EDB、クロルピクリン、VS34オガ堆肥を施用。ユミハリセンチュウ等に対する効果。]
191. 和知文雄・藤田伯寿：苗畑における立枯病(根腐型)防除調査。造林技術研究集録(前橋営林局) 1964: 131-135. [殺菌剤・土壤改良剤と比較してD-D剤の効果大。]
192. 若林敏一：馬鈴薯のネグサレセンチュウに関する研究。東北農試研究速報 2: 29-34. [抵抗性検定：高澱粉価の品種ほど抵抗性の傾向。被害度と軟腐病とは無関係。]
193. 鷺尾貞夫：青森県に棲息する植物寄生性線虫類。北日本病虫研報 15: 129-131. [18属29種以上を確認。ネグサレセンチュウ6種の分布。キタネグサレのマツ苗、ムギネグサレのナスへの接種試験。ダイズシストセンチュウの検出状況。]
194. 鷺尾貞夫：線虫の被害と防除：県内で現在知られている線虫は29種。青森農業

- 15巻3: 40-42. [分布、被害、防除 (薬剤の種類と使用上の注意).]
195. 渡辺 巖: 土壤殺菌剤施用による土壤微生物相の変動: 窒素成分の変化に関与する微生物の変動. 植物防疫 18(10) 406-410. [クロルピクリン、D-D、EDB、DBCP 剤他. 有機物の無機化、処理後の土壤中微生物相の回復、硝化菌の抑制と回復.]
196. 山田隆保: Studies on the ecology of the parasitic nematode of the mushroom, Ditylenchus myceliophagus Goodey, 1958. II. Relation between several breeding temperature and its number of multiplication. 三共研年報 16: 79-83. [20-33 °Cにおける増殖.]
197. 矢内万平・三輪計一・太田 叶: ヒールムギ稿萎縮病について (I) 土壤消毒の効果. 関東病虫研報 11: 29. [D-D、ペーバム剤施用でムギ増収。発病程度は不変または減少.]
198. 横川登代司: 苗木に寄生する線虫実態調査からの2、3の知見. 75回日林大会講要: 365-368. [埼玉県のスギ、ヒノキ、アカマツの調査. イシユク、ユミハリ、ネグサレセンチュウが主体.]
199. 横浜正彦・菅田重雄・新井 茂: そ菜におけるクロルピクリン剤の効果について (2) 効果と経済性. 東京農試特報 20: 250-252. [贈写. サラダ菜、キュウリ.]
200. 横尾多美男: On the stubby root nematodes from western Japan. 佐賀大農彙 20: 57-62, 7 pls. [Trichodorus mirzai Siddiqi を芝から記録. 2 新種 I. longistylus (福岡県田主丸のクロマツ苗畑)、I. cedarus (福岡県朝倉町のスギ) を記載. 前者は後者のシノニムとされた (No. 79-132).]
201. 横尾多美男: On a new species of ring nematode from Japan (II). 佐賀大農彙 20: 63-65, 3 pls. [Criconemoides sagaensis を新種として佐賀県鳥栖のゴルフ場から記載. 本種は現在 species inquirenda とされている (De Grisse, A. T., Thesis, 1969). 写真及び図では2種類 (Hemicriconemoides 属と Criconemella 属) を含むように見える.]
202. 横尾多美男: On a new species of Aphelenchoides (Aphelenchidae: Nematoda), a parasite of bulb of lily, from Japan. 佐賀大農彙 20: 67-69. [新種 Aphelenchoides lilium (ユリセンチュウ) を記載. 模式産地は神奈川県.]
203. 横尾多美男: ミカンネセンチュウに関する調査研究. 佐賀大農彙 20: 71-109, 5 pls. [総説的論文. 各ステージの計測値、生活史、寄主植物、被害、地理的分布、垂直分布、樹幹からの距離と分布、防除法 (D-D、EDB、DBCP 剤他)、防除効果、植物防疫 19(6) 255, 1965に抄録.]
204. 横山俊治・山本敏夫・近藤鶴彦: 茶の成木園における Pratylenchus loosi の被害について. 関西病虫研報 6: 79-80. [講要. 茶の生育と線虫密度. DBCP 剤施用による回復.]
205. 吉田正義・廿日出正美: 土壤病害虫によるミカン根部の被害解析 第1報 ミカの栽培装置. 静岡大農研報 14: 157-166. [Knop液を含んだ木材粉利用. 線虫記述なし. 植物防疫 19(6) 254, 1965に抄録.]
206. 吉田 猛: ラッカセイのキタネコブセンチュウに対する薬剤防除. 関東病虫研報 11: 99. [EDB 剤が特に高い効果. 持続性は DBCP、EDB、D-D 剤の順.]
207. 吉野 実: 主要畑作物の前後作としての暖地でん菜栽培上の土壤肥料からみた問題点. てん研報 補4: 153-160. [クロルピクリン、D-D、EDB 剤の硝酸化成作用に及ぼす影響を含む.]
208. Anon.: 線虫の和名. 植物防疫 18(4) 159-160. [日本植物防疫協会線虫対策委員会において決定された和名の一覧表. 現在も多くはこれに準拠.]

209. Anon. : 大豆の病害虫と抵抗性品種. 農業技術 19(3) 107. [ダイズシストセンチュウの薬剤防除と抵抗性品種の育成を含む.]
210. Anon. : 最近における農薬輸入事情. 農業技術 19(6) 269. [D-D: 1億5千万円.]
211. Anon. : 新製品解説. 農及園 39(2) 1870. [共立式トレーラ形土壤消毒機TF-2型.]

昭和40年 (1965)

1. 天野 隆・尾崎典光・岩瀬茂基: ニセネグサレセンチュウ (*Aphelenchus avenae*) に関する研究 第1報 本線虫の形態及び生態と甘藷加害性について. 愛知農試彙報 19: 84-93. [形態、生態(季節的消長、垂直分布)、寄生性、被害、甘藷品種と被害.]
2. 安藤隆夫・宮崎 司・藤瀬一馬: 近縁植物とのかけあわせによる甘しょ新品種の育成. 九州農試年報 昭39: 24-30. [*Ipomoea trifida* を用いた線虫抵抗性育種を含む.]
3. 安藤茂信: 苗畑並びに品種別形挿木苗の線虫被害について. 日林九支講 18: 121-123. [スギ、ヒノキからの検出線虫の種類と密度.]
4. 安藤茂信・吉田勝馬: 苗畑並びに品種別形挿木苗の線虫被害について. 大分林試業報 昭39: 95-106. [謄写. ネコブ、ピン、ネグサレセンチュウが多い. EDB剤の効果等.]
5. 荒木隆男: 果樹の土壤病害とその対策. 農及園 40(1) 40-44. [線虫病の解説(ネコブ、ネグサレセンチュウ). 防除対策を含む.]
6. 浅井三男: ダイズシストセンチュウによるダイズの生育変動について. 北日本病虫研報 16: 98. [肉眼的な被害兆候なくとも実害大.]
7. 浅井三男・西尾美明: D-D処理後におけるダイズシストセンチュウの発生活長について. 北海道農試彙報 80: 40-43. [春季の処理により増収、ただし収穫期のシスト数・根のホホワイトシスト数などは無処理と差なし.]
8. 浅井三男・尾崎 薫: 畑輪作における前後作組合せ様式に関する研究 第6報 作付順序の相違によるダイズシストセンチュウの消長. 北海道農試彙報 87: 66-73. [寄主・非寄主の隔年栽培ではシスト密度徐々に高まる. 非寄主4年連作でもシストは残存. 前作跡地シスト密度と後作豆類の生育・収量は負の相関.]
9. 千代西尾伊彦: ナシ. In: 永年作物線虫防除基準. 日本植物防疫協会、東京、p. 17-19. [クルミネグサレセンチュウの季節的発生活長. DBCP剤による防除.]
10. 千代西尾伊彦・井嶋竜雄: 梨の根辺から検出されるネグサレセンチュウの季節的消長について. 応動昆虫大会講要 昭40: 39. [講要]
11. 江畑正之・相星勝美・広浜正人: 暖地におけるてん菜品種の適応性について. 九州農業研究 27: 83-84. [初秋まき栽培は夏まきにくらべ線虫の発生少ない.]
12. 家入 章・古山 覚: 熊本県における甘藷の線虫被害に関する研究(第2報) 線虫と甘藷つる割病菌との混合感染機構について. 九病虫研会報 11: 110-112. [*Fusarium* 菌とミナミネグサレセンチュウとの混合接種で、菌単独より大きな病斑.]
13. 江村一雄・植木昭三・諸橋重郎: イネネモグリセンチュウに対する殺線虫剤処理の影響 第2報 D-D処理と稲の生育. 北陸病虫研報 13: 94-96. [線虫防除効果以外に薬剤の副次的作用が稲増収の原因.]
14. 榎木輝男・宮下茂樹・今村 実: 暖地畑地におけるてん菜の連輪作について. てん研報 補6: 47-52. [土壤消毒で連作可能. 無消毒では2年連作まで. 輪作は3年以上が望ましい.]

15. 江藤守総・小林 健・加藤猛史・小島健一・大島康義: Saligenic cyclic phosphoramidates and phosphoramidothionates as pesticides. *Agr. Biol. Chem.* 29(3) 243-248. [サリゲニン環状ホスホラミデートとホスホラミドチオネートの12の化合物について殺虫効果を検討。Rhabditis sp. に対する効果を含む。]
16. 藤川 隆・富来 務・岡留善次郎: 稲心枯線虫病に関する研究 第1報 稲心枯線虫病に対するR E E剤および有機水銀剤の混用による種子消毒効果. *農及園* 40(11) 1777-1778. [水銀剤単用は高濃度でも効果なし。馬鹿苗病・イモチ病との同時防除に混用が効果。]
17. 藤村 良: 蒸気土壌消毒の方法. *農業技術研究* 19巻11:35-39. [各種方法の紹介。]
18. 藤村俊彦: ブドウ. In: 永年作物線虫防除基準. 日本植物防疫協会、東京、p. 11-13. [ネコブセンチュウのDBCP乳剤、同粒剤による防除法。]
19. 深沢永光・鈴木当治: 草莓を加害するイチゴメセンチュウ *Nothotylenchus acris* Thorneに関する研究 第1報 発生分布と被害. *静岡農試研報* 10: 85-91. [分布、被害株率、症状、収量、加害部位. *植物防疫* 20(11) 514, 1966 に抄録。]
20. 福留信明・田中 勇: 土壌線虫の消長に及ぼす土壌消毒の影響. *九病虫研会報* 11: 112-114. [タバコのサツマイモネコブセンチュウにクロルピクリン、EDB剤施用。早い場合には処理6月後に線虫密度回復。]
21. 五味美知男・中里筆二・吉沢 進: 稲心枯線虫病防除に関する研究 第5報 低毒性有機燐剤による種粒処理効果. *関東病虫研報* 12: 99. [スミチオン乳剤が有効。]
22. 後藤 昭: 九州の飼料作物、牧野の線虫. *応動昆大会講要* 昭40: 35. [講要]
23. 後藤 昭: 薩南諸島の主としてサトウキビ畑の植物寄生性線虫. *九病虫研会報* 11: 105-110. [以下の種の形態を記載。 *Pratylenchus scribneri*, *P. brachyurus*, *Helicotylenchus erythrinae*, *H. sp.*, *Hoplolaimus sp.*, *Scutellonema sp.*, *Tylenchorhynchus spp.*, *Hemicriconemoides sp.*, *Trophurus sp.*, *Xiphinema americanum*。]
24. 後藤 昭: 薩南諸島におけるサトウキビ有害線虫に関する調査. *九州農試研究資料* 35: 63-87, 1 pl. [謄写。検出線虫及び検出地、検出圃場の作付歴、発生程度、土壌等をまとめる。]
25. 後藤 昭・大島康臣: ジャガイモを加害するミナミネグサレセンチュウの生態と防除. *農林水産技術会議 指定試験 (病害虫)* 5: 1-77, 4 pls. [分布、被害作物、病徴、発育、産卵、生態 (越冬、垂直・水平分布、季節的消長、年間変動)、被害解析、寄生根・塊茎への侵入)、加害、植付・掘取時期・温度・施肥・ジャガイモ品種と被害)、防除 (薬剤消毒、早掘り、種いもの温湯浸漬). *植物防疫* 20(4) 188, 1966 に抄録。]
26. 橋本平一・萩原幸弘: モリシマアカシア苗の根瘤線虫に対する殺線虫剤の効果. *日林九支講* 18: 127-129. [D-D、EDB、DBCP、クロルピクリン、シミルトン剤を施用。]
27. 引地直至: モモ. In: 永年作物線虫防除基準. 日本植物防疫協会、東京、p. 3-6. [線虫相、DBCP剤による生育中消毒。新植・改植時のD-D、EDB剤等消毒。]
28. 平野和弥: モモの線虫病の被害と防除法. *農及園* 40(1) 87-92. [ネコブセンチュウ。病徴、被害、生態 (根への侵入、生活史、分布)、発生要因、伝染経路、防除対策 (予防対策、DBCP剤灌注)。]
29. 平野和弥: ネコブセンチュウ (*Meloidogyne incognita* var. *acrita* Chitwood) の罹病組織汁液が各種土壌病原菌におよぼす影響. *千葉大園学報* 13: 1-8. [汁液は菌体の発育を促進。ただし、菌の種類によってその程度に違い。]
30. 平野和弥・河村貞之助: 線虫と他の微生物とによるDisease complex (I) 土壌中におけるネグサレセンチュウ (*Pratylenchus spp.*) の *Fusarium spp.* に対する行動. 日

- 植病報 30(1) 24-30. [キタネグサレ、ミナミネグサレセンチュウは菌叢および浮遊液に誘引された。その程度は菌の種類により差異。]
- 3 1. 堀内克一：クワの生育におよぼすD-Dの影響。関東病虫研報 12: 110. [18g/10 aで1%の枯死株発生、残存株は翌年の伸長が15-20%増。]
- 3 2. 一戸 稔：線虫学の話題と方向：第8回国際線虫学シンポジウムから。農業技術 20(12) 570-574. [シンポジウムの成り立ち、フランスの線虫学の紹介、分類、栄養、生理、シストセンチュウ（レース、孵化、被害予測、性誘引物質）、加害生態、摂食行動、ウイルス伝播、輪作、薬剤防除。]
- 3 3. 一戸 稔：ネコブセンチュウの生態と防除。農及園 40(6) 973-976. [被害とその診断、種類（寄主反応による判別法）、耕種技術的防除（輪作、抵抗性品種、対抗植物、堆肥施用他）、化学的防除（D-D、EDB、DBCP剤）。]
- 3 4. 一戸 稔：昭和39年度に試験された害虫防除薬剤：委託試験成績から：殺線虫剤。植物防疫 19(2) 49-50. [D-D、EDB、DBCP、CDBE、N-582、IK-141、新ネマセット粒剤、TS-100、A-529、A-1339、A-1311。]
- 3 5. 一戸 稔：永年作物の線虫防除。新農薬 19(3) 47-58. [被害、忌地と線虫との関係、検出線虫、防除（根の温湯浸漬、植付前の圃場の消毒（D-D、EDB、DBCP剤）、成木に対する薬剤防除（DBCP剤）。]
- 3 6. 一戸 稔：果樹と線虫（上）恐るべき線虫の被害。果樹 19巻5: 4-5. [果樹の線虫被害、線虫は果樹の寿命をちじめる、忌地の原因は線虫、そのほかのかくれた被害。]
- 3 7. 一戸 稔：果樹と線虫（中）線虫の種類。果樹 19巻6: 4-6. [堆肥多用、DBCP剤施用。]
- 3 8. 一戸 稔：果樹と線虫（下）線虫の防ぎ方。果樹 19巻7: 6-8. [ネコブ、ネグサレ、ミカンネセンチュウの解説。]
- 3 9. 一戸 稔：Nematodes menace perennial crops. Biokemia 9: 10-13. [日本における永年作物寄生線虫防除を紹介。]
- 4 0. 一戸 稔：線虫における“寄主と寄生者の関係”についての一考察。応動昆大会講要 昭40: 37. [講要]
- 4 1. 一戸 稔：袋形動物：線虫綱。In: 新日本動物図鑑（上）（岡田 要他監修）。北隆館、東京、pp. 432, 434, 435, 451-454. [下記の自活性、植物寄生性線虫20種の図示、記載。Xiphinema americanum, Trichodorus porosus, Diplogaster longicaudatus, Tylenchus davaini, Tylenchorhynchus claytoni, Ditylenchus dipsaci, Anguina tritici, Helicotylenchus dihystrera, Pratylenchus coffeae, Radophorus oryzae, Rotylenchulus reniformis, Nothotylenchus acris, Heterodera glycines, Meloidogyne hapla, Criconemoides komabaensis, Hemicriconemoides kanayaensis, Paratylenchus elachistus, Tylenchulus semipenetrans, Aphelenchoides ritzemabosi.]
- 4 2. 一戸 稔・中園和年・岡本好一・中島健次：放射線育種場における線虫密度の変動に関する調査。応動昆大会講要 昭40: 36. [講要]
- 4 3. 位田藤久太郎：ハウス栽培における蔬菜の生育障害と対策。農及園 40(12) 1885-1889. [ネマトーダによる連作障害を含む。]
- 4 4. 井幡清生・松枝 章：苗畑土壤線虫防除試験（中間報告）。石川林試研報 2: 315-324. [謄写。アカマツ、スギにD-D、DBCP、クロルピクリン剤施用。]
- 4 5. 稲垣春郎：線虫関連病害に関する研究の現状。植物防疫 19(4) 141-148. [分類、研究事例（国内、国外）、研究法、研究上の問題点。]
- 4 6. 稲垣春郎・古山三郎：各種作物栽培によるピンセンチュウ密度の変化。北日本病虫研報 16: 97. [ハッカで線虫密度増加。インゲン、ダイズ、パレイショ、テンサイ、コ

- ムギ、チモシー、赤クローバーで減少。]
47. 稲垣春郎・桜井 清：ハッカ地下茎（種根）黒腐病における *Paratylenchus* sp. の関係。応動昆大会講要 昭40: 38-39. [講要]
48. 稻生 稔：栗のネグサレ症状について。関東病虫研報 12: 106-107. [ネコブ、トゲワセンチュウの検出多。]
49. 稻生 稔：県内における作物寄生性線虫の種類と被害について。茨城病虫研報 4: 54-56. [14属26種。]
50. 稻生 稔・阿部純造：ヤマイモの褐変硬化現象に対する薬剤防除効果。茨城病虫研報 4: 59-60. [クロルピクリンが効果あり。]
51. 稻生 稔・針谷信義：殺線虫剤による茶園根腐防除効果について。茨城病虫研報 4: 59-60. [DBCP剤が薬害少。]
52. 井上 寿：北海道におけるアズキ、インゲンの害虫。北日本病虫研報 16: 64. [ダイズシスト、キタネコブセンチュウを含む。]
53. 井上 巖：袋形動物：線形虫綱。In: 新日本動物図鑑（上）（岡田 要他監修）。北隆館、東京、pp. 465-466. [概説並びに5種を図示・記載。 *Chordodes japonicus*, *C. fukuii*, *Parachordodes okadai*, *Paragodionus kawamurai*, *Gordius japonicus*。]
54. 井上忠彦・中山 勇：γ-BHC剤のマツ樹皮にたいする浸透性および残効性。応動昆大会講要 昭40: 19. [講要]
55. 石橋信義：The increase in male adults by gamma-ray irradiation in the root-knot nematode, *Meloidogyne incognita* Chitwood. *Nematologica* 11(3) 361-369. [性分化前の幼虫にガンマー線を照射。その量の増加によって雄成虫が増える。发育ステージの進んだ幼虫でも実験。]
56. 石橋信義・田口 茂：Studies on the hatching of the root-knot nematodes, *Meloidogyne incognita* Chitwood. II. Radio-sensitivity of embryos and infectivity of larvae emerging from irradiated egg masses. *Annot. Zool. Japon.* 38(1) 12-19. [照射量が増加するにつれ卵囊からの游出幼虫減少。0.3 M NaCl浸漬卵囊及び褐色卵囊では異なった傾向。孵化幼虫は形態的に異常。]
57. 石橋信義・田口 茂：Effect of ionizing on the propagation of root-knot nematode, *Meloidogyne incognita* Chitwood. *Annot. Zool. Japon.* 38(4) 182-189. [寄主侵入3日以内に10Kr以上照射すると線虫は成熟・産卵せず、雄成虫が増加。寄主に照射すると線虫侵入が激減。]
58. 石川元一：茶樹の線虫防除をおこなった効果の事例。今月の農業 9巻4: 12-14. [未見]
59. 石川元一：施肥とイネネモグリセンチュウとの関係。関東病虫研報 12: 115. [稲の根からの線虫游出数は窒素多用で増加、カリ多用で減少。]
60. 石川元一・高瀬一太郎：ナシ樹の土壤線虫について。関東病虫研報 12: 102. [ネグサレセンチュウが多。他に7属の線虫の検出頻度、樹齢と線虫検出率。]
61. 石倉秀次：昭和40年度植物防疫事業の概要。植物防疫 19(4) 133-136. [永年作物の土壤線虫パイロット防除1,500 ha、ネグサレセンチュウの簡易検診方法の確立に関する特殊調査の継続実施。]
62. 伊藤喜隆：リング。In: 永年作物線虫防除基準。日本植物防疫協会、東京、p. 7-10. [ネコブセンチュウのDBCP剤他による防除。]
63. 伊藤喜隆・中越省逸：リングのネコブセンチュウ被害樹に対するDBCP処理後の樹勢の回復について。応動昆大会講要 昭40: 38. [講要]
64. 弥富喜三：殺線虫剤の生物検定法。In: 農業の生物検定法（古山 清・菅原寛夫

- 編), 南山堂, 東京, p. 169-188. [線虫の人工培養法, 殺線虫剤の浸漬・ポット・圃場試験法, 拡散型・防除型の調査法。]
65. 桂 琦一・河野又四: *Digitalis lanata*の株腐病の発生と防除, 関西病虫研報 7: 69-70. [講要。D-D、クロルピクリン、ペーパム、EDB剤処理が当年のみ効果。]
66. 川田惣平: 落花生に対するD-D、EDB剤の生育期処理の効果, 茨城病虫研報 4: 40-42. [発芽障害が見られた。]
67. 河村貞之助・平野和弥: 線虫と他の微生物とによる複合病 (Complex disease)に関する研究 第1報 ネコブセンチュウによる罹病組織の汁液が各種土壤病原菌の発育におよぼす影響, 日植病報 30(2) 105. [講要]
68. 川島嘉内: *Hirschmanniella oryzae*に関する研究 (6) ゴマハガレ病との関係, 東北農業研究 7: 57-58. [線虫寄生数と同病の病斑数は7月24日には正の、8月23日には負の相関。線虫寄生によりカリの吸収量が減少。]
69. 川島嘉内: *Hirschmanniella oryzae*に関する研究 (VII) 移植期の差異と発生消長との関係, 応動昆虫大会講要 昭40: 36. [講要]
70. 川島嘉内: 乾田直播栽培におけるイネシストセンチュウに防除法について, 北日本病虫研報 16: 127. [D-D剤施用 (30 l/10 a)後に鎮圧すると防除効果が大きい。薬剤処理鎮圧区では石灰窒素、化成肥料の違いによる収量差は少。]
71. 川島嘉内・藤沼敏子: イネネモグリセンチュウの被害に関する研究: 水稲幼植物の被害について, 福島農試研報 1: 57-64. [ポットによる接種試験。稲の生育の遅延、草丈・生体重・風乾重の減少、根の褐変度と接種数に正の相関。]
72. 気賀沢和男: ネコブセンチュウによるクローバーの被害とその防除について, 北日本病虫研報 16: 100-101. [寄生指数50以上で寄主の生育低下。D-D剤施用、ラブリラス (対抗植物) 混播の効果。]
73. 木村俊彦・西沢正洋: イネ萎縮病の生態および防除に関する研究 第14報 イネ萎縮病とイネ心枯線虫病との関係, 九州農業研究 27: 124. [混合感染で稲生育悪化。]
74. 清原友也: 九州国有林苗畑の土壤線虫調査, 日林九支研講 18: 108-111. [アカマツ、クロマツの検出線虫。ネコブセンチュウが多。]
75. 小林義明・深沢永光: 早掘甘しょにおけるネコブセンチュウの防除要否の判定について, 関西病虫研報 7: 89. [講要。冬春季の線虫寄生程度から、被害の予測可能。]
76. 近藤秀明・大津貞夫・山本雄三: 土壤線虫の防除に関する研究 (II) 殺線虫剤による土壌処理がスギまきつけ苗の生育におよぼす影響について, 76回日林大会講要: 342-345. [スギのネグサレセンチュウにD-D、EDB、DBCP剤。]
77. 近藤鶴彦・高見辰吉・伊達一郎・山本敏夫: 畑地かんがいおよび田畑輪換による連作障害対策試験, 畑地かんがいに関する研究集録 8: 43-45. [謄写。畑地の1作水田化ではネコブ、ラセン、ワセンチュウは下層で生存。]
78. 工藤 馨: 線虫に関する試験, 明大農付農場特報 4: 24-26. [ビートのネコブセンチュウ被害、D-D剤による防除。]
79. 熊本勝己: 筑紫郡における抑制トマトの病害虫防除の問題点とその対策, 九病虫研会報 11: 79-82. [D-D、クロルピクリン剤施用により青枯病も減少。]
80. 熊沢基弘・近岡一郎: イチゴのネグサレセンチュウについて (第3報) 苗の寄生について, 関東病虫研報 12: 105. [多くの苗に線虫寄生。]
81. 熊沢隆義: イネシストセンチュウの生態と防除, 関東病虫研報 12: 6-8. [線虫の形態、生活史、寄主植物 (イネ、ヒエ、イヌヒエ)、被害、防除 (抵抗性品種、輪作)、薬剤防除 (D-D、EDB剤)、防除効果 (生育、収量)。]
82. 吳羽好三: クワ, In: 永年作物線虫防除基準, 日本植物防疫協会、東京, p.27-28.



- [ネコブセンチュウのDBCP80%乳剤、20%粒剤による防除。]
83. 吳羽好三・松野忠男・中村知義：イネネモグリセンチュウに対する薬剤の効果とイネに対する影響。関東病虫研報 12: 96-97. [D-D剤20ℓ/10a施用で防除効果。窒素質肥料少な目が増収。]
84. 黒川秀一・中村良一：イネネモグリセンチュウによる水稻の被害について。北陸病虫研報 13: 92-94. [線虫接種により土壤還元が強まり、収量は約1割減。]
85. 前田 (Maeda, E.): Rate of lamina inclination in excised rice leaves. Phys. Plant. 18: 813-823. [稲に対するEDB剤の生育促進作用を調べる。]
86. 真宮靖治：苗木に寄生するネグサレセンチュウについて (予報)：線虫寄生が苗木の生育におよぼす影響 (2)。76回日林大会講要: 345-347. [線虫接種により苗の生育低下。]
87. 真宮靖治：林業と線虫。北方林業 17巻11: 16. [北海道のネグサレセンチュウ他。]
88. 増田康哉：桑園における土壤線虫の防除について (I) 桑園における土壤線虫の季節的消長。日蚕九州講要 昭40: 44. [講要。アレナリアネコブセンチュウ。]
89. 増田康哉：桑園における土壤線虫の防除について (II) 土壤線虫の生息密度と桑の発育。日蚕九州講要 昭40: 44. [講要]
90. 増田康哉：桑園における土壤線虫の防除について (III) 土壤線虫の薬剤による防除効果。日蚕九州講要 昭40: 44-45. [講要]
91. 松井弘之：イチシク寄生線虫 (*Meloidogyne incognita* var. *acrita*) に関する研究 (第1報)。園芸学会昭40秋研究要旨: 1. [講要]
92. 松本重男・松永弥七・朝日幸光・高瀬 昇・井浦 徳：暖地におけるてん菜の連作と輪作。九州農試年報 昭39: 31-33. [D-D剤の消毒効果大。]
93. 峰尾一彦・寺下隆喜代：ネグサレセンチュウの生息地における播種床苗の生育について。日林関西支講 15: 91-92. [ミナミネグサレセンチュウの有無によりスギの立枯病発病に大差。]
94. 宮川経邦：ミカン。In: 永年作物線虫防除基準。日本植物防疫協会、東京、p. 20-23. [植付け前のD-D、EDB剤による土壤処理。DBCP剤の立毛中処理。]
95. 宮本雄一：植物ウイルスの伝搬機構：特に土壤伝搬と昆虫伝搬について。農及園 40(2) 297-300. [線虫媒介を含む。]
96. 水田美照・佐藤 誠：家蚕に寄生する線虫についての二、三の観察。蚕糸研究 57: 22-24. [Rhabditidae 科線虫の1種。寄生 (症状)、形態。]
97. 森川 修：自活性線虫 (*Panagrellus redivivus* Goodey) における三炭糖磷酸脱水素酵素活性とEDBによる阻害について。応動昆 9(3) 187-190. [in vitroでの酵素阻害度は上記線虫とワモンゴキブリでよく似る。in vitroの阻害度は浸漬法で求めた死亡率とほぼ平行的関係。]
98. 森田 儔：イチゴの病害と防除法。農及園 40(4) 665-668. [ネグサレセンチュウの被害、防除法 (D-D、EDB、DBCP、クロルピクリン) を含む。]
99. 森田 儔・庄司和雄・栗田 博・松本弘義：キクの連作障害に対する薬剤防除の効果。関東病虫研報 12: 50. [ネグサレセンチュウを多数検出。D-D剤施用が効果。]
100. 村井敏信・鈴木照磨：土壤中におけるDBCPの拡散係数。農業生産技術 13: 27-28. [計算式と実測値はよく一致。]
101. 村井敏信・鈴木照磨：土壤中におけるDBCPの拡散係数。応動昆大会講要 昭40: 19. [講要]
102. 村上雅二・清松清高・近藤 信：水稻品種の線虫心枯病抵抗性について。日作九支報 25: 27-28. [病徴だけでなく、寄生数・生育収量への影響も調査し判定する。]

103. 村上正雄・高野光之丞：土壤反応を異にした場合の殺線虫剤（D-D・EDB）処理がコムギの収穫物におよぼす影響について，関東病虫研報 12: 117-118. [立毛中の施用で減収.]
104. 永沢 実・堀江典昭：ネグサレセンチュウの寄生性と被害，応動昆大会講要 昭40: 38. [講要]
105. 永沢 実・堀江典昭：ネグサレセンチュウの寄生性と被害，東京農試特報 21: 76-80. [謄写。キタネグサレセンチュウ。トマト、ナス、キュウリ、ダイコン、コカブ、インゲン、陸稻、麦に寄生多い。]
106. 中臣康範・江村一雄：新潟県の植物寄生線虫について，新潟園試研報 1: 47-57. [17属21種を記録。ネコブ、ダイズシストセンチュウの分布と土性、ネコブ、ネグサレセンチュウの垂直分布と季節的消長。]
107. 中國和年：ニセフクロセンチュウ (*Rotylenchulus* sp.) 雌虫の成長，応動昆大会講要 昭40: 35. [講要]
108. 中渡瀬清香・今村 寛・榎木輝男：かんがい下における線虫の消長に関する試験，畑地かんがいに関する研究集録 8: 126-129. [謄写。灌水によってネコブ、ネグサレセンチュウ密度半分以下に減少。]
109. 中里筆二・黒沢次男：イネシストセンチュウの分布調査，関東病虫研報 12:100. [群馬県内では標高70-300 mの範囲に棲息密度の高い畑が多。]
110. 難波宏之：福岡県におけるセルリーの品種と栽培，農及園 40(10) 1531-1534. [ネマトーダ防除（D-D、EDB、クロルピクリン）を含む。]
111. 成田武四：貯蔵ジャガイモの病気および生理障害の見分け方，植物防疫 19(2) 77-81. [いもぐされ線虫病（ねぐされ線虫病）を含む。]
112. 新留伊俊・永野邦弘：てん菜に寄生するネコブセンチュウの防除法，てん研報補6: 1-7. [DBCP粒剤・液剤は実用的に使用可能。]
113. 西山成俊・三宅規夫・酒井久夫：D-Dの施用が水田土壌の有機物窒素の無機化におよぼす影響について，福岡農試研報 3: 33-38. [アンモニア態窒素が増加するが、水稻収量には影響なし。]
114. 西沢 務・弥富喜三：EDB処理による水稻の異常生育について，応動昆大会講要 昭40: 36. [講要]
115. 野口純隆・吉野 実：土壌消毒畑における窒素施用法の問題点とその対策，農及園 40(9) 1437-1438. [畑水稻、暖地甜菜に対するD-D剤施用問題を述べる。硝酸嗜好性作物には、初期生育を旺盛にする意味で硝酸態窒素の添加が望ましい。]
116. 野口純隆・吉野 実：灌水かんがいによる線虫被害の軽減効果に関する試験，畑地かんがいに関する研究集録 8: 167-169. [謄写。20日間の高湿時灌水によってキュウリのネコブセンチュウ被害ほとんど皆無。]
117. 野村静男・横川登代司：殺線虫剤EDBの土壌処理が苗木の生育に及ぼす影響について（第1報）EDBの処理に対するスギの肥料3要素試験，76回日林大会講要：100-103. [窒素欠時は処理効果なし、リン酸・カリ欠時は効果大。]
118. 小芦健良：タバコに対するDBCP剤の薬害について，九病虫研会報 11: 114-115. [植え付け9ヵ月前では薬害なし。]
119. 小畑琢志・武田和子・森 武雄：植物病原菌、植物寄生線虫に対する各種化合物のくん蒸効果，日植病報 30(5) 272. [講要]
120. 尾形 保：ラジノクロノバの夏枯れに及ぼす土壌の種類と地温の影響について，土と微生物 7: 16-22. [火山灰土壌ではネコブセンチュウの寄生が重要原因。]
121. 及川英雄・石亀英徳・佐藤昭美：くわのネコブセンチュウ防除に関する試験

- (Ⅲ) 桑苗の消毒試験. 岩手蚕試年報 12: 104-107. [DBCP剤の桑苗根の浸漬及び葉害.]
- 1 2 2. 岡 英人: 黄色品種の動向と新品種の特性. 葉たばこ研究 38: 29-38. [線虫抵抗性を含む.]
- 1 2 3. 岡田利承: ダイズシストセンチュウ密度と施肥量との関係. 応動昆大会講要 昭40: 37. [講要]
- 1 2 4. 岡田利承: 線虫の寄生分布に関する研究 第1報 ダイズシストセンチュウの土中分布が大豆の根系と線虫の寄生分布に及ぼす影響. 北海道農試彙報 87: 74-86. [線虫の寄生により、大豆根系の土中分布が変化。土壤中及び根組織中のシスト、線虫の垂直分布、天地返しの防除効果を含む。植物防疫 20(9) 409-410, 1966に抄録。]
- 1 2 5. 岡田利承: 線虫の寄生分布に関する研究 第2報 大豆根の生長とダイズシストセンチュウの寄生分布. 北海道農試彙報 88: 28-37. [線虫寄生時の根の分布は浅層で増加。大豆の生育とともに根と線虫の分布は変化。植物防疫 20(9)409-410, 1966に抄録。]
- 1 2 6. 恩田政行・滝口和夫・平倉 実・福島 浩・赤川真寿子・直井房司: たけにくさ成分の研究 (第1報) 殺線虫作用を有するアルカロイドについて. 農化 39(4)168-170. [sanguinarine, chelerythrine, bocconineが殺線虫力、抗菌力(前記物質の塩基)を持つ。Rhabditis, Panagrolaimus属線虫を供試。]
- 1 2 7. 太田勇吉・井上 敏: 宮城県の杉苗畑における寄生性線虫類の分布と杉苗の被害. 応動昆大会講要 昭40: 35. [講要]
- 1 2 8. 大塚清次: 新登録農薬. 植物防疫 19(1) 27. [カーバム剤(NCS): ネコブ、ネグサレセンチュウ、土壤病害に効果。]
- 1 2 9. 大塚清次: 新登録農薬. 植物防疫 19(9) 378-379. [DCIP油剤、同乳剤(ネマモール)の物理性、毒性、対象線虫、対象作物、施用法を含む。]
- 1 3 0. 大槻 昭: 桑園土壤線虫防除試験. 長野蚕試要報 1: 181-193. [ネコブセンチュウに対するDBCP剤の効果。殺線虫剤の蚕への影響。]
- 1 3 1. 三枝敏郎: 土壤中の線虫の分布とその検出実験法. グリーン研報 8: 10-23. [未見]
- 1 3 2. 三枝敏郎: 薬剤による土壤線虫の一般的防除. グリーン研報 8: 26-30. [クロルピクリン、メチルプロマイド、D-D、EDB、DBCP、ベーパー剤の使用方法和効果。]
- 1 3 3. 三枝敏郎・近岡一郎・葭原敏夫: ジャワネコブセンチュウのイチゴへの寄生と加害. 応動昆大会講要 昭40: 37-38. [講要]
- 1 3 4. 三枝敏郎・葭原敏夫: スイセン圃場のクキセンチュウ生息密度の消長と作付様式との関係. 応動昆大会講要 昭40: 36-37. [講要]
- 1 3 5. 桜井 清・稲垣春郎・笠野秀雄・古山三郎: 殺線虫剤によるハッカのピンセンチュウ防除. 北日本病虫研報 16: 128. [クロルピクリン、D-D剤に線虫防除効果を認める。ただしハッカの徒長・倒伏目立つ。EDB剤は葉害、DBCP剤は効果なし。]
- 1 3 6. 桜井 清・稲垣春郎・湯原 巖・安部 浩: リンゴ幼木におけるネコブセンチュウの被害. 北日本病虫研報 16: 101-102. [苗木の生育が悪化の傾向。紅玉より旭で大。]
- 1 3 7. 佐藤昭美: クワ寄生線虫の苗木による伝播と苗木の消毒法について. 応動昆大会講要 昭40: 38. [講要]
- 1 3 8. 佐藤昭美: クワ寄生線虫の苗木による伝播について. 北日本病虫研報 16: 103. [ネコブ、ピンセンチュウを根中、根まわりの土から検出。]
- 1 3 9. 佐藤昭美: ダイズシストセンチュウの抵抗性品種と増殖について. 東北農業研究 7: 126-128. [感受性品種、抵抗性品種の連作と線虫密度の変化。]

140. 佐藤昭美・及川英雄：線虫の寄生したクワ苗木のDBCP乳剤による消毒法について。北日本病虫研報 16: 132-133. [薬剤希釈液への苗木根の15分以上浸漬で線虫数激減。100倍液では発芽(活着)に悪影響。]
141. 清家義明：イネシガラセンチュウの種別消毒について(第2報)。愛媛農試研報 5: 35-39. [サツセン40単用は1000倍希釈以内で効果。水銀剤の併用では効果低下。]
142. 清水晴雄・近岡一郎：イチゴのネグサレセンチュウについて 第1報 生息分布と種類。関東病虫研報 12: 103. [大部分の圃場からクルミネグサレ、キタネグサレセンチュウ多数検出。]
143. 清水精一郎・川内一郎：土壤線虫防除試験。鹿児島林試報 13: 67-69. [謄写。D-D、EDB、DBCP、クロルピクリン剤によるクロマツのネコブセンチュウ防除。]
144. 下川利之・井上悦甫：林業苗畑の土壤線虫に関する研究。岡山林試報 5: 53-63. [謄写。ヒノキ、スギ、アカマツ、キリの検出線虫。ヒノキ、スギのネグサレセンチュウ、アカマツのネコブセンチュウのD-D、DBCP剤による防除。]
145. 白浜賢一・一戸 稔・桜井 清：土壤病害虫の見分け方・防ぎ方(改良普及員叢書 42)。農山漁村文化協会、東京、193 pp. [線虫 pp. 117-172。]
146. 宗野重徳・田中平義・二見敬三：蒸気消毒による土壤の化学性変化について。中国農業研究 32: 71-72. [線虫記述なし。アンモニア態窒素は増加、pHは上昇傾向。]
147. 菅原 毅・稲生 稔：直播栽培田に対する殺線虫剤の処理効果と病害虫の発生について。関東病虫研報 12: 107-108. [D-D、EDB剤施用によりクビイモチ病、モンガラ病、イネツトムシは多発。ゴマハガレ病は減少。]
148. 菅原 毅・稲生 稔：直播栽培田に対する殺線虫剤処理の影響とその効果について。茨城病虫研報 4: 57-58. [D-D、EDB剤施用。]
149. 鈴木 実：水量の少ない環境に生息する水性微小動物群集の生態学的解析 III。地上性大型群集の間隙水にみられる春季動物相とその変動。動雑 74(5) 135-148. [未同定の線虫を含む。]
150. 高木一夫：チャ。In: 永年作物線虫防除基準。日本植物防疫協会、東京、p. 24-26. [チャネグサレ、カナヤサヤワセンチュウのDBCP剤による防除。前者の防除基準。]
151. 高木一夫：サヤワセンチュウの集団と令構成。応動昆大会講要 昭40: 35-36. [講要]
152. 高石哲夫・栗田宏紀・大島康義・奥田朝晴・河津光高・井手明雄：アミノ酸とそのエステルの線虫誘引性について。農化 39(9) 323-327. [Rhabditis 属線虫他を供試。オイシン、リジン、フェニルアラニン、チロシン、オルニチンエステル、バリンメチル、アスパラギン酸 $\beta$ -プロピル、同一ブチルは線虫を誘引。]
153. 高久恒夫・杉本 寛・青木 満：土壤消毒によるオオムギ萎縮病防除について。関東病虫研報 12: 22. [D-D剤施用区が最も増収。]
154. 高倉重義・木村 宏：キタネコブセンチュウの防除に関する研究(第9報) 輪作体系の密度におよぼす影響。北日本病虫研報 16: 125-126. [線虫被害の多い作物の栽培には前作物に1年間イネ科作物の単作が有効。後者は3年に一度の導入がよい。]
155. 高倉重義・手塚 浩：キタネコブセンチュウの防除に関する研究(第8報) D-D、EDBの秋季施用時期。北日本病虫研報 16: 124-125. [両薬剤とも地温5°C前後でも効果。土壤その他の条件によっては葉害。]
156. 高桑 亮・真野 豊・高倉重義：ハッカ黒腐病および線虫の発生分布について。日植病報 30(2) 102. [講要]
157. 田中 勇：線虫接種密度とタバコ生育との関係。応動昆大会講要 昭40: 38.

## 【講要】

158. 照屋林宏：植物寄生性土壤線虫の防除に関する研究（第1報）第3紀泥灰岩土壤におけるネコブセンチュウの防除効果について。琉球農試研報 2: 71-74. [D-Dは40-50  $\ell/10$  a、DBCP粒剤は50 kg/10 aが必要。]
159. 時岡 隆：袋形動物：線虫綱。In: 新日本動物図鑑（上）（岡田 要他監修）。北隆館、東京、pp. 431-432. [自活性海棲線虫4種の図示、記載。Eurystomina ornatum, Chromadora nudicopitata, Euchromadora tokiokai, Chaetosoma sp.]
160. 富来 務・藤川 隆・岡留善次郎：イネ心枯線虫病に関する研究 第2報 MP P粉剤による種子粉衣並びに播床散布の防除効果。日植病報 30(5) 274. [講要]
161. 堤 正明：ダイズシストセンチュウのふ化におよぼす寄主作物浸出液の影響。北日本病虫研報 16: 99. [卵の孵化、シストからの幼虫游出を促進。]
162. 内田貞男・臼井嘉明・近岡一郎：イチゴのネグサレセンチュウについて 第2報防除について。関東病虫研報 12: 104. [DBCP剤の効果はクルミネグサレセンチュウには高く、キタネグサレセンチュウには低い。殺菌殺線虫剤の効果は殺線虫剤単用より高い防除効果。]
163. 上住 泰：カキ・ウメ。In: 永年作物線虫防除基準。日本植物防疫協会、東京、p. 14-16. [線虫相。DBCP剤による線虫防除例。試験例が不十分。]
164. 牛山欽司・大垣智昭：温州ミカン園の忌地に関する研究（第1報）忌地現象とミカンネセンチュウの関係について。神奈川園試研報 13: 23-31. [D-D剤処理と無処理の比較。線虫と忌地との関係を示唆。]
165. 鷺尾貞夫：やさいの病害虫防除：主なものの病徴とその防ぎ方。青森農業 16巻6: 40-42. [ネコブセンチュウの薬剤防除を含む。]
166. 鷺尾貞夫：畑の土壤病害虫の防ぎ方。青森農業 16巻9: 43-45. [リンゴのネコブセンチュウ被害と防除を含む。]
167. 渡辺文吉郎：土壤化学処理の病原菌および土壤微生物に対する効果。日植病報 31（記念号 2）427-430. [DBCP剤によるPytium ultimum菌の抑制、D-D剤によるレタス菌核病菌の子器発生の増加にふれる。]
168. 八重樫隆志：土壤改良剤（アズミン）に関する研究（2）。明大農付農場特報 4: 20-24. [ダイズシストセンチュウ被害軽減対策。]
169. 山田隆保：キノコ線虫の生態に関する研究（第3報）飼育温度と線虫の消長および休眠型の出現について。応動昆大会講要 昭40: 36. [講要]
170. 山賀一郎・野村精一・安部邑美・今井善之輔・郡司孝司：こんにゃくの連作障害対策に関する研究 第1報 クロルピクリンの土壤消毒効果。群馬農試報 6: 66-78. [ネグサレセンチュウに対してはEDB剤と同等効果。]
171. 山下優勝・牧 良忠：イチジクのネコブセンチュウに対する殺線虫剤の効果。兵庫農試研報 13: 53-59. [DBCP剤等。]
172. 矢内万平・賛田裕行・花岡重喜・茂木孝夫：フリージア立枯病（仮称）防除について。関東病虫研報 12: 52. [サンヒューム、昇汞、ペーパム、D-D処理で発病少。]
173. 横尾多美男：線虫のはなし。日本林業技術協会、東京、235 pp. [一般向けの概説書。]
174. 吉田桂輔・横山佐太正：R E E乳剤の種籾消毒における薬害について。九病虫研会報 11: 21-23. [主に中・晩生種の稲品種に出る。玄米処理では軽度。]
175. 吉田光男：苗畑土壤線虫実態調査。栃木林七業報 1: 28-29. [ヒノキ、スギ、アカマツの検出線虫。ネグサレセンチュウが主。]
176. 吉田 猛：千葉県における土壤線虫類の分布。千葉農試研報 6: 69-78. [18属33

- 種以上を記録。発生地、主な寄主作物、作物別線虫検出圃場率、市町村別検出圃場率等のまとめ。植物防疫 22(1) 35, 1968 に抄録。]
177. 吉田 猛：ラッカセイキタネコブセンチュウに処理殺線虫剤使用上の問題点。関東病虫研報 12:101. [低温で日照不足の年に被害大、EDB剤の効果も不明瞭の傾向。]
178. 吉田 猛：イチシク。In: 永年作物線虫防除基準。日本植物防疫協会、東京、p. 1-2. [ネコブセンチュウ。植え付け前の圃場消毒 (D-D、EDB剤)。苗木の選定。立毛中のDBCP剤処理。]
179. 吉田 猛・鈴木哲朗：イネネモグリセンチュウに対する薬剤防除効果。関東病虫研報 12: 98. [D-D、EDB、DBCP剤の田植1月前施用では減収。D-D剤施用は窒素質肥料の減施で増収。]
180. 吉井 甫：イネ心枯線虫病。日植病報 31 (記念号 2) 254-260. [既往の研究、被害植物 (種類、イネの病徴と被害、抵抗性)、病原線虫 (形態、種名、寄生状態、越冬)、防除法 (種子消毒、薬剤散布)、将来の問題点 (抵抗性、防除法、加害機構)。]
181. 吉野 実・北山登喜男・草水 崇・野口純隆・福田幸雄：甘藷の裂かい現象の原因究明に関する理論考察。九州農業研究 27: 187-188. [土壌線虫が基本的要因。]
182. 湯原 巖：キタネコブセンチュウによる赤クローバ、アルファルファの被害。応動昆大会講要 昭40: 37. [講要]
183. 湯原 巖：キタネコブセンチュウによるマメ科牧草の被害。北日本病虫研報 16: 92-93. [ポット試験。線虫接種により赤クローバ、アルファルファの生育悪化。]
184. 湯原 巖：キタネコブセンチュウによるてん菜種苗期の被害。てん菜研報 補5: 147-151. [線虫害重要。紙筒育苗によって被害回避の可能性。]
185. 湯原 巖・堤 正明：泥炭地における線虫発生相 (予報)。北日本病虫研報 16: 129. [ネグサレ、ピン、ニセネグサレセンチュウを検出。高地下水位の湿地には植物寄生線虫ほとんどいない。]

#### 昭和41年 (1966)

1. 安部 浩：島根県におけるくりに寄生する線虫について。島根植防 7巻2: 1-7. [11属の線虫を記録。被害は不明。]
2. 合田昌義・酒井清六・豊饒芳明・米林依三・岩見一民：空中散布を含む松くい虫の動的防除。応動昆大会講要 昭41: 37-38. [講要]
3. 天野 隆・尾崎典光・岩瀬茂基：ニセネグサレセンチュウ (*Aphelenchus avenae* Bastian) に関する研究 第2報 サツマイモに対する被害防除について。愛知農試彙報 21: 58-63. [D-D油剤、EDB油剤が有効。DBCP剤、AC-1833 粒剤、殺菌剤は効果なし。]
4. 天野 隆・尾崎典光・岩瀬茂基：ニセネグサレセンチュウ (*Aphelenchus avenae* Bastian) に関する研究 第3報 サツマイモに対するニセネグサレセンチュウの加害と随伴菌との関係について。愛知農試彙報 21: 64-73. [*Fusarium*菌、*Trichoderma* 菌の各単独接種では被害小。線虫との混合接種で被害発現。]
5. 安藤茂信：ウラセバル杉挿木苗の発根と土壌線虫剤の関係について。日林九支講 19: 27-28. [クロルピクリン、EDB、DBCP剤の効果。]
6. 有村清光・白本久善・古野鶴吉：茶樹定植前の施肥ならびに土壌消毒について。九州農業研究 28: 87-88. [クロルピクリン、DBCP剤、堆肥区は生育良好。]
7. 千葉 修：苗畑の線虫被害と防除 (その一)。林業と薬剤 17: 3-5, 18. [検出線虫

、被害の解説。]

8. 千葉 修：苗畑の線虫被害と防除（その二）．林業と薬剤 18: 1-5. [薬剤による土壌・苗の消毒、堆肥施用、天敵の利用の効果、関連病害との関係。]
9. 近岡一郎：キタネグサレセンチュウの殺線虫剤感受性（1）キタネグサレセンチュウとクルミネグサレセンチュウのD-D感受性、応動昆 10(3) 163-164. [前者の感受性が低い。両種とも若令幼虫の死亡率が成虫より高い。]
10. 近岡一郎：ネグサレセンチュウ種類間の殺線虫剤感受性の相違、関東病虫研報 13: 142-143. [No. 66-9 も参照。D-D、EDB剤を供試。]
11. 近岡一郎：ダイコンを加害するキタネグサレセンチュウの被害と防除、植物防疫 20(7) 303-306. [症状、被害の発現と推移、経過習性（季節的密度変動・垂直分布）、防除（D-D、EDB、クロルピクリン、NCS、ペーパム剤他）。]
12. 近岡一郎・浅見 宏：促成イチゴの根腐症状に対する殺線虫剤の効果、関東病虫研報 13: 134. [クルミネグサレセンチュウが原因。ネマトップの植付け前処理が効果。]
13. 近岡一郎・岡山 勇：ダイコンのキタネグサレセンチュウについて（第2報）薬剤防除とくにNCSの効果、関東病虫研報 13: 135. [効果あり。灌注区で葉害。]
14. 伊達一郎：畑水稻の連作と水田化の効果、畑地農業 95: 6-8. [植物寄生性線虫の消長を含む。]
15. 家入 章：採取土壌の管理とネグサレセンチュウ密度推移との関係について、九州農業研究 28: 131-132. [室内と冷蔵庫内の比較。]
16. 江尻 博：土壌殺線虫剤の施用試験、林業技術研究集録（前橋営林局）経営部門 1966: 219-228. [スギ苗畑のネグサレ、ユミハリ、イシユクセンチュウ、雑草防除にD-D、EDB、DBCP、クロルピクリン剤。]
17. 江尻 博・岸野 勇：薬剤別による土壌線虫防除試験、林業技術研究集録（前橋営林局）経営部門 1965: 410-414. [D-D、EDB、DBCP、クロルピクリン剤のスギのネグサレセンチュウへの効果。]
18. 江村一雄・上田勇五：D-Dの水田処理とイネネモグリセンチュウ、応動昆大会講要 昭41: 34-35. [講要]
19. 江藤守総・岸本勝光・松村建治・大下直樹・大島康義：Studies on saligenin cyclid phosphorus esters with insecticidal activity. Part IX. Derivatives of phosphonic and phosphonothionic acids. Agr. Biol. Chem 30(2) 181-185. [Rhabditis sp. に対する効果を含む。]
20. 藤川 隆・富来 努・岡留善次郎：稲心枯線虫病の新防除法について、農業研究 12巻3: 32-36. [バイジット、サッセン他の種子粉衣等。]
21. 藤本 清・山下優勝：クリに寄生する土壌線虫の種類と分布について、兵庫農試報 14: 67-68. [樹幹を中心とした水平、垂直分布。]
22. 藤村 良：施設園芸の技術 [4]、農及園 41(4) 673-676. [蒸気土壌消毒の方法を詳しく解説。]
23. 藤村 良・森 俊人：施設園芸の技術 [5]、農及園 41(5) 831-834. [前項の続編。]
24. 藤沼敏子・川島嘉内：イネネモグリセンチュウの染色調査法一試案、農業技術 21 (12) 577-578. [塩酸による根部の酸化鉄の除去法。]
25. 深谷昌次・小島建一：供試動物の飼育、培養施設、In: 新農業研究施設（住木論介・八木誠政編）、南江堂、東京、p. 67-74. [線虫類を含む。]
26. 深沢永光・山内寅好：イネシingleレセンチュウに対する薬剤の種子粉衣および土壌施用に関する防除効果（予報）、関東病虫研報 3: 123-124. [0795粉剤、ギルパール粉

- 衣剤、ダイシストン粉剤の播種時施用、前二剤の種子粉衣、苗生育中施用の比較。]
27. 五味美知男：イネ心枯線虫病の防除について、農薬研究 12巻3: 22-25. [スミチオン、バイシット剤他。]
28. 五味美知男：稲における心枯センチウ病の新しい防ぎ方、今月の農薬 10巻3: 69-71. [サッセン、サッセンプラス、スミチオン、バイシットの種籾浸漬、ジメトエート、PSP204 の苗床施用効果。]
29. 五味美知男・中里筆二：稲心枯線虫病防除に関する研究（第7報）有機燐製剤の殺虫機構について、関東病虫研報 13: 123. [増殖、加害機能低下。]
30. 五味美知男・中里筆二・西野目文男：稲心枯線虫病防除に関する研究（第6報）浸透移行性土壌施用剤の効果、関東病虫研報 13: 122. [0795粒剤、ダイシストン、PSP204 の効果がすぐれる。]
31. 原 敬一・小芦健良・肥後三郎：甘藷根腐現象（仮称）について（予報）、九病虫研会報 12: 60-62. [発生圃場にネグサレセンチウが多い。DBCP剤効果なし。]
32. 橋田茂和：ハウス野菜の連作障害と土壌管理、農業技術 21(5) 223-228. [実態及び対策（田畑輪換、薬剤防除、深耕、土壌の加熱処理）。]
33. 引地直至：ネコブセンチウのモモに対する寄生性に関する試験、北日本病虫研報 17: 105. [サツマイモネコブセンチウの4品種への寄生性の比較。]
34. 日野稔彦・古田 力：イネ心枯線虫病防除法としての臭化メチル種子くん蒸、日植病報 32(2) 105. [講要]
35. 広瀬和栄：柑橘の育苗、とくに連作障害の対策、農及園 41(9) 1329-1332. [ミカンネセンチウと対策（D-D、DBCP、クロルピクリン剤処理、台木、施肥）。]
36. 本田藤雄・大和茂八・二井内清之：イチゴ促成4号について、九州農業研究 28: 236-237. [メセンチウに強い。]
37. 堀 正侃：戦後20年を顧みて—行政、植物防疫 20(1) 1-6. [植物防疫行政戦後史。土壌検診事業にふれる。No. 66-54, 100 も参照。]
38. 堀 正侃：日本新農薬物語（37）ネマモール剤、今月の農薬 10巻10: 44-48. [開発研究、特性、使用方法。]
39. 一戸 稔：Present status of nematological research on rice in Japan. FAO, IRC Wrk. Pty. Rice Prod. & Prot., 11th Ses. 14 pp. [稲の線虫に関する研究レビュー。農業技術 21(11) 519-525, 1966 に抄録。]
40. 一戸 稔：Rice-infesting nematodes in the Pacific Basin. Div. Meet. Pl. Prot., 11th Pacif. Sci. Cong., Tokyo, p. 31-36. [イネシンガレ、*Ufra (Ditylenchus angustus)*、イネネモグリセンチウの主に防除を中心とした総説。]
41. 一戸 稔：イネと線虫（試験成果のまとめ）、植物防疫 20(9) 391-395. [イネシンガレセンチウ防除、イネシストセンチウの陸稲加害と水田での発生、イネネモグリセンチウの病原性、水田の土壌処理がイネ生育と線虫密度に及ぼす影響。]
42. 一戸 稔：昭和40年度に試験された害虫防除薬剤：委託試験成績から：殺線虫剤、植物防疫 20(2) 93-94. [CDB、IK-141（ネマモール）、5121粒剤他。]
43. 一戸 稔：ダイズシストセンチウに関する研究、応動昆 10(2) 101. [昭41日本応用動物昆虫学会賞受賞記念講演要旨。]
44. 一戸 稔：ヨーロッパのセンチウ研究事情、今月の農薬 10巻2: 28-30. [問題となっている線虫、殺線虫剤の解説。]
45. 一戸 稔：自然教育園の土壌線虫、自然教育園の生物群集に関する調査報告、1: 119. [東京都港区の自然植生から*Mononchus*, *Dorylaimus* 属線虫を記録。]
46. 一戸 稔：果樹のセンチウ害とその防除、農耕と園芸 21巻12: 61-63. [被害、



- DBCP剤による防除。]
47. 一戸 稔・岡本好一：ミカンネセンチュウ幼虫の大量分離の一例。応動昆大会講要 昭41: 32. [講要]
48. 井手 篤・清家義明・田中豊影：イネネモグリセンチュウの薬剤防除について（第2報）。愛媛農試研報 6: 17-23. [湿田・乾田へのD-D剤施用により増収効果。施肥量との関係。]
49. 稻生 稔：イネ心枯線虫病の水媒感染について（1）畑稲床の線虫生存と稲苗感染。関東病虫研報 13: 121. [室内試験。]
50. 稻生 稔：Aphelenchoides besseyiおよびA. saprophilusの培養について。応動昆大会講要 昭41: 33. [講要]
51. 井上悦甫・香山 馨：線虫実態調査（II）。岡山林試報 6: 31-33. [スギ、ヒノキ、アカマツ、クロマツ、オオバヤシャブシの検出線虫とネグサレ、イシユクセンチュウの発消長。]
52. 井上 寿：北海道におけるエンドウの害虫。北日本病虫研報 17: 81. [キタネコブセンチュウを挙げる。]
53. 井上 巖：A new species of Euchordodes (Goeldiaceae) from Malaysia. Annot. Zool. Japon. 39(1) 60-62. [マレーシアからハリガネムシの新種E. malaysiensisを記載。寄主は不明。]
54. 井上菅次・稻賀 恒：戦後20年を顧みて — 業界。植物防疫 20(1) 19-25. [殺線虫剤に言及。No. 66-37も参照。]
55. 井上 敏：キタネグサレセンチュウによる杉苗の被害と防除法。今月の農薬 18巻 8: 28-31. [被害、D-D、EDB、DBCP剤施用効果。]
56. 井上 敏・伊藤春男：イネネモグリセンチュウに対する殺線虫剤処理の効果（2）移植栽培における連年施薬の効果。北日本病虫研報 17: 139. [D-D、EDB剤各連用区で線虫減少。イネの生育、収量との関連は不明。]
57. 井上 敏・伊藤春男：イネネモグリセンチュウに対する殺線虫剤処理の効果（3）乾田直播栽培におけるD-Dの効果。北日本病虫研報 17: 140. [殺線虫効果はみとめる。増収との関連は不明。]
58. 井上 敏・太田勇吉：ネグサレセンチュウによるスギ苗の被害と苗畑における土壌燻蒸剤処理。応動昆大会講要 昭41: 34. [講要]
59. 井上 敏・太田勇吉・早坂義雄：殺線虫剤によるスギ苗のネグサレセンチュウの防除。北日本病虫研報 17: 141. [D-D30%油剤、EDB30%油剤、DBCP80%乳剤の順に効果。]
60. 石橋信義・国井喜章：ネコブセンチュウ雄成虫の存在様式について。応動昆大会講要 昭41: 33. [講要]
61. 石川元一：ネグサレセンチュウによるモモ樹の被害。関東病虫研報 13: 139. [クルミネグサレセンチュウを苗木に接種。ポット試験。]
62. 石川元一：ネグサレセンチュウのナシ樹に対する被害。応動昆大会講要 昭41: 31. [講要]
63. 石倉秀次：薬剤防除基礎講座：害虫篇 [7] 土壌くん蒸。今月の農薬 10巻9: 86-89. [土壌線虫の作物等の被害、殺線虫剤の種類と特性、施用方法、作業とその条件。]
64. 伊藤弘康：土壌線虫実態調査 第1報 植物寄生性線虫の棲息について。新潟林試報 11: 26-43. [スギ、アカマツ、クロマツからのネグサレ、イシユク、ユミハリセンチュウ等の分布、密度、前作・土性との関係。]
65. 伊藤武夫：農薬による土壌処理が苗木の生育におよぼす影響。日林講 77: 302-302.

- [EDB、バイジット水銀粉剤、D-D施用のスギ苗の生育への影響。]
66. 伊藤喜隆：ネコブセンチュウの種の分布と寄生性について。応動昆大会講要 昭41：30。〔講要〕
67. 伊藤喜隆：殺センチュウ剤（DBCP剤）によるリンゴ園の回復の実例。今月の農薬 10巻10：24-27。〔施用後のゴール指数の変化、効果持続期間、増収例。〕
68. 岩谷宏司・竹内孝司・滝沢 祚・中田正彦：新殺線虫剤バイエル5121 10 %粒剤について。農薬研究 12巻3：74-77。〔残留毒性、施用法、効果（トマト、イチジク、ナス、ミカン、キク）、被害。〕
69. 弥富喜三：供試生物（昆虫、ハダニ、線虫）の飼育法：線虫類。In：新農薬研究施設（住木諭介・八木誠政編）。南江堂、東京、p. 63-66。〔自由生活種、植物寄生種について概説。〕
70. 弥富喜三：生物検定の施設：燻蒸剤検定施設。In：新農薬研究施設（住木諭介・八木誠政編）。南江堂、東京、p. 89-95。〔研究室、装置等の解説。〕
71. 弥富喜三：生物検定の施設：殺線虫剤検定施設。In：新農薬研究施設（住木諭介・八木誠政編）。南江堂、東京、p. 96-99。〔殺線虫剤検定法、線虫分離法、検定施設の概説。〕
72. 神谷育男：農産加工原料用蔬菜の栽培と貯蔵・加工〔6〕：4。マツシユルームの栽培と加工。農及園 41(6) 979-982。〔線虫害及び対策（スチーム処理）を含む。〕
73. 河村貞之助・平野和弥：トマト幼苗における根こぶ線虫病と萎ちょう病との関連について。日植病報 32(2) 69。〔講要〕
74. 川島嘉内：イネシストセンチュウによる水稻の被害に関する研究（I）被害と灌水との関係。北日本病虫研報 17：92。〔灌水直播栽培で寄生を認めず。乾田直播では被害大。灌水で回復。間断灌水では被害大。〕
75. 川島嘉内：キタネグサレセンチュウによるイタリアンライグラスの被害について。北日本病虫研報 17：93。〔症状及び収量調査。〕
76. 川島嘉内：*Hirschmanniella oryzae*に関する研究 VII。線虫寄生とゴマハガレ病発生との関係。応動昆大会講要 昭41：32。〔講要〕
77. 川島良一：豆類の育種の現状。育雑 16(1) 71-72。〔大豆、落花生の線虫抵抗性に言及。〕
78. 気賀沢和男：豆類の病害虫と防除。In：北海道豆類生産事情（上）。日本豆類基金協会、東京、p. 118-138。〔線虫（ネコブ、シスト、ネグサレ、ピン）を含む。本書中で下記の章でダイズシストセンチュウに言及されている。「豆類の栽培技術」第3節（その1）p. 68-72（岩淵晴郎）；同第4節（その2）p. 83-117（後木利三）；「豆類の作業技術」第4節（1）p. 218-228（加藤明治）；「豆類農家の経営構造」p. 242-313（西村正一）。〕
79. 気賀沢和男・浅井三男：シスト内蔵卵数に及ぼす寄主作物初期密度の影響。北農 33巻2：42-44。〔初期密度が低い程、収穫時までの増加率は大。〕
80. 菊川誠士・坂井健吉：甘しょに対するサツマイモネコブセンチュウ抵抗性の遺伝力および伝達力。育雑 16(1) 56-57。〔講要〕
81. 菊池泰夫：土壤殺線虫剤の施用試験。林業技術研究集録（前橋営林局）経営部門 1966：214-218。〔スギのネグサレ、ユミハリ、イシユクセンチュウにクロルピクリン、D-D、EDB、DBCP剤。〕
82. 小林義明：イネ心枯線虫の防除について。農薬研究 12巻3：26-28。〔0795粒剤、キルパール粉衣剤、ダイシストン粒剤。〕
83. 小林義明・深沢永光・田杉 甫：土壤くん蒸剤の施用が水稻の生育に及ぼす影響。

- 静岡農試研報 11: 9-20. [イネネモグリセンチュウ防除。EDB、DBCP剤は2年有効、D-D剤は1年。EDB剤ではイネが異常生育。]
84. 小泊重洋: 茶園における殺線虫剤処理方法について。関東病虫研報 13: 141-142. [DBCP40%+Hg 2%剤消毒。灌注が注入にまざる。]
85. 高野光之丞・村上正雄: そ菜類に対する殺線虫剤の影響について III. 関東病虫研報 13: 131-132. [No.66-111の続報。吸水後の種子に対するD-D、EDB、クロルピクリン剤の影響。]
86. 久保園正昭: 土壤線虫防除試験。熊本林指研報 4: 116-119. [D-D、EDB、DBCP剤のモリシマアカシア苗床施用。]
87. 工藤 馨・小宮書之助: Studies on the damage of orchardgrass caused by root-knot nematode. 明大農研報 19: 41-44. [サツマイモネコブセンチュウによるオーチャードグラスの被害。]
88. 工藤 馨・八重樫隆志・小宮書之助: ネコブセンチュウの寄主植物について (2). 明大農研報 19: 27-29. [主にキタネコブセンチュウの雑草への寄生性。]
89. 工藤 馨・八重樫隆志・小宮書之助: Studies on the interrelation between the root-knot nematode (*Meloidogyne incognita*) and "summer depression" of white clover. 明大農研報 19: 45-51. [白クローバーの夏枯れとサツマイモネコブセンチュウは密接に関連。]
90. 工藤 馨・八重樫隆志・小宮書之助: ネコブセンチュウの病原性におよぼす湛水の影響 (1). 明大農研報 20: 9-15. [15、20、25°C定温で15、30日間湛水。]
91. 国井喜章: イネネモグリセンチュウの生態と防除。今月の農業 10巻3: 66-68. [分布、寄主植物、種類と生息場所、被害、防除。]
92. 栗山隆明・下大迫三徳・吉田 守・横尾多美男: 柑橘苗ほの連作障害に関する試験。福岡園試特報 1: 1-8. [クロルピクリン、D-D、DBCP剤によるミカンネセンチュウ防除と苗の生育。]
93. 栗山隆明・下大迫三徳・吉田 守・横尾多美男: カンキツの育苗に関する研究 (第5報) カンキツ苗ほの連作障害について。園芸学会昭41春研究要旨: 97-98. [講要]
94. 前田速雄: トマトにおける *Meloidogyne* 属3種のネコブセンチュウ抵抗性について。東京農試特報 22: 186-190. [謄写。Anahu 及びその系統ではサツマイモ、ジャワネコブセンチュウは発育せず。キタネコブセンチュウは発育可能。]
95. 前田速雄: *Meloidogyne* 属3種のネコブセンチュウに対するトマト品種の抵抗性。関東病虫研報 13: 132-133. [No. 66-94を参照。]
96. 真宮靖治: 国有林苗畑における植物寄生線虫の分布 (予報)。77回日林大会講要: 295-299. [スギ、ヒノキ、アカマツ、トドマツ、ストロブマツの検出線虫の種類、分布、被害。]
97. 真宮靖治: 苗畑の線虫。植物防疫 20(8) 335-336. [線虫相、被害、防除。]
98. 真宮靖治: 苗畑における土壤線虫。林試年報 昭40: 111. [キタネグサレ、ユミハリ、イシュクセンチュウ。]
99. 益子訓男: 土壤線虫防除に関する二三の考察。林業技術研究集録 (前橋営林局) 経営部門 1965: 396-403. [スギ、アカマツの線虫調査。D-D、EDB、DBCP、クロルピクリン剤による防除。]
100. 益子訓男・片桐玄治: 土壤殺線虫剤の施用試験。林業技術研究集録 (前橋営林局) 経営部門 1966: 209-213. [スギのイシュク、ネグサレ、ユミハリセンチュウにD-D、EDB、DBCP、クロルピクリン施用。]
101. 増田康哉: 桑園における土壤線虫防除に関する試験。鹿児島蚕試年報 13: 12-23.

- [謄写。ネコブセンチュウにDBCP剤。防除効果と苗の生育。]
102. 松枝 章・井幡清生：苗畑土壤線虫防除試験。石川林試報 3: 366-372。[謄写。アカマツ、スギにクロルピクリン、D-D、EDB、DBCP剤。]
103. 松井弘之：イチジク寄生線虫 (*Meloidogyne incognita*)に関する研究 (第2報) 根瘤の肥大速度と肥大に伴う組織および細胞の変化、根瘤中の糖、アミノ酸および無機成分。園芸学会昭41秋研究要旨: 47-48。[講要]
104. 松本重男・沢畑 秀：ネコブセンチュウの寄生が大豆の収量におよぼす影響。九州農業研究 28: 82-83。[寄生度が高い程、一株粒重が減少。]
105. 峰尾一彦：ネグサレセンチュウ寄生苗を床替した場合について。日林関西支講 16: 41-42。[講要]
106. 峰尾一彦：管内国有林苗畑の植物寄生線虫類とその被害について。みやま 150: 82-89。[アカマツ、スギ、クロマツ、ヒノキの検出線虫。ネグサレセンチュウの被害。]
107. 三井 康：線虫捕食菌の分離と定量。日植病報 32(2) 79。[講要]
108. 三浦宏一郎：Nutrition and spontaneous trap-formation of *Arthrobotrys dactyloides* Drechsler. 菌学会報 7(2/3) 320-324。[炭素源・窒素源の種類、培地の酸性度、栄養物質の欠乏と線虫捕食器官の形成との関係。]
109. 宮崎政光・清家義明：殺線虫剤が水稻の生育に及ぼす影響 (第1報)。農及園 41(6) 947-948。[D-D、EDB剤処理と稲の生育と茎葉分析結果。EDBはD-Dより影響大。]
110. 向 秀夫・石倉秀次・福永一夫：戦後20年を顧みて — 研究。植物防疫 20(1) 7-18。[線虫研究にふれる。No. 66-37も参照。]
111. 村上正雄・高野光之丞：そ菜類に対する殺線虫剤の影響について II。関東病虫研報 13: 130-131。[D-D、EDB、クロルピクリン剤のダイコン、トマト、キュウリ、ゴボウ、ネギ乾燥種子処理と発芽の関係。]
112. 中川九一・川島嘉内：葉いもち病発病に及ぼすイネネモグリセンチュウ侵入加害の影響。日植病報 32(2) 69-70。[講要]
113. 中野香苗：土壤線虫の防除に関する研究 (I) 各種殺線虫剤ならびに有機質肥料施用後の線虫発消長について。77回日林大会講要: 304-306。[D-D、EDB、糞堆肥、オガクズ堆肥施用によるミナミネグサレ、ユミハリ、イシユクセンチュウの発消長の違い。]
114. 中園和年：An instance of male and young female development of reniform nematode (*Rotylenchulus* sp.) within egg shell (Tylenchida: Hoplolaimidae). Appl. Ent. Zool. 1(1) 49-50。[孵化することなく、卵殻中で若雌・雄成虫になる。]
115. 中園和年：Role of males in reproduction of reniform nematodes (*Rotylenchulus* spp.) (Tylenchida: Hoplolaimida). Appl. Ent. Zool. 1(4) 203-205。[両性型個体群で雄は生殖上必要な存在。]
116. 中園和年：ニセフクロセンチュウ類 (*Rotylenchulus* spp.) の生殖と雄虫の役割。応動昆大会講要 昭41: 33-34。[講要]
117. 中里筆二・津久井悦治：コンニャクのネグサレセンチュウに関する研究 (第3報) 生育期間中の線虫の増殖と被害徴候について。関東病虫研報 13: 137。[ムギネグサレセンチュウ。被害区では9月下旬から10月に入ると完全に倒伏。]
118. 中里筆二・山賀一郎・新井五郎：コンニャクのネグサレセンチュウに関する研究 (第2報)。関東病虫研報 13: 136。[線虫密度と黄変・倒伏程度の関係、クロルピクリン、EDB剤による防除(有効)、検出数の年間変動。]
119. 中里筆二・山崎武男・樹下毎郎：田畑輪換と線虫密度の変動。関東病虫研報 13:

129. [ネコブセンチュウの密度低下には効果、イネシストセンチュウには効果なし。]
120. 新留伊俊：今後に残された暖地でん菜の病害虫防除上の問題点。てん研報 補8：137-141. [サツマイモネコブセンチュウの重要性を強調。]
121. 西山成俊・福永良一：殺線虫剤の土壌処理が水稻の生育および収量におよぼす影響について。福岡農試研報 4：48-51. [D-D、DBCP剤処理。]
122. 西沢 務：根瘤組織におけるエーテル不溶性オーキシンの存在とオーキシン生成能。応動昆大会講要 昭41：33. [講要]
123. 野田弘之・上原 等：香川県に見られたビニールハウス内のクロールピルリン施用にともなう発芽障害について（その3）消石灰施用後各種土壌病害虫防除薬剤を使用した場合の発芽阻害の有無。日植病報 32(5) 331. [講要。D-D、EDB剤も扱う。]
124. 尾田啓一・星野三男・谷中清八：イネシストセンチュウに関する研究（第7報）播溝処理の経済効果について。関東病虫研報 13：128-129. [D-DがEDB剤より効果あり。播溝処理でも好結果。]
125. 小口健夫：林業苗畑における線虫。北方林業 18(3) 70-73. [スギ、ヒノキ、アカマツ、クロマツ、カラマツ、トドマツ、ストロブマツ、キリ、サワラ、ヤシャブシから13種を検出。ネグサレセンチュウが主。]
126. 小口健夫・工藤岑硯：北海道の林業苗畑における線虫。林業技術研究発表大会論文集（北海道林務局）15：122-127. [謄写。トドマツ、カラマツ、スギ、アカエゾマツ、ストロブマツのハリ、クキ、ネグサレ、ハ、ニセネグサレセンチュウ等の検出。]
127. 及川英雄：桑苗木のセンチュウ防除。今月の農薬 10巻3：63-65 [線虫の種類、DBCP剤による苗根浸漬試験。]
128. 岡田利承：線虫の寄生分布に関する研究（第3報）施肥量が大豆の生育およびダイズシストセンチュウの寄生分布に及ぼす影響。北海道農試彙報 89：30-36. [土壌中の線虫の分布。施肥によって大豆の生育は良くなったが、土壌中のシスト数は増加。植物防疫 21(3) 122, 1967に抄録。]
129. 岡田利承：ダイズシストセンチュウの寄生時期と大豆の被害。応動昆大会講要 昭41：32. [講要]
130. 大橋雄司：ネコブセンチュウ (*Meloidogyne incognita*) に対するたばこの抵抗性の品種間差異。育雑 16(3) 204. [講要]
131. 大畑徳輔・廣瀬和栄：カンキツ連作障害の諸要因とその相互作用（第1報）連作がカラタチ苗の生育におよぼす影響について。園芸学会昭41春研発表要旨：99-100. [講要]
132. 大久保清作・呉羽好三：CDBのイネネモグリセンチュウに対する効果と水稻に及ぼす影響。関東病虫研報 13：125-126. [線虫に対する効果はないが、水稻の生育が良好となり増収。]
133. 大野貞雄：苗畑における土壌線虫の殺線虫剤施用効果。秋田営林局研究発表会論文集 昭40：20-22. [スギのネグサレセンチュウにクロルピクリン。]
134. 大沢幹雄・白方貞好：昭和40年度のたばこ作をかえりみて：北四国の黄色種の品種を中心に。葉たばこ研究 41：24-29. [土壌消毒の普及状況を含む。]
135. 太田勇吉・井上 徹：苗畑実態調査より得られた2、3の問題点。日林東北支誌 17：4-6. [スギ、アカマツのネグサレ、ユミハリセンチュウの検出率を示す。]
136. 大津貞夫・斎藤勝清：林業苗畑における土壌実態調査。茨城林試業報 昭40：95-99. [謄写。スギ、ヒノキ、アカマツからネグサレ、ユミハリ、イシユク、ネコブ、ラセンセンチュウ、その他。]
137. 大津貞夫・斎藤勝清：土壌線虫防除試験。茨城林試業報 昭40：100-105. [謄写]

- 。スギ、ヒノキ、アカマツにDBCP剤。ネグサレセンチュウの防除効果、葉害、効果持続期間。]
138. 大津貞夫・山本雄三・斉藤勝清：林業苗畑における土壤実態調査。茨城林試研報 1: 1-19, 付図 9 pp. [スギ、ヒノキ、アカマツ、クロマツ、テーダマツの線虫相。ネグサレ、イシユク、ユミハリセンチュウが主。]
139. 大塚清次：新登録農薬。植物防疫 20(11) 517-519. [DSP粉剤(カヤエース)の解説を含む。]
140. 佐川 喬・五十嵐正夫：土壤消毒剤施用比較試験。林業技術研究集録(前橋営林局) 経営部門 1966: 204-209. [スギにD-D、ウスプルン、木酢液、ホールサイド、ポマゾール施用の効果の比較。]
141. 三枝敏郎：果樹類に寄生する既知線虫目録。植防研報 3: 52-57. [外国を含めた文献のまとめ。]
142. 三枝敏郎・葭原敏夫：スイセン圃場のクキセンチュウ *Ditylenchus dipsaci* (KUHN) FILIPJEV の生態とスイセンの被害。植防研報 4: 29-44. [症状、被害、季節的消長、輪作による密度変化。植物防疫 20(12) 558-559, 1966 に抄録。]
143. 三枝敏郎・葭原敏夫・武田和子：ポタン苗木の *Aphelenchoides fragariae* による被害。応動昆大会講要 昭41: 30-31. [講要]
144. 酒井 豊・川島嘉内：ネコブセンチュウ類によるこんにゃくの被害について。応動昆大会講要 昭41: 31. [講要]
145. 向笠芳郎：茶園における定植前の土壤消毒について。農業技術研究 20巻12: 18-20. [D-D、EDB、同+鶏糞、DBCP剤+Hg、マリーゴールド栽植、堆肥、鶏糞処理の比較。EDB、DBCP剤処理区は線虫減少。]
146. 佐々木 壮：サツマイモネコブセンチュウとタバコ疫病菌との関係(1) サツマイモネコブセンチュウがタバコ疫病に及ぼす影響。日植病報 32(2) 69. [講要]
147. 佐藤昭美：ゴボウのキタネグサレセンチュウ防除上の問題点。北日本病虫研報 17: 99. [クロルピクリン剤または殺線虫剤と殺菌剤の混合施用によって黒変、腐敗症状回避可能。]
148. 佐藤昭美：クワ幼木におけるネコブセンチュウの被害について。北日本病虫研報 17: 102. [接種後3年間の生育調査により、線虫被害を実証。]
149. 佐藤昭美・大森秀雄：ダイズシストセンチュウに関する研究(5) 加害時期と被害の発生について。北日本病虫研報 17: 97. [大豆の生育初期の線虫寄生回避により被害軽減。]
150. 関塚清蔵・栗原 浩：東北地方におけるテンサイ栽培の現状と問題点。農及園 41(6) 891-897. [ネコブセンチュウによる連作障害を含む。]
151. Sher, A. A. : Revision of the Hoplolaiminae (Nematoda) VI. *Helicotylenchus* Steiner, 1945. Nematologica 12(1) 1-56. [*H. dihystra*の内に長崎のタマネギからの記録を含む。]
152. 重松喜昭・清家義明・上田 進：イネ心枯線虫病の発生地域性とその防除に関する研究(1) 苗代および本田環境の違いが発病に及ぼす影響。四国植防研究 1: 29-33. [種中での線虫が発生源。冷水温湯法、サツセンの種粒浸漬が有効。]
153. 白浜賢一：温室、ハウスの土壤消毒および資材の消毒と環境衛生。植物防疫 20(10) 456-462. [蒸気・薬剤により消毒法の紹介。]
154. 杉山信太郎・広間勝己：A resistant gene of soybeans to the soybean cyst nematode observed from the cross between Peking and Japanese varieties (Preliminary report). 育雑 16(2) 83-86. [ネマシラズでは1因子、シロメユタカでは2遺伝

- 子か関与。種皮色抑制遺伝子*Ii*と抵抗性の間に相引的な連鎖。]
155. 杉山信太郎・広間勝己：大豆品種のシスト線虫抵抗性に関する研究 第1報 抵抗性の遺伝について。育雑 16(3) 205. [講要]
156. 杉山信太郎・宮原万芳：ダイズシストセンチュウ*race*の地域差について。農及園 41(9) 1375-1376. [桔梗ヶ原と刈和野の個体群の比較。]
157. 砂田喜与志：ダイズシストセンチュウ抵抗性を異にする品種の栽培跡地が後作大豆の生育に及ぼす影響。日育日作北談報 6: 3. [未見]
158. 砂田喜与志・後藤寛治・斉藤正隆・酒井真次：大豆新優良品種「ホウライ」および「トヨスズ」。北農 33巻11: 16-28. [両品種ともダイズシストセンチュウ抵抗性は強。後者については、農業技術 21(7) 334, 1966にも紹介記事。]
159. 鈴木久弥・中川喜之：茶園線虫の検診方法について (第1報) 茶樹根辺土壤中における線虫の水平・垂直分布調査。京都農試研報 1: 16-23. [謄写。ネグサレ、ラセン、ピンセンチュウについて。]
160. 鈴木定治：三方原鉾質土壌における田畑輪換栽培に関する実証的研究。静岡農試特報 8: 156 pp., Pls. [「田畑輪換と土壌病害虫」 p.81-84. ネコブセンチュウの発生は畑1年目でごく少なく、3年で普通畑と同程度。]
161. 高木一夫：ネマモール (DCIP) 薬剤による茶樹線虫の防除効果。農業昭和 162: 24-26. [使用法、効果。]
162. 高倉重義・高桑 亮：キタネコブセンチュウの防除に関する研究 X. 網走地方における主要作物上の季節的消長。応動昆大会講要 昭41: 31. [講要]
163. 田中 勇・福留信明・木原宮子：寄主植物が存在しない状態におけるネコブセンチュウの寄生性の存続 第1報 砂および水中における寄生性の存続。九州農業研究 28: 132-133. [28°Cの砂中で 100日前後、水中で30日以上。]
164. 田中 勇・木原宮子：ネコブセンチュウの浸水処理と寄生性存続との関係。応動昆大会講要 昭41: 34. [講要]
165. 照屋林宏：沖縄におけるサツマイモネコブセンチュウ (*Meloidogyne incognita* Kofoid et White)の寄主植物の種類。沖縄農業 5(1) 52-57. [23科44種を記録 (8科11種が新記録)。]
166. 富来 務・藤川 隆・岡留善次郎：稲心枯線虫病に関する研究 (第2報) MPP粉剤による種子粉衣並びに播床散布の防除効果。九州農業研究 28: 109-111. [バイジット剤。種子重量の5%粉衣でも効果。水苗代散布で葉害。]
167. 鶴島久男：鉢物の新しい作りかたと経営 [6] VI. 鉢物栽培用土の消毒について。農及園 41(6) 983-986. [薬剤、焼土、蒸気処理法。]
168. 堤 正明：各種豆類根磨碎液のダイズシストセンチュウのふ化に及ぼす影響。北日本病虫研報 17: 95. [菜豆、アズキでは促進、エンドウ・ソラマメは効果なし。]
169. 堤 正明：ダイズシストセンチュウの寄主植物根中におけるふ化促進物質の消長。北日本病虫研報 17: 96. [インゲン・ダイズ・アズキ。根の成長と密接な関係。]
170. 堤 正明：ダイズシストセンチュウ寄主作物根ならびに土壌中におけるふ化促進物質の消長。応動昆大会講要 昭41: 33. [講要]
171. 堤 正明・桜井 清：ダイズシストセンチュウのふ化ならびに幼虫游出に及ぼす寄主・非寄主植物浸出物の影響。応動昆 10(3) 129-137. [寄主植物栽培土壌浸出物で孵化が促進された。物質は一定期間土壌中に残存。]
172. 内村新吉・福留信明・川上嘉通：タバコの接木に関する研究 第3報 本ば栽培ならびに線虫病検定。日作九支報 26: 44-46. [NC95上にBYの接木でも線虫抵抗性発現。]

173. 上原 等: ダイシストン粒剤の苗代施用によるイネ心枯線虫病の防除 (予報), 農薬研究 12巻3: 29-31. [土壤施用.]
174. 上住 泰: 奈良県産植物寄生性線虫について (第3報). 関西病虫研報 8: 113. [講要. 水稻 (*Tylenchorhynchus martini*)、カキ (*Helicotylenchus platyurus*)、ウメ、チャ、タケ、ヒワ、雑草等から11属14種を記録.]
175. 和知文雄: 低温時におけるクロルピクリン剤による土壤線虫防除試験. 林業技術研究集録 (前橋営林局) 経営部門 1965: 404-409. [スギ、アカマツのネグサレセンチュウへの効果.]
176. 和知文雄: 土壤線虫に関する2、3の考察. 林業技術研究集録 (前橋営林局) 経営部門 1966: 234-239. [スギのネグサレ、ユミハリ、イシユクセンチュウにEDB剤.]
177. 和知文雄・菊池泰夫: 苗畑 (スギまき付) における土壤線虫防除試験. 林業技術研究集録 (前橋営林局) 経営部門 1965: 134-138. [D-D、EDB、クロルピクリン、US34、おが屑堆肥の施用効果.]
178. 鷺尾貞夫: リンゴ園における線虫害について (1) ネコブセンチュウの寄生程度と収量. 北日本病虫研報 17: 103. [No. 66-180 を参照.]
179. 鷺尾貞夫: リンゴ園における線虫害について (2) リンゴ園におけるネグサレセンチュウの分布. 北日本病虫研報 17: 104. [樹幹を中心とした土壤中の水平、垂直分布。園内における線虫寄生樹の分布.]
180. 鷺尾貞夫: ネコブセンチュウ被害リンゴ樹の収量推移. 農業技術 21(8)379-380. [「樹令20年を経過すると、重症樹ほど急激に低下」]
181. 鷺尾貞夫: りんごのネコブセンチュウ被害樹における収量の推移. 応動昆大会講要 昭41: 31. [講要]
182. 鷺尾貞夫: 秋やさいの病害虫: そのふせぎかた. 青森農業 17巻8: 37-39. [ネコブセンチュウの薬剤防除を含む.]
183. 渡辺文吉郎・松田 明・下長根 鴻・高野 貞・朝日秀雄: 植物病理からみたリクトウ連作害についての2、3の知見. 茨城農試研報 8: 1-12. [フザリウム菌を重点に研究.]
184. 矢口宣夫・川島嘉内・一戸 稔: ナガイモの黒変障害と *Trichodorus porosus*. 応動昆大会講要 昭41: 32. [講要]
185. 山田英一: キタネグサレセンチュウの寄主植物について. 北日本病虫研報 17: 100. [24作物を記録. アスパラガス、トウガラシ、ピーマンは非寄主.]
186. 山田英一: ネグサレセンチュウ2種の寄主作物 (予報). 北日本病虫研報 17: 101. [12作物のうちキタネグサレセンチュウはトウガラシに、ノコギリネグサレセンチュウはアマに寄生せず.]
187. 山田栄一・周藤靖雄: 林業苗畑における線虫被害調査. 島根林試研報 14: 1-27. [線虫の種類・分布・密度、土壤条件・前作との関係、苗木の生育、病原菌との関係.]
188. 山田隆保・戸塚邦子: キノコセンチュウにおける325メッシュ篩透過率. 応動昆 10(1) 44-46. [*Ditylenchus myceliophagus* 懸濁液の水量1,000 mlの時40%、100 mlで70%程度が篩上に残る.]
189. 山田隆保・戸塚邦子: キノコ線虫の生態に関する研究 IV. 休眠型移行と温度との関係について. 応動昆大会講要 昭41: 34. [講要]
190. 山口福男: イチゴメセンチュウとその防除. 農及園 41(10) 1513-1516. [線虫の分布、分離、症状、生態、防除方法 (品種、被害株抜取、薬剤: ホリドール、ダイプテレックス、サッセン、ダイシストン).]



191. 山本敏夫・近藤鶴彦：畑地の水田化と植物寄生性線虫の消長。関西病虫研報 8: 113. [講要。ネコブセンチュウは水田の下層土に多数生存。]
192. 山本敏夫・近藤鶴彦：三重県のミカン園におけるチャネグサレセンチュウ分布とその被害。関西病虫研報 8: 44-48. [ミカン園の線虫相。ミカンネセンチュウは健全木から、チャネグサレセンチュウは衰弱木から検出。被害は線虫単独ではおきない。]
193. 山岡貞夫・田村達一：土壤線虫剤施用試験。林業技術研究集録（前橋営林局）経営部門 1966: 229-233. [スギのネグサレ、ネコブ、ユミハリセンチュウにD-D、EDB、DBCP、クロルピクリン施用。]
194. 山下優勝・牧 良忠：イチジクのネコブセンチュウの防除効果とその持続期間について。関西病虫研報 8: 113-114. [講要。DBCP剤の効果は2、3年持続。]
195. 横川登代司：苗木を加害する線虫類と防除（II）ネグサレセンチュウと土壤病害との関係について。77回日林大会講要：299-301. [Fusarium菌との関係を調査。]
196. 横尾多美男：On a new stubby root nematode (*Trichodorus kurumeensis* n. sp.) from Kyushu, Japan. 佐賀大農彙 23: 1-6. [福岡県久留米市のモモの根辺から検出。I. cedarus Yokoo, 1964のシノニムとされた (No. 79-132を参照)。]
197. 横尾多美男：サボテンシストセンチュウ九州に分布す。佐賀大農彙 22: 105-109. [シスト・幼虫の計測値およびDBCP剤による防除。]
198. 横尾多美男・阿部恭洋：イネネモグリセンチュウの水田土壤中における生息密度の季節的消長。九病虫研会報 12: 132-133. [講要]
199. 横尾多美男・秦 卓美：土壤消毒剤クロールピクリンの濃度と殺線虫効果との関係について。佐賀大農彙 22: 75-81. [ミナミネグサレセンチュウを用いたポット試験。]
200. 横尾多美男・池上泰俊：ミナミネグサレセンチュウ (*Pratylenchus coffeae*) の金魚草への寄生加害と殺線虫剤による防除効果についての2、3の知見。佐賀大農彙 22: 83-92. [D-D、DBCP剤処理と寄主の生育との関係を調査。]
201. 横尾多美男・古賀成司：On the nematodes found from the soils dug around the roots of azalea nurseries for sale: one sample of the propagation of the more important plant parasitic nematodes by the salling of the nurseries. 佐賀大農彙 22: 7-15. [ツツジの苗木から *Tylenchorhynchus claytoni*, *Trichodorus* sp. 等を記録。]
202. 横尾多美男・黒田善紀：ミナミネグサレセンチュウ (*Pratylenchus coffeae*) の寄主植物体への侵入加害と地温との関係について。佐賀大農彙 22: 93-103. [8°Cではバレイショ塊茎から線虫検出なく、20°Cでは検出。]
203. 横尾多美男・西牟田耕一：イネネモグリセンチュウの防除による水稻の増収について。九病虫研会報 12: 133-134. [講要]
204. 横尾多美男・蘇 武卿：落水期前後における水田土壤中での線虫相の変化について：イネネモグリセンチュウの棲息密度の変化。佐賀大農彙 23: 17-25. [土壤中の垂直分布を種類別に論ずる。]
205. 横尾多美男・蘇 武卿：落水期前後の水田土壤線虫相の変化：イネネモグリセンチュウを中心として。九病虫研会報 12: 133. [講要]
206. 吉田光男：苗畑土壤線虫実態調査（II）。栃木林七報 2: 58-59. [スギ、ヒノキ、アカマツのネグサレ、ラセン、ユミハリセンチュウ、その他の分布。]
207. 吉田 猛：落花生のキタネコブセンチュウ薬剤防除の持続効果。関東病虫研報 13: 138. [D-D、EDB、DBCP剤。線虫検出数は2年目より低下、3年目は横ばい、4年目で元に戻る。]
208. 吉田 猛：落花生栽培における線虫の被害と防除法。農及園 41(3) 478-482.

- [線虫相、被害症状、連作年限、品種間差、気象条件と被害、防除法 (D-D、EDB、DBCP剤処理他。)]
209. 吉田 猛：各種果樹の植付けと植物寄生性線虫との関係。応動昆大会講要 昭41：32。[講要]
210. 吉田 猛・鈴木哲朗：水稻に対する殺線虫剤施用の効果。関東病虫研報 13:127。[D-D、クロルピクリン剤施用により、イネシソガレセンチュウ、ゴマハガレ病減少。増収効果も認められた。]
211. 吉田 猛・吉井正夫：ナシ樹の線虫類について。関東病虫研報 13: 140。[11属14種を記録。]
212. 湯原 巖：ダイズ栽培温度とダイズシストセンチュウの発育差異。北日本病虫研報 17: 94。[抵抗性・感受性品種間で15°C23°Cにおける線虫発育を比較。]
213. 湯原 巖：アルファルファ品種のキタネコブセンチュウに対する抵抗性差異。北日本病虫研報 17: 98。[Vernal系M-9 は抵抗性、Vernal、Sonoraも有望。]
214. 湯原 巖：キタネコブセンチュウによるてん菜稚苗期の被害。てん研報 補5: 147-151。[被害大。紙筒育苗により被害回避の可能性。植物防疫21(9) 396-397, 1967に抄録。]
215. 湯原 巖：抵抗性マメ科牧草におけるキタネコブセンチュウの発育。昭41回応動昆大会講要: 34。[講要]
216. Anon. : 接触的に線虫を殺すDSP粉剤。農及園 41(9) 1388。[カヤエースの紹介。]

#### 昭和42年 (1967)

1. 安部 浩：ブドウ幼木の生育に及ぼす線虫の被害。中国農業研究 35: 64-66。[線虫による生育阻害を認める。]
2. 阿部 禎・及川英雄：くわのネコブセンチュウ防除に関する研究 (IV) DBCPおよびDCIP粒剤による消毒試験。岩手蚕試年報 14: 137-141。[前者の効果がまさる。]
3. 鎌谷大節：北海道における主要農作物の病害虫概説。植物防疫 21(11) 455-458。[線虫害を含む。]
4. 新井邦夫：アイリスに寄生するMeloidogyne 属類似の線虫について。応動昆大会講要 昭42: 41。[講要]
5. Bains, R. C. ・宮川経邦・Small, R. H. : Biotype of the citrus nematode (*Tylenchulus semipenetrans*) and their effect on resistant rootstocks. Nematologica 13(1) 137。[講要。No. 69-7 を参照。]
6. 近岡一郎：キタネグサレセンチュウおよびネコブセンチュウの殺線虫剤感受性。応動昆大会講要 昭42: 40。[講要]
7. 近岡一郎・浅見 宏・相原次郎・竹沢秀夫：ダイコンのキタネグサレセンチュウについて 第3報 NCSの施用量と効果。関東病虫研報 14: 140。[21.6ℓ/10a 処理が良好な結果。]
8. 家入 章：甘しょを加害する線虫と甘しょつる割れ病菌の混合感染について。九州農業研究 29: 134。[D-D油剤32ℓ/10aまたはクロルピクリン21ℓ/10aで防除可能。]
9. 藤本 清・神納 浄・宇都敏夫・山口福男・松尾稜男：兵庫県における土壌病害虫防除の実態。兵庫農試研報 15: 95-100。[殺線虫剤・殺菌剤の効果、種類、使用方法、経費、労力等のまとめ。]

10. 深沢永光・小林義明：イネシガラセンチュウに対する薬剤種子粉衣および土壌施用による防除効果（続報）陸苗代及び電熱苗代における試験。関東病虫研報 14: 135-136。[カヤエース、ダイシストン、サッセンを供試。]
11. 布施 寛・佐藤政太郎：山形県下におけるウンカシヘンチュウの寄生率。応動昆大会講要 昭42: 29。[講要]
12. 五味美知男：イネシガラセンチュウの生態と防除。農業研究 14巻1: 38-41。[分布、被害、生態、防除（ホリドール他8薬剤）。]
13. 五味美知男：コンニャクの病害虫による連作障害対策。農業研究 14巻2: 32-37。[D-D、EDB剤によるネグサレセンチュウ防除を含む。]
14. 五味美知男・中里筆二・賛田裕行・菊池正男：稲心枯線虫病防除に関する研究（第8報）殺菌剤との混用による種子伝染性病害虫総合防除の実用化について。関東病虫研報 14: 133-134。[イモチ菌、ごま葉枯病菌、馬鹿苗病菌を供試。]
15. 後藤 昭：暖地の植物寄生性線虫。九州農試年報 昭40: 61-65。[水田、畑地、樹園地、牧野、薩南諸島からの検出線虫。]
16. 後藤美明：施設園芸の機械化。農業技術 22(10) 466-470。[土壌消毒施設を含む。]
17. 林 勇：温室バラの栽培および収量構成要因。農及園 42(9) 1373-1378。[線虫害に言及。]
18. 日高 醇・田中勝利：サツマイモネコブセンチュウ (*Meloidogyne incognita* var. *acrita* Chitwood) のふ化状態と寄主体侵入に及ぼす温度の影響。九病虫研会報 13: 7-9。[侵入数・侵入率ともに28、22、10°Cの順に多。]
19. 引地直至：モモの線虫防除。植物防疫 21(10) 418-421。[線虫相、被害、防除の考え方、防除の実際（点注、灌注、散粒）。]
20. 日野稔彦・古田 力：イネ心枯線虫病防除の一方法：臭化メチルによる種子くん蒸。中国農試報 (E) 1: 79-87。[160 g/m<sup>2</sup>で線虫死滅。]
21. 平野 暁：果樹における前作があと作の生育におよぼす影響の種類間関係。園芸学会昭42春研究要旨: 8-9。[講要]
22. 平野和弥・河村貞之助：トマト幼苗における根ぐされ線虫病と萎ちょう病との関連について。日植病報 33(2) 90。[講要]
23. 平野和弥・河村貞之助：ネコブセンチュウとの混合感染における *Fusarium* 菌の寄主範囲の変動。日植病報 33(5) 346。[講要]
24. 平野和弥・河村貞之助：ハガレセンチュウに対する5121粒剤の浸透移行殺線虫作用。関東病虫研報 14: 144。[キクを処理。]
25. 星野三男・尾田啓一・谷中清八・熊沢隆義・滝田泰章（担当者）：イネシトセンチュウの生態と防除について。栃木農試業績報 4: 88-93。[形態、生態、被害解析、防除。]
26. 一戸 稔：Control of plant nematodes. In: Plant Protection in Japan (Special issue No.5 of "Agriculture in Asia"). p. 93-98。[日本の線虫相、線虫被害及び防除に関するレビュー。]
27. 一戸 稔：Plant nematode investigations in Japan: results and problems. JARQ 2巻1: 1-4。[日本の線虫相、被害、防除の解説。]
28. 一戸 稔：日本産ヘテロデラ科線虫の2種について。応動昆大会講要 昭42: 41。[講要]
29. 一戸 稔：永年作物と線虫：現状と将来。植物防疫 21(10) 405-409, 1 pl。[線虫の種類、線虫のウイルス伝搬、将来の殺線虫剤。]
30. 一戸 稔：昭和41年度に試験された害虫防除薬剤：委託試験成績から：殺線虫剤

- ・植物防疫 21(2) 75. [TSN-21油剤 (EDB15%+EDC40%)、5121粒剤、カヤエース粉剤。]
- 3 1. 一戸 稔: 果樹にみられる線虫被害とその対策. 果実日本 22巻12: 16-22. [ミカン、ナシ、イチジク、モモ、リンゴ、ブドウ、チャ、クワの線虫被害。DBCP剤による防除。]
- 3 2. 一戸 稔: 果樹にみられるセンチュウとその被害. 今月の農業 11巻2: 50-52. [被害、衰弱・忌地の実例。]
- 3 3. 飯村 武: 苗畑土壤線虫実態調査. 神奈川林指導報 16: 68. [講要]
- 3 4. 稲生 稔: ハウス内における殺線虫剤処理効果について. 関東病虫研報 14: 145. [EDB、クロルピクリン剤。夏期は処理後被覆すると顕著な効果。]
- 3 5. 井上悦甫: 苗畑線虫防除試験 (I) 苗木におよぼす殺線虫剤の影響. 岡山林試報 7: 53-56. [EDB、DBCP、IK-141剤をアカマツ、ヒノキに施用。]
- 3 6. 井上悦甫・香山 馨・下川利之: 林業苗畑における土壤線虫防除に関する研究 (I) 苗畑における土壤線虫の実態. 岡山林試研報 1: 1-21. [樹種別の線虫相、生息密度等。]
- 3 7. 入子善助・塩野 勇: 根菜類省力機械化一貫作業. 農及園 42(3) 481-485. [土壤消毒 (D-D、EDB剤処理) について詳述。]
- 3 8. 石橋信義: サツマイモネコブセンチュウ *Meloidogyne incognita* (Kofoid & White, 1919) Chitwood, 1949の繁殖に関する研究. 農事試研報 11: 177-219. [I. 産卵孵化に関する実験法の確立: 1. 雌成虫の生理的食塩水内産卵、2. 生理的食塩水内にて産卵された卵の発育と幼虫の孵化、3. 卵嚢蔵卵数と幼虫孵化との相互関係。II. 孵化・生育ならびに産卵におよぼす寄主植物の影響: 1. 根分泌物の孵化促進作用、2. 寄主の生育状態が線虫の生育ならびに産卵におよぼす影響、3. 卵嚢物質の着色硬化にともなう雌成虫の産卵力減衰。III. 電離放射線照射による孵化・産卵力・侵入・性分化の解析: 1. 卵嚢の特性、2. 産卵力を決定する発育ステージ、3. 寄主植物の線虫誘引、4. 性決定の発育ステージ。IV. 雄成虫の増加と耐久卵の出現: 1. 圃場における雄成虫と褐色卵嚢の消長、2. 雄成虫の存在様式。V. ネコブセンチュウにおける種族維持の考察。植物防疫 22(12) 546-547, 1968 に抄録。]
- 3 9. 石橋信義・清水 啓・国井喜章: ネコブセンチュウの繁殖様式に関する生態学的研究 I. 発消長と環境感受性の関係. 応動昆大会講要 昭42: 39. [講要]
- 4 0. 石川元一: イネネモグリセンチュウによるイネの被害. 関東病虫研報 14: 138. [稈長の低下、穂数の減少、玄米重および千粒重の低下。]
- 4 1. 石川元一・熊倉喜八郎: 連作落花生のキタネコブセンチュウの被害と防除. 農業技術 22(5) 226-227. [連作と収量、施肥と線虫防除効果 (クロルピクリン)、キタネコブセンチュウ防除法 (D-D)。]
- 4 2. 伊藤弘康・阿部正博: 土壤線虫防除試験 (I) 主にイシユクセンチュウ (*Tylenchoderhynchus claytoni*) に対する薬剤防除について. 新潟林試研報 12: 1-11. [D-D、EDB、DBCP、ベーパーム、KC1、クロルピクリン、NCS、チウラム剤のネグサレ、イシユク、ユミハリセンチュウに対する効果、立枯病発生・苗木の生育への影響。]
- 4 3. 伊藤 深: ごぼうの生育障害の事例とその対策. 農業技術 22(8) 376-377. [線虫でなく、石灰・苦土の不足が原因。]
- 4 4. 伊藤喜隆: 蔬菜畑におけるネコブセンチュウの防除法. 農及園 42(7) 1105-1108. [D-D、EDB、DBCP剤処理、地温と処理時期、処理上の注意 (土壤の耕起、土壤水分、鎮圧、水封、前作の残渣)、残効、薬害、輪作。]
- 4 5. 伊藤喜隆: リンゴの線虫防除. 植物防疫 21(10) 414-417. [線虫相、被害、生態 (発消長、圃場内分布、一本の木での分布)、土質との関係、防除 (D-D、EDB

- 、DBCP、ベーパー剤。]
46. 弥富喜三：ミカンネモグリセンチュウの防除対策。果実日本 22巻5: 38-41。[八丈島における発生、緊急防除、生態と被害、分布、防除。]
47. 鎌渡徳次・近岡一郎・水沢芳名：ナガイモの表皮褐変による奇形症状と防除。関東病虫研報 14: 57-58。[EDB剤で防除可能。]
48. 金子 武：昭和41年度に試験された茶樹病害虫防除薬剤：連絡試験成績から：殺虫剤。植物防疫 21(1) 27-28。[チャネグサレセンチュウにネマニック粉剤、5121粒剤、UC-21149粒剤等。]
49. 金子 武：茶樹の線虫と5121粒剤。農薬研究 14巻1: 16-18。[チャネグサレセンチュウを対象。]
50. 川田惣平・石塚隆男：落花生に対する殺線虫剤の生育期処理（動力土壤消毒機による処理の効果）。関東病虫研報 14: 142。[EDB剤]
51. 河村貞之助・平野和弥：トマト幼苗におけるネコブセンチュウと萎ちょう病菌とによる複合病に関する研究 I。発病ならびに品種間差異。千葉大園学報 15: 7-20。[両者の接種時期を違えて3品種間で比較。]
52. 河村貞之助・平野和弥：畑作水稻の連作障害におよぼす土壤水分の影響に関する研究 第2報 畑作水稻に対する土壤水分処理がイネシストセンチュウの発消長とその被害におよぼす影響。農電研報 67019: 16-28。[ライシメータを使った試験。土壤水分含量が多い場合、線虫の増殖率は高いが、被害は軽減。第1報：土壤水分と生育、収量は同号 p.1-15 (中山敬一・青木正則・菅原軍二)。線虫記述なし。]
53. 河瀬憲次・松尾 平：モモのネコブセンチュウ抵抗性台木について。園芸学会昭42秋研究要旨: 32-33。[講要]
54. 川島嘉内：イネシストセンチュウによる水稻の被害に関する研究（第2報）畑苗代の被害について。北日本病虫研報 18: 120。[生育調査および茎葉分析。線虫寄生によって明瞭な被害。]
55. 気賀沢和男：北海道におけるダイズシストセンチュウの昨今。植物防疫 21(11) 471-474。[研究史、研究の現状、今後の問題点。]
56. 桐生五郎：加工用としてのイチヂク（蓬萊柿）の栽培改善：新発田市五十公野のイチヂク栽培を中心として。農及園 42(8) 1239-1242。[線虫害とその対策（D-D、EDB、DBCP剤処理）を含む。]
57. 小林義明・深沢永光：静岡県産のイネ主要品種のイネシングレセンチュウに対する抵抗性について。関東病虫研報 14: 131-132。[9品種を調査。]
58. 腰塚 敏：田畑輪換の行ないかた。農及園 42(9) 1367-1371。[線虫との関係にふれる（埼玉農試櫛引試験地 昭37-38の成績を引用）。]
59. 国井喜章・石橋信義・小林宏信：イネネモグリセンチュウ寄生水稻の代謝異常。応動昆虫大会講要 昭42: 39。[講要]
60. 国安克人：Pratylenchus penetrans Chitwood et Oteifa の土壤中の密度とエンドウ萎凋病との関連について。日植病報 33(5) 331。[講要]
61. 蔵納久男：警戒を要するミカンネモグリセンチュウについて。柑橘 19巻6: 38-39。[来歴、病徴、生態、寄主植物、分布。]
62. 吳羽好三：クワの線虫防除。植物防疫 21(10) 426-428。[ネコブセンチュウ。根と線虫の垂直分布、薬剤防除（DBCP乳剤、同粒剤）。]
63. 真宮靖治：Descriptive notes on three species of Trichodorus (Dorylaimida: Trichodoridae) from forest nurseries in Japan. Appl. Ent. Zool. 2(2) 61-68。[T. cedarus Yokoo, 1964, T. minor Colbran, 1956, T. porosus Allen, 1957を林業

- 苗畑から記録。再記載し各種を図示。]
64. 真宮靖治: アメリカにおける林業と線虫: 研究の現状と問題点. 植物防疫 21(10) 446-448. [苗畑における線虫問題、防除、林地での線虫問題。]
65. 増田康哉: 桑の紋羽病防除について (第1報) 白紋羽病発生跡地におけるD-D剤処理の効果. 日蚕九州講要 昭42: 9-10. [講要]
66. 松枝 章: 苗畑土壌線虫防除試験. 石川林試報 4: 179-184. [謄写。スギ、アカマツ、モミ、アテ (アスナロ) のネグサレ、イシユク、ラセンセンチュウ、その他の検出状況。]
67. 松本重男・松永弥七・朝日幸光・高瀬 昇・井浦 徳: 暖地におけるてん菜の輪作年限に関する試験. 九州農試彙報 12(3/4) 269-279. [ネコブセンチュウの被害大。]
68. 松本重男・財津昌幸: 大豆におけるネコブセンチュウ寄生程度の品種間差異. 九州農業研究 29: 87-88. [634 品種・系統の比較試験。]
69. 松永良夫・西野 操: ミカンの線虫被害の解析. 植物防疫 21(10) 433-437. [ミカンネセンチュウによる症状・被害。チャネグサレセンチュウによる被害。その他の検出線虫。]
70. 松崎征美・桐谷圭治・法橋信彦: ベルマン法による線虫の総個体数の推定の問題点. 応動昆大会講要 昭42: 1. [講要]
71. 峰尾一彦: 近畿南部の国有林苗畑から検出された植物寄生線虫について. 日林関西支講 17: 38-39. [講要。スギ、ヒノキ。]
72. 三田久男: 天敵シリーズ (5) 水田害虫の天敵. 農薬 14巻1: 口絵 (2 pls.)、解説. [ウンカシヘンチュウをカラー写真で図示。]
73. 宮川経邦: ミキサー・ふるい別け法 (Baines法) によるミカンネセンチュウの定量. 植物防疫 21(10) 438-441. [手順、精度、注意点等。]
74. 宮川経邦・賀川 実・大和浩国: ミカンネセンチュウ (*Tylenchulus semipenetrans* Cobb) の寄生度の調査と表示. 四国植防 2: 83-87. [寄生度にはミキサーふるい分け法、殺線虫剤の効果判定にはベルマン法。]
75. 宮沢洋一・萩原博司: ドロクロールの土壌消毒による薬用ニンジンの生育障害. 農及園 42(12) 1851-1852. [処理後に窒素過剰のため葉が枯れる。]
76. 森川国康: 土壌動物主要抽出法. Edaphologia 1: 17-25. [動物群別の抽出法のリスト。]
77. 諸井忠明: 管内苗畑における線虫の棲息実態調査. 秋田営林局研究発表論文集 昭41: 97-103. [スギのネグサレセンチュウの検出状況。前栽培作物・土性と生息数。]
78. 永野道昭・樋口泰三・中須賀孝正: ショウガの害虫類とその生態. 九病虫研会報 13: 68-69. [ネコブセンチュウの寄生が圃場によってかなり高い。]
79. 中村好男・堀 浩二: Studies on the gall formation of northern root-knot nematode, *Meloidogyne hapla* Chitwood. 帯広畜大研報 第1部 4(4) 425-444, 10 pls. [赤クローバーにおけるゴール形成とその組織変化. 植物防疫 22(9) 408, 1968に抄録。]
80. 中野香苗: 土壌線虫防除試験. 静岡林試報 1966: 157-166. [スギのミナミネグサレ、ラセン、イシユク、ユミハリセンチュウにD-D、DBCP、同+おが屑堆肥、糞堆肥、おが屑堆肥施用効果。DBCP、5121、ネマモール剤の薬害。]
81. 中園和年・一戸 稔: 日本産ニセフクロセンチュウの1種 (*Rotylenchulus nicotiana* (Yokoo et Tanaka, 1954) n. comb. (Tylenchida: Hoplolaimidae) について. 応動昆 11(4) 169-176. [各发育ステージの形態の記載 (新模式標本を定める)、寄生性、雌成虫の形態的変異と根における寄生部位との関係。本種の原因記載はNo. 54-62。本種

- はその後 *R. reniformis* のシノニムとされた (Dasgupta et. al., Proc. helminth. Soc. Wash. 35(2) 169-192, 1968)。]
82. 仲宇佐達也：果菜類の連作害とその対策。農及園 42(11) 1671-1675。[トマト、ナス、キウリ、その他のウリ類の連作害と対策。ネコブセンチュウの寄生と収量、台木の選択等。]
83. 中里筆二・井野光夫：コンニャクのネグサレセンチュウに関する研究 (第4報) コンニャクの品種と寄生性および被害について。関東病虫研報 14: 141。[ミナミネグサレセンチュウ。在来種の被害が大。EDB剤処理によって増収。]
84. 西野 操・松永良夫・古橋嘉一：ミカンネセンチュウの検出法と密度調査法。関西病虫研報 9: 120-121。[講要。細根をミキサーで粉碎。ふるい (100, 325メッシュ) で線虫選別。]
85. 西山成俊・福永良一：殺線虫剤の土壌処理が水稻の生育及び収量に及ぼす影響について。九州農業研究 29: 188-189。[D-D、DBCP剤のイネネモグリセンチュウに対する効果。増収した。]
86. 西沢 務：永年作物における線虫防除の諸問題。植物防疫 21(10) 410-413。[被害及び防除 (栽植前の土壌処理、苗木問題、被覆植物の利用、DBCP剤による治療的防除)。]
87. 西沢 務：カルスによる植物寄生線虫の無菌培養。応動昆大会講要 昭42: 40。[講要]
88. 西沢 務・弥富喜三：カンキツ幼苗の生育とミカンネセンチュウとの関係について。関西病虫研報 9: 121-122。[講要。ポット試験では関係不明。野外苗圃の実態調査では被害を確認。]
89. 野口義弘：ネグサレセンチュウの検出方法に関する研究：ミナミネグサレセンチュウ検出法としてのインキュベーション法について。四国植防 2: 79-82。[25-30℃で14日前後がよい。]
90. 野村信史：北海道における小豆栽培の改良の要点。農及園 42(2) 321-324。[シストセンチュウの害と輪作の関係について述べる。]
91. 岡 昌二・清水靖彦：埼玉県における根菜類の省力化の経過と問題点。農業技術 22(2) 64-69。[線虫防除は広く普及。]
92. 岡田利承：寄主の生育条件とダイズシストセンチュウの寄生。北日本病虫研報 18: 121。[土壌水分の多少、剪葉と線虫の寄生数・発育。]
93. 奥代重敬：昭和41年度に試験されたカンキツ病害虫防除薬剤：委託試験成績から：殺虫剤。植物防疫 22(2) 77-78。[5121粒剤はミカンネセンチュウ幼虫に効果。]
94. 大橋雄司：線虫病抵抗性の機構について。葉たばこ研究 45: 49-54。[品種間差異、線虫の侵入、抵抗性の解剖学的観察、土壌温度と抵抗性。植物防疫 21(12) 525, 1967に抄録。]
95. 大島康臣・国井喜章：イネに寄生する線虫について。応動昆大会講要 昭42: 39。[講要]
96. 大津貞夫：土壌線虫防除試験。茨城林試報 昭41: 64-69。[謄写。スギ、ヒノキ、アカマツの主にネグサレセンチュウにクロルピクリン、D-D、EDB、DBCP、TS-10、IK-141、5121粒剤。]
97. 大和田常晴・加藤 昭 (担当者)：ダイズシストセンチュウの防除について。栃木農試業績報 4: 94-96。[EDB剤処理、抵抗性品種利用。]
98. 長田 巖：ブドウにおけるDBCP剤の葉害について。園芸学会昭42秋研発要旨：30-31。[講要]

99. 長田 巖: 殺線虫剤の効果, 山梨の園芸 15巻2: 31-34. [ブドウにDBCP剤.]
100. 長田 巖: ブドウ園におけるDBCP剤の使い方, 今月の農薬 11巻5: 39-41. [線虫の種類と被害、処理方法・時期、薬剤処理による生育異常。]
101. 領家武房: ミカンの土壤線虫検診方法について (I), 中国農業研究 37: 61-62. [株の樹冠範囲1/2 円周上、4地点 (深さ10-20cm)の土壤標本により密度推定が可能。園内は4樹を調査。]
102. 三枝敏郎: 八丈島に侵入したミカンネモグリセンチュウ: その形態と生態ならびにアメリカにおける検診と防除, 植物防疫 21(5) 181-187. [調査方法と結果、学名ならびに形態、分布と寄主植物、作物のおもな被害、生態系統および非寄主植物、生活場所と移動。]
103. 三枝敏郎: 日本に侵入したミカンネモグリセンチュウの発見と発見の経緯, 応動昆虫大会講要 昭42: 40. [講要]
104. 三枝敏郎: シバ苗のネコブ線虫の温湯防除, グリーン研報集 12: 27-28. [未見]
105. 斉藤 諦: 林業苗畑における線虫被害調査, 山形林指導報 7: 93-94. [スギ、アカマツからの検出線虫。]
106. 坂井健吉・丸峯正吉・広崎昭太・菊川誠士・井手義人・白坂 進: 甘しょ新品種 "コガネセンガン" について, 九州農試彙報 13(1/2) 55-68. [特性及び育成過程。ネコブ、ネグサレセンチュウに強い。]
107. 佐々木 寛・星 稔男: 苗畑実態調査からみた線虫の生息について, 日林東北支誌 18: 97-103. [福島県のアカマツ、スギの検出線虫。D-D、EDB剤による防除。]
108. 佐々木 壯: サツマイモネコブセンチュウとタバコ疫病菌 (2) センチュウ罹病組織がタバコ疫病菌の生育と遊走子発芽におよぼす影響, 日植病報 33(2) 90-91. [講要]
109. 佐々木 壯・田中 勇: 線虫と他の病害との関係, 葉たばこ研究 46: 79-84. [疫病との関係。]
110. 佐藤昭美: キタネグサレセンチュウによるゴボウの害徴と糸状菌の関係について, 北日本病虫研報 18: 126. [根表面の褐変腐敗症状の進展には線虫とFusarium菌またはRizoctonia菌が関与と推定。]
111. 沢田啓司: ミカンネモグリセンチュウの侵入と緊急防除, 今月の農薬 11巻5: 71-73. [八丈島における発見とその後の防除対策。]
112. 清家義明: イネネモグリセンチュウ (*Hirschmanniella oryzae*) に関する研究, 応動昆虫大会講要 昭42: 39. [講要]
113. 渋谷正夫・岡田正順・真家丈夫: キクの連作障害における線虫とFusarium菌の混合感染について, 東教大農場報 1: 25-37. [謄写。キタネグサレセンチュウの寄主植物、形態。菌・線虫の単独より混合接種により大きな被害。]
114. 清水 啓・石橋信義: ネコブセンチュウの繁殖様式に関する生態学的研究 II 雄成虫の行動, 応動昆虫大会講要 昭42: 39-40. [講要]
115. 清水四郎: 八丈島におけるミカンネモグリセンチュウの緊急防除事業, 植物防疫 21(5) 179-180. [植物防疫法上の取り扱い、発見の経緯、防除方針の検討と緊急防除省令の内容他。関連記事: 植物防疫 21(3) 126-127, (5) 213, (6) 272, 1967。]
116. 下川利之: 岡山県下の林業用苗畑から検出されるネグサレ線虫 *Pratylenchus* spp. について, 森林防疫ニュース 16(9) 204-205. [キタネグサレ、ミナミネグサレセンチュウ。]
117. 下川利之・井上悦甫: 林業苗畑の土壤線虫防除に関する研究 (1) 苗畑における土壤線虫の実態, 岡山林試研報 1: 1-21. [分布、密度、土壤条件との関係、発消長。]
118. 塩原右治: 林業苗畑における土壤線虫実態調査, 群馬林試報 5: 86-106. [謄写。]



- スギ、ヒノキ、アカマツ、クロマツからの検出線虫。発消長。]
- 1 1 9. 白浜賢一：土壤の蒸気消毒の作業能率と消毒経費。今月の農薬 11巻10: 58-59. [4機種と比較。3.3 平米当たり114.1 ~390.5 円。]
- 1 2 0. 菅原祐幸・栗山尚志・島田英雄：トマトネコブセンチュウ抵抗性検定法に関する試験。園試興津支年報（そ菜）3: 15-17. [未見]
- 1 2 1. 杉山信太郎・広間勝己・国分喜治郎・宮原万芳：大豆品種のダイズシストセンチュウ抵抗性の地域性。育雑 17(別1) 134. [講要]
- 1 2 2. 砂田喜与志：ダイズシストセンチュウ抵抗性を異にする大豆品種の栽培跡地が後作大豆の生育に及ぼす影響。北海道農試集報 16: 106-113. [抵抗性品種栽培跡地でのシスト数減少、後作大豆の生育良好。]
- 1 2 3. 鈴木春夫：いろいろな土壤消毒とその方法。農業技術研究 21巻2: 34-36. [蒸気、燻蒸剤、薬液灌注、粒剤の施用法。]
- 1 2 4. 鈴木久彌・中川喜之：茶園中における線虫および細根の分布について。関西病虫研報 9: 123-124. [講要。ピンセンチュウ、ネグサレセンチュウの樹幹を中心とした水平・垂直分布。]
- 1 2 5. 多川 閃・都丸敬一：土壤くん蒸剤のガスクロマトグラフィーによる分析。日植病報 33(5) 318. [講要]
- 1 2 6. 高木一夫：チャの線虫防除。植物防疫 21(10) 429-432. [線虫相、被害、防除（成木園：DBCP乳剤、同粒剤；幼木園：同前；改植園：D-D、EDB剤；苗床：クロルピクリン）。]
- 1 2 7. 高倉重義：網走地方におけるキタネコブセンチュウの季節的消長。北農 34巻2: 33-47. [甜菜、パレイショ、菜豆、秋播小麦間作クローバー、2年目クローバにおける消長、1世代所要積算温度、冬期の消長。]
- 1 2 8. 高倉重義・富岡 暢・高桑 亮：テンサイ連作畑における主要病害虫発生状況。北日本病虫研報 18: 67. [キタネコブセンチュウを含む。]
- 1 2 9. 高野文男・大川 晶・佐々木信夫・小川勝美：化学薬剤による水稻の生育調節に関する試験 第1報 殺線虫剤処理が水稻の生育収量におよぼす影響。東北農業研究 9: 54-56. [クロルピクリン、D-D、DBCP、EDB剤の順に増収効果。]
- 1 3 0. 武田昭七・高橋周寿・山崎慎一：水稻に対する薬剤（Vitamin およびEDB剤）施用効果について。東北農業研究 9: 57-59. [収穫期のイネネモグリセンチュウ数はEDB剤施用の有無の間に有意差なし。]
- 1 3 1. 竹下晴彦：林業苗畑における土壤線虫に関する研究（1）苗畑土壤線虫実態調査。佐賀林試研報 67(2) 1-29. [ヒノキ、スギ、マツ苗畑の検出線虫。環境条件と線虫相（地域的分布、土性・土壤酸度・施業方法・施肥と線虫数、ヒノキ・スギの生育と線虫数、被害の徴候）。]
- 1 3 2. 竹下晴彦：線虫防除試験：ヒノキ苗畑の異常枯損について。日林九支研講 20: 140-141. [線虫でなく、キリウジガガンボが原因。クロルピクリン、EDB、IK-141、TS-10 剤を施用。]
- 1 3 3. 竹崎 努・家入 章：秋大豆に対する殺線虫剤EDBの効果について。日作九支報 28: 33-35. [EDB剤施用と施肥改善により増収可能。]
- 1 3 4. 田中 勇・福留信明・木原宮子：寄主植物の存在しない状態におけるネコブセンチュウの寄生性存続。葉たばこ研究 45: 55-62. [灌水の影響。No. 67-136 を参照。]
- 1 3 5. 田中 勇・福留信明・木原宮子：寄主植物の存在しない状態におけるネコブセンチュウの寄生性存続（2）土壤中における寄生性の存続および寄生性の存続におよぼす土壤温度の影響。九病虫研会報 13: 108-109. [4種の土壤を供試。実験開始 200日後

の寄生率は20°C>28°C>10°Cの順。]

136. 田中 勇・福留信明・木原宮子：寄主植物の存在しない状態におけるネコブセンチュウの寄生性存続(3) 寄生性に及ぼす土壌たん水の影響。九病虫研会報 13: 109-111. [室内試験。流水区、滞水区、対照区で比較。]
137. 照屋林宏：サトウキビの生育初期におけるネマトーダの加害について。熱帯農業 10(4) 196-201. [ラセン、イシユク、サツマイモネコブセンチュウを苗に接種。]
138. 樋田幸夫：桑園の土壌線虫。蚕糸科学と技術 5巻3: 48-51. [ネコブセンチュウの生態、防除。]
139. 徳永美治：畑地の連作障害を考える(1)。農業技術 22(7) 301-304. [連作障害の概説。作付体系との関係、症状、収量低下、病害虫との関係他。]
140. 徳永美治：畑地の連作障害を考える(2)。農業技術 22(8) 351-354. [施肥、土壌条件、水との関係、アレロパシー他。]
141. 富来 務・藤川 隆・岡留善次郎・佐藤俊次：稲心枯線虫病に関する研究(第3報) 本病に対する各種粉剤並びに粒剤の効果。九病虫研会報 13: 5-7. [14種の処理。MPP粉剤、MEP粉剤、同粉衣剤、PSP204 粉剤の3-5%粉衣が良い成績。ダイシストン、PSP204 粒剤の苗代の播床散布も有効。]
142. 堤 正明：ダイズシストセンチュウ抵抗性品種におけるふ化促進作用。北日本病虫研報 18: 122. [強い作用を認める。]
143. 内村新吉・福留信明・川上嘉通：タバコの接木に関する研究 第3報 線虫病検定。鹿児島たばこ試報 14: 61-64. [NC95上にBYを接木した場合は抵抗性発現。逆の組み合わせでは認められず。]
144. 内村新吉・福留信明・川上嘉通：タバコの接木に関する研究 第3報 本ば栽培ならびに線虫病検定。日作九支報 6: 44-46. [No. 67-143 を参照。]
145. 上野徳男・宮原義雄：DBCP剤のサツマイモの生育におよぼす影響。九病虫研会報 13: 71-75. [「一穴(80%) 2 cc 以上の施用は減収する例が多かった」]
146. 上住 泰：カキ寄生性線虫に関する研究 第1報 カキ根圏内土壤中より発見された植物寄生性線虫類と、根群と2、3主要線虫の分布。奈良農試研報 1: 74-83. [19属以上を記録。ミカンネセンチュウ、*Tylenchorhynchus* sp., *Helicotylenchus* sp. の樹幹周囲の垂直、水平分布を調査。]
147. 上住 泰：カキ寄生性線虫に関する研究 第1報 カキ根圏内土壤中における線虫の分布。関西病虫研報 9: 122-123. [講要]
148. 上住 泰：永年作物の検診と薬剤処理。植物防疫 21(10) 442-445. [永年作物線虫検診の特異性、土壤中における線虫分布と細根の関係、線虫の園内分布、永年作物の線虫防除。]
149. 牛山欽司：ミカン園から検出される線虫と被害の実態。農業技術 22(2) 74-76. [線虫相、線虫の垂直分布、ミカンネセンチュウがミカン類に及ぼす影響、外部寄生性線虫の被害。]
150. 牛山欽司：神奈川県下に発生した温州ミカンの衰弱症。今月の農薬 11巻10: 18-20. [線虫も検出。]
151. 牛山欽司：外部寄生性線虫が柑橘の生育におよぼす影響について。園芸学会昭42春研究要旨: 96-97. [講要]
152. 和知文雄：土壌線虫防除上の緑肥栽培に関する2、3の考察 I。林業技術研究集録(前橋営林局) 経営部門 1967: 168-175. [マリーゴールドの品種比較。ネグサレ、ユミハリ、イシユクセンチュウに対する抑制効果。ネグサレセンチュウにのみ有効。]
153. 矢口宣夫・川島嘉内：ユミハリセンチュウ *Trichodorus porosus* によるナガイモ

- の被害について。北日本病虫研報 18: 127. [発生地、線虫の垂直分布、防除 (クロロピクリン、D-D、サンヒューム)。]
154. 山田英一: 数種作物におけるキタネグサレセンチュウの消長。北日本病虫研報 18:124. [ダイズ、コムギ、ゴボウ、ジャガイモ、ニンジン、テンサイ、アスパラガス。]
155. 山田英一: キタネグサレセンチュウによるリンゴ幼木の被害。北日本病虫研報 18: 125. [紅玉、国光で比較。線虫接種で生育に影響。]
156. 山口福男・藤本 清: イチジクの線虫と5121粒剤。農薬研究 14巻1: 19-22. [ネコブセンチュウの被害と薬剤施用効果。]
157. 山本敏夫: ベルマン法における土壌量と検出線虫数。関西病虫研報 9: 123. [講要。土壌量、土性、目皿の直径、土壌の載せ方等をミカンネセンチュウで検討。10g 程度が適量と結論。]
158. 山本敏夫: ミカン園におけるチャネグサレセンチュウの検出法とその被害。農及園 42(4) 659-662. [ベルマン法、ミキサ法、それら混用法の解説。検出状況、被害。]
159. 横尾多美男: 土壌線虫調査覚書 その1。佐賀大農彙 24: 73-82. [アスパラガス畑、芝地、ミカン苗木園、水田、イチヂク畑、テッポウユリ、トドマツ苗木の線虫相。]
160. 横尾多美男・古賀成司: ツツジ苗木の根まわり土壌から発見された線虫について。九病虫研会報 13: 145. [講要。No. 66-201 を参照。]
161. 横尾多美男・松崎武嗣: ボタン寄生の新葉線虫とその寄主植物。九病虫研会報 13: 103-104. [*Aphelenchoides lilium* と同定。計測値を他の個体群・近似種と比較。]
162. 横尾多美男・大串和夫: イネネモグリセンチュウの防除効果についての2、3の知見。九病虫研会報 13: 104-106. [D-D、DBCP、ネマモール剤処理の効果をイネネモグリセンチュウを含む多種の線虫で比較。]
163. 横尾多美男・大串和夫・寺町国義: 除草剤の水田線虫相に及ぼす影響。九病虫研会報 13: 106-107. [6 薬剤を供試。]
164. 横尾多美男・富尾孝雄: On the experimental studies and field observations on the relationships between the pH of the soils and the population density of the citrus nematode, *Tylenchulus semipenetrans*. 佐賀大農彙 24: 83-91. [ミカンネセンチュウは酸性土壌で増殖大。カラタチの線虫抵抗性を確認。]
165. 横山俊祐: 茶園の土壌線虫: 特にチャネグサレセンチュウの被害とその症状。茶昭42, 5: 4 pp. (ページ不明) [種類と分布状況、茶の生育樹齢、品種などと線虫検出率との関係、ネグサレセンチュウの寄生と茶樹の被害。]
166. 横山俊祐・山本敏夫・近藤鶴彦: 三重県茶樹地帯における植物寄生性線虫の分布とその被害: 特にチャネグサレセンチュウ *Pratylenchus loosi* Loof について。三重農試研報 2: 47-58, 3 pls. [茶園の線虫相とその検出状況、生育・樹齢・品種とネグサレセンチュウ検出率、茶樹の被害 (地上部、地下部)、症状と線虫密度、DBCP 剤処理の効果。植物防疫 21(2) 525-526 に抄録。]
167. 吉田桂輔・吉村大三郎・横山佐太正: 各種薬剤の苗代施用による稲心枯線虫病防除効果。九病虫研会報 13: 2-5. [10 薬剤を供試。ダイアジノンが有効。]
168. 吉田孝二・橋本 康・西山康浩: 農薬の魚毒性表示について。植物防疫 21(3) 109-111. [殺線虫剤 (D-D、EDB、DBCP 剤他) を含む。No.71-89 に改定版。]
169. 吉田光男: 苗畑土壌線虫防除試験。栃木林七報 3: 60-64. [スギのネグサレ、ユミハリ、ラセンセンチュウに D-D、EDB、5121 粒剤。]
170. 吉田 猛: イチジク・ブドウ・ナシの線虫防除。植物防疫 21(10) 422-425. [線虫相、被害、防除。]
171. 吉田 猛: 落花生の土壌センチュウ防除法。今月の農薬 11巻7: 29-31. [被害

- と土壤環境。D-D、EDB、DBCP剤施用の効果。]
172. 吉田 猛・鈴木哲朗：イネネモグリセンチュウに対するカヤエース (DSP剤) の防除効果。関東病虫研報 14: 139. [本田施用でかなりの効果。]
173. 吉田 猛・宇田川 理・三井 康：落花生のキタネコブセンチュウ被害と土壤固相率との関係。関東病虫研報 14: 143. [固相率が高い程線虫被害が少ない傾向。]
174. 葭原敏夫・気賀沢和男：土壤水分の相違とダイズシストセンチュウの寄生。応動昆大会講要 昭42: 40. [講要]
175. 吉井憲良・岡 高明・佐々木禎郎・鈴木久弥：茶園土壤の深耕と線虫防除について (茶園土壤の特異性とその肥培管理 II)。京都農試研報 2: 30-34. [謄写。チャネグサレ、ピンセンチュウについて。]
176. 吉野正義：薬剤によるイネシシトセンチュウの防除。今月の農薬 11巻5: 33-35. [サツセン、ダイシストン、カヤエースの土壤施用、カヤエースの種子粉衣。]
177. 吉野正義・広瀬清信：イネシシトセンチュウの薬剤防除：カヤエース粉剤の使用法について。関東病虫研報 14: 137. [10%粉剤の種子粉衣および苗代土壤施用が良い結果。]
178. 湯原 巖：北海道における牧草線虫。北農 34巻1: 41-52. [検出線虫、キタネコブ、キタネグサレ、クローバシスト、ピン、クキセンチュウの形態、発生、被害、防除の問題点。]
179. 湯原 巖：てん菜野生種のキタネコブセンチュウに対する抵抗性について。てん研報 補9: 169-172. [*Beta webbiana* WB11がかなり強い抵抗性。]
180. 湯原 巖：キタネコブセンチュウ寄生に対するテンサイ野生種の抵抗性。北日本病虫研報 18: 123. [No. 67-179 を参照。]
181. 湯原 巖：キタネコブセンチュウ寄生に対するてん菜野生種の抵抗性。応動昆大会講要 昭42: 38-39. [講要]
182. Anon. : 土壤中の動物の数。Edaphologia 1: 25-28. [謄写。線虫を含む動物群別の1 m<sup>2</sup>当たりの生息個体数、現存量等の比較。]
183. Anon. (東北農試栽培第2部作物第3研) : 大豆新品種「ネマシラス」育成報告：附。選抜育成の基本材料に用いた大豆在来種「ゲデンシラス」について。東北農試研報 35: 43-84. [ダイズシストセンチュウ強度抵抗性品種。育成過程と特性。]
184. Anon. (農林省農薬検査所化学課) : 農薬の機械分析法 (2)。植物防疫 21(3) 103. [D-D、EDB、DBCP剤の分析法を含む。]

### 昭和43年 (1968)

1. 安部 浩・門脇義行：線虫調査用土壤の貯蔵温度が線虫検出量に及ぼす影響。応動昆中国支報 10: 29-30. [ジャワネコブ、ミカンネ、ピンセンチュウを26°C、4°Cで貯蔵。ベルマン法による検出数は前2種では変動大。]
2. 天野 隆・上林 讓・尾崎典光：ネグサレセンチュウ分離法に関する研究。愛知農試彙報 23: 77-88. [遠心浮遊法、ベルマン法、ミキサ法との比較。]
3. 青柳恒夫・田坂耕一郎：トマトの耐虫性品種について。東京農試特報 24: 9-17. [謄写。新系統Black leaf (仮称) の検定結果。サツマイモネコブセンチュウ、ジャワネコブセンチュウに抵抗性。]
4. 浅川 勝：農薬の新しい解説 [13] II。土壤用殺虫剤 (3)。農及園 43(1) 99-102. [臭化メチル、カーバム (ペーバム、NCS)、EDB (ネマヒューム、ネマトロ

- ン)、CDBE (CDB)、DBCP (ネマゴン、ネマナックス、ネマセット)、D-D、DCIP (ネマモール)、REE (サッセン) の解説。]
5. 千葉 修：林業苗畑における土壤線虫の実態：連絡試験により実態調査の結果から、森林防疫ニュース 17(2) 26-36。[12道県のマツ、スギ、ヒノキ苗畑の調査結果。検出線虫および頻度、密度を地域、樹種、線虫毎にまとめる。]
  6. 千葉 修：四月ごろの苗畑の病害虫防除。今月の農薬 12巻4: 68-69。[線虫に対するクロルピクリン、D-D、EDB、DBCP、NCS剤の施用を含む。]
  7. 近岡一郎：大根におけるキタネコブセンチュウの防除と薬剤用法。今月の農薬 12巻1: 68-70。[症状、寄主範囲、D-D、EDB、NCS、クロルピクリン剤の効果。]
  8. 近岡一郎・浅見 宏・竹沢秀夫：ダイコンのキタネグサレセンチュウについて 第4報 殺線虫剤の無耕起処理効果。関東病虫研報 15: 124。[D-D剤。耕起後の処理より高い効果。]
  9. 近岡一郎・水沢芳名：ダイコンのキタネグサレセンチュウについて 第5報 センチュウ密度と被害。関東病虫研報 15: 125。[両者に正の相関。ベルマン法で線虫が検出皆無でも若干の被害発生。]
  10. 近岡一郎・竹沢秀夫：ネコブセンチュウの防除に関する研究。神奈川農試研報 106: 36-45。[D-D、EDB、DBCP剤。殺線虫剤の効果と土壤温度、冬期施用効果、殺卵と土壤温度、現地試験 (ニンジン、ヤマトイモ、キュウリ、ホウレンソウ)。]
  11. Cutler, H. G. & Krusberg, L. G. : Plant growth regulators in *Ditylenchus dipsaci*, *Ditylenchus triformis* and host tissues. Pl. Cell Physiol. 9(3) 479-497。[2種線虫からのクロロフォルム・メタノール抽出物のIAA OCH<sub>3</sub> 活性物質について。無菌培養の *Turbarix aceti* から検出されず、線虫培養用の菌からは検出。]
  12. Dutky, S. R. : An appraisal of the DD-136 nematode for the control of insect populations and some biochemical aspects of its host-parasite relationships. Proc. Joint U.S.-Jap. Semin. Micr. Contr. Ins., Tokyo, pp. 139-140。  
[未見]
  13. 家入 章：ネグサレセンチュウを分離する場合の遠心浮遊法の利用について。九病虫研会報 14: 76-78。[分離操作の比較。]
  14. 江村一雄・上田勇五：殺線虫剤の水田処理が水稻とイネネモグリセンチュウにあたる影響。新潟農試研報 18: 7-18。[D-D、EDB、DBCP剤。殺線虫剤の効果範囲、水稻の生育、収量、線虫の発生消長への影響等。殺線虫剤の副次的作用が線虫害より大と推定。植物防疫 22(9) 408, 1968に抄録。]
  15. 藤本 清・神納 浄・宇都敏夫・山口福男・松尾綾男：兵庫県における土壤病害虫防除の実態。兵庫農試研報 15: 95-100。[対象作物、薬剤の種類・効果・使用方法、経費と労力、農家の所見をまとめる。]
  16. 藤村 良・浜田国彦：土壤蒸気消毒の生育障害に関する研究 第1報 肥料および消毒温度の影響。兵庫農試研報 15: 101-106。[線虫記述なし。消毒土壤のキンギョソウの若い展開葉にクロロシス発生。有機質窒素多用の高温処理区ではアンモニア態窒素の集積とpHの上昇。2報：同誌 16: 117-122, 1968; 3報：同誌 18: 159-165, 1971。]
  17. 福井重郎：Soy-bean breeding in Japan. JARQ 3巻3: 5-9。[ダイズシスト、サツマイモネコブセンチュウ抵抗性育種に言及。]
  18. 布施 寛・佐藤政太郎：山形県下におけるウンカシヘンチュウの寄生。応動昆 12(2) 97-99。[トビイロ、セジロウンカに寄生を確認。]
  19. 後藤 昭：沖縄の主要作物の植物寄生性線虫。九病虫研会報 14: 78-82。[サトウ

- キビ、カンショ、そさい類、パインアップル、バナナ、イネ等からの検出線虫。]
20. 後藤 昭：沖縄の土壤線虫。熱研集報 7: 8-10. [作物別に検出線虫を挙げる。]
21. 後藤 昭：琉球列島における植物寄生性線虫3属の種類、分布。応動昆大会講要 昭43: 38. [講要]
22. 後藤 昭・大島康臣：The root-lesion nematodes, Pratylenchus spp. and their geographical distribution in Japan (Nematoda: Tylenchida). Rev. Plant Protect. Res. 1: 118-121. [No. 63-14 の英文抄訳。]
23. 後藤寛治・砂田喜与志：ダイズシスト線虫に対する抵抗性の導入に関する研究。In: 大豆の育種 (福井重郎編)、ラテイス社、東京、p. 38-66. [黒莢三本木系・下田不知系の抵抗性の導入]
24. 浜島直己：高冷地そ菜の栽培 [12]。農及園 43(12) 1917-1920. [レタスの線虫被害にふれる。]
25. 橋本平一：林業苗畑における殺線虫剤の効果について (II)。日林誌 50(9) 288-291. [D-D、EDB、DCIP、TS-10 剤。ネグサレ、イシユクセンチュウに施用。]
26. 八田茂嘉：線虫の被害。和歌山の果樹 19巻4:42. [被害、線虫の種類、薬剤防除。]
27. 早坂義雄・太田庄平・伊藤 巖・角田 貞・舟嶋 宏・沼崎啓司：苗畑における寄生線虫類の薬剤防除試験 (第1報) スギ播種床における殺線虫剤施用の効果。森林防疫ニュース 17(5) 98-103. [D-D、EDB、DBCP 剤の効果と苗の伸長。]
28. 引地直至：モモに寄生するネコブセンチュウの生態と防除に関する研究。福島園試研報 1: 63-73. [ネグサレ、ピンセンチュウも含む。缶桃5号の寄生程度が顕著に低い。DBCP 剤処理は春季が適当。]
29. 引地直至：モモの線虫とその防除法。農及園 43(10) 1565-1569. [検出線虫、忌地と線虫の関係、土壤中での線虫の分布、防除法 (DBCP 剤)。]
30. 日岡登治：ニセネグサレセンチュウによるサツマイモの被害とその防除。今月の農薬 12巻8: 72-75. [症状、品種の耐虫性、クロルピクリン、D-D、EDB+DCIP、グラント乳剤による防除。]
31. 日岡登治・田中徳己：サツマイモのニセネグサレセンチュウとその防除について。関西病虫研報 10: 120-121. [講要。Fusarium 菌との混合感染。抵抗性品種・薬剤防除。土壌 pH 調整の効果なし。]
32. 平野和弥・河村貞之助：ネコブセンチュウと萎ちょう病菌とによるトマト複合病の感染と発病。日植病報 34(3) 169-170. [講要]
33. 広瀬和栄：ミカンの改植と連作障害。今月の農薬 12巻10: 45-47. [ミカンネセンチュウ接種試験、線虫寄生と肥料吸収、防除法 (D-D、DBCP、クロルピクリン)。]
34. 堀江典昭・永沢 実・松本安生・三枝敏郎：八丈島におけるミカンネモグリセンチュウの分布と寄主植物。応動昆大会講要 昭43: 38-39. [講要]
35. 星野三男・尾田啓一・谷中清八・滝田泰章・熊沢隆義：イネシストセンチュウの陸稲に対する被害と防除に関する研究。栃木農試研報 12: 127-140. [線虫の形態の概要、被害 (生育、症状、収量)、土壤中の垂直分布、防除法 (輪作、殺線虫剤: D-D、EDB 剤)。]
36. 一戸 稔：Present status of research on the rice-infesting nematodes in Japan. Rev. Plant Protect. Res. 1: 26-38. [イネシングレセンチュウの防除、イネシストセンチュウの被害、イネネモグリセンチュウの生態等。薬剤 (D-D、EDB、DBCP、クロルピクリン、ペーパム剤) の水田施用効果。]
37. 一戸 稔：Nematode species and their damage to perennial plant in Japan. Internatl. Symp. Nematol. (8th), Antibes, Sept. 8-14, 1965. Reprt., 72-73. [講

要。日本の永年作物の線虫相。]

38. 一戸 稔: 土壤センチュウ [1] 連作とセンチュウ, 今月の農業 12巻3: 89-93.  
[畑作物、果樹の忌地等。]
39. 一戸 稔: 土壤センチュウ [2] センチュウの形態・分類同定, 今月の農業 12巻  
4: 89-93. [形態の簡単な解説。]
40. 一戸 稔: 土壤センチュウ [3] センチュウの検診 (診断), 今月の農業 12巻5:  
91-93. [病徴、検診法。]
41. 一戸 稔: 土壤センチュウ [4] ヘテロデラ科センチュウ, 今月の農業 12巻6:  
89-93. [種類、生理生態。]
42. 一戸 稔: 土壤センチュウ [5] ネグサレセンチュウとネモグリセンチュウ, 今月  
の農業 12巻7: 87-91. [生理生態、被害、防除。]
43. 一戸 稔: 土壤センチュウ [6] チレンクス目の外部寄生センチュウ, 今月の農業  
12巻8: 94-98. [ラセン、イシユク、ワ、ミカンネ、ニセフクロ センチュウの解説。]
44. 一戸 稔: 土壤センチュウ [7] ドリライムス目センチュウ, 今月の農業 12巻9:  
88-92. [オオガタハリ、ナガハリ、ユミハリセンチュウの解説。]
45. 一戸 稔: 土壤センチュウ [8] 葉・茎の寄生センチュウ, 今月の農業 12巻10:  
79-84. [ハセンチュウ属、クキ、コムギツブ、イチゴメセンチュウの解説。]
46. 一戸 稔: 土壤センチュウ [9] 関連病害, 今月の農業 12巻11: 85-90. [線虫と  
糸状菌病、細菌病、ウイルス病との関係。]
47. 一戸 稔: 土壤センチュウ [10] センチュウの天敵, 今月の農業 12巻12: 70-  
75. [捕食菌、捕食性線虫、天敵微生物、捕獲作物、対抗植物、抵抗性品種の解説。]
48. 井幡清生・松枝 章: 苗畑土壤線虫防除試験, 石川林試研報 5: 106-108. [謄写。  
スギにD-D剤施用。おが屑堆肥施用の有無と効果の関係。]
49. 飯村 武: 林業苗畑における土壤線虫実態調査, 神奈川林指導報 17: 28-32. [ス  
ギ、ヒノキ、アカマツ、クロマツのネグサレ、ラセン、イシユク、ユミハリセンチュウ  
の密度、検出頻度、苗木の成長との関係。土壤中垂直分布。]
50. 池田 豊・荒武義信: 桑園における採取土壤の管理と土壤線虫密度の推移について  
。日蚕九州講要 昭43: 9-10. [講要]
51. 池田 豊・荒武義信: 桑園における土壤線虫の垂直、水平分布とその季節的消長。  
日蚕九州講要 昭43: 9. [講要]
52. 池永和夫・樋口泰三: 土壤線虫分離についての試案 (I), 九病虫研会報 14: 74-  
76. [遠心分離法、ベルマン法の線虫の種類別の適性。後者の温度と分離虫数の関係。]
53. 稲垣春郎: ネグサレセンチュウの無菌培養, 応動昆大会講要 昭43: 39. [講要]
54. 稲垣春郎: 北海道における露地イチゴの退化現象, 日植病報 34(5) 365. [講要]
55. 稲垣春郎・Powell, N. T.: タバコ疫病におけるネグサレセンチュウの関  
連, 日植病報 34(3) 170. [講要。No. 69-31を参照。]
56. 稲生 稔: ネコブセンチュウ寄生とキュウリつる割病発病との関係, 応動昆大会講  
要 昭43: 41. [講要]
57. 稲生 稔: イネ心枯線虫病の水媒感染について 第2報 移植後の線虫寄生と発病  
。関東病虫研報 15: 118. [本田移植後でも健全株に移行。]
58. 井上悦甫: 林業苗畑におけるセンチュウとその防除, 今月の農業 12巻7: 74-76.  
[主にスギのネグサレセンチュウの被害とD-D、EDB、DBCP、DCIP、5121  
、クロルピクリンの効果。]
59. 入子善助・熊倉喜八郎: 埼玉県における落花生栽培技術, 農業技術 23(3)116-119.  
[連作障害とその対策 (輪作、施肥、薬剤処理: D-D、EDB、クロルピクリン) を

含む。]

60. 石橋信義：ヘテロデラ科線虫における環境抵抗性の獲得について II. 雌成虫蛋白の電気泳動パターン. 応動昆大会講要 昭43: 43. [講要]
61. 石川正示：大豆シスト線虫抵抗性品種の育成に関する研究. In: 大豆の育種 (福井重郎編)、ラティス社、東京、p. 1-37. [抵抗性の検定、系統分離法による抵抗性新系統の選抜、品種間交配育種法・放射線育種法による抵抗性品種の育成。]
62. 石川元一：田畑輪換と線虫. 埼玉農試研報 28: 97-101. [ネコブ、ネグサレセンチュウを主に調査。]
63. 石川元一：イネネモグリセンチュウに対する5121粒剤の防除効果. 関東病虫研報 15: 122. [上記種とイネシガラレセンチュウにも効果。]
64. 石倉秀次：鑛木先生を偲ぶ. 植物防疫 22(3) 130. [明治23年6月-昭和43年2月21日. 応動昆12(1) 48-49, 1968 に弔辞 (杉山章平) 及び略歴。]
65. 伊藤一雄：森林保護試験研究のあゆみ. 森林防疫ニュース 17(11) 256-264. [戦後の林業関係の土壤線虫研究史を含む。]
66. 伊藤喜隆：リンゴのネコブセンチュウの垂直、水平移動について. 応動昆大会講要 昭43: 40. [講要]
67. 伊藤喜隆：果樹 (落葉果樹) のセンチュウ類による被害と防除の要否. 今月の農業 12巻6: 36-40. [リンゴ、モモ、ブドウ、ナシ、イチジクの線虫被害. DBCP剤の効果、防除の必要性の有無の考え方。]
68. 伊藤喜隆：果樹類のネコブセンチュウ. 信州の果実 142: 62. [未見]
69. 伊藤喜隆・広瀬健吉：リンゴのネコブセンチュウに対するDBCP処理の持続効果. 関東病虫研報 15: 129-130. [根を露出させて灌注すれば5-6年効果持続。]
70. 城野 晋：水田輪換ミカン園におけるミカンネセンチュウの分布構造 第1報 樹令と線虫密度の関係. 関西病虫研報 10: 126. [講要. 1-6年までは両者に正の相関、7年以降は一定の傾向なし。]
71. K. M. (森川国康)：土壤線虫検索表試案. Edaphologia 2: 28-33. [科までの検索表。]
72. 金子 武・一戸 稔：Notes on the nematode species and their bionomics associated with tea roots in Japan. Rev. Plant Protect. Res. 1: 122-123. [No. 63-73 の英文抄訳。]
73. 河村貞之助・平野和弥：トマト幼苗におけるネコブセンチュウと萎ちょう病菌との複合病に関する研究 III. 発病にいたる感染過程. 千葉大園学報 16: 23-35. [根の頂端分裂組織から両者とも侵入。]
74. 河村貞之助・平野和弥：線虫とフザリウム病. 植物防疫 22(10) 421-426. [発病の助長、線虫による傷、混合感染と菌の寄生性等。]
75. 河瀬憲次：モモのネコブセンチュウとその抵抗性台木. 果実日本 23巻5: 38-40. [野生モモ (岩手、長野、岡山)、オキナワ、ネマガード等は抵抗性。]
76. 河瀬憲次：モモのセンチュウ対策：被害の実態と台木の関係. 農耕と園芸 23巻10: 164-166. [線虫の種類と被害、研究の現状、薬剤 (DBCP剤) 防除、台木の利用例。]
77. 河瀬憲次・松尾 平：モモの台木のネコブセンチュウ抵抗性について. 九州農業研究 30: 179-180. [野生種、米国产台木品種は抵抗性。]
78. 川島嘉内：イネシストセンチュウによる乾田直播稲の被害と防除に関する調査. 福島農試研報 4: 17-31. [県内分布、被害の徴候、被害解析 (水稻の生育温度、鎮圧処理、土壤水分、灌水量と被害の関係)、水稻と陸稲における被害発現の差異、防除法 (D-Dと石灰窒素施用又は鎮圧処理との組み合わせ)、線虫寄生、収量、茎葉分析結果。]



79. 川島嘉内：イネネモグリセンチュウに関する研究 IX. 卵期間ならびには場での発生消長について。応動昆大会講要 昭43: 40. [講要]
80. 川島嘉内・武田敏昭：イネシストセンチュウによる水稻の被害に関する研究 第3報 幼苗期の被害について。北日本病虫研報 19: 92. [茎葉分析結果。]
81. 気賀沢和男：線虫の混合寄生によるアズキの被害。応動昆大会講要 昭43: 42. [講要]
82. 気賀沢和男：豆類の病害虫と防除（豆作限界地域の生産・流通構造）。In: 北海道豆類生産事情（下）。日本豆類基金協会、東京、p. 90-116. [検出された線虫はダイシスト、キタネコブ、キタネグサレ、ピンセンチュウ。]
83. 木下常夫・田中敏夫：わが国の農薬残留事情について。植物防疫 22(4) 141-145. [EDB剤を含む。]
84. 北沢右三：志賀高原亜寒帯針葉樹林生態系の土壌線虫、ヒメミミズ、双翅目幼虫の子備調査。In: 陸上動物個体群集の2次生産力測定法（北沢右三編）。昭和42年度研究報告（JIBP-PT-S）、p. 162-169. [未見]
85. 小林義明：キタネグサレセンチュウ (*Pratylenchus penetrans* Cobb) によるキクの被害について。静岡農試研報 13: 114-123. [症状、接種密度と被害との関係、2作目以降品質面で慢性的被害。]
86. 小林義明・深沢永光・藤江秀行：イネシソグサレセンチュウに対する薬剤の種子粉衣および土壌施用による防除効果。関東病虫研報 15: 120-121. [カヤエース、ダイシストン種子粉衣の陸苗代にスタムを散布すると薬害。]
87. 小林義明・深沢永光・庄司和夫・船越桂市：夏ギクにおけるハグレセンチュウの寄生様式について。応動昆大会講要 昭43: 39. [講要]
88. 小泊重洋・向笠芳郎：茶園における殺線虫剤の効果ならびに処理方法について。静岡茶試研報 2: 23-25. [嚙写。クロルピクリン、DBCP剤。]
89. 駒井功一郎：DBCPの分解と作物の耐性（予報）。応動昆中国支報 10: 1-3. [地下部搾汁液中でのDBCP分解が弱い作物（ホウレンソウ、ハクサイ、タマネギ、ジャガイモ）は薬害を受けやすい。]
90. 小室康雄：土壌センチュウで媒介されるウイルス病。今月の農薬 12巻1: 60-63. [ウイルスの種類・諸性質、媒介の仕方。]
91. 小室康雄・吉野正義・一戸 稔：アスター黄色輪紋病株からのTobacco rattle virus の分離とその病畑土壌からの *Trichodorus minor* の検出。日植病報 34(3) 201-202. [講要]
92. 小菅喜久弥：切花用「トリカブト」のネグサレセンチュウの被害について。関東病虫研報 15: 127-128. [キタネグサレセンチュウ。症状、種いも消毒（5121剤、スミチオン、サツセン、カヤエースが効果）。]
93. 国井喜章：低温時に使用できる新しい殺センチュウ剤。今月の農薬 12巻11: 58-60. [D-D、EDB、EDB・EDC剤。]
94. 国井喜章・石橋信義・土橋貞夫：ヘテロデラ科線虫における環境抵抗性の獲得について I. 作付ならびに肥培管理とEDBのネコブセンチュウ防除効果。応動昆大会講要 昭43: 42-43. [講要]
95. 桑原雅彦・西沢 務：イネネモグリセンチュウの侵入による水稻根の組織化学的变化。応動昆大会講要 昭43: 41. [講要]
96. 牧野 朗・伊沢房雄・西沢 務：連作により生育不良なミカン苗ほにおけるミカンネセンチュウの防除効果。愛知國試研報 7: 23-28. [D-D剤処理効果顕著。]
97. 真宮靖治：*Rotylenchus pini* n. sp. (Nematoda: Hoplolaimidae) from forest

- nurseries in Japan. Proc. helminth. Soc. Wash. 35(1) 38-40. [アカマツ根辺から検出した線虫を新種として記載。現在はPararotylenchus pineとされている (Baldwin, J.G. & A. H. Bell, J. Nematol. 13(2) 111-128, 1981).]
108. 真宮靖治: 土壌から線虫を検出するための一方法: 遠心分離法について。森林防疫ニュース 17(5) 89-91. [特徴および手順を詳しく解説。]
109. 増田道雄・秋野浩二: ヤマトイモのネコブセンチュウに対する種いも薬液浸漬の効果。関東病虫研報 15: 127. [サツセン40%乳剤 500倍液30分浸漬で防除効果。]
100. 増田康哉: 桑の紋羽病防除について (第2報) 白紋羽病発生跡地におけるD-D剤の防除効果。日蚕九州講要 昭43: 10. [講要]
101. 松原芳久・三枝敏郎: 植物寄生線虫の寄主一覧。横浜植物防疫所、横浜、409pp. [謄写。Goodey, J.B. & M.T. Franklin (1965) T. Goodey's The Nematode Parasites of Plants Catalogued under their Hosts, 3rd ed., CAB, Bucksの日本語訳。]
102. 松田正治: 苗畑における線虫の効果について。日林関西支講 18: 186-189. [講要。スギ、ヒノキのネグサレ、イシユクセンチュウにD-D、DBCP、DCIP、5121剤施用。]
103. 松井弘之: ネコブセンチュウの卵塊接種によるホーセンカの茎のゴール形成について。応動昆虫大会講要 昭43: 41. [講要]
104. 松本重男・沢畑 秀・財津一郎: ネコブセンチュウに強い大豆品種。九州農試年報 昭41: 34-37. [約1,800品種・系統の中から36を選抜。]
105. 松崎征美・吉井孝雄・堀内正也: 茶樹に寄生する三種の線虫の分布と季節的消長。高知農林研報 1: 51-57. [チャネグサレセンチュウ、カナヤサヤワセンチュウ、ピンセンチュウ (P. carvatus) の樹幹を中心とした土壌内分布と深度別の季節的消長。]
106. 峰尾一彦・竹谷博子: 関西地方の林業苗畑から検出されたネグサレセンチュウの種類について。日林関西支講 18: 185-186. [講要。キタ、ミナミ、クルミネグサレセンチュウを検出。]
107. 三井 康・岡本好一: 線虫捕食菌に対する殺線虫剤の影響。日植病報 34(3) 170. [講要]
108. 森 喜作: 水田における土壌消毒の効果。今月の農薬 12巻4: 47-49. [クロルピクリン、D-D剤施用とイネネモグリセンチュウへの効果、窒素施肥の改善。]
109. 森 武雄・池上雍春・小畑琢志・三枝敏郎・楯谷昭夫: 数種植物病原菌・植物寄生線虫および貯蔵害虫に及ぼす各種化合物のくん蒸剤効果 II。植防研報 6: 23-27. [34薬剤を供試。線虫はサツマイモネコブセンチュウを使う。]
110. 森 武雄・小畑琢志・武田和子: 数種植物病原菌・植物寄生線虫および貯蔵害虫に及ぼす各種化合物のくん蒸剤効果。植防研報 5: 50-60. [80薬剤を供試。線虫はキタネコブセンチュウ、Anguina agrostis, Rhabditis sp. を使う。]
111. 森川 修: Toxic properties of nematicides to American cockroach. Rev. Plant Protect. Res. 1: 124-126. [No. 64-116, 117, 118 の英文抄訳。]
112. 森川 修: The activity of riosphosphatase dehydrogenase in a free living nematode, Panagrellus redivivus Goodey and its inhibition by EDB. Rev. Plant Protect. Res. 1: 126-127. [No. 65-97の英文抄訳。]
113. 森岡寛治・上住 泰: 奈良県におけるイネシガラセンチュウの分布とその被害発現条件に関する一考察。奈良農試研報 2: 45-50. [山間部より平坦部に多い。催芽処理の有無・定植直後の水温が被害発現に影響。]
114. 村井敏信: 殺線虫剤の土壌中における拡散性。植物防疫 22(8) 361-365. [数学的研究、薬剤の物理性および環境因子と防除効果、土壌中における薬剤の分布 (D-D

- 、EDB剤。]
115. 中西 勇・尾崎典光・上林 譲：イネシソコセンチュウ防除に関する2、3の知見。関西病虫研報 10: 117-118. [講要。種籾浸漬、苗代、出穂期の防除用薬剤。]
116. 中里筆二：コンニャクを加害する線虫類の生態と防除。農及園 43(2) 406-407. [実用農業問答]
117. 中里筆二・五味美知男・田中米寿：イネ心枯線虫病防除に関する研究 第9報 有機燐製剤とDCPA乳剤の接近散布の葉害。関東病虫研報 15: 119. [スミチオン、パイジットは問題ないが、カヤエースは葉害。]
118. 新島溪子・田中雅生・青木淳一・菊沢喜八郎・今立源太郎・田村浩志：Hand sorting との比較による Tullgren funnelの抽出率の検討。Edaphologia 2: 22-27. [各人のHand sortingの結果と、Tullgren funnel の抽出数の比較検討。線虫を含む。]
119. 西村正暘・林 真二・千代西尾伊彦・奥田純一郎：ナガイモ栽培における皮面黒変現象とその一成因。日植病報 34(5) 282. [講要]
120. 西山成俊・福永良一：殺線虫剤の土壌処理が水稻の生育及び収量におよぼす影響について(第2報)。福岡農試研報 6: 5-7. [D-D、DBCP剤施用。D-D剤処理によって土壌中のアンモニア態窒素が増加。]
121. 西沢 務：カルス上での線虫増殖に及ぼす生長物質拮抗剤およびEDTAの作用。応動昆大会講要 昭43: 39. [講要]
122. 西沢 務・弥富喜三・石上孔一：キタネグサレセンチュウによるフキの被害とその治療的防除について。関西病虫研報 10: 20. [講要。線虫の計測値、防除：UC-21149の10%粒剤 5-20kg/10 aが有効。]
123. 岡田利承：ダイズシストセンチュウの寄生時期と大豆の生育。北海道農試彙報 93: 32-38. [大豆の稚苗期に2令幼虫の侵入適期がある。この時期の線虫の密度が被害の大小に関係。]
124. 岡田利承：ダイズシストセンチュウの寄生とダイズ根瘤菌の着生に関する競合。応動昆大会講要 昭43: 41-42. [講要]
125. 岡山 勇・内田 繹・岸 春雄・相原次男・長谷川和男・近岡一郎：ダイズによるキタネグサレセンチュウの植物検診。関東病虫研報 15: 123. [大豆を播種30日後に抜き取り、病斑を調査。]
126. 大羽克明・西沢 務：線虫捕食菌に対する数種殺線虫剤の影響。応動昆大会講要 昭43: 43. [講要]
127. 大瀬木清・森田泰作：桑の土壌線虫に関する試験。福島蚕試報 26: 14-28. [ネコブセンチュウ。D-D、DBCP剤による苗の消毒。施肥量と被害。]
128. 大津貞夫：土壌線虫防除試験。茨城林試業報 昭42: 59-66. [謄写。クロルピクリン、D-D、EDB、DBCP剤、5121粒剤、IK-141、TS-10 のキタネグサレセンチュウへの効果、苗の生育。]
129. 三枝敏郎：ポタンに寄生するイチゴセンチュウ *Aphelenchoides fragariae* の生態と温湯防除の試み。植防研報 5: 17-30. [ポタン生産地における春季の線虫検出調査、掘取り時・輸出検査時の苗木の病徴と線虫検出調査、線虫密度の季節的消長、芽における線虫分布、線虫寄生株の外見による診断、温湯による苗木の線虫防除試験。植物防疫 22(9) 408, 1968 に抄録。]
130. 三枝敏郎：ポタンに寄生するイチゴメセンチュウの生態と防除に関する知見。応動昆大会講要 昭43: 39. [講要]
131. 三枝敏郎：小笠原諸島の病害虫発生調査 II。有害線虫。植物防疫 22(10) 449-450. [検出線虫を概説。]

132. 三枝敏郎：輸入禁止植物の対象病害虫解説 10. ジャガイモシストセンチュウ。横浜植防ニュース 340: 2-3. [形態、分布等。]
133. 三枝敏郎：輸入禁止植物の対象病害虫解説 11. ミカンネモグリセンチュウ。横浜植防ニュース 341: 2-6. [形態、分布等。]
134. 三枝敏郎：輸入禁止植物の対象病害虫解説 15. イネの病害虫類。横浜植防ニュース 345: 2-4. [Ditylenchus angustusを含む。]
135. 三枝敏郎・松本安生・堀江典昭・永沢 実：八丈島におけるミカンネモグリセンチュウ Radopholus similis (Cobb) Thorne の分布と寄主植物。植防研報 6: 41-42. [10種の植物から検出。]
136. 斎藤 正・山本 磐：臭化メチルくん蒸剤によるビニールハウスの全面くん蒸。植物防疫 22(2) 63-66. [取り扱い方法、適用範囲(主に菌類)、実施上の注意。]
137. 桜井 清：ダイズシストセンチュウの生態と防除。農及園 43(3) 519-523. [生態(寄主植物、被害、生活史、幼虫の発育と温度、卵の孵化と幼虫の游出、シストの土中分布、拡散、生存期間)、防除(輪作、捕獲作物、抵抗性品種、土壤改良と施肥)、殺線虫剤。]
138. 桜井 清：線虫害。In: 北海道農業技術史。農林省北海道農業試験場、札幌、p. 510-515. [大正5年から昭和41年までの研究史。]
139. 佐々木 壮：土壤水分とクロルピクリンの薬効範囲。九病虫研会報 14: 88-90. [立枯病菌を中心としたグラム陰性菌の調査。効果範囲は土壤水分含量によって変化。]
140. 佐々木 壮：線虫と他の病害との関係(3)ネコブセンチュウ罹病根へのタバコ疫病菌遊走子の誘引および発芽。日植病報 34(5) 352. [講要]
141. 佐藤昭美：ダイズシストセンチュウの殺線虫剤感受性について。北日本病虫研報 19: 95. [キタネコブセンチュウに比べD-D剤に対し強い。]
142. 佐藤昭美：ダイズシストセンチュウ抵抗性品種の検索に関する1方法。応動昆大会講要 昭43: 42. [講要]
143. 佐藤一郎：砂丘地のナガイモ栽培。農及園 43(9) 1429-1432. [植付前の線虫防除を含む。]
144. 佐藤邦彦・庄司次男：国有林苗畑の土壤線虫調査。林試東北支場年報 9: 74-75. [ネグサレセンチュウ(スギ、アカマツ、カラマツ)、ユミハリセンチュウ。]
145. Sher, S. A.: Revision of the genus Hirschmanniell Luc & goodey, 1963 (Nematoda: Tylenchoidea). Nematologica 14(2) 243-275. [No 31-4 の Tylenchus gracilis を同定の誤りとし、東京駒場産の標本をもとに新種 H. imamuri として記載。 H. oryzae (= Tylenchus apapillata Imamura, 1931) の産地の記録の中に東京、鴻巣、琴似をあげる。]
146. 清水 啓：ネコブセンチュウの雌成虫の雄誘引性。応動昆大会講要 昭43: 40. [講要]
147. 下川利之：苗畑線虫防除試験。岡山林試報 8: 87-96. [ミナミネグサレセンチュウ。殺線虫剤の効果、苗木の生育、苗木の薬液浸漬試験、Fusarium 病発病との関係。]
148. 下川利之：ネグサレ線虫汚染苗木の薬液消毒効果について。日林関西支講 18: 189-190. [講要。MZ剤が、高い効果。]
149. 下川利之：ヒノキ葉から検出される Aphelenchoides 属線虫。森林防疫ニュース 17(10) 219-220. [形態、寄生性等。]
150. 白井 正：八丈島におけるミカンネモグリセンチュウの緊急防除事業概況。植物防疫 22(9) 399-402. [発見から撲滅までの経緯。]
151. 白井 正(編)：八丈島におけるミカンネモグリセンチュウの緊急防除事業実績

- 報告。農林省横浜植物防疫所・東京都、4+111 pp., 5 pls., 1 map. [謄写。昭和41年10月の発見から昭和42年12月の撲滅までの経緯をまとめる。]
152. 蘇 武卿・日高 醇：寄主体に侵入したサツマイモネコブセンチュウの性比と卵のう内の雄成虫の出現。応動昆大会講要 昭43: 40. [講要]
153. 末沢一男：瀬戸内におけるてん菜の採種栽培。四国農業の新技术 5: 47-98. [線虫 p.81-82.]
154. 杉山信太郎・広間勝巳：大豆品種のダイズシストセンチュウ抵抗性に関する研究 I. 抵抗性の品種間差異。育雑 18(2) 80-87. [抵抗性の差は栄養成長より、生殖成長に大きく関係することを示唆。根粒の推移も調査。]
155. 杉山信太郎・広間勝巳：大豆品種のダイズシストセンチュウ抵抗性に関する研究 III. 抵抗性の遺伝について(2)。育雑 18(別1) 151-152. [講要]
156. 杉山信太郎・広間勝巳・宮原万芳・国分喜治郎：大豆品種のダイズシストセンチュウ抵抗性に関する研究 II. 線虫系統の地域差について。育雑 18(4) 206-212. [異なるレースである刈和野と桔梗ヶ原個体群による大豆の被害の比較。]
157. 砂田喜与志・酒井真次：ダイズシストセンチュウ強度抵抗性因子導入について：特に十系421号、十系422号について。日育北談報 9: 15-16. [未見]
158. 高橋芳雄：落花生の連作障害とその対策。農業技術 23(2) 55-60. [作付体系との関係、他の病害との関係、収量の推移、体内成分の変化、根瘤数、開花数、土壌・根の線虫密度の変化、主要因の解析、回避技術(深耕、早播、堆肥、輪作、薬剤施用：EDB剤等)。]
159. 高木信一：昭和42年度に試験された害虫防除薬剤：委託試験成績から。植物防疫 10(2) 51-53. [ネグサレセンチュウ：5121粒剤10、NCS。ネコブセンチュウ類：NCS、1179水溶剤・粉剤、ネマホルン。]
160. 高倉重義：キタネコブセンチュウの防除に関する研究 第11報 アカクローバの播種期と線虫密度。北日本病虫研報 19: 99. [播種期を遅らせると線虫密度は低下。]
161. 高倉重義：キタネコブセンチュウの防除に関する研究 第12報 殺線虫剤秋処理による主要作物の被害。北日本病虫研報 19: 100. [EDB剤はハッカに被害。]
162. 田村市太郎：作物や虫に生育変動をあたえる無生物のおよび生物的添加物。農及園 43(8) 1215-1518. [殺線虫剤による野沢菜、水稻の増収例。「センチュウの死体やその生息残留物はイネの生育を変える」例を含む。]
163. 田中 勇：ネコブセンチュウの温度別水浸処理と寄生性の存続。応動昆大会講要 昭43: 40-41. [講要]
164. 田中 勇・山口洋一：被覆栽培と土壌病害の発生について。葉たばこ研究 48: 75-81. [ネコブセンチュウに対する影響を含む。]
165. 谷川 渡：土壌消毒が土壌および作物生育に及ぼす影響。九州農業研究 30: 156-158. [クロルピクリン、D-D、EDB剤処理によって土壌中の無機態窒素が増加。微生物の作用。]
166. 照屋林宏：植物寄生性線虫の防除に関する研究(第1報) 第三紀泥灰岩土壌におけるネコブセンチュウの防除効果について。琉球農試研報 2: 71-74. [D-D、DBCP剤の葉量を検討。]
167. 照屋林宏・屋部澄孝：清浄そ菜栽培地におけるネコブセンチュウの発生と被害の実態。沖縄農業 7巻2: 28-30. [沖縄本島の25.8haで70.2%に発生、要防除は27.8%。]
168. 樋田幸夫・原島典雄・菊池 実：薬剤による桑線虫の防除。蚕糸研究 68: 106-115. [DBCP、5121粒剤のポット及び圃場試験。]
169. 富田 勲・田辺仁志：桑園土壌線虫の季節的消長と分布。日蚕東海講要 16: 2.

## 〔講要〕

170. 鳥居酉藏：昆虫寄生線虫DD136の感染、増殖、保存について。応動昆大会講要 昭43: 43. [講要]
171. 堤 正明：牧草根磨砕汁液によるダイズシストセンチュウふ化阻害作用。北日本病虫研報 19: 94. [アカクローバー、シロクローバーの根に孵化阻害(殺卵)物質。]
172. 堤 正明：ダイズシストセンチュウの非寄主作物根磨砕汁液によるふ化抑制現象。応動昆大会講要 昭43: 42. [講要]
173. 上垣隆夫・養島龍久・佐々木 亨・菅原敏夫・内藤 祐：昭和43年の病害虫の発生と防除。植物防疫 22(12) 509-516. [八丈島・愛知県でのミカンネモグリセンチュウ発生を含む。]
174. 上原 等・都崎芳久：イネ心枯線虫病の薬剤による省力防除法。香川農試研報 19: 24-31. [殺虫剤の種子粉衣、苗代散布。]
175. 和知文雄：土壤線虫防除上の緑肥栽培に関する2、3の考察(II)。林業技術研究集録(前橋営林局) 経営部門 1968: 309-313. [マリーゴールド、クロタラリア・スペクタピリス栽培のネグサレ、ユミハリ、イシユクセンチュウに対する効果。]
176. 鷺尾貞夫・豊川菊祐：リンゴ園における線虫被害について 3. ネグサレセンチュウの寄生量と根の症状。北日本病虫研報 19: 103. [線虫被害の進展とそれによる根系のタイプの変化。]
177. 渡辺文吉郎：陸稲連作障害と土壤病害虫対策について。今月の農薬 12巻4: 34-35. [症状、対策(PCP、テラクロール、チウラム、ポマゾースホルテ、D-D、EDB、DBCP、クロルピクリン剤の施用効果)。]
178. 八重樫隆志・小宮書之助：オーチャードグラスおよびシバの根辺土壌から検出されるワセンチュウ属(*Criconemoides*)の1種について。明大農研報 23: 73-78. [計測値及び図。No.77-175 も参照。]
179. 矢口宣夫・川島嘉内：ユミハリセンチュウによるナガイモの被害について。北日本病虫研報 19: 102. [線虫接種により全株に被害。D-D剤の防除効果が高い。]
180. 山田英一：キタネグサレセンチュウによる作物の被害(予備調査)。北日本病虫研報 19: 96. [ゴボウ、ダイズ、ジャガイモ、ニンジン、テンサイの被害。]
181. 山田英一：キタネグサレセンチュウの根からの分離法の検討。北日本病虫研報 19: 97. [加温游出法、ミキサー法の比較。]
182. 山田英一：ムギネグサレセンチュウの寄主植物について。北日本病虫研報 19: 98. [28作物のうち、23が寄主、5は非寄主。]
183. 横川登代司：埼玉県における線虫被害の実態と防除試験について。森林防疫ニュース 17(2) 36-41. [スギ、ヒノキ、アカマツ苗畑42点の線虫、病菌との関連、防除。]
184. 横尾多美男：On a new *Rhabditis* species (Nematoda: Rhabditidae) found in the alimentary organs of snails from Nagasaki. 佐賀大農彙 25: 63-67. [新種 *ninomiyai* を記載。現在は *Pellioiditis ninomiyai* (Yokoo, 1968) Andrassy, 1983 とされている (Andrassy, I., A taxonomic review of the suborder Rhabditina (Nematoda: Secernentia). ORSTOM, Paris, 1983, p. 103)。]
185. 横尾多美男：Nematological studies on the yellow patch of green grass of the golf link. II. On the nemic-fauna in the green grass of International Golf Link of Isahaya, Nagasaki Prefecture, with descriptions on new species of *Neotylenchus* (Nematoda: Neotylenchidae). 佐賀大農彙 26: 9-19. [ゴルフ場のシバから検出した線虫を図示(属まで同定)。新種 *Neotylenchus turfus* の記載を含む。]
186. 横尾多美男・崔 永然 (Choi, Y.E.) : On a new species of shoot gall nema-

- tode (Tylenchidae: Anguina) found from the galls on the leaves of Moxa (Artemisia saiatica Nakai). 佐賀大農彙 26: 1-7. [韓国のヨモギの葉のゴールから検出した線虫を新種 Anguina moxae として記載。Nematologica 19: 285-292, 1973に訂正と再記載 (Y.E. Choi & P.A.A. Loof).]
187. 横尾多美男・Okabe, K.: Two new species of genus Rhabditis (Nematoda: Rhabditidae) found in the intermediate host of Schistosoma japonica, Oncomelania hupensis nosophora and Oncomelania hupensis formosana. 佐賀大農彙 25: 69-78. [Rhabditis 属の2新種 R. oncomelaniae, R. formosana を記載。現在、両種は Andrassy (A taxonomic review of the suborder Rhabditina (Nematoda: Secernentia). ORSTOM, Paris, 1983) により、前者は Pellioiditis pellioides (Buetschli, 1873) Andrassy, 1983のシノニムとされ (p.103)、後者は Caenorhabditis formosana (Yokoo et Okabe, 1968) Andrassy, 1983とされている (p. 95).]
188. 横尾多美男・野田茂行: 土壤調整剤 (HSC) 施用の水田線虫相に及ぼす影響。佐賀大農彙 26: 21-44. [イネネモグリセンチュウ他の調査。]
189. 横山佐太正: ダイアジノン粒剤のイネ心枯線虫病とキリウジガガンボに対する使用法とその効果。農薬 15巻2: 40-43. [苗床施用で10 a 当たり9 kg 以上で効果。]
190. 横山佐太正・吉田桂輔・吉村大三郎: 粒剤の苗床施用によるイネ心枯線虫病防除法。福岡農試研報 6: 8-11. [11薬剤のうちダイアジノン粒剤が高い効果。]
191. 横山俊祐: 土壤線虫の生態と防除。三重農試茶業分場, 4 pp. [検出・寄生状況、DBCP 剤施用方法。]
192. 米安 晟: ナスのマルチ栽培。農及園 43(7) 1129-1132. [フィルムマルチと線虫の関係にふれる。]
193. 吉田桂輔・吉村大三郎・横山佐太正: ダイアジノン粒剤の苗床施用によるイネ心枯線虫病防除効果。九州農業研究 30: 123-125. [12kg/10a で発病なし。]
194. 吉田光男: 苗畑土壤線虫防除試験。栃木林セ業報 4: 48-54. [スギのネグサレ、ユミハリ、ラセンセンチュウに対するD-D、EDB、5121粒剤の効果。]
195. 吉田光男: 林業苗畑における線虫の薬剤防除。農薬研究 14巻3: 74-79. [D-D、EDB 剤と主にネグサレセンチュウ。]
196. 吉田 猛: 落花生のキタネコブセンチュウ被害と土壤C/N率との関係。関東病虫研報 15: 126. [C/N 比高い程、線虫数・寄生指数高い傾向。]
197. 葭原敏夫: 土壤水分の相異とダイズシストセンチュウの侵入。応動昆大会講要 昭43: 42. [講要]
198. 湯原 巖: マメ科作物栽培がダイズシストセンチュウの密度に及ぼす影響。北日本病虫研報 19: 93. [ダイズ、アカクローバー、シロクローバー、エンバク。]
199. 湯原 巖: キタネコブセンチュウ寄生に対するアカクローバの品種間差異。北日本病虫研報 19: 101. [北海道在来種 (月寒) はかなり強い抵抗性。]
200. Anon. (福島農試): 薬用人参における連作障害要因としてのキタネグサレセンチュウの生態並びに防除について。福島農試植防資料 16: 16 pp. [謄写。]